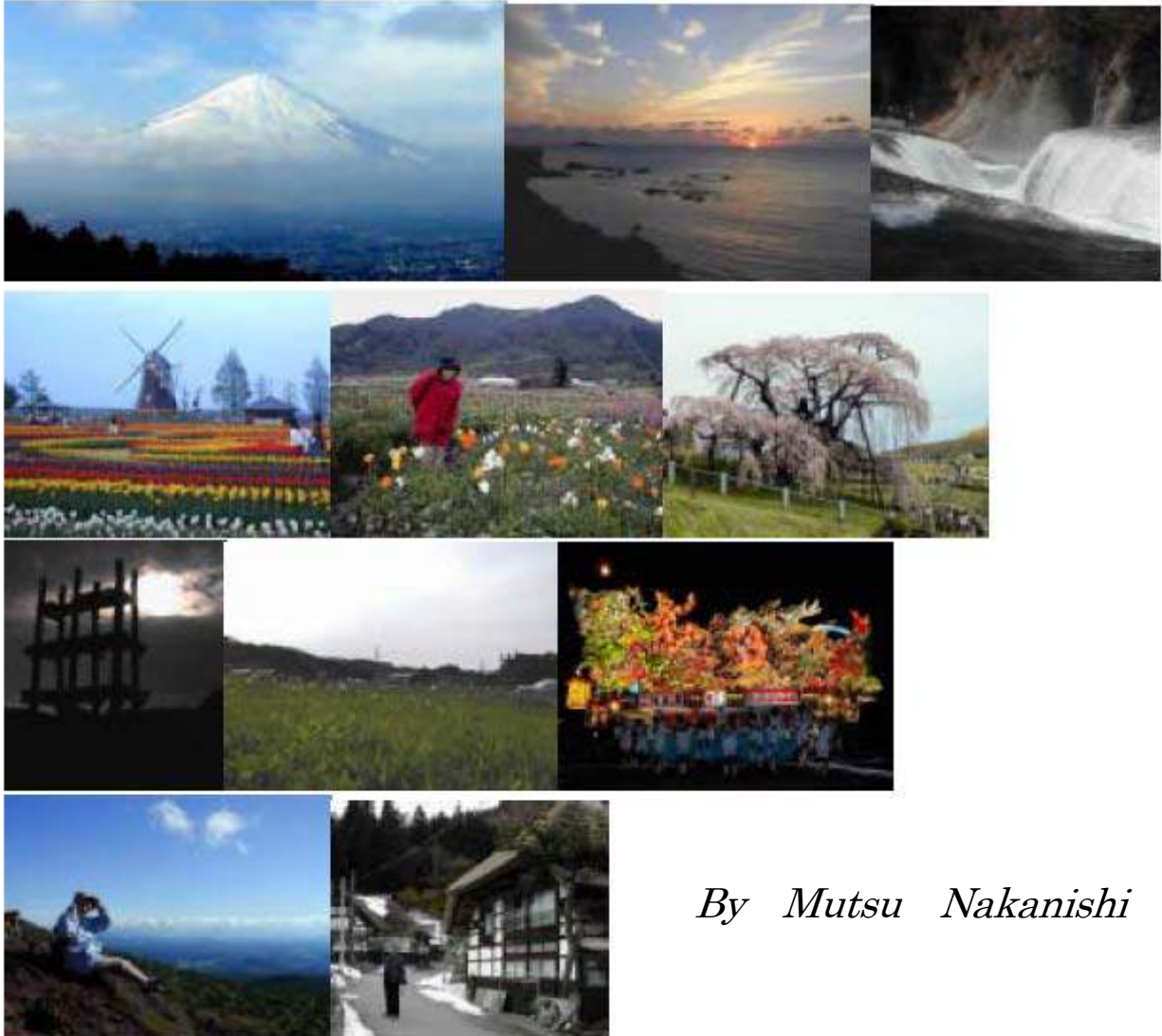


風来坊 *Country Walk* 1999-2002.

里歩き・山歩き・美祿の四季

2003. 3. 31.



By Mutsu Nakanishi

美祿・長門の四季



風来坊 Country walk (1) 里歩き

1. 北のまほろば 「津軽」
 - 1.1. 津軽富士 「岩木山」
 - 1.2. 縄文の道 「木造-車カ-十三」
 - 1.3. 山内丸山縄文遺跡で
2. 越中花街道 奥美濃-五箇山-砺波平野
 - 2.1. 奥美濃ひるがの湿原・水芭蕉
 - 2.2. 砺波平野にひろがる散居村
 - 2.3. 彫刻の街 「井波」
 - 2.4. チューリップ祭りの砺波
3. 中国錦州 「化石から山口県美祿を思う」
4. 「ひとあし先に春を告げる南房総 Country Walk」 2001. 4.
 - 4.1. 花の南房総 COUNTRY WALK
 - 4.2. 南房総 花の写真 file 1
シンガポール植物園の姉妹植物園 南房総パラダイス
 - 4.3. 南房総 花の写真 file 2
南房総 千倉 花摘みのお花畑
 - 4.4. 「くじらのたれ」
5. 新緑の九州 霧島 韓国岳 2001.5.
 - 5.1. 韓国岳登山
 - 5.2. 韓国岳の麓に咲く 霧島の宝物 2001.5.
天然記念物「ノカイドウ」と「キリシマ ミズキ」「ハルリンドウ」
6. 山口県長門市 湯本温泉の記事 2001.5.
7. 花の4月 関東で country walk 2001.5.
 - 7.1. 残雪の上州 赤城山赤城山の最高峰 黒檜山 ミニ登山
 - 7.2. 墨田堤・隅田川 夜 桜 2001.4.7
 - 7.3. 柏 春真っ盛り 柏 あけぼの山 チューリップ 満開
8. 福井県一乗谷 朝倉氏遺跡 2001.11.
田園の中からよみがえった戦国の小京都
9. 2002 京都の春 京大界限 大文字山 ハイク 2002.3.
10. 源平の昔の「青葉の笛」と門前に「卯の花」を訪ねる 2002.3.
神戸 桜の須磨寺
 - 10.1. 小学唱歌「青葉の笛」歌碑 & 平敦盛と青葉の笛
 - 10.2. 須磨寺 門前 と 須磨寺名物「卯の花」
 - 10.3. 桜の須磨寺界限 探訪アルバム

風来坊 Country walk 【2】 山歩き

1. 『上越国境 利根川の源頭 谷川岳』
2. 尾瀬の秋 紅葉の尾瀬ヶ原 縦走
上越側登山口 鳩待峠 — 会津側登山口 御池小屋
3. 夏の尾瀬 尾瀬ヶ原・尾瀬沼
鳩待峠—尾瀬ヶ原—見晴—尾瀬沼—大江湿原—沼山峠
4. 高山植物の宝庫 早池峰山
5. 津軽富士『岩木山』
6. 春の霧島連山 韓国岳登山
7. 初夏水芭蕉の尾瀬探勝
8. 夏の那須連峰 茶臼岳-朝日岳-三本槍岳 縦走
9. 晩夏 吾妻連峰の主峰一切経山へ
10. 北上盆地の背にそびえる「栗駒山」
11. くろがね 鉄山 紅葉の福島県安達太良山
12. 以北の最高峰 奥白根山
13. 冬の陣馬山 ハイク 陣馬山 - 景信山 - 小仏峠
14. 福島県 裏磐梯 残雪の五色沼 アルバム
15. 残雪の草津白根山と草津白根殺生河原からの展望
16. 花の月山 walk 高山植物が咲き乱れる山上の縦走路
17. 八甲田連峰 Walk 八甲田連峰縦走 と 草紅葉の毛無岱
18. 群馬県上毛三山 紅葉の「妙義山」の森を歩く
19. 白雪をいただく富士山 — 足柄 金時山 ハイク —

風来坊 Country walk 【1】 美祿の四季

1. 『オニックスと花の街 美祿市』
2. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム【土井が浜 弥生パーク】
3. 萩焼のふるさと 陶芸の里 『長門深川』
4. 日本名水百選 別府弁天池湧水 秋吉カルスト台地の湧水
5. 初夏の草花 黒田さん宅の素晴らしいガーデニング
6. 美祿線の夏 於福駅付近 たたら山 花尾山を背景に走るワンマンカー
7. 美祿夏便り 大理石シンボジウム フィナーレ
8. 美祿長門の秋の風物詩 1 - 秋芳梨
9. 美祿長門の秋の風物詩 2 - 田の畦の彼岸花 -
10. 山口県美祿市河原上 たたら製鉄遺跡
11. 第15回日本陶芸展 陶芸作家 田中講平先生 4回連続入選 【1996. 6.】
萩焼窯元「葉月」を開き、日本陶芸展・日本伝統工芸展に5回連続入選された
陶芸作家田中講平先生を山口吉敷の新しい陶房に訪ねて 【2002. 5. 5. 改訂】
12. 山口県美祿市に住んで5年 - インターネット雑感 -

美祿・長門の四季【2】 2001. 9. ~

1999年 神戸に戻り、7月よりまた、関東に単身赴任
美祿の自宅を別荘代わりに、また、山口を歩く余裕もできました

13. 西長門 角島の夕暮れ & 秋芳 白糸の滝
14. 山口市吉敷に 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて 2002. 5. 5.
15. 春 草色に輝く 秋吉台 カルスト台地 walk 2002. 5. 5.
16. 2002 秋 霧の中的美祿 と 小野田の銘菓 最中「せめんだる」 2002. 11. 5.

Country Walk 風来坊



2003年 2月

by M. Nakanishi

COUNTRY WALK 里歩き 【1】

1. 北のまほろば 「津軽」
 - 1.1. 津軽富士 「岩木山」
 - 1.2. 縄文の道 「木造-車カ-十三」
 - 1.3. 山内丸山縄文遺跡で
2. 越中花街道 奥美濃一五箇山一砺波平野
 - 2.1. 奥美濃ひるがの湿原・水芭蕉
 - 2.2. 砺波平野にひろがる散居村
 - 2.3. 彫刻の街 「井波」
 - 2.4. チューリップ祭りの砺波
3. 中国錦州 「化石から山口県美祢を思う」
4. 「ひとあし先に春を告げる南房総 Country Walk」 2001. 4.
 - 4.1. 花の南房総 COUNTRY WALK
 - 4.2. 南房総 花の写真 file 1
シンガポール植物園の姉妹植物園 南房総パラダイス
 - 4.3. 南房総 花の写真 file 2
南房総 千倉 花摘みのお花畑
 - 4.4. 「くじらのたれ」
5. 新緑の九州 霧島 韓国岳 2001.5.
 - 5.1. 韓国岳登山
 - 5.2. 韓国岳の麓に咲く 霧島の宝物 2001.5.
天然記念物「ノカイドウ」と「キリシマ ミズキ」「ハルリンドウ」
6. 山口県長門市 湯本温泉の記事 2001.5.
7. 花の4月 関東で country walk 2001.5.
 - 7.1. 残雪の上州 赤城山赤城山の最高峰 黒檜山 ミニ登山
 - 7.2. 墨田堤・隅田川 夜 桜 2001.4.7
 - 7.3. 柏 春真っ盛り 柏 あけぼの山 チューリップ 満開
8. 福井県一乗谷 朝倉氏遺跡 2001.11.
田圃の中からよみがえった戦国の小京都
9. 2002 京都の春 京大界限 大文字山 ハイク 2002.3.
10. 源平の昔の「青葉の笛」と門前に「卯の花」を訪ねる 2002.3.
神戸 桜の須磨寺
 - 10.1. 小学唱歌「青葉の笛」歌碑 & 平敦盛と青葉の笛
 - 10.2. 須磨寺 門前 と 須磨寺名物「卯の花」
 - 10.3. 桜の須磨寺界限 探訪アルバム

COUNTRY WALK 里歩き 【2】

11. 福島県三春の天然記念物『滝 桜』 2002.4.
12. 福島県 裏磐梯 残雪の五色沼 アルバム 2002.4.
13. 「一度いきたかった草津温泉 風来坊」 2002.4.
草津温泉・草津白根山と日本ロマンチック街道を吹割の滝・渡良瀬渓谷へ
 - 13.1. 草津よいとこ 一度はおいで -草津温泉「湯畑」と泉源の露天風呂 -
 - 13.2. 残雪の草津白根山と草津白根 殺生河原からの展望
 - 13.3. 日本ロマンチック街道を草津から奥日光へ 日本のナイアガラ「吹割の滝」
 - 13.4. 芽吹き of 渡良瀬渓谷 「富弘美術館」
14. 山口市吉敷に萩焼 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて 2002.5.5.
 - 14.1. 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて
 - 14.2. 「萩焼について」萩焼窯元 陶房 葉月 日本工芸会員 田中 講平
 - 14.3. 陶房 葉月の「左馬の茶碗」と「左馬」の由来
15. 春 草色に輝く 秋吉台 カルスト台地 walk 2002.5.5.
16. 2002 夏「ねぶた」と「ねぶた」 青森 walk 2002.8.3-5.
 - 16.1. 津軽 ねぶた祭 弘前・五所川原・青森
 - 16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム
17. 三内丸山遺跡 2002. 秋 点描 2002.9.21.
 - 17.1. 三内丸山遺跡 点 景 2002. 秋
 - 17.2. 仲秋の名月 三内丸山遺跡 お月見の会.
18. 群馬県 上毛三山 紅葉の「妙義山」の森を歩く 2002.11.10.
19. 奥会津の名勝 塔のへつり 2002.11.16.
- 晩秋と初冬がいきまじる 福島県 奥会津 2002.11.16. -
20. 福島県 奥会津 館岩村 奥会津曲家集落を訪ねる 2002.11.16.
晩秋と初冬のいきまじる福島県奥会津の山里
21. 白雪をいただく富士山 足柄山塊 金時山より 2002.12.23



1. 北のまほろば 「津軽」

1999年 9月

- 1.1. 津軽富士 「岩木山」
- 1.2. 縄文の道 「木造-車力-十三」
- 1.3. 山内丸山縄文遺跡で



【縄文の道 十三湊-車力村-木造】
岩木山から 七里長浜 十三湖 北海道を望む



【冬の十三湖】
「北のまほろば」表紙カバー

民族博物館の江口先生から、青森三内丸山遺跡で「月見の宴」があるとのお誘いを受け、9月23日夜～26日 念願の津軽 三内丸山遺跡・岩木山を訪ねました。

また 津軽半島の西側海岸沿いの「縄文の道 木造町-車力町-十三湊」を一人歩いて来ました。30年振りの津軽半島 『縄文の道』でした。

津軽では太宰治の小説に象徴される津軽の暗さは吹っ飛び、新しい流れが根付いています。「地方の時代」「新人類・若者の時代」と言われて久しく、閉塞した都会では感じられない胎動を津軽へ来て、もろに感じました。

来年も是非 三内丸山縄文遺跡の会に行きたいと思っています。

1999. 9. 26. by M. Nakanishi



津軽富士 岩木山



三内丸山縄文遺跡 1999. 9. 26.

1.1. 津軽富士 『岩木山』



iwki.htm 1999. 9. 24.



【岩木山スカイライン】



【岩木山から 津軽半島を望む】

昨日の雨がうそのような快晴。台風と競争の今回の津軽。

9月24日早朝東京からの夜行バスで弘前着。すぐに岩木山の登山口嶽温泉行のバスに乗換え、嶽温泉に向かう。

今回の津軽 walk の目的 三内丸山縄文遺跡訪問の前に、是非とも津軽の象徴 岩木山に登り、司馬遼太郎の言う『北のまほろば』津軽平野を一望したい。

明日行く、津軽半島西海岸沿いの『縄文の道 十三湖一車カ一亀が岡一木造』をきっちり眼中に収める予定。岩木山は津軽半島の独立峰で、いつも頂上に一筋の雲を巻いているが、今日は展望が効きそうである。



● 津軽富士「岩木山」の登山口 嶽温泉よりスカイラインを通過して頂上へ

嶽温泉から岩木山スカイラインで八合目へ。八合目から頂上へ向かって山の南面を登る。距離は短い、直登に近い登りがつづき結構きつい。

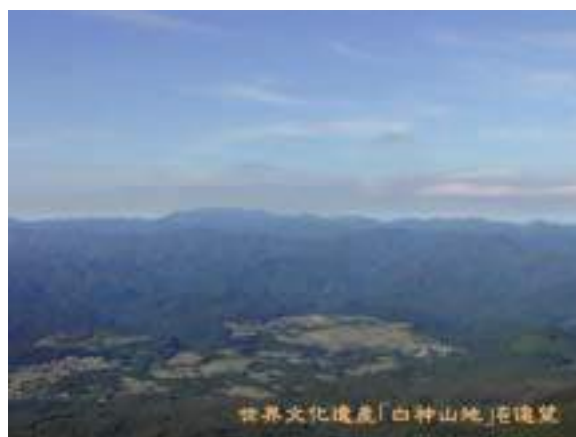
山を眺めつつどんどん高度を稼ぎ、展望が効く明るい山道で楽しい。

岩木山の西斜面越しに日本海に突き出た津軽半島の海岸線がくっきり見え、そのむこうには北海道の山も浮かんでいる。

後ろを振り返ると八甲田の連山・世界遺産に登録された白神山地の山々が見える。白神山地は特に緑が濃く、ブナの原生林がどこまでも続いている。すぐそこに見える。一度は是非、行って見たい。



津軽半島眺望



白神山地眺望

岩木山の尾根に出て、急なガレ場の急登をロープの目印を頼りに登ること約1時間登り始めて約3時間足らずでゴツゴツした岩が組み合わさった狭い頂上についた。

天候は晴れているものの雲が巻き、一瞬眺望が効いたと思うとすぐガス。めまぐるしく天候が変化している。



頂上へのガレバ

● 頂上 で

大きな岩の上に座って 展望の利くのを待つ。

ほんの一分少々であるが、ガスが切れると眼下に弘前市を中心とした津軽平野が広がる。

その向こうに日本海に突き出た津軽半島が直線的な海岸線をみせ、中央には陸奥湾から恐山が見える。

ぐっと北から右へ身を回すと八甲田の山々から十和田・八幡平の山々が見え、そして緑の非常に濃いブナ林の原生林 白神山地がみえる。ぐるっと 360度の展望だ。

岩木山山麓から津軽半島にいたる広い津軽平野には緑の森に混じって点々と池が見える。
 この岩木山北山麓は津軽 古代のたたら製鉄の故郷。今は 南側 嶽温泉からの道が岩木山への本道になっているが、昔はむしろ北側からの道が本道であり、鬼の住処 岩木山の鬼伝説が数多く残る。
 その向こう津軽半島にかけては縄文の遺跡が散らばる木造一亀が岡一十三湖へと続く『縄文の道』の道である。
 本当にすばらしい景観で、登って良かったと思う一瞬である。



頂上から 津軽平野 遠望

● 山麓の岩木高原で 岩木山神社とその街道



また、もときた道を嶽温泉に下り、嶽温泉から岩木山神社まで岩木山を眺めながら山麓の道を歩く。本当によく整備された美しい高原で歩いていて楽しい道である。

ちょうど この時期 山麓に広がるりんご畑には真っ赤なリンゴが実り、またとうもろこし畑も収穫の時期。街道のあち

こちにこの地の名産『嶽キミ』を売る店が旗をなびかせている。



りんご畑岩木高原



嶽キミの直売

道端の店の親父が蒸したのを食べろとくれる。実に甘いとうもろこしで、good。早速 宅急便で家に送った。

後日談ですが、これはヒット。いつも送っても色々言う家族が今度は非常に喜んだ。お勧めです。

嶽キミをほうばりながら、美しい松林のつづく街道を移り変わる山の景色を楽しみながら約 1.5 時間山麓の高原を歩き、岩木山をご神体とする岩木山神社に至った。

岩木山はほんとうにのんびり山歩きが楽しめる山である。

今回は嶽温泉にはいれなかったが、次回は嶽温泉に泊まって白神山地と結んで歩きたい。



岩木山神社

岩木山神社に参拝して 門前の茶店のオバちゃんといとときり昔の話をして弘前へ戻った。

明日台風が来るが、十三湖へはどうしても行きたい。

五所川原から津軽軽便鉄道で太宰治の故郷「金木」まで行こう。

● 津軽軽便鉄道で金木へ



五能線から りんご畑越しに岩木山



津軽軽便鉄道より 津軽半島の山々

弘前から五所川原への五能線沿線には岩木山を背景にリンゴ林が延々とつづいている。

夕焼けを背景にレンズ状の厚い雲を頂上に巻いて、また岩木山がまた姿をかえていた。

津軽軽便鉄道に乗るのは約 30 年ぶり。かつての袴腰岳などの津軽半島の山々が夕暮れの中でシルエット

として浮かび上がっていた。

真っ暗になって 金木の駅に降り立ち、街の小さな温泉宿に泊まる。今日は私ひとりらしい。台風がやってくる。

夜半 台風の嵐が吹き荒れている。金木の小さな温泉旅館がぎしぎし揺れてる。

夜中中に台風は通過するだろう。

台風の音を聞きながら 一人せんべい布団の中 岩木山登山を振り返る。本当に来てよかった。明日は十三湖から亀が森へ行って三内丸山遺跡へ

1999. 9. 24. 青森 金木の温泉で by M. Nakanishi



1. 2. 「縄文の道」で

-木造・車力村・十三湊-

kzkriprint.htm 1999. 9. 25.



● 十三湖・十三湊



『やがて、十三湖が冷えて凍るとの（瞬間に）風聞する。
遠い北緯目に水を張ったような気はあがるが、
ほかない感じの湖である。』
大塚治『津軽』より

台風の風で荒れる十三湖から小泊方面を望む 1999. 9. 25.

古代縄文時代脚光を浴び、その後 忽然と消えた「北のまほろば」の確かな躍動が、今 三内丸山遺跡を中心とした活動の中から見えて来るようです。

十三湊 木造亀が岡遺跡そして 岩木山で出会った人懐っこい人達にもそれを感じました。

学生時代にキャンプを張った十三湖・十三湊。

十三湖は岩木山から流れ出る岩木川の出口。日本海にでるこの十三湖の河口では台風の後の嵐で荒れ狂っていましたが、かつての暗さは全く有りません。

かつて街道の両側は季節風よけの板囲いでとざされ、無人の砂利道が一本ひっそり続いて、十三湖に至

り、あぶなっかしい板橋がその河口をわたっていました。

十三湖にかかっていたその板橋はコンクリートのきれいな橋に代わり、舗装された街道の両側には板囲いのない家並みが続き、昔の面影は全く有りません。

明るいどこにでもある家並みがつづき、何とはなしにほっとした気持ちになりました。

縄文の道 亀が岡の遮光器式土偶の姿も陽気に感じられ、あちこちで声をかけ、楽しいwalkでした。



十三湖大橋 たもとに『十三の砂山』の歌碑



十三湊遺跡



『千貫』の地名

十三湊の交易の主要製品のひとつに鉄があるというだけで、何の根拠もなく津軽縄文の道には「たたら」遺跡があるはずと思っていました。

案内してくれた車力村のタクシーの運転手さんは、町の様子を次から次へと語ってくれ、「たたら」の話になり、「津軽にも 砂鉄が見つかるはずなんだが・・・」と聞いたところ「縄文の道・沼地群と海岸砂丘が広がるこの七里長浜の海岸線で 子供の頃、勉強で海岸へ行き、磁石をころがして 砂鉄をとった。最近では知らないが・・・」と聞きました。

津軽半島の海岸が、打ち寄せる荒波で洗われた浜砂鉄の宝庫であることや「千貫」や「真砂」の 製鉄起源の地名が残っていることも判りました。

津軽遺跡の散らばる「縄文の道」と砂鉄「たたら」の道」の接点があることが判り、うれしくなりました。

● 縄文遮光器土偶の亀ヶ岡遺跡

亀が岡遺跡は街道の道の際にモニュメントと看板がち、後ろに藪があるのみでした。「こんなものか」と思いつつ、集落をぬけ、縄文館の方に歩いて行くと、次々と丘があらわれ、池が有り、地図からするとどうもこのあたりが 縄文遺跡群の中心のようだ。





縄文館 木造町 亀が岡



亀が岡遺跡の土偶



赤漆塗り漆器

縄文館では赤の漆が鮮やかに残る漆器とその前にそっと置かれたユーモラスな表情の素朴な土偶に遮光器土偶の完成された美しさとは違った語りに惹かれました。

縄文館から 丘陵地の森を抜け、湿原や池の散らばっている七里長浜の海岸の方へ抜け、湿原のひとつ ベンセ湿原へ行った。ニッコウキスゲの美しい湿原と聞いたが、今は一面の笹原だった。高層湿原というと尾瀬に代表される山の中の湿原をイメージしてきたが、ここでは 海岸に尾瀬やヒルガノ高原でみたのと同じ湿原が広がっている。

縄文の人々は丘の上に住み、これらの湿原や池のまわりにいる魚や動植物を取る事で定住が始ったと想像。これら水辺・芦原は生活の場として重要な意味を持っていたのだろう。

広がる湿原の中から また違った津軽平野の一面を見ました。



台風の強い風の中 念願の十三湖から亀が岡遺跡に立つことが出来、また、砂鉄・話鉄の道の痕跡も聞くことが出来、縄文の道を後にして 三内丸山遺跡に向かった。



『亀が岡とは南北にながながとらなる海岸砂丘界風山のひとつの丘の名である。亀が岡は、標高約15ないし20メートルほどもある。この丘が縄文晩期、あたかも都市のように栄えたのは、まわりに大小の湖沼をめぐらし、魚介がゆたかで、大きな人口を養えたからに違いない。』
司馬遼太郎『街道を行く 一北のまほろば』より

3.3. 三内丸山縄文遺跡で

mryma.htm
1999.9.25.

1. 山内丸山遺跡 お月見コンサート
2. 縄文トーク
3. 山内丸山遺跡 見学会



司馬遼太郎が『北のまほろば』と形容した津軽。

¥昨日の大嵐 午前中は強い風と雨が残っていましたが、午後 青森 三内丸山遺跡を訪れたときにはそれがうそのように晴れ渡り、気持ちの良い午後になりました。

今から 5000 年の昔、この北の地に縄文の大集落があり、縄文の歴史を塗り替えた三内丸山縄文遺跡がある。

青森の市街地のはずれ、八甲田の連山を背に、眼前には陸奥湾が青森の市街の向こうに広がり、実に雄大な景色が見渡せる森の静かな丘の上に遺跡が広がっていた。

5000 年前の縄文の時代に、この巨大な櫓・住居群をもった大集落があったことは、ほんとうに驚きであり、それから千数百年にわたり 北の中心として 縄文の生活が営まれてきた。

人々は狩猟・漁労とともに 栽培植物とも言える豊富な栗林を持ち、さらに幾つかの植物を栽培し、酒も造ったと言う。

多数の土器や鍬など石器と共に無数の素朴な土偶が出土し、その素朴な表情は 今なにを語り掛けているのか? その表情に惹かれ、親しみを覚えました。

出土した黒曜石やヒスイ・コハクそしてアスファルトトなど日本各地の材料で造られた出土品の数々。

その数の多さは、この縄文の時代にも日本海沿岸から北海道を中心に、日本・世界を結ぶ交流の道があり、その真っ只中の中心として、三内丸山の集落があったことがうかがえる。

日本人のルーツといわれる弥生人もまた、稲作 鉄伝来の道もまさにこの道を通して日本に伝わってきたのだろう。

また、接合のルーツ 縄文の漆・アスファルトもしっかり見て来ました。

その後 縄文後・晩期には 津軽半島を中心に遮光器土偶出土で知られる亀岡文化が開く。

そしてこの北東北地方は忽然と日本の歴史の檜舞台から消えてしまう。 中世安東氏の交易の拠点として 津軽半島先端部の十三湊が脚光をあびるまで・・・・・・・・・・・・・・・・

青森 北の大地に縄文文化 それもきっちりとした定住の営みを持った文化があり、日本各地大陸との頻繁な交流の道が有った。それから延々と現代に続く日本人の流れ。
実際に三内丸山遺跡に立って 古代へのロマンを膨らましています。



三内丸山遺跡 収蔵庫



貝塚地層断面



漆の塗られた鋏



語りかけてくる土偶

復元された縄文の住居の立ち並ぶ丘で開催された三内丸山縄文発信の会の「縄文トーク」や「お月見コンサート」も本当に印象深い集いでした。

- 縄文人の酒の話そして江口先生のアフリカの民話と津軽の民話と同じものがあるのにビックリしました。
- 初めてまじかで見ると津軽 イタコ滝越ソダさん の口寄せ・神おろし。人懐っこい話振りに親しみを覚え、宗教的なものめずらしさなど吹っ飛んでいた。
- 夜、この三内丸山遺跡の丘で開かれた「お月見コンサート」と「月見の宴」は本当に幻想的な夕べでした。

森の向こうから上がった満月の光りを背に、津軽の土地に根付き、新たなリズムで演奏される津軽三味線・笛・縄文太鼓などに思わず一緒に身をゆすっていました。

- また 静かに語られる津軽の民話や民族楽器『ジンベ太鼓』に合わせて、語る江口さんのアフリカの民話に古代縄文人の活動に思いを馳せました。

1. 三内丸山遺跡 「お月見コンサート」



三内丸山遺跡 「お月見コンサート」で 山上進氏ほか



フルベの昔話を語る江口さん
【復元大型住居前の丘で開かれたお月見コンサートで】

2. 【縄文トーク】 復元大型住居で



縄文トーク： 縄文の女性 & 縄文の酒 を語る

3. 山内丸山遺跡 見学会

幻想的な森のお月見を新しい友達と酒を酌み交わし『古代に思いを馳せながら』の忘れられない三内丸山縄文遺跡での一夜でした。三内丸山遺跡の発掘現場を案内してもらった辻誠一郎先生(歴史民族博物館)のミステリー顔負けの発掘逸話や縄文人が酒を造るために栽培した「エゾニワトコ」の話にも感激しました。



案内してもらった辻先生



三内丸山遺跡のニワトコ

自然界の食物連鎖の中 『栽培の持つ意味』については、全く、知りませんでした。「自然の植物には、鳥や動物などの天敵がいて、それらを食べ尽くし、種をばら撒くので、密集しての栽培は難しい。天敵のいない植物のみが集中的に育成できる。つまり 栽培としての可能性がでてくる。長い年月の試行錯誤だ」と。

三内丸山遺跡 鉄塔の下から出土した植物の数々の種から 「縄文人が酒を保有し、その酒を造るため、エゾニワトコを栽培してた」という。そして「毎日飲んだくれていたのか」と言うそうでは無くて、「何かの節目の儀式か 部族みんなの大集会で飲まれたらしい。まだ、それが何か 謎である」と。

この時代に大噴火した八甲田大岳の大噴火と関係するかも・・・

分析・解き明かして行く過程は発掘をやる人もエンジニアも全く同じ。

「不思議やなあ・・・」の思いが出发点であることも。

現場で熱っぽく解説してもらった辻先生のミステリーじみた謎解きに胸わくわくでした。



発掘された八甲田大岳爆発の地層を説明される辻先生

「北のまほろば 津軽」 country walk

[完]



2. 奥美濃-五箇山-砺波平野 花街道

1999. 4. 30.



- 2.1. 奥美濃ひるがの湿原・水芭蕉 [hrgn.htm](#)
- 2.2. 砺波平野にひろがる散居村 [snsn.htm](#)
- 2.3. 彫刻の街 「井波」 [inami.htm](#)
- 2.4. チューリップ祭りの砺波 [tnmi.htm](#)

ゴールデン ウィークがやって来た。今年は何年ぶりかでゆっくり出来ました。

弘前は桜の季節・三内丸山へ行こう考えましたが飛行機なく断念。 鹿児島韓国岳も。

『もう何年もいっていないが、この季節富山はチューリップ・水芭蕉の季節。 久しぶりに雪の山も見たい。』 越中八尾の風の盆以来。 ふっと思いついて家内と二人富山へ出かけました。

奥美濃白山山麓から五箇山を抜けて富山砺波へ行き、10年ぶりに彫刻の町「井波」で若い彫刻家の2代目達に刺激を受けて帰りました。

6月には久住ミヤマキリシマ見に行きたいしまだ 色々やりたいことばかりです。

1999. 4. 30 中西 睦夫



奥美濃 蛭ヶ野湿原



砺波平野の散居村



彫刻の街 井波



チューリップ祭の砺波



奥美濃
2.1. ひるがの湿原
水芭蕉

hrgn.htm

1999. 4. 30.



奥美濃 白山・大日岳を背景にひるが野湿原 1999.4.30.

岐阜県の最奥富山県との県境に接して、白山奥美濃側大日岳の山麓にひろがるひるが野高原。
本当に雪が深く、中々入れないところ。

美濃白鳥・白山の冬の登山基地石徹白など一度是非通ってみたい美濃から五箇山から富山への道であった。また、この街道は 最近はバスの車掌さんが生涯かけて沿道に桜の若木を植えつづけ「桜街道」と呼ばれようになった。

白山の分水嶺により接続を阻まれた JR 越美南線と越美北線。

今は 東海・北陸自動車道が尾張一宮から美濃白鳥まで開通しており、まもなく山を越え砺波平野へと工事が進んでいる。

かつて閉ざされた土地もいまは高速道路とスキー場で活気のある町に変貌していた。

白鳥の街を抜け、石徹白を通り、五箇山の方へ白山山麓を少し登りつつ 山の中に入ると突然広い高原に出た。それがひるがの高原。

白い雪を戴いた大日岳を背に山々に囲まれた雄大な湿原と草原が広がっている。



大日岳を背に広がる 奥美濃 ひるが野湿原 1999.4.30.



天気も上々、久しぶりに、自然の空気を満喫。

聞いてはいたが、水芭蕉だけでなく本当に気持ちの良い高原でした。

高原の中をドライブウエーが走るが、平日であったことがラッキー

ひるがの湿原は乾燥化が進んで尾瀬ヶ原とは少し違ったおもむきでしたが、水芭蕉の

群落が大日岳を背に湿原のせせらぎに白い花をいっぱいつけていた。



ひるがの湿原探訪 file



● 奥美濃街道 小牧ダム周辺で



2.2. 砺波平野の散村(散居村)

sansn.htm 1999. 4. 30 by M. Nakanishi



庄川沿いに五箇山の奥深い幾重もの山また山を抜け、ぱっと砺波平野がひらけると眼前にこの散居村の風景が広がる。

家と家の間の田圃には田植えの水がはられ、鏡のごとく光っている。

庄川沿いに砺波平野へ入り、彫刻の町「井波」のすぐ東側の山の散居村展望地に登った。

10年ぶりで時期も同じ5月連休。

少しは残っていても もう この景色は見られないものと思っていましたが、本当に昔のままで眼前に広がっていました。家内ははじめて見る風景に感激。



展望台からの眼下の砺波平野に広がる散居村風景

眼下の庄川の流れに沿って、光に映える水の中に無数の船が浮かんでいるように見える。

案内板には約700の住居と書いてあったが、ちょうど シンガポールへ飛行機が下りる直前に見えるマラッカ海峡の船がこんな風である。

遠くには富山湾がかすみ、東には富山市がそして立山・剣の連山が白い峯を輝かせ左西方には今日越えてきた五箇山・白山の山々見える。

誰もいない山の上でしばし 家内と二人 この光景に見とれていた。

1999. 4.30. 午後 富山県砺波にて

砺波平野の散村 の 由来



一面に基石をまきちらしたように農家が散在しています。

各家は東向きで、まわりの田を耕しながら、カイニョと呼ばれる屋敷林に生まれ、100~150メートルずつ離れて建っています。このような景観を散居村といいます。



庄川の流れが固定していなかったために、扇頂部から扇中部にかけての開発は平野周辺の山麓地帯扇端部より遅れました。

趨勢としては中世末から開かれはじめ、特に戦国の争乱が治まった近世初頭には、用水も整備されて急激に開発が進みました。散村はこの過程で広がったようです。

全国では出雲平野の簸川平野・静岡県大井川扇状地・北海道の十勝平野など、県内でも黒部川や常願寺川・神通川などの扇状地の一部に見られますが、広さにおいて散居の仕方においても砺波平野がもっとも典型的で、散居地帯の広さは約220平方キロメートル、散居民家約7000戸を数えます。

砺波平野は主に庄川の作った扇状地です。



まず、微高地の耕土の厚いところを選んで住居を定め、そのまわりを開いていった様子が史料からうかがわれます。

その場合、水の豊かな扇状地のためどこでも割合用意に水が引げました。

耕地が家のまわりにあることは営農上都合よかったので、この形態は長く持続され、今日に至っております。

また、孤立した家を風雪から守るために、屋敷林が大事にされてきました。風の吹く西南側に厚く杉をはじめ、げやき・竹・柿・栗などいろいろです。落葉や枯枝は燃料として、竹は日常生活にもなくてはならない資材でした。

こうして屋敷林は散居民家の生活と密接なかかわりをもって守られてきました。

2.3. 欄間彫刻の街 『井波』



inmi.htm

1999. 4. 30 by M.nakanishi

井波町の人口は、1万1千人ほどです。この町は、浄土真宗の瑞泉寺の門前町として発展し平成2年に開町600年を祝いました。

町の特徴は、日本最大の木彫刻の集積（井波彫刻）があることです。約300人の彫刻師が、彫刻に従事しています。まさに 木彫刻の街です。



浄土真宗 瑞泉寺山門と山門彫刻

静かなたたずまいの古い家並み、人影は見えないが石畳がきっちり敷かれたゆるやかな坂道の両側に並んだ家々から木槌の音が心地よく響き、木の香りがほのかにただよってきます。

10年前に訪れた時とまったく変わっていない。とにかく槌音以外に時たま通る車の音以外落ち着いた家並みの中は静まり返った午後で、なんとなく懐かしさにほっとしました。



井波 瑞泉寺 門前街



井波 欄間彫刻の店の中で

前に訪問した時には 油の乗り切った彫刻師たちが大きな欄間彫刻に腕を振るい、その見事さにビックリしましたが、10年たって家々では 2代目が新しいデザインの彫刻に腕を振っている。

親父さんと 2代目が並んで槌を振っている家もある。

とにかく若い彫刻師が多いのにビックリする。

伝統的地場産業と言うとイメージ的には年老いた匠が後継者もなく「ほそぼそと伝統を守っている」の感が強いが、井波は違っている。

ひっそりと静まり返った瑞泉寺の門前の家並みの中で、若い人達が、新しいデザインの数々の作品に取り組んでいるのに感動を覚える。

家内はくすの木の香りに引かれ、若い彫刻師が木槌を振っている一軒に飛び込んで話込んでいる。楠の削りくずが小袋に入れられ、「どうぞ お持ち下さい」と書かれて店の端に置かれている。良く知らなかったが、天然の防腐剤だそうだ。

家内は喜んでしまって 買った小さな「きうす」の敷き台と一緒に、このクスの削りくずを大事に掴んでいる。

● 井波 彫刻の町 八日市通りで



この井波は彫刻の伝統を受け継ぐ若い後継者が育っている。

以前なかった井波彫刻総合会館の中の作品も新しいデザインの色々な飾り彫刻や装身具彫刻などが、伝統の欄間彫刻や獅子頭の彫刻にまじって展示され、新しい伝統がそだっていることを感じる。

訪問するのが閉館ぎりぎり「もうだめかな」と思いながら飛び込んだのに閉館時間を延ばしゆっくり見せていただいた受け付けのお嬢さん。

前に来た時に見た丸いバス ストップの駅名看板 木製で十二支彫刻が彫られていたが、今も健在であった。

ほんとうに ほっとして、うれしくなった井波でのひとときでした。また来ようと思う。

1999年 4月 30日 夕
瑞泉寺の石段から彫刻の街並み「八日町通り」を眺めながら

● 井波彫刻総合会館



● 井波 瑞泉寺 山門の飾り彫刻





井波彫刻の歴史は、宝歴12年（1762年）に焼失した瑞泉寺再建の際に、京都本願寺の御用彫刻師が井波へきて、地元大工に技法を伝えたのが始まりといわれています。

時の流れとともに神社、仏閣、曳山等の彫刻から、民家の室内彫刻へと移り変わり、現在では欄間を中心に獅子頭、天神様、置物、パネル、衝立等と製品の幅を広げて発展してきました

井波彫刻は、楠、ケヤキ、桐等を材料として、荒彫りから仕上げ彫りまで200本以上のノミ、彫刻刀を巧みに使い分け、高度な技術を駆使して格調の高い作品を作っています。

主製品の欄間の製作では2枚一組で彫り上げるまでに2カ月～3カ月、手の込んだものになると6カ月以上もかけて仕上げられているそうです

また、一方で井波は作家の町ともいわれています。

井波町を中心に周辺市町に住む彫刻師は300人を超えます。

この中には、日展等の入選者約80人をはじめ、有名作家も多く、美術工芸品としての評価も高いのが特徴です。

この特色ある井波彫刻に魅せられて、全国各地から次々と若者達が名工の下に入門し、井波木彫刻工芸高等職業訓練校で厳しい試練に堪え、技能習得に励んでいます。

井波町 観光パンフレットより

● 彫刻の街「井波」 file

木彫刻の街瑞泉寺門前八日町通り



2. 4. チューリップ祭の砺波

1999. 4. 30

tnmi.htm



\$\$ 砺波のチューリップ祭 \$\$

[花 言 葉]

| | |
|----------|-------|
| 「博愛」 | (全体) |
| 「恋の告白」 | (赤色) |
| 「希望のない恋」 | (黄色) |
| 「魅惑」 | (まだら) |



チューリップが一杯咲いている時に行ってみたい街 『砺波』
念願がかなって チューリップ祭の開かれている砺波に
てきました。

子供が最初に描く花、最初に覚える歌、
富山県の花にも指定されている花。
そんな身近な花がチューリップを見たくて『砺波』に行っ
てきました。

ほんとに色鮮やかなチューリップの数々をみてきましたよ。



子供が最初に描く花、最初に覚える歌、 富山県の花にも指定されている花。そんな身近な花がチュ

ーリップです。

- 原産地とその普及

現在世界に通用するチューリップの品種数は約 5000 種。そのチューリップの原産地はアフガニスタン。

それがトルコで品種改良を重ね、現在のものに近いものができ、オランダでさらに発展しました。

日本へは 1863 年フランスからヒアシンスと共にもたらされ、富山県では 1918 年東砺波郡庄下村（現砺波市）の水野豊造氏が栽培を試みました。

- 富山（砺波）でのチューリップ栽培

砺波は砂質土壌の庄川扇状地は水はけがよく、また冬の積雪が地中の温湿度を一定に保ち、外界の気象条件の変化から球根を守り、球根発育肥大時の 4 月下旬から 5 月にかけて日照時間が長いなど自然条件に恵まれ、それがチューリップ栽培に適し、チューリップの一大生産地に発展しました。

- チューリップの品種の数々

チューリップの品種は、開花期や花形、草姿により、原種を含めて 15 の系統に分類されています。

砺波のチューリップが『砺波市 ホームページ 』 に整理されていました。

色鮮やかなチューリップの数々。このページの写真と一緒に楽しんでください。

<http://www.city.tonami.toyama.jp/hana/tulip/tulip2.html>

〔砺波市 ホームページ より 〕

『 チューリップ公園 チューリップ祭 』 file





奥美濃-五箇山-砺波 花街道
【完】

3.

中国錦州 「化石から山口県美祢を思う」

kinsyuprint.htm by M.Nakanishi 2000.11.1.



遼寧省 錦州市



山海関万里の長城の端

10月15日から数日仕事で中国北京から遼寧省錦州へ行ってきました。

約1.5年ほど全く海外とは縁切りになっていましたが、久しぶりに海外に出て、中国・中国華僑人と接し、その仕事振りにふれ、ほっとするというか 非常に気分的に楽になって帰ってきました。

今 中国では建築ラッシュというか 溶接材料も作っても作っても足りず、増設を重ねている上昇気流の会社を見てきました。



北京の中心街 2000.10.15.



中国の地方都市と多少は僕らの方が・・・と置いていましたが、北京から高速道路が通じ、会社もコンピュータ管理されたうらやましい工場。もっとも品質はこれからですが、すぐ日本に追い付くでしょう。

中国のスケールと人の多さにもビックリしましたが、中国も他のアジア諸国と同じく IT の先端に行くインフラ整備が着々となされていると感じてきました。

毎晩42度のアルコールの乾杯づけになったのには閉口しましたが、また 一つ別の世界を見ることが出来ました。また、錦州は化石の宝庫。みやげに一つ買いましたが、化石の街・美祢も考えては・・・中国はやっぱり休暇とってゆっくり歩きたいと思っています。

錦州は石油の街で人口90万の地方都市。取りたててなんにもないのですが、おみやげは5億年前の魚や虫など動物の化石。僕も一つ買って帰りましたが、それがきれいな箱に入って保証書もついています。それ以外みやげ品は酒程度。なんにもありません。

でも「化石」なんかは想像を逞しくすれば何でも語れるロマンの世界。ながめていると古代の遺跡の真中に入る気分になれます。鉱石には癒しの効果があるとか 最近ブームと聞きました。化石もそうなのでしょう。

前にいた山口県的美祢でもアンモナイトはじめ、壮大な化石が出て「化石の街」といっていました。

美祢の化石も世界を語る化石なんだろうが、殆ど知られていませんし、ロマンをかきたてるみやげ品もなし。美祢にいる時にはすごいものと思っていたが・・・。

異質の人達集めて「化石の語るロマン」の会かなんかやったら面白いとおもうんですが・・・

それにうってつけの満天の星空が見える森も大理石・石炭の鉱物も街中を走る朝霧も近くにはあの秋芳洞もあるし。

博覧会より長期的にはよっぽど広がりが大きくなるとおもいますがいかがでしょうか・・・

博覧会より長期的にはよっぽど広がりが大きくなるとおもいますがいかがでしょうか・・・

博覧会より長期的にはよっぽど広がりが大きくなるとおもいますがいかがでしょうか・・・

青森の山内丸山遺跡に集まる人達にふっと頭がいき、その凄いエネルギーが青森を面白くしていると考えたと「化石」にもそんな power があるとそんな気がしてきました。



茨城県自然博物館も世界の大型化石を集めたおもしろい博物館。
茨城県の北の外れ、千葉県野田市から利根川を渡った利根川の湿地帯 菅生沼と一体化した自然公園博物館である。

菅 沼 茨城県立自然博物館

化石だけの展示ではないのですが、地球創造からの歴史をわかりやすく、楽しめるように展示。その中心は恐竜化石。こんな化石の展示の仕方もあるのかとビックリ。面白かったです。博物館が建つ丘陵の森と菅生沼を野外の自然パーク。1日自然の中でゆっくり楽しめる博物館として関東ではお奨めの博物館。ちょっと交通の便が悪が難点。



茨城県立自然博物館と展示化石

最近現在の日本人の考え方に少なからず疑問を持っています。誰かにまかせて 路線を引いて、それが成功すると みんな同じ路線。異質は排除。それがメイン。

もっと多方面から自然発生的に発生した異質集団が集まって行き、ひとつの流れをつくって行く市民運動的発想がメインの発想として用いられても良いのではないのでしょうか...

歯止めの効かぬ集団となった日本 画一的な日本。「異質が本当は中心」とは考えられないか.....

グローバルな基準 もそんな中から揉まれ淘汰され、生まれてきたとしたら うまく組み込んで行く事こそ大事。

中国 錦州へ行き 多くの中国や中国華僑のビジネスマン エンジニアと接しそんな事感じています。

バラバラの雑文です。

中国出張から帰って 2000.11.1. by M.Nakanishi

4.

『ひとあし先に春を告げる南房総 Country Walk』

花の南房総 COUNTRY WALK 2001. 2. 24.

mnmbso1.htm by M.Nakanishi



- 4.1. ひとあし先に春をつげる南房総 Country Walk
- 4.2. シンガポール植物園の姉妹植物園 南房総パラダイス
- 4.3. 南房総 千倉 花摘みのお花畑
- 4.4. 南房総 「くじらのたれ」

4.1. ひとあし先に春を告げる南房総 Country Walk



〔南房総パラダイス大温室と菜の花〕



南房総千倉の街の花畑



南房総千倉 花の絨毯

2月24日 南房総の一早い 花の春の便りをお届けします。

今日はまた 非常に寒くみぞれが降っていますが、暖かくなったり寒くなったり。

久しぶりに家内が柏に出てきています。

先週の土曜日 以前から「行って見たい」と言っていた南房総館山から フラワーラインを通過して野島崎灯台 千倉の街へ一歩早い春の花を見に出かけました。私にとっては10年振りの南房総 walk。天候は曇り・霧雨が降ったり止んだりのあいにくの天候でしたが、例年この時期花を求めて多くの人でごった返す道。人が少なくて好都合。館山から野島崎・千倉の街へ至る海岸砂丘沿いの道には「菜の花」が満開。南房総パラダイスの熱帯植物園の大温室もブーゲンビリア・ペゴニアや色々な種類のランで満開。

南房総の一早い春の花 2001.2.24.

〔南房総パラダイス シンガポールの匂いをはなつ大温室の花々〕



〔野島崎灯台〕



〔花摘みの店と千倉のお花畑〕



千倉の街の丘もカラフルな花の絨毯。見渡す限り咲き誇るポピーを眺めながらの「アフタヌーン ティー」でも.....とおもったのですが、10年経つと随分かわってました。

「花摘み」の旗が立ち並びストック 金盞花 ポピーなど違う花が、畑の畝毎に栽培され、カラフルな花の絨毯かパッチワークの様相。

久しぶりに海と山を背景に咲き誇る花の香りと色を満喫。



千倉 お花畑で 2001.2.24.

千倉から 浅田次郎の「天国への100マイル」の舞台となった鴨川の海岸に建つ「亀田病院」のそばを
通って九十九里浜の南端 大東崎のある岬町へ。そこから、北へ真っ直ぐ伸びる夕闇の九十九里の海岸
をドライブ。

早春 花の南房総の海岸をグルッと一周して柏に帰りました。

日曜日には千葉浜幕張の界隈の散歩へ。新しく出来た「アウトレットモール」
とフランスから進出した大型のスーパー「カルパール」へ。

多くの若いペアに混じって雰囲気を楽しんできました。

これからは 戸外へ出る絶好のチャンス 一足早い春を楽しみました。

4. 2. 南房総 花の写真 file .1

シンガポール植物園の姉妹植物園 南房総パラダイス



4. 3. 南房総 花の写真 file . 2

南房総 千倉 花摘みのお花畑 2001.2.24.



4.4. 南房総 『くじらのたれ』 2001. 2. 24.



〔「AERA」3月15日号より〕

千倉から鴨川へ向う海岸沿いに春の花を栽培し、花摘みの店が並んでいるもう一つの集落があった。その『花摘み』の店に並んで『くじらや』と大きな看板をあげた店が在った。この「くじら家」の入口の看板には大きく『房総名産くじらのたれ』と書かれている。

南房総の海岸沿いをまわっているといたるところでこの『くじらのたれ』の看板にでこわした。店の中に入ると多くの鯨の身などに混じって、中央に『くじらのたれ』とかかれた真っ黒な異様な物がビニールに詰めて-房総土産として売られている。

くじらの肉片のようでもあり、なにか汁・たれを凍らせた物が...・? 判然としない。不思議なものである。今までまったくでこわした事のないしろものである。



不思議ついでに『これは なに? どないしてたべるの...・?』と店の人に聞くと『くじらの肉の切り身を醤油などのたれにつけて それを干した物。』



くじらのたれ

ちょっとあぶって食べると珍味 酒の肴に最適。珍味である...・...』と言う。

要は真っ黒な日本版くじらのビーフジャーキーとの事であるが、真っ黒で不気味。

房総は昔から捕鯨の基地であり、ここ和田浦は今も捕鯨が行なわれている所と聞くので、昔ながらのくじらの加工品であろうと想像するが、異様で買う気も起こらずかえってきたのですが、強烈な印象でした。

帰ってから家内と『なんとも不思議なもの...』と話していました。

ところが 今週買い求めた『サライ』3.15号になんとかの『くじらのたれ』が「房総の珍味」として取上げられ、『くじら家』は房総唯一の捕鯨会社が経営する有名な直営店と書かれていました。

『くじらのたれ』は昔捕鯨が華やかなりし頃の捕鯨の街の保存食。

『固いたれを噛むので、昔の地元の人には歯が非常に丈夫だったという。』

それならば 一度買ってかえったのに.....残念。惜しい事をした。」と今は思っています。

『くじら』は日本伝統の食文化であるが、捕鯨が禁止になって関西でも滅多に口にはいらなくなった。小さい頃くじらの肉をサイコロに切った佃煮やくじらベーコン そしてコロの入った関東煮などくじらで育った世代には 最近の捕鯨の禁止は寂しい限り。

もう 何年まえになるのか、私が子供のころの南極捕鯨がはなやかなりし頃、大阪に図南丸など捕鯨船団が帰ってくるとそのたびに大阪港木津川沿岸の小さな船会社の共同組合に関係していた父が持ちかえるくじらの「尾のみ」が楽しみで 食卓にのぼる鯨のステーキに目を輝かせたものだった。

また山口にいた時も幾度か下関で鯨の肉を懐かしく食べたことがあるが、思ったほどうまくなかった。

神戸で長く僕の肝臓の病気に付合ってくれた神戸白川台のお山の先生は図南丸の船医で南氷洋に行っていたと...

この南氷洋の捕鯨船乗組記の本も出され、何度か話を何回か聞いた事があった。随分世話になりましたが、今はどうされているのか...

「くじら」には本当にいろんな思い出が詰まっています。

今度 房総にいったら是非「くじらのたれ」を買ってこようと思っています。

2001.3.1. 柏にて M.Nakanishi

幾度かに別け、砂鉄の浜を焼き魚と暖めてもらった酒を友達に歩いた九十九里浜。

犬吠崎から直線的に南に伸びる九十九里浜のつぎる岬町大東崎からリアス式海岸が続く南房総。

お花畑の千倉 野島崎灯台そして また館山まできれいな砂浜と南国の香りのするフラワーロード。

房総半島一周の再スタートでした。

約10年ぶりの南房総 館山から千倉を通過して岬町まで快適な花のドライブでした。

柏の緑もいいが、やっぱりカラフルな花の香り 花に接すると忘れていた香りにほっとしました。

次回は訪ねられなかった岬町の先輩を訪ね大東崎から九十九里浜飯岡の灯台へと思っています。

「ひとあし先に春を告げる南房総 Country Walk」

〔完〕

5.

春の霧島連山 韓国岳登山



krsma.htm by M.Nakanish i2001. 5. 2 , 3.

5月のゴールデン ウィーク いかがでしたか?

若葉が目にしみる絶好の季節到来 .

私は家内と二人 新緑の九州霧島へ 念願の韓国岳へ登ってきました。

5月2日早朝に神戸を經って 霧島温泉にゆっくり浸かって翌日韓国岳に登って 美祢の家まで帰るスケジュール。

天候に恵まれ、韓国岳の360度の展望と両翼を広げ天空に峰を突き刺す印象的な高千穂の峰を楽しみました。

おまけに霧島にしかなく、5月初旬に咲き出し、ほんの1週間で散ってしまうという天然記念物「ノカイドウ」の花並びに黄色い葡萄の房のような花を沢山つけたこれも霧島にしかない満開の「キリシマミズキ」に出会え、本当にラッキーでした。



久しぶりに気持ちのいいゆっくりとした山歩きが楽め、リフレッシュ 壮快な気分をかえりました。

霧島といえば「ミヤマキリシマ」ぐらいいしか知らなかったのですが、弥陀ヶ原や韓国岳の登山道で沢山の人がカメラを構えていました。

4月に満開となる「キリシマミズキ」が今年の寒さで遅れ、「ノカイドウ」の開花時期と重なり、霧島にしかない珍しい二つの花が同時に見れる本当に「まれな年」だったので、本当に幸運。



「ノカイドウ」えびの高原で 「キリシマ ミズキ」韓国岳登山道で 2001.5.3.

「霧島の宝物」「ノカイドウ」は薄桃色の蕾と白い花が混じり、満開になると真っ白となる .

韓国岳の登山口「えびの高原」の県道脇でちょうど咲き初めの薄桃色のまじった清純な花を咲かせて、見取れるような美しさでした。

また 韓国岳の登山道の灌木の林のあちこちで「キリシマミズキ」が黄色の房を木一杯につけ、空の青と樹木の緑を背景に秋銀杏の紅葉の風情。良く見ると上向いて咲かず、花が垂れ下がる珍しい光景です。韓国岳と大浪池とにはさまれた狭い野原には「ハルリンドウ」が一輪 また一輪 青い花を咲かしていました。まだちょっと時期的には早いようですが・・・・・・。花については全く予備知識なしでしたが実にきれいでした。

前日登った高千穂の峯 御鉢



高千穂峰 お鉢



高千穂河原登山口から 御鉢



御鉢中腹から 桜島眺望

韓国岳からの展望



頂上から 霧島の峰々



頂上付近から 九州脊梁の山々

念願の韓国岳。 快晴の頂上の直下には大きなお釜が切れ落ち、韓国岳から高千穂峰に続く霧島連山の峰々が見える。大きな火口が見える新燃岳 お鉢を抱え両翼を大きく広げたように見える神秘的神々しい高千穂峰。この 20 座を超える霧島の峰々をあっけにと取られて見取れていました。

眼下に広がる樹林の中には数々の火口池が眺められ、韓国岳のすぐ下には紺碧の水を貯めた大浪池がみえる。またはるか 南には桜島が見え、その横に小さな開聞岳が見える。

また目を北に転じるとはるか遠くに阿蘇や傾 九州脊梁山脈の山々が雲の上に浮いていた。

「今でないと歩けなくなる」とのちょっと脅迫観念にかられて、九州まででかけましたが、長年あこがれてきた山は期待にたがわず満足でした。



この若葉芽吹く樹海の中 露天風呂につかって鳥のさえずり 樹木の触合う音を聞く。

すっかり リフレッシュ。自然から活力をもらう。浮かれた気持ちではないが、すっきり気分が良い。これが自然の癒しの効果か・・・・・・？

ふっと 色々な事が樹海のやすらぎにさそわれて 頭にうかんでくる。

もう 60 近くになると最近はいつも仕事を終えた後の事と健康の事が頭にある。
高度成長を支え、日本反映を担った団塊の世代。今檜舞台から退場をよぎなくされている。。。。。
そんな中で、現役の第一線で先頭に立って道を切り開いてきた仲間が数人 今病氣と闘っている。

仕事にかけた情熱で病気を克服して欲しい。
なにも てきないけれども ガンバレ ガンバレ と ただ祈るのみ !!
ぜひ 元気な顔をみたい。

まだ 退場しないぞ。。。。
明日もまた何くそで登るぞ。。。。
そんなことを考えながら
霧島温泉郷 丸尾温泉にて



2001.5.2 by M.Nakanishi

5.1. 霧島 高千穂峰 御鉢



高千穂峰 韓国岳より高千穂峰



御鉢 高千穂河原より



錦江湾を望む 御鉢登山途中で

5.2. 早朝まだ日の出前 霧雨の中 神戸を出発 .

今日は雨。明日はれてくれれば。。。。。
一度九州霧島へ行きたいと思いながら、中々行けず。
「もう 今行かないと動けなくなる。」との脅迫観念 にも似た気持ちで家内と二人出かけました。
山陽自動車道はずっと雨。昼前に九州自動車道に入り、霧雨が降ったり止んだり。

10 数年前の同じ頃、鹿児島空港へ降り立った時、霧の中に浮かび上がった緑の高原と霧島連峰の峰々。

実に素晴らしい風景でした。

「新緑の中に 霧の中に浮かぶ山々。これが霧島の魅力。」と聞いていましたが、其の時から一度は登りたい山になりました。

熊本を過ぎる辺りから南の空に明るさ。雲の切れ間も見える 阿蘇は雲の中でまったく姿を見せないが、南へ行けば晴れてくるかも。。。。。熊本から人吉へ ハイウェイは山の中に入って行く。

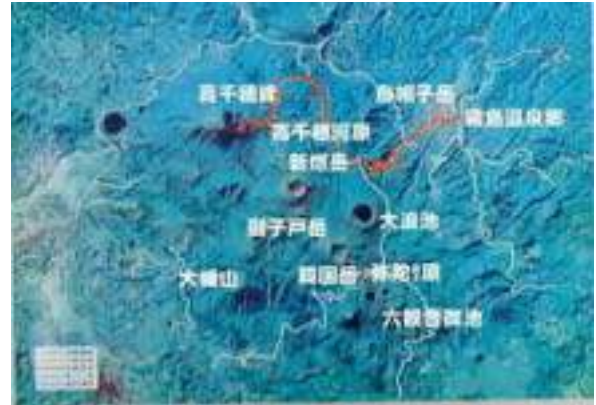
トンネルを幾つか抜けて 鹿児島県・宮崎県の県境のあたり、南の空に青空も見える中、霧島のサービスステーションへ。ここからは緑の高原と霧島連峰の峰々が見えるはずだが、霧島高原から北西の宮崎県側へは相変わらず、真ッ黒の雲の中。今日はもう山は見えず . はやく温泉に入り、明日を期待。。。。。





【九州自動車道から霧島えびの高原へ】

インターを下りてえびの高原の標識をたよりに霧島高原へ。
 南の方、鹿児島方面には青空もみえるが、霧島は霧に包まれ、山々の山容も見えない。
 霧島高原の中にはいり、「緑の回廊」となづけられた新緑の道が霧島高原の中をぐいぐい登って行く。
 鹿児島県側南に道がまわると青空がみえるが、北に回ると霧の中。
 新緑に目を奪われながら、宿のある霧島温泉郷をすぎ、更に登る。霧島高原の北の端 韓国岳の登山口 へびの高原まで一度登ろうと考えたが、霧の中。



あきらめて 青空の見える南側を高千穂河原へ。



高千穂峰の登山口高千穂河原は強い風に雲が飛ばされ快晴。
 高千穂峰の御鉢が、青空を背景にくっきり見える。
 もっとも背後の高千穂の峰は雲の中、全く見えないが……。
 午後2時過ぎ、駐車場には高千穂へ登ってきた団体登山の中高校生など多くの登山客で一杯。

正面には霧島神宮の鳥居を前に、御鉢が

赤茶けた堂々たる山容を見せている。
 時間的にはちょっと遅いが、登れる。急いで山靴に履き替え、鳥居脇の登山口から真っ直ぐお鉢の縁までの急登の登山道を歩き出した。



道は赤茶けた軽石だらけの道。灌木帯を抜け、急騰の登りにかかる。
 軽石がズルズルすべって非常に歩きにくい、ぐんぐん高度が稼げる。強い風に乗って時折霧が吹きぬけて行く。振返ると今登り始めた高千穂河原が緑の林の中にぼつとりと見え、幾筋かの湯煙をあげる温泉が樹林帯の中ポツポツと見る。
 その手前北の方へ目を向けると今取りついている御鉢の背後にある大きな山塊が雲の流れの中に見える。また南には霞んではいるが、錦江湾・桜島がグリーンベルトの遥か向こうに見える。

島のすぐ東に小さくポツンと開聞岳の姿も見えている。

北は雲に包まれている事もあって 新燃岳・韓国岳へと続く霧島の稜線は見えないが、緑あふれるすがすがしい登山となった。



高千穂峰 御鉢への登山コース



遠くに開聞岳 高千穂川



とては開聞 見えにくい

高千穂峰 御鉢山腹からの眺望 2001.5.2.



高千穂峰「御鉢」から 桜島を望む

上へ登るほどさらに急登になると共に 軽石のザレ道は塊が大きくなりゴツゴツしてズルズル滑る。

風と霧が山の姿を一瞬隠しては、また見える。御鉢の縁に立てば高千穂峰は見えるだろうか

お鉢の縁に近づくとつれ、霧と風が強くなり、縁が見えない。霧と風の中を歩く。

御鉢の縁にやっと到達したが、猛烈な風と霧。吹き飛ばされぬようゆっくり歩く。

今まですれ違っていた人達も全くなり、霧の中を高千穂峰に向う。風を避けようにも岩陰なし。反対側の御鉢の中も全く見えぬ。時折 うっすらと前方にぼんやりと山の形が現われたと思うとまた霧にかき消される。15分ほど御鉢の縁を歩き、高千穂峰への下りのところへ来たが、山はやはり全く見えず。

おそらく 高千穂峰までいっても風と霧の中。時間も遅く、明日を期待してもと来た道を引き返す事にした。



高千穂の峰 御鉢の縁で



高千穂の峰 御鉢の縁で 2001.5.2.

御鉢の反対側高千穂峰から新燃・韓国岳への宮崎県側だけが霧の海。残念ながら高千穂峰見る事できず。御鉢の縁を下にちょっと降りると先ほどの風と霧がうそのようなもう明るい晴れ渡った空。もう、下る人もちらほら登る人も殆どなく、錦江湾 霧島高原を見下ろし まわりの風景を楽しみながらゆっくりと下る。

途中 急いで登ってゆく人に出会い、「高校生が一人もう2時間以上下山して来ない」と聞く。御鉢の縁が猛烈な霧と風であった事 何処かで風と霧さけているのであれば良いが・・・と気遣いながらの下山。ヘリコプターが飛んで来て 頭の上を舞い始める。高千穂河原の駐車場には救急車・警察ほか 多くの人が詰めているのが見える。

駐車場についた時 見つかったとのトランシーバー交信聞く。やれやれである。

御鉢の直下にひとつたつポツンと山を下ってくる小さな人影が見える。どうもそれが行方不明だった人らしい。

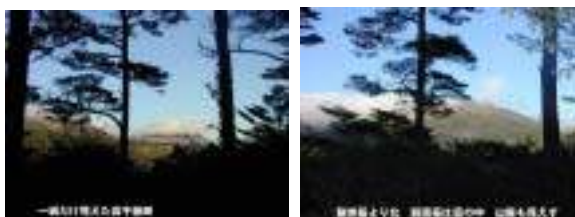
ヘリコプターが其の方へ向い、駐車場で見上げている人達もほっとした気分がみえる。

御鉢の上の猛烈な風と霧を思い出しながらほっとし、明日の山行きに気分も軽くなる。

再度 えびの高原の方へ車をはしらせるが、ヤッパリ、途中から見る高千穂峰は雲を巻き、えびの高原は霧の中。

明日 晴天になる事を期待しつつ、今日の宿泊地 丸尾温泉 旅行人山荘へ向う

2001.5.2. 霧島高原 高千穂河原にて



霧島温泉郷 丸尾温泉から霧島連峰 2001.5.3.

5. 2. 霧島温泉郷 丸尾温泉



霧島高原のいたる所で湯煙があがる中 大きな温泉街がある林田温泉を少しさがった丸尾温泉へ。



今日の宿は「旅行人山荘」。インターネットで前日搜した宿でまったく予備知識なし。どうせ 温泉街の街中の小さい宿と想像していたが、まったく予想外。新緑の森の中、広い敷地内 自然林の中に建

つ静かな宿。眼下には鹿児島錦江湾・桜島が一望され、ほんとうに満足の宿。
夕闇の中 桜島を一望できる湯舟につかってご機嫌。
ホテルの人に林の中の露天風呂を勧められ、明朝早くに予約し、明日の晴天を期待して早くに眠る。

5.3. 早朝まだ日の出前 快晴。飛び起きて

山の景色を見る。

朝もやの中 錦江湾が見える。残念ながら 山の方は部屋からは見えず。露天風呂に行く準備をしてまずは屋上へ上がる。

噴出する湯煙のその背後にまだ真っ黒の姿で新燃岳そして 両翼を広げた高千穂峰が見える。

晴天である。新燃から反対側は前の山に隠れて良く見えないが、韓国岳への稜線がはっきり見える。

雲一つない霧島連峰の稜線 そして その前には点 在する霧島温泉郷の湯煙が見える。

新燃岳の頂上の背後がすこし明るく幻想的な山の景色「山の温泉はこうでなければ・・・」

今日は1日素晴らしい朝である。



丸尾温泉からの霧島連峰の夜明け 2001.5.3



下の庭において 露天風呂へ。
これがまたビックリ。
広い庭の林の小道を森の中にはいってゆくと森の樹木につつまれた中に大きな露天風呂があり、それも 一人占め。

風にそよぐ樹木の音 鳥のさえずりを聞きながら、本当にゆったりした気分。

ほんとうによい宿にあたった。こんな中にいると 色んな事が頭を駆け巡る。

林のあちらこちらから鳥の鳴き声が聞こえている。今日は最高の登山日和。

朝靄の林の中 ゆったり気分を振りきって、韓国岳登山へ。

一番の朝食を早々にえびの高原の登山口へ向う。昨日の霧の中がうそのように晴れ渡り、新緑の緑が美しい。また、樹木のあいだから、霧島連峰が見え隠れしているが、晴れ渡った空を背景に稜線がくっきり見えている。

えびの高原の登山口からは 堂々とした大きさと韓国岳が朝焼けの中 眼前に見える。

素晴らしい登山日和。やっと見えた韓国岳。 念願の霧島 韓国岳登山をスタートした。



朝もやの韓国岳



夜明け早朝の高千穂峰えびの高原への林道

早朝 えびの高原 韓国岳登山口で 2001.5.3.

5. 3. 韓国岳登山 えびの高原登山口・韓国岳・大浪池・えびの高原



霧島連峰 地図



韓国岳 えびの高原から



大浪池よ 韓国岳



1. えびの高原 韓国岳登山口で

5.3. 早朝 快晴の空に幸運を喜びながら、丸尾温泉を出発し、韓国岳の登山口えびの高原へ。新緑の緑が本当に美しい。昨日とはうってかわって、樹木の間から霧島連峰の峰峯が垣間見える。絶好の登山日和。

早朝にも関わらず、えびの高原にはもうハイカーの車が並んでいる。正面樹林帯の向こうにははずしりとしたポリウム感のある韓国岳が見え その右手には 硫黄岳 そして あちこちで噴煙があがり、硫黄くさい。 噴気のでる周辺は草木がなく白く土が露出している。

もっと俗化した場所とってきたが、良く整備された気持ちの良い高原である。



えびの高原全景

韓国岳登山道より 右中央賽の河原



えびの高原

念願の韓国岳。

灌木帯の中を周囲の山や火山帯特有の景観を眺めながら登山口である韓国岳と硫黄岳の鞍部までのスタートである。天気も良いし、何処まで行くか一応 韓国岳に登ってそのまま韓国岳の山腹を真っ直ぐ大浪池におりて、えびの高原へ戻る予定。本当は新燃岳・高千穂峰まで縦走路を歩きたいところであるが、えびの高原へ車を取りに戻れないので断念。(下山後、新燃温泉に行って解ったが新燃岳まで縦走 新燃温泉に下りタクシーを呼ぶか 新燃温泉からスタートして逆に縦走してえびの高原に下りればタクシー捕まえらまされた)



韓国岳 登山口 賽の河原へ



賽の河原(硫黄岳と韓国岳の鞍部)で

噴気がもくもくと上がる地獄谷を見ながら、ほどなく硫黄岳への分岐賽の河原 韓国岳の尾根への取りつきに到着。ふりかえると噴気で草木が「えび色」になったえびの高原全景そして背後にかつての霧島噴火の跡に出来た丸い池がポツポツ点在して見える。えびの高原にいる時には見えなかったが、少し高度を稼ぐと池が見えてくる。

韓国岳1合目の標識から登りの尾根にとっついた。高千穂峰 御鉢は取っ付きから赤茶けた軽石のザレ道で歩きにくかったが、こちらの方が少し歩きやすい。



韓国岳の登山口

2. 賽の河原登山口 - 韓国岳へ

灌木の中の登山道を登って行くと登山道脇で黄色く垂れ下がった葡萄状の花を幾つもつけている木にカメラを向けている人に出会った。「キリシマ ミズキ」という。韓国岳に登るのが目的ではなく、この花の写真に取るのが目的という。

霧島にしかない独特の花を五月初旬につける霧島の春を象徴する 珍しい花と聞いた。そのように聞くとなるほどその花の姿といい、枝からの垂れ下がり方 そしてあざやかな黄色に色づいた花。今までに見た事もない木で青空に黄色が良く映える見事な花である。



「キリシマ ミズキ」

ちょうど満開で一番きれいな時に見かけたわけであるが、急いでいれば ずっと季節を忘れ、秋の銀杏とでも思って見過ごしそう。 登山道のスタートからラッキー。

どんどん登り高度をかせぐ。灌木帯を抜ける辺りから、ゴツゴツの赤茶けた石コロが転がった道になる。振返るとまわりの緑から取り残されたように白いえびの高原。そして幾つかの火口にできた池が深いコバルトブルーに輝いているのが見える。



また北側遙か遠くには雲の合間に阿蘇・傾山など九州脊梁山脈の山々が浮かんでいる。

背後にぽっかり浮かんだ九州脊梁の山々



道は更にゴツゴツした岩肌の山腹の道となり、高度を更にかせきながら南側へ廻り込む。

今まで見えていなかった南側の景色が見え出す。

韓国岳の山腹のむこうに新燃岳・高千穂峰へと続く霧島の峰峯が見えだし、稜線が近いことが解る。また眼下には大きな火口湖大浪池が緑の森の中に満々とコバルトブルーの水を貯めて見える。さえぎる物のない素晴らしい景色である。

3. 韓国岳の南側へ廻り込んで お釜の縁へ



大浪池

お釜の縁で バック白鳥山

高千穂峰・新燃岳

まわりの景色をたのしみながらのゴツゴツした岩の道を登るうちに急に前方が切れ落ちたお釜の縁に出た。韓国岳のお釜がのぞきこめる。お釜の縁をみながら韓国岳の岩だらけの頂上へほどなく到着。

4. 韓国岳 頂上で



快晴の頂上の直下には大きなお釜が切れ落ち、一方では 韓国岳から高千穂峰に続く霧島連山の峰々が快晴の空をバツに連なって見える。

大きな火口が見える新燃岳 お鉢を抱えて両翼を大きく広げたように見える神秘的な高千穂峰。この20座を超える霧島の峰々をあっけにとられて見取れていました。

また、眼下に広がる樹林の中には数々の火口池が眺められ、韓国岳のすぐ下には紺碧の水を貯めた大浪池がみえる。はるか 南には桜島が見え、その横に小さな開聞岳が見える。また目を北に転じるとはるか遠く春霞の中に阿蘇や傾など九州脊梁山脈の山々が雲の上に浮いている。



韓国岳 頂上からの霧島連峰 2001. 5. 3.

えびの高原から約2時間の快適なハイキング。

「今 今年でないと歩けなくなる」とのちょっと脅迫観念にも似た気持ちにかられて、九州まででかけましたが、長年あこがれてきた山は期待にたがわず満足でした。

5. 頂上から大浪池へ 下山



幾つかのグループが縦走路を新燃岳めざして出発してゆく。

もう少し縦走路歩きたい気持ちをおさえつつ、頂上からダイレクト直線的に麓の大浪池へと続く道へ入っていった。本当に文字通りの直登ルートの下り。幾重にも重なった森の中へ一直線に飛び込んで行くきつい下りである。。一気に大浪池まで下り、其処から 森の中 韓国岳の麓をえびの高原までトラバース。鳥のさえずりをききながらの森林浴。



大浪池周辺で 2003.5.3.

2 時間弱でえびの高原の県道へ。早朝から更に車・人が増えている。県道脇の薄裳も色の花をつけた小さな木に沢山の人がカメラを向けている。



知らなかったのですが「霧島の宝物」ノカイドウ」桃色のつぼみをつけ、1 週間ほどで純白の花になり散る霧島の宝ここえびの高原にしかない花。この花に出会えるのはほんの1 週間。ほんと初々しい清純な美しい花で、これを目当てに多くの人々が来られるのも頷ける。本当にラッキー。

今年は春が遅れ 例年4月下旬に咲くのが5月初旬にずれ、春の霧島の象徴「キリシマ ミズキ」と重なり両方が同時に見れる珍しい年であったと 5.3.の地元の新聞が報じているのを後でました。

それにもあやかる事が出来ました。

下山後 噴気をもくもくとあげている新燃温泉へ戻り、乳白色の熱い温泉に入りました。まわりの緑に映えた乳白色のお湯に浸かって 韓国岳の頂上からの景色を思い返していました。

まだ昼過ぎ 鹿児島へゆくか 日南の城下町「飫肥」・宮崎へゆくか
まあ 足の向くままきままな旅 あとで走りながら 考えよう



2001.5.3. 新緑がはえる乳白の新燃温泉に浸かりながら

韓国岳のふもとに咲く

天然記念物「ノカイドウ」と「キリシマ ミズキ」そして「ハルリンドウ」

2001.5.3.

nkido.htm by M.Nakanishi



天然記念物 「ノカイドウ」

春を告げる 「キリシマハナミズキ」

春白に淡い桃色の混じった花をつけ、霧島を代表する天然記念物「ノカイドウ」と黄色い葡萄の房のような花を垂らし春を告げる花「キリシマ ミズキ」。
霧島でしか見られない珍しい花を同時に韓国岳やその麓で見ることが出来た。

あとで知ったのであるが、霧島を代表する春の花『「キリシマ ミズキ」と幻の花「ノカイドウ」の両方の花を同時に見られるのは非常に珍しい』という。滅多にないことで本当に運の良い事と聞きました。

2001.5.3. 霧島 えびの高原にて



大浪池で見た春リンドウ

6.

山口県長門市 湯本温泉

2001.5.5. aymto.htm by M.Nakanishi

4.25. 朝日新聞 4.25.夕刊 東京版 に湯本温泉の記事がのりました。
 久しぶりに見る山口美祢の記事。財津和夫さんが「大谷山荘」に泊まった感想がまとめられていました。
 温泉街を流れる川は「音信川」と書いて「おとずれがわ」と読む。なにか ほっとする音感。
 以前 美祢に住んでいた時には、この湯本温泉・俵山温泉には 仕事を終わってから、一風呂浴びに随分
 かよいました。

朝日新聞 東京版 夕刊 2001.4.25.



心の風景

せせらぎの音 湧く愛の言葉

財津 和夫さん



湯本温泉 山口

湯本温泉(山口県長門市)を訪れた。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。

湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。

湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。

メモ

- 湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。
- 湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。
- 湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。湯本温泉は、湯本温泉(湯本温泉)の中心地である。

1年ぶりに5月の連休に家内と二人新緑の湯本温泉を訪れた。

今年の夏 長門市の詩人「金子みすず」が映画化され、川の岸には青いその幟が沢山はためいていた。



山口県長門市 湯本温泉と音信川 2001. 5. 5.

まもなく 蛍飛びかう季節。
山合の静かな川の流れと蛍の淡い光と

本当にまるやかなすへすべのお湯
気持の切替のできる
今もってお勧めの温泉です

2001.5.5. 湯本温泉にて

大漁
朝焼小焼た
大漁た
大羽織の
大漁た
濱は祭りの
やうたけど
海のなかでは
何萬の
繭のとむらひ
するたらう



中島潔 画

山口県長門市仙崎の詩人
「金子みすず」の詩より

中島潔「金子みすず」-まなざし-
画文集 より

7.

花の4月 関東で country walk 2001.5.

- 7.1. 残雪の上州 赤城山赤城山の最高峰 黒檜山 ミニ登山
 7.2. 墨田堤・隅田川 夜桜 2001.4.7
 7.3. 柏 春真っ盛り 柏 あげぼの山 チューリップ 満開

7.1. 残雪の上州 赤城山 赤城山の最高峰 黒檜山ミニ登山



akagi.htm by M. Nakanishi 2001.4.2.



4.2. 東京では 桜が満開。街には春山の雑誌特集があふれている。朝日新聞社が週刊「日本百名山」を発売し、毎週山の写真が届くようになり一層山へ出かけたくなっている。



上越線や上越新幹線が高崎を過ぎると前橋市の後方に大きく独立の山塊としてそびえる赤城山。

沼田から尾瀬への入口へバスで登って行く途中でも、その山塊が雄大に見える。

爆裂火口湖である大沼・小沼を中心にその周囲に最高峰黒檜山 駒が岳 地蔵岳などの外輪山をもつ山塊の総称が赤城山。スケールが大きい割に火口湖大沼までハイウェイが通じているので1,2時間で頂上に立つ事ができる。

上州名物「空っ風」の吹き降ろし口にある山。そばを通るたびに一度は行こうと思いながらその手軽さからまだ行けなかった山である。



赤城駅休日に良く使う東武線にも「特急赤城」がある。通常どおり、上野から JR で前橋へ行くのは癪。北千住から東武特急「赤城」に乗って行こうと考えたのが間違い。

まあ 電車にも全く赤城山の広告もハイキングのポスターもなくおかしいとは思ったのですが、東武特急「赤城」の終着駅「赤城」は桐生を出た何

もない駅で確かに背後には赤城山が聳えているのですが、全く入山の為の駅ではなし。

赤城山の麓の平野部を桐生から前橋まで結ぶ両毛電鉄の乗り継ぎ駅。結局 この両毛電鉄で前橋まで行って赤城山に向った。約 2 時間のロス。前橋からタクシーを交渉して赤城山の登山口大沼 赤城山ビジターセンターへ向った。



東武特急「赤城」と両毛電鉄電車「赤城」駅で



氷結した「大沼」越しの赤城山最高峰 黒檜山



登山口 赤城山ビジターセンタ

桜が満開の前橋から一直線に赤城山地蔵岳の麓を山へ上って行く。非常に広い高原の裾野である。うららかな春の陽気。今日はハイキングの気分であったが、車が登って行って峠を越えると景色は一変。山々には残雪 樹木は冬のまま まだ春遠しの感じ、樹木の間から大沼が見え出したが、完全に凍結したままである。ハイウエーには雪がないが、ここはまだ冬。

谷川岳 上越国境は豪雪地帯とおもっていたが、その南の赤城山も春とはいえ 雪の中 大沼の黒檜山登山口から頂上まで。久しぶりにずっと雪に被われた登山となった。

黒檜山 大沼登山口から急登 赤城山稜線へ



雪の登山道



黒檜山 登山口で

予想外の残雪と帰りのバス時間に合わせ、黒檜山へ直接登り、その上で黒檜山から駒ヶ岳への縦走を考えることにし、黒檜山登山口からスタートした。

山の北斜面となる登山道は道・踏み跡はしっかりしているものの完全に残雪に覆われている。何年振りの雪道登山だろうか・・・暖かい春の風を受けながら雪を踏みしめて行く。さすがに 人影なし。

樹林の中、30分ほど登った広い斜面で上から降りてくるペアーに出会う。「道は確りしているが、ずっと雪道。頂上・稜線も残雪に覆われている。登りより下りが大変・・・」と聞く。

軽いハイキング気分でやって来たが、やっぱり4月上旬 豪雪地帯の上州はまだ冬山。無理せずゆっくり登る。

まだ芽吹いたばかりで葉のない樹木と一面を被う雪、振り返ると樹木の中に凍結した大沼が見える。雪の踏み跡を一步一步登るが、時としてボソッとひざまで雪の中にめり込む。

黒檜山登山道から 振り返ると眼下に凍結した大沼が見える

尾根筋にとっついた所で凍結した大沼を前に赤城山外輪山の全景が樹木の間から見える。

大きな沼が全面凍結しているのを見るのは初めてである。



凍結した大沼と赤城山 外輪山

黒檜山の尾根筋の登山道で 2001.4.2.

尾根はがらがらした起伏の多い細い尾根がつづいているが、やっぱりここも残雪に覆われている。滑らぬよう一步一步石に足を置く。静かな山道 時間は気になるが快適。

下を見るきれいなゴツゴツした黒檜山の尾根が崖となって下へ切れ落ちている向こうに切り立った稜線の下から中岳・駒ヶ岳の広い裾野が美しい曲線を描いて大沼まで続いている。また 尾根筋を見上げると黒檜山の頂上が樹木の間から見え出した。



黒檜山の尾根筋の登山道で

赤城山縦走路から黒檜山へ



赤城山頂上とその近傍 縦走路



下から歩き出して2時間足らずで 残雪の赤城山最高峰に到着。
空は晴れているけれども春霞。残念ながら 四方の山の遠望はきかず。
雪で覆われた稜線を歩き、静かな雪の頂上に立つ事ができた。



関東平野の春とその北の端 上州空っ風の吹き出し口赤城山はまだ冬の装い そのコントラストにもびっくり。まあ六甲山程度にかんがえていたが、やっぱり上越・豪雪地帯の山。認識あまし。
そのおかげで 春の陽気で桜満開の前橋にまでその広大な裾野をひろげる優美な赤城山と冬の装いの中 静かな残雪の山をゆっくり堪能できた。 帰りはバスの時間との競争になり、縦走をあきらめ、もと来た道を引き返す。

もうハイキングコースで俗化した山と思っていましたが、シーズンを外すと静かな山。
残念ながら富士山まで遠望できる四方の山々を遠望することはできなかったが、氷結した大沼を中心にそこからそれぞれが特徴ある形を作り立ちあがる外輪の山々。また それらが一つの大きな赤城山として、山塊をなし、雄大な裾野を引く堂々とした風格。平野部から見る山とその中心部に入り登った山の違いこのコントラストのおもしろさ。

今はその中心である黒檜山から中心にある大沼とそれぞれ形の違う外輪の山々を見下ろしているが、逆に谷川岳や日光・尾瀬の山々や関東平野から見る赤城山の姿にもおそらく違った発見があるに違いない。そのコントラストが面白い。やっぱり深田久弥が日本 100 名山に選んだ山。

春 山歩きのスタートに選んだ山 good でした。

7.2. 墨田堤・隅田川 夜 桜 2001.4.7. 夜



2001. 4. 7. 土曜日 東京は桜が満開。

上州 赤城山はまだ冬。雪の中を歩いてきた帰り、思い立って浅草 隅田川の土手へ夜桜見物に出かけた。以前 昼間に竹芝桟橋から浅草まで船で隅田川を遡り、川から桜を見物した事有り。今日は夜桜船に乗り、船から土手の桜見物。

浅草側の墨田堤も反対側の向島の桜も満開。提灯のぶら下がった土手に多くの人が見える。

川も夜桜見物の船で一杯。夜桜もさることながら川から見る。



街の景色も本当に美しい。久しぶりに夜の街に見取れる。土手の桜は暗くて良く見えないが、真っ暗な川に映える行き交う船の明かりと街のネオンとそして土手の桜と。人ごみの喧騒を忘れての1時間夜桜見物。

浅草からの夜桜船から 隅田川

土手

船を下りて墨田堤を歩くが人ごみの中桜の下で酒を酌み交わす人で一杯。うらやましくもあり、まあ大変と...。人ごみの中にぼつんといるとわびしいもの。桜見物切り上げ、街の店に飛び込む。一人遊びの1満ち足りた一日とわびしさの中 飲むビールはやっぱりうまい。

7.3. 柏 春真っ盛り 柏 あけぼの山 チューリップ満開



柏 あけぼの山 チューリップ園にて 背後は利根川の土手 2001.4.15.

4月15日晴天 イースター

柏の教会へ出かけイースターを祝うと共に今病氣と闘っている友に「ガンバレ」と祈る。

『チューリップ』トルコから中央アジアが原産地と言われ、イスラエルの野生種が原産との説もあり、聖地に咲く春の花の一つである。教会での祝会の後、ふっと思い立ってチューリップを見にバイクを走らした。

『風車を背景に満開に咲き誇る佐倉印旛沼湖畔・柏あけぼの山のチューリップ』。
幾度かポスターで見た千葉のチューリップ。

佐倉市 印旛沼チューリップ園

印旛沼湖畔のチューリップ園。期待した通りチューリップは満開。

風車をバックにイメージ通り。でも ちょっとちがう。都会では仕方がないので、人が多いのと湖畔を吹き抜ける風が巻き上げる砂埃でチューリップの花が心なしかすすけて見える。一面に咲き誇るチューリップからの匂いもあまりなし。でも 東京では有名税で仕方がないのか・・・原色のあざやかな色に満足しつつも少し残念。



佐倉市 印旛沼湖畔 チューリップ園

柏のあけぼの山のチューリップ園へ。佐倉ほど有名でなし 夕方でも人も少なくなるのでゆっくり見られるとの期待・・・・・・・・。柏あけぼの山にまわる事にした。



チューリップ園 file 2001.4.15.

柏 あけぼの山 農業公園 チューリップ

印旛沼河畔



佐倉のチューリップ園より規模も大きいのにビックリ。夕暮れ迫り、人も少なし。利根川の土手とあけぼの山の丘にはさまれた田圃に色とりどりのチューリップが満開。正解でした。

満開のチューリップを前に曙山の向こうで茜色に染まる西の空。また反対側は利根川の土手をバックにチューリップと風車。

夕方だったのでよけいにそのように思えたのか花もあざやか利根川の川風に乗って チューリップの甘い匂いも・・・・・・・・



柏 あけぼの山 チューリップ園 file



3年前に行った富山県砺波のチューリップ園はその種類の多さと広さに圧倒され、また、チューリップの歴史やヨーロッパとの関わりおも勉強しました。チューリップの原産地がイスラエルなのもここで知りました。

昨年のはイースターは米子・日吉津のチューリップ畑へ。

日野川土手下に広大に広がる花栽培の畑。

大山を背に幾重にも並ぶ長い畝植えられたシンプルなチューリップも見事でした。孫誕生と重なってほんとうに嬉しい春でした。

今年は関東でのイースター。一人見るチューリップ

イエス復活の時 少し早いかもしれないが、イスラエルの山々には色あざやかなチューリップがさいていたも・・・

チューリップ園の真中に立ち、暮れ行く夕日を楽しみました。

春真っ盛りを体で感じ また エンジニアとして第一線に立っていた友の闘病の報を受け、1日ずっと頭にあった「病氣と戦う友への祈り」とちょっと感傷的な1日でした。



2001.4.15. イースター 柏にて M.Nakanishi

7. 花の4月 関東で country walk 2001.5.

7.1. 残雪の上州 赤城山赤城山の最高峰 黒檜山 ミニ登山

7.2. 墨田堤・隅田川 夜 桜 2001.4.7

7.3. 柏 春真っ盛り 柏 あげぼの山 チューリップ 満開

【完】



8.

福井県一乗谷 朝倉氏遺跡

2001.11.18.

田圃の中からよみがえった戦国の小京都



福井市一乗谷 朝倉氏城下町遺跡 復元城下町（町屋・武家屋敷）

11月17日 会社の旅行で加賀山城温泉へ。

翌18日 帰阪の途中 福井県の一乗谷 戦国大名朝倉氏の城下町遺跡をおとずれた。

福井市の南東約10kmに位置する一乗谷は、戦国時代の文明3年（1471）朝倉孝景が坂井郡黒丸からこの地に移り築城し、天正元年（1573）織田信長に滅ぼされるまで小京都と称されたほど賑わい、朝倉氏5代が103年間にわたって越前の国を支配する拠点としたところです。

一乗谷はもっと深い山の中と聞いていましたが、北陸自動車道福井インターから南へ足羽川沿いに大野の方へ約15分。山間に差し掛かるところで左から一乗谷川が流れ込む狭い谷。これが一乗谷。越美北線一乗谷駅が本流への谷の入口にある。この狭い谷の真中に一乗谷川が流れ、山にはさまれた川の両側の狭い台地の両側に戦国時代 朝倉氏が作った城下町がそっくりそのまま田圃の中に眠っていた。

昭和42年より、朝倉義景館跡をはじめとして、武家屋敷、寺院、町屋、庭園など戦国時代の町並みがほぼ完全な姿で発掘され、国の特別史跡・特別名勝に指定されています。



一乗谷遺跡 発掘跡



戦国大名朝倉氏の城下町 復元住居群

また、全国でも唯一の発掘された戦国城下町であり、学術的にも貴重な遺跡です。近発掘調査が進み川の片側に広がる武家屋敷や町屋の家並みが復元されている。

また 対岸には紅葉に彩られた山裾から山麓に広がる朝倉氏の館跡や朝倉庭園が広がり、その背後の山の上には朝倉氏の山城の跡が残っている。

義景館跡のシンボルである唐門をくぐると、往時の主殿であった常御殿跡には 基礎石が整然と並び、当時の栄華の跡が偲ばれます。

また、義景館跡庭園、湯殿跡庭園、諏訪館跡庭園、南陽寺跡庭園を総称して 一乗谷朝倉氏庭園といい、平成3年に国の特別名勝に指定されている。



一乗谷朝倉氏庭園と背後城山

一乗谷川の対岸にひろがる朝倉氏の館跡



義景館跡入口 唐門



義景館跡全景

狭い谷間の川沿いに人家は所々にあるものの静かな田圃の中にそっくりと城下町が埋まっていた。今も静かな山郷である。

戦国大名として隆盛をほこった朝倉氏が福井の平野部から移り住み作った城下町。そして戦国の戦いの中 織田信長に滅ぼされ、町自体が歴史から消え去ってしまった「一乗谷」。

越前の地は古代から開けた地。

九頭竜川の川沿いからは少し西側ではあるが、九頭竜川流域のごとく「鉄」の集散地であったと所に築城されたのではと想像していたのですが、そんな歴史はなさそう。

人工的にきっちり町並みが作られ、朝倉氏の滅亡と共にそっくり消えてしまった為、家並みがそっくりそのまま地下に眠っていたという。

戦国時代の武家屋敷・町屋 想像していたよりも小さく、屋敷というほどでない。戦乱の世 それほど裕福とは思えず。

戦いの歴史が刻まれたとはとても思えない。

イメージ的には織田信長に滅ぼされた悲劇の街並なんですが、本当に静かな明るい山里

戦いは一瞬 時代の流れは穏やかに ゆっくりと

『自分の気持ちもそんな感じで居りたいなあ・・・』

9.

京都 春 京大界限 スライド

百万遍ー北白川ー銀閣寺ー大文字山ー鹿ヶ谷ー真如堂ー吉田山ー京大本部



- 【1】 百万遍 北白川界限 銀閣寺界
- 【2】 大文字山 ハイク
- 【3】 鹿ヶ谷 真如堂 吉田山 京大本部

kyodai0.htm 2002.3.24. by M.Nakanishi

3. 24. 久しぶりに京都に帰り、大文字山へ登る予定で下鴨から百万遍にでて京大界限を歩きました。大学のまわり 銀閣寺北山通も随分変わりましたが、ここ何十年ゆっくり歩いた事無し。今日は暇な1日。ゆっくり北白川界限から銀閣寺・大文字山に登って鹿ヶ谷から真如堂 吉田山へ。東京ではもう 桜が満開でしたが、京都はまだこれから・・・・・・・・

ぶらぶら デジタル カメラ
片手に歩きました。
次から次へと色んな事を思い出して ついつい あちこち歩きました

三田さんのモナコは百万遍の角に進々堂も昔のまま。でも今出川通東大路も随分かわりました。



北白川街道の入口のお地藏さんは昔のまま。私の古い下宿はマンションに。お地藏さん

農学部グラウンドの横から銀閣寺への疎水は桜がきれいにさいっていました。牧先生と夏よく行った銀閣寺の白玉氷の蕎麦屋 今は有名になって健在。

銀閣寺への通りの賑わい横に一筋入った下宿の通りは昔ながらでもきれいになりました。

北白川の八幡さんの横から大文字へ。



銀閣寺界限

随分登る人が多くなって 比叡平・三井寺や蹴上へ縦走する人が多くなったという。やっぱり高年齢層が多い。

大文字の火床のところまで 30分強。昔夜 ここで寒さに震えながら酒呑んだっけ・・・・・・・・

火床から雑木林の中を大文字山頂上から滋賀県越・比叡山・東山連峰やへ抜ける縦走路を歩く。

東山 花山天文台が見え出すあたりで引き返し、俊寛の鹿ヶ谷におりにすることにする。



大文字河床から 神楽岡・京大



疎水沿いの哲学の小道

鹿ヶ谷から哲学の小道・浄土寺界限 本当にな有名になってすっかり変わりました。

でも 神楽ヶ岡に上がって真如堂に入ると人影無し。随分きれいになった印象あるが静けさは昔のまま。たしか ここに誰か下宿していました。



吉田山「紅 燃ゆる」の碑

吉田山は自分の抱いていたイメージと随分変わりました。

岡の中央の林の中に「紅燃ゆる」の歌碑あり。昔はもっと木が少なかった印象があるのですが、今は雑木林の中。

静かな散歩道神社から京大の構内へ。時計台の周りは工事中。構内も高層化が進んでいます。でも コンクリートの打ちっぱなしではないやわらかい建物多し。土木の本館とその前のさくら 昔のままに満開の花をつけていました。



東一条京大前と構内 2002.3.24.



ざっと 3時間ほど どっぷりと京大界限 昔の道をたどって最後に 進々堂に入って コーヒー飲んで帰りました。

行けなかったのが、東山三条の「一沢帆布店」。昔 ザックやら揃えた店ですが、今は帆布の袋などが受けて若い人の憧れの的という。

ぶらぶらと一人歩くと いろんなことがイメージされて 懐かしい限り。感傷にばかり浸ってはいけないのですが、行く

所がというのは goo. 初めて訪ねる街もいいですが、ついぞ 忘れていた街次から次へとこれほど多くの事が思い出されるとは思っても見ませんでした。

京大界限 アルバム【1】



百万遍から 北白川・銀閣寺へ



京大界限 アルバム【2】





京大界限【3】アルバム

鹿ヶ谷から真如堂へ



吉田山から東一条京大本部へ



門前に「卯の花」を訪ねる



神戸 桜の須磨寺 2002.3.30. .

- 10. 1. 小学唱歌「青葉の笛」歌碑 & 平 敦盛 と 青葉の笛
- 10. 2. 須磨寺 門 前 と 須磨寺名物「卯の花」
- 10. 3. 桜の須磨寺界限 探訪アルバム



「神明道路に沿って須磨寺の駐車場があり、そこを降りればそのまま須磨寺の境内・門前へ楽に行けると家内が聞いてきた。

「雑誌アエラに門前の「しらはますし」の太巻き「花巻」寿司が名物として載ってるよ。卯の花はなくなったのかいな・・・」地震と共にすっかり忘れていたこの須磨寺界限。付近は時々通るのだがほとんど足を踏み入れた事のない街。

阪神間を東西に長く伸びた六甲山の峯々が西の端で海岸に落ちるところ 明石海峡を眼前に須磨の地がある。私の自宅のある須磨・垂水の丘陵地を南の須磨海岸へ約 4km ほど降りて行ったところの丘陵地南端に須磨離宮 源平の戦いの一の谷 須磨寺等の旧蹟が須磨の海を眼前に並んでいる。

神戸市で一番海と山とが狭まったところで、海側から山側へ JR 山陽本線・国道 2 号線・山陽電車・阪神高速道路がこの狭いところにひしめいて通り抜ける。

阪神・淡路大震災では極めて大きな被災を受けたところである。大震災の約一週間後 夜 西から帰ってきて真っ暗な JR 須磨駅に降り、瓦礫となって並ぶ須磨寺の門前を呆然と本当に暗い気持ちで「頑張れよ 頑張れよ」と念じながら通り抜け、自宅へ登っていった道である。

須磨寺といえば名物「卯の花」

須磨から月見山界限では名物として広く知られたお鮓。しめ鯖をのせた鮓の上にまっ黄色に炒った「お

から・卯の花」をまいた握り鮓。 この「卯の花」を名物にしていた月見山のお店が店を閉め、その後の地震でトンと忘れていたお鮓。 思い出したように「須磨寺の界限へ行けばあるそう。一度食べたいなあ・・・」とよく話題に・・・。

そう 言えば 須磨寺の境内にあるあの源平の庭や「青葉の笛」敦盛塚もどかのようになっているだろう。そして一弦の琴も。



五重塔 2002.3.30

月見山の須磨離宮の前を右に曲がり第二神明道路を1000mばかり進みトンネルをくぐった所の山裾に接して須磨寺の駐車場。下には新緑の山に映えて須磨寺の五重塔や境内が満開の桜の中に埋もれ、その向こうに須磨寺の街そして須磨の海が照り輝いている。駐車場のエレベーターで下りると須磨寺の一番奥の境内。

阪神間の小学校では必ず一度は遠足で行った事のある「須磨浦公園・須磨寺」そして習った「源平一の谷の戦い」唱歌「青葉の笛」。

須磨に住んで何度か出掛けましたが、ここ十数年境内には行ったこと無し。

3月30日(土)「須磨寺の桜」も今日あたりは満開に違いないと暖かい日差しの土曜日の昼 家内と二人 食い気半分で須磨寺へ出掛けました。



須磨寺境内の桜 2002.3.30.

広がる墓場を抜けると五重塔と本堂のある広場。境内は桜が建物や木々の緑に映えて美しい。通常は南側からまっすぐに山に向って多くの店が並ぶ門前街を抜け、山門を境内に入り、さらに進んで石段を登ると本堂・五重塔のある広場に出る。

随分人も多く境内もよく整備されて変わったとの印象。お大師さんの日以外はどちらかというと静まり返り、山懐の木々の中にある須磨寺と思っていましたが新しい建物が建ち、宝物館も一般公開され随分オープンな寺に変わったと思います。



須磨寺の山門の桜 2002.3.30.

10.1. 小学唱歌「青葉の笛」歌碑 & 平敦盛と青葉の笛

「一の谷のいくさ破れ うたれし平家の公達あわれ
暁寒き須磨の嵐に 聞こえしは これか青葉の笛」



小学唱歌「青葉の笛」歌碑 須磨寺境内

須磨は寺かつての源平の古戦場「一の谷」のすぐ近くに位置しており、一の谷の戦いで敗れた平家の若武者 敦盛を歌った小唄唱歌「青葉の笛」の歌碑があり、宝物殿では「青葉の笛」が公開展示されている。

五重塔の上の墓場から本堂のある広場へ降りてくる墓場の出口に敦盛の首塚があり、さらに本堂に出る広場の端に「青葉の笛」の歌碑がある。 静かな境内の中に「青葉の笛」のメロディが流れ、中年のおばさんが群がって、メロディにあわせて歌っている。一人が歌にあわせて歌碑の横にある台のボタンを押すとメロディーが流れる。やっぱり 昔の世代 自然とこの歌が出てくるようだ。

どことなく物悲しい静かな歌であるがしっとりと落ち着きが自然と口について出てくる。

平 敦盛 と 青葉の笛 「平家物語」より



須磨寺境内 源平の庭

源平の合戦も終わりに近づいた寿永（じゅえい）3年（1184年）2月、軍勢をたてなおした平家一門は、一の谷（現在の神戸市須磨区）に陣をはりました。前は海、後ろは切り立った崖という、難攻不落に見えた平家の陣でしたが、源義経や弁慶らの思い切った奇襲によって、

あっという間に崩れ去ってしまいました。

海上の軍船に向かって逃げる平家を追って荒武者熊谷直実が海辺までくると、逃げおくれた平家の大将らしい騎馬武者が、味方の船に追いつこうと海に馬を乗り入れておりました。

直実は「やあやあ、そこ行くは平氏のおん大将とみうけたり、敵に後ろをみせるはひきょうなり。返せ返せ。」と右手に高く鉄扇をかかげて、大声で呼ばわりました。

すると、その武者、馬首をめぐらせ戻ってきます。

浜辺に上がると、太刀で二、三切り結びましたが面倒なりと、直実が組ついて馬から落とし、組しいて、短刀を抜き首にあてようとして、よく顔を見ると、16、7の美しい少年です。

直実は、こんな少年の首をうったとて手柄にならん。こんなことなら呼びもどすでなかったと後悔して、助けてやろうと思って手をゆるめかけているところへ、源氏の騎馬武者がやってきて、「やあやあ直実、おくしたか。」とよばわりました。

しかたなく直実は、心を鬼にして、この若者の首を落としました。

この若者が平敦盛で、よろいの箆（えびら）に青葉の笛をさしていました。

昨夜、平氏の陣中から聞こえてきた笛の音は、この若者が吹いたのかと思うと、直実の心の中には悲しみがいっそうつよくなるのでした。



今 須磨寺宝物館では この「青葉の笛」が公開されている。

また、境内には敦盛供養塔〔首を葬ったという敦盛首塚〕があり、須磨浦公園には胴体を葬ったという敦盛塚がある。

10. 2. 須磨寺 門 前 & 須磨寺名物「卯の花」



山陽電鉄「須磨寺駅」から須磨寺山門まで、両側にぎっしりと軒先を並べた商店街が続いている。昔は古い商店街であったが、地震後再建されたきれいな商店街になっている。

途中 「大本山 須磨寺」の碑のところは五差路のロータリーになっていて、其の角でそのまま真っすぐ須磨寺へ進む参道と須磨離宮へ登って行く道とに分かれる。このロータリー狭かったのに随分広くなった。この角に「須磨冷泉」といって地元の人達が守ってきたうまい湧き水が出ている。

地震でここも無茶苦茶になったところであるが、きっちり整備され、湧き水が管理されているのに安心。また この角にやはり名物「卵の花」を売り物にした鮎屋があったのですが、移ってしまっていた。



山陽電車 須磨寺駅からの参道 五差路から須磨寺への参道
須磨寺 門前町 界限

須磨寺 山門前

この須磨寺への表参道をなす山陽電鉄須磨駅からの商店街は昔から「お大師さん」の日には人でごった返す。随分明るくなって 案内板や休憩所そして今風の土産物屋も増えてお大師さんのお参りばかりでなく観光客を意識した明るい門前に変身している。

今日は「お大師さん」ではないが、多くの観光客が三々五々両側に並ぶ店を覗きながら桜の須磨寺への道を楽しんでいる。



お鮎屋はないかとぶらぶら探すとありました。「須磨寺名物『卵の花』あります」の札と共に。



また、最近「アエラ」で見た「花巻寿司」の「しらはますし」も。こっちの方は私はよく知りませんでしたが、巻き寿司の具を一度卵で巻いてさらに巻き寿司にした太巻き寿司。最近「卵の花」よりこっちの方が有名とか 聞きました。でも やっぱ須磨では「卵の花」

須磨寺 名物 「卵の花」と 「花巻」



「卵の花」しめ鯖の握りにおからを散らした鮎



花 巻 穴子などの具を卵で巻いた巻寿司

「卯の花」と「花巻」の両方を買って求め、家に帰って早速二人で「うまい うまい」と舌つつみ。
「卯の花」は おから・卯の花がさばの上から軽く撒かれているだけなのですが、さばの握りやさば寿司・バッテラ とは違う美味しい味。 もともと二人とも寿司が好きなのですが、神戸・須磨に住んで初めて知った味。

久しぶりの味に満足。「しらはまずし」の「花巻」も goo

長い事通らなかった街ですが、本当に大きく変身。 神戸須磨でもお奨めのスポットです。

今度誰か来たら、この須磨寺から須磨寺界隈を案内して「卯の花と花巻寿司」で食事。これに決めました。

2002.3.30. 須磨寺名物「卯の花」に舌つつみをうちながら



源平の昔の「青葉の笛」と門前に「卯の花」を訪ねる

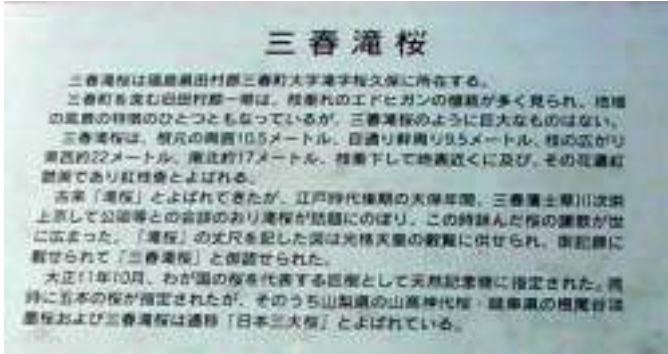
神戸 桜の須磨寺

【完】

福島県三春の『滝桜』



福島県 郡山から 会津磐梯山
2002.4.6. by M.Nakanishi



天然記念物『滝桜』 福島県 三春町 2002.4.6.

例年より早く 猛スピードで桜が開花。桜の名所は沢山あるが、『一本の桜が華やかに大きく手を拡咲き誇っている姿』今年は是非 この桜の大木が大きく大地に根を張り、いまが盛りに咲いている姿を見に行こう。

福島県 三春町の天然記念物『滝桜』どんな雑誌にも名木として名高い桜。
インターネットで調べると今 3分この週末には5分から7分へ・・・・・・・・。
この週末 土曜日快晴 夕方から雨との予報。 逃すと今年も行けない。

4月6日快晴 朝早く 東北新幹線に飛び乗った。福島県郡山に近づくと磐梯山がべったりと雪をつけて見える。郡山からローカル電車で約20分で山間の街『三春』。電車の窓から枝垂れ桜があちこちに見える。さすがに三春駅に降りる人が多い。駅前からの臨時バスにも多くの人が並んでいる。
駅からバスで三春の街中をぬけて 約15分 山間に入り 三春ダム湖の周回道路を回りこんで『滝桜』のある公園の駐車場へ



会津 磐梯山



梅と桜がイッセイに咲く三春ダム



丘の上から 滝桜

『滝桜』のある三春ダム公園の丘から 2002.4.26.

駐車場からよく整備された公園の丘を上へ登って行く。梅が満開 振り返るとダム湖が見える。丘を登りきった所から下を見ると大きな桜の老木が手一杯広げて満開の花をつけている。その桜を囲むように

栈敷になった公園があり、多くの人が座り込んで桜を見とれている。

丘の上の反対側には磐梯山が郡山の街の向こうにどっしりとした姿を横たえている。

下の栈敷まで降りて あっけに取られて 桜の大木をじっと見る。

周りをみても みんな座り込んであっけに取られてみている。天然記念物『三春の滝桜』である。

そのボリュームに圧倒される。木の胴回り約 10m 東西南北に広げた枝の広さ 直径約 20m 満開の花を枝垂れた枝につけている。

周りが山でさえぎるものは何も無し。山の斜面をバックに 堂々と手を広げ花を咲かしているのが実に良い。



福島県 三春町 天然記念物 『滝桜』 2002.4.6.



座り込んで「滝桜」を見あげる人達

小1時間ばかりこの『滝桜』の周りで桜をながめて帰りました。誰に話すでもなかったですが、ちょっと興奮気味。桜の名所は沢山ありますが、一本の桜の木の周りに座って その大きさというか 老木の風格に圧倒されながら あっけに取られて見た桜は初めて。本当に一度は見る価値があります。この感動は写真では味わえないと思います。

郡山へでて、そのまま磐越西線に乗って猪苗代へ 夕方 雪の裏磐梯 五色沼を探索。秋 真っ赤な紅葉と小雨に煙る五色沼に家内とふたり震えながらめぐった三十数年前を思い出しながら夕闇せまる白銀の中にある五色沼を歩いて帰りました。

雪道を踏みしめて林の中に分け入ると 次々現れる五色沼の神秘的な沼の色は健在。
人っ子一人いない静けさの中の沼めぐり。白銀の磐梯山が夕闇の中薄っすらと赤く染まってこれもまた
印象的。今度は是非 磐梯に登って帰ろうと思っている。

磐梯の堂々とした姿 五色沼の神秘的な色にも見ほれましたが 今回は何といっても滝桜。
滝桜のボリュームに圧倒されました。
桜の木一本が全国の人達を引き付ける その魅力が判る桜でした。
昨年も同じ時期 前橋の桜と雪の赤城山と両方見たこと思い出しながら

002.4.6. 夕 夕闇の磐梯を車窓から眺めながら

後日談になりますが、僕が熱っぽくこの桜のことを語ったせいでしょうか
仲間が色々教えてくれました。
桜の思い出 みんな 色々な話があるのですね。
私も先輩のメールに昔をなつかしく思い出していました。

ール



1. 私の会社の仲間から

この『滝桜』の見事さと同時に何故『三春』と言うのか 知っているか・・・と
『梅・桜・桃』の三つが同時に咲く場所だから『三春』というのだそうです。
そういえば 『滝桜』へ登るダム湖のまわりには 桜と梅が満開。桃も花をつけていたよ
うな気がする。。。

2. 家内の友人

三春の『滝桜』は 桜を愛でる仲間では 親しみをこめて『お滝さん』で 全国どこでも
通ると。。。

3. 一緒に会社で厚板の仕事をした先輩N氏からのメール

なつかしい景色を見て思い出しました。三春の滝サクラで東北地方建設局の三春ダムで委
員会を開いた時のことです。このダムではステンレスクラッド鋼が理想的に使われていま
す。チタンの建材も取り入れたモダンなダムです。

開発に没頭し、そういえば 水門やダムゲート用としてPRしていた事がありました。。。。。
PRの時期がサクラの散り際でした。ダムに近接して東北地方の曲がり屋などの公園があり
ます。暇にまかせて近所の公園で早い春を満喫しています。今日は若葉寒でこれから連れ
合いの誕生日ですので記念の植木を求めにゆくところです。。。。。と。

私にとってもなつかしいペンストックの厚板そしてステンレスやチタンクラッド鋼板。

12.

福島県 裏磐梯 2002.4.6.

残雪の五色沼 アルバム

bandai.htm by M.Nakanishi



4.6. 福島県三春町の『滝桜』を見物した午後 郡山から、そのまま磐越西線に乗って猪苗代へ。夕方 雪の裏磐梯 五色沼を探索。

車窓から眺める磐梯山には まだべったりと雪がついて美しい。猪苗代湖越しに磐梯山を見た風景が良く写真にあるが、見たこと 無し。今回やっと見れました。

猪苗代駅から裏磐梯・五色沼へのバスに乗る。午後三時を過ぎ案内所の人にも雪があり、物好きなど笑われたが、裏磐梯で泊まるもよし、帰るもよしで出掛けた。 バスは結局ひとりだけ。

裏磐梯への道路はすっかり除雪されているが、まだ回りは残雪が多く冬景色。明日の天気予報は雨。残雪の五色沼を歩いてまたそのまま郡山に帰ることにする。

三十数年前の晩秋 真っ赤な紅葉と小雨に煙る五色沼を家内とふたり震えながらめぐったのを思い出しながら夕闇せまる白銀の中五色沼を散策。雪道を踏みしめて林の中に分け入ると 次々現れる五色沼の神秘的な沼の色は健在。

人っ子一人いない静けさの中の沼めぐり。白銀の磐梯山が夕闇の中薄っすらと赤く染まってこれもまた印象的。

今度は是非 磐梯に登って帰ろうと思っている。

残雪の裏磐梯 五色沼 アルバム 2002.4.6.



会津磐梯山 猪苗代側から



磐越西線猪苗代駅



毘沙門沼



赤沼



弁天沼



弁天沼から磐梯山





草津温泉の町並みと背後に白銀の姿を見せる草津白根連峰 2002.4.14.

kusatsu0.htm 2002.4.13. by M.Nakanishi

「 一度いきたかった草津温泉 風来坊 」

1. 草津よいとこ 一度はおいで・草津温泉「湯畑」と泉源の露天風呂
2. 残雪の草津白根山と草津白根 殺生河原からの展望
3. 日本ロマンチック街道を草津から奥日光へ 日本のナイアガラ「吹割りの滝」
4. 芽吹き of 渡良瀬渓谷 「富弘美術館」



草津白根山



草津温泉



吹割りの滝

花の4月 春が猛スピードで走っている。春物への衣替と掃除のために家内が柏へ来てくれている。

「前から一度行こうと言っていた草津温泉へ

今年は春が早いので あわよくば草津白根に登って沼田街道を金精峠へ」の風来坊プラン

柏でレンタカー借りる智恵もついたら、家内は「草津温泉へ行こう」で goo.

二人とも関東はどこも知らないの、どこへ行っても珍しい。

「食い気と花と山が見えればそれで ok 」の風来坊である。

4.13. 柏から関越自動車を通して伊香保 IC へ。 ちょっと寄り道して榛名山を越えて長野原へ そこから草津への道をたどりました。草津温泉の入口では思いもかけず、「ザゼンソウ」の群落に出会いました。

「草津温泉よいとこ 一度はおいで」ではないが やっぱすごい いく価値あり。

街の中心の湯畑 そして 泉質の異なる河原の湯・大滝の湯の二つの露天風呂。そして頭の上には白銀の草津白根連峰 1日ふらふら歩いていても退屈しない温泉街である。関西では有馬・城崎に近い古い温泉街の家並 湯畑は湯村温泉の泉源か でもスケールは文句なく草津。

そして なんと行っても白根の山並がどこからでも見えるのがいい。

草津白根山 雪で登れなかったのですが、その堂々とした姿と共に上越・奥日光・上信の山々が回りに浮かび、山の良さも味わうことができました。 白根とは反対側に浅間もくっきりと浮かんでいました。



翌日 信州側に出るよりも、山を眺めながら のんびりと沼田街道に出て奥日光への道をたどり 一度見たかった「吹割の滝」そして足尾渡良瀬溪谷の「富弘美術館」へ戻るコースを帰りました。 行きたかった日本のナイアガラ「吹割の滝」 芽吹きの新緑が素晴らしかった渡良瀬溪谷 そして 「富弘美術館」の母への思いを綴った詩にも心をうたれました。

本当に沢山のいつものながらの風来坊 車あればこそですが、時間に追われない気ままな山里の旅 リフレッシュ リフレッシュ です。

2002.4.14.夜 家内と二人して

地図を前に風来坊をふりかえりながら

草津温泉・草津白根山と日本ロマンチック街道を吹割の滝・渡良瀬溪谷へ 2002. 4. 13.14.



草津温泉



草津温泉 湯畑



草津白根山 殺生河原



草津 ザゼンソウ公園



日本のナイアガラ 吹割の滝



若葉の足尾 渡良瀬溪谷



渡良瀬溪谷 東村 富弘美術館

13.1. 草津よいとこ 一度はおいで

- 草津温泉「湯畑」と 泉源の露天風呂 -



【1】 伊香保 IC から 水沢・伊香保・榛名山を通過して草津へ

・ 草津 ザゼンソウ公園 ・

4.13. 柏を朝でて、関越自動車道を榛名・伊香保 IC で降りて、榛名山を山越えして草津へ行く事にする。

目的は伊香保の麓水沢で昔たべた「うどん」の印象が強烈で再度そこへ行く事。もう 十数年前 茨城県波崎の研究所にいた頃 その仲間が野球の県代表となり、関東大会の決勝が伊香保のグラウンドであった。カンカン照りの6月だったと思うが 仲間と一緒に応援に来て ビールのみながらの声援。緑の中の素晴らしい球場で優勝し、その帰り みんなでビール飲みながら食べた「うどん」が「水沢うどん」。誰が知っていたのか良くわかりませんが、球場から緑の森の中少し走って・・・。



伊香保・榛名の高原は桜が満開。桜とまだ芽吹きにはちょっと早い森の中を抜けて 水沢へ水沢の街 「こんなに うどんや あったっけ・・・」と思うくらい記憶は曖昧でしたが、やっぱり美味しかった。

「なんかやろう なんかやろう」と良く飲んだ十数年前の波崎時代の思い出ですが、みんな今 どうし

ているでしょう 元気だろうか・・・

伊香保の温泉街を抜けて 榛名山・榛名湖から長野原へ下って行く。ここから先は一度も足を踏み入れた事のない谷筋。上州・吾妻 中之条・長野原 地図では良く見たところですが 温泉が連なる空白の谷筋。渋川から碓井峠を越えて軽井沢への信越線が長野新幹線に変わって鉄道がプツンと切れてしま

って・・・。

榛名山を越え JR 吾妻線沿いに狭い谷間の道を草津に向かって走る。昔からの信州へ至る街道であり、草津の湯に湯治に行く本道である。

草津への道は JR「草津口」から折れて「六合村」を越えて草津に行く道とそのまま JR の終点「長野原」へ出て、草津へ折れる道がある。

そのまま長野原へ出て 草津への道をとる。吾妻線沿いに走るあたりから雲が多くなり、雨もちらつく。



草津への登り道を少し走ったところで「草津 ザゼンソウ公園」の標識。

水芭蕉はちょっと早いかも・・・と思っていましたが、ザゼンソウの群落が思いもかけず見れました。

昨年 尾瀬ヶ原へ水芭蕉見に行った折にその木馬道の際に数株 ひょっと咲いていた「ザゼンソウ」。

林に囲まれた湿原の中に本当に

沢山花を咲かせていました。

水芭蕉が白い衣をオープンにして坊主頭を覗かせる華やかさに比し、頭を茶色の衣でまるで身を隠すかのようにひっそりと咲く「ザゼンソウ」。思いがけない湿原での静かな walk でした。

水芭蕉の華やかさに比して 林の中でひっそりと静かな思いのザゼンソウその姿も一度見たら忘れられないですよ 本当にラッキーでした。



草津 ザゼンソウ公園 スナップ 2002.4.13.



13.2. 残雪の草津白根山と草津白根殺生河原からの展望

kusatsusirane0.htm

14日朝5時 快晴 ホテルの大浴場 朝風呂へ
風呂からは夜明け前の白根連峰が朝もやの中
草津の街の家並み越しに堂々とした姿で一大パノラマを見せている
温泉につかりながらのこの景色 朝早起きの得

また、ホテルの南側には草津白根に対峙して高原の林の上に
真っ白な裾野を広げた浅間山が堂々とした姿を見せている
雪の浅間山の景色をじっくり見るのも初めて
昨日とは打って変わった快晴である

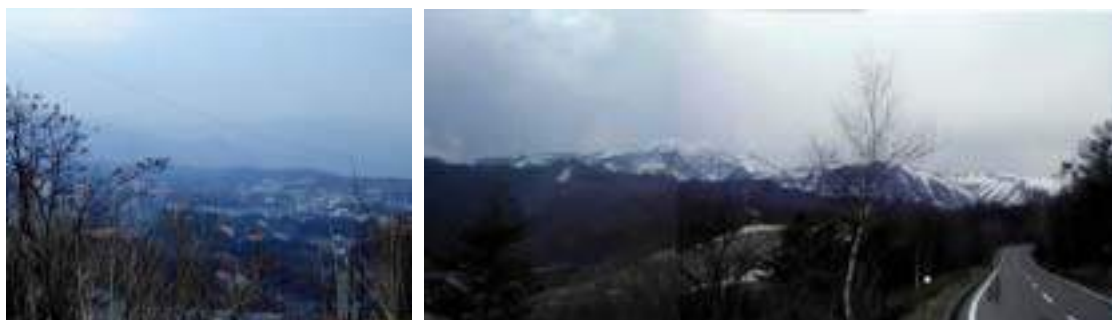
草津高原からの展望



【草津高原より 北 草津温泉街越しに草津白根連峰】
【草津高原より 南 浅間山】



草津白根 殺生河原からの展望



草津白根ドライブウェイより 草津の街 & 草津白根連峰 2002.4.14. 早朝

快晴の早朝。

夜明けの薄明かりの中 白根が全貌を見せている。 この草津白根連峰や周辺の山々を見ないで そのまま下る手はない。

家内をせきたてて 朝飯前 再度 白根のドライブウェイを殺生河原へ。

昨日の夕方とは打って変わって 快晴の天候にドライブウェイを登るにつれ、次々と周辺の山々が姿をあらわしてくる。

正面には別途雪をつけた草津白根連峰がどっしりと座り、東には 砂子山越しに苗場から谷川の上越の山々 そしてその南には武尊山から奥日光・赤城山 そして南には 榛名山・妙義山 奥秩父から上信国境の山々が、朝霞の空に浮いて素晴らしい景観である。

殺生河原からは 雄大な壁となって裾野を広げる草津白根に阻まれ 信州側の山は見えないが、それ以外はすべての方向の山々が見えている。



殺生河原からの展望 上越・奥日光・赤城 秩父・上信国境の山々

名前の特定は苦手だが、道路脇の崖の上に攀じ登って地図と合わせて周りの山の特定をはじめ。

苗場・谷川岳にもべっとりと雪がついている。 また 遠くかすんだ奥日光の空の右手に見えるのは尾瀬至仏山一番奥に頭を突き出しているのが日光白根か 南に堂々とした山塊を見せるのが赤城山 秩父の山はよく知らぬ そして 南 草津の向こうには円錐の榛名富士。 浅間は山と木々に阻まれてここからは見えない。



殺生河原で 草津白根山背景に

2002.4.14.

昨日は霧でわからなかったが、ドライブウェイの両側には殺生河原の名にふさわしく あちこちからガスがふきだし、木々のない岩のゴロゴロした原が広がっている。ドライブウェイを遮断したクロスバーを乗り越えて 少し上の方へ歩いてみる。

今日も誰一人いないご機嫌の殺生河原。 山へ登る為誰か登ってこないのか・・・

本当に白根に登りたかったのですが・・・今度はコマクサが咲く時に 是非にと未練を残しながら草

津へ戻りました。

13.3. 日本ロマンチック街道を草津から奥日光へ

- 日本のナイアガラ 「吹割の滝」 -



fukiwari0.htm 2002.4.14. by M.Nakanishi

4.14. 早朝

朝食の後 「日本ロマンチック街道」と名づけられた六合村を経て山越えの旧街道筋を沼田へ抜け、尾瀬・奥日光への沼田街道を進み 「吹割の滝」へ。

「吹割の滝」から 少し引き返して 赤城山山麓を抜けて渡良瀬溪谷を再度遡り、足尾・富弘美術館に行く事にした。車でないと中々行けない場所である。

「吹割の滝」は「日本のナイアガラ」の名前に引かれ 是非行ってみたいところ。

富弘美術館も一度いきたいと思いながら行けなかった場所。

まさに今日は風来坊である。

六合村と暮坂峠 2002.4.14.



六合村から 草津白根連峰



若山牧水 短歌の旅で越えた暮坂峠と牧水の歌碑



草津温泉から山間の道を一端もと来た街道筋に戻り、草津口から六合村へ また山の中に入る。どこもこのあたりは桜が満開。六合村の集落の上に草津白根連峰が白銀の峯々を輝かせ、白根直下の草津温泉からの景観とは違った美しさを示している。草津からそのままこの六合へ入る道もありましたが、遠回り。

六合村から野反湖へまっすぐ北へ伸びる道と別れ、東に暮坂峠へ上ってゆく道へ入る。道のあちこちに若山牧水の歌碑が建っている。

この六合から暮坂峠を中之条へ抜ける道は古くからの街道筋。平家落人の隠れ里ともいい、また今多くの芸術家が住む芸術村でもある。

この道は一度沼田の街へ出て利根川を渡りそのまま山の中にはいり、武尊山・尾瀬の山塊と赤城山・日光白根・皇海山の山塊の間を奥日光金精峠や尾瀬へと抜けて行く。この尾瀬・奥日光の山塊から沼田街道沿いに片品川が流れ下り、沼田で利根川と合流する。

沼田街道を片品溪谷 吹割の滝へ

沼田街道 白沢からの上越・赤城山 展望

2002.4.14.



赤城山



谷川連峰



武尊山

沼田を抜けて程無くはいれる白沢の集落からは 花吹雪の中 北に谷川連峰・武尊山が白銀の峯々を輝かせ、南には裾野の広い雄大な赤城山が見え、この間を縫って沼田街道が奥へ進む。ここは群馬側の尾瀬への入口大清水・鳩町峠へ また 鎌田から分かれて奥日光白根山の麓 丸沼・菅沼を経て 金精峠から中禅寺湖 日光へ抜ける第一関門。

吹割の滝

幾つかの山間の集落をぬけ、老神温泉への分岐を過ぎ 鎌田の手前に吹割の滝がある。

両側の山間の台地状のところを街道は登って行くが、この台地の北側の山裾が崖となって切れ落ちており、その下を片品溪谷を作って片品川が流れ下る。溪谷とは言え川幅の広い本流であり、流れはきついが一見平坦部を流れて滝などありそうに見えない。

流れのそばに下りて驚いたが、川に沿ってつけられた道を少し下ると雪解けの水がとうとうと流れるこの本流が突然



川の中央で縦に裂けそこへ流れが落ち込みそのまま幅の広い断崖となって下へ流れ下る。

吹割の滝

雪解けの水を集めた片品川は水量が多く 落差はさほど大きくないが その裂け目への水の流れ込みはすごい迫力。

日本のナイアガラといわれる所以である。



上流側より 吹割の滝 遠望



下流側より 吹割の滝

滝の直ぐ横まで行けるので 余計に川幅一杯に流れ落ちる水のボリュームに圧倒される。写真で少し知ってはいたものの予想もしなかった不意打ちの本流 川幅一杯の滝にビックリする。

尾瀬や日光 そして立山の滝など山間から落差の大きな高い崖にかかる滝や やや斜めの岩肌を川幅一杯に流れ下る平滑の滝とも違う全く趣きを異にする滝である。

その落差とスケールでは劣るがまさにナイアガラの滝である。

片品川はこの吹割の滝の下で一挙に川幅が狭まって約 1km を急流の片品渓谷となって 途中鱒飛の滝を経て流れ下る。

周りの山間の景色 特に紅葉の秋を考えると素晴らしい色模様となる。

13.4. 芽吹き of 渡良瀬溪谷 「富弘美術館」



tomihiro0.htm

4.14. 吹割の滝から先 奥日光への金精峠は雪でまだ通行止めで奥日光へ越えることができず。沼田の方へ少し引き返し、皇海山を左手に見ながら赤城山中一分け入り、赤城山の山腹を突ききって関東平野へ出るところ大間々へ出て、再度足尾・渡良瀬溪谷に入り、溪谷の途中東村の富弘美術館へ行く事にする。昨年丁度同じ時期に赤城山へ登ったが、北斜面のみならず、尾根筋にも大量の残雪賀在り、火口湖も完全に凍結していた。

今年は春が早いというものこの時期 群馬の山はちょっと高くなるとまだ雪がべったりである。でも赤城の外輪山の縁を南に大間々へ下って行くと赤城を南に下るにつれ、山は冬の装いから芽吹き of 春の装い to 変わって行く。

渡良瀬溪谷に入ると素晴らしい芽吹き of 春。山全体が淡い緑を呈し、今通り抜けてきた草津・片品川沿い・赤城山山麓とからは見違えるような素晴らしい芽吹き of 春。

溪谷には 足尾鉾毒・田中正造渡良瀬遊水池の暗いイメージがあり、中々足を向けられなかったところでした。

しかし、渡良瀬溪谷に入ってビックリ。時期が山の樹々が芽吹きで華やいだ美しさを呈していた性もあるのですが、本当に明るい開けた谷。

この山間の溪谷の木々を眺めながら約 30 分。

足尾の山をバックに湖のほとりに富弘美術館がありました。

本当に山の中 関東圏の一番奥 車でないと中々行けないところでしたが、美術館は中高年の人を中心に大勢のひとがつめかけ、「いやし」の美術館として愛好者が多い事がうかがえました。



芽吹きはじめた足尾渡良瀬溪谷 2002.4.14.



富弘美術館

自己で手足が不自由になった星野富弘さんが
 口に絵筆をくわえ書かれた四季折々の花の絵とそれに添えられた詩
 やさしい情感が詩と花の絵からほとばしり出て、多くの人の共感を得ているのでしょう
 美術館の中には これらの作品が数多く展示され、
 自分の知っている詩 知らない詩
 それぞれその作品にこめられた思いを味わいながらのゆったりとしたひと時でした
 特に幾つもの「お母さん」についての詩が本当に印象に残りました
 美術館の外へ出て 湖畔越しの足尾の山々を眺めていると実にさわやか



「いやし」の美術館などというのは嫌ですが、ふっと物思いに沈む時など 出掛けると良いですね
 相田みつおの「にんげんだもの」の世界とはちょっと違った意味で、決して無理をしない元気が出てき
 ますよ・・・帰って 早速 また本屋へ行って 富弘さんの「風の旅」に見入りました。

吾妻・草津から赤城・片品溪谷 そして 足尾への長野・群馬県境から群馬県を横断して栃木県足尾・
 渡良瀬溪谷までの欲張った家内と二人の「風来坊」
 行くと行く先々で 自分の知らぬ新しい世界が開けるような気がします。
 毎度のごとく 家内に「計画性のなさ」をおこられています・・・
 それも風来坊のよさ やめられぬ良さ です。久しぶりに関東のよさ 実体験。
 まもなく 自由に山へ入れる季節。 まだまだいきたい所在り。
 今年は 出羽三山に登って 奥只見の山にも 青森 秋田岩手釜石の「たたら」も訪ねたいし・・・
 マーレシア ペナンへも 息子が行っているアトランタにも・・・
 まあ 風来坊 どうなるやら・・・・・・・・・・・・・・・・
 2002.5.2. ゴールデンウィーク帰省の新幹線の中で

13. 「一度行って見たかった草津温泉 風来坊」
1. 草津よいとこ 一度はおいで
 ・草津温泉「湯畑」と泉源の露天風呂
 2. 残雪の草津白根山と草津白根 殺生河原からの展望
 3. 日本ロマンチック街道を草津から奥日光へ
 日本のナイアガラ「吹割の滝」
 4. 芽吹きを渡良瀬溪谷 「富弘美術館」

【完】



足尾 渡良瀬溪谷 春の芽吹き mountain 山々
 2002.4.14.

14.

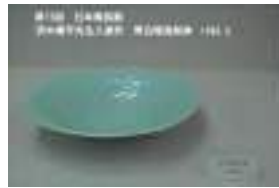
萩焼 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて

hazuki0.htm 2002.5.5. by M. Nakanishi

- 14.1. 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて
- 14.2. 「萩焼について」
萩焼 窯元 陶房 葉月 日本工芸会員 田中 講平
- 14.3. 陶房 葉月の「左馬の茶碗」と「左馬」の由来



田中講平先生 新しい「陶房葉月」正面で



田中講平先生の作品から

昨年秋 美祢市を離れ、この山口市吉敷に新しい「陶房葉月」を開き、
益々ご活躍の萩焼窯元 田中講平先生
私たちが美祢を離れ、すっかりご無沙汰していましたが、
新しい山口の「陶房葉月」を訪ね
いつも変わらぬ田中先生ご夫妻の歓待に感激



田中講平先生の新しい「陶房葉月」とその背後の竹林 2002. 5. 5.

14.1. 萩焼窯元 田中講平先生 の新しい陶房「葉月」を訪ねて

秋吉台のカルスト台地から南東の山口へ山口市の山並を走る国道 435 号線。その山口に入る手前に山口市のシンボル鳳雛山がある。

この鳳雛山を抜けて山口へ下った山裾が吉敷。瀬戸内からは小郡から国道 9 号線を北へ山口に向い湯田温泉で道を西に山へ向う国道 435 号線に入り、山にかかる所。東に広い山口市の市街地が広がる静かな山裾の集落が吉敷である。

昨年秋 美祢市を離れ、この山口市吉敷に新しい

「陶房葉月」を開き益々ご活躍の陶芸作家 萩焼窯元の田中講平先生。

私たちが美祢を離れ、すっかりご無沙汰していましたが、新しい山口の「陶房葉月」を訪ねまだ、陶房



の立ち上げにお忙しい中 いつも変わらぬ田中先生ご夫妻の歓待に感激。

陶芸の最高峰 「日本伝統工芸展」や「日本陶芸展」に昨年までもう入選も連続五回を重ねられ、新しい作陶を次々発表され、もう大陶芸作家の風格。でも いつもおおらかでわけへだてのない先生ご夫妻。先生の代表作 澄んだ青白磁の中央でそっとお互いに寄り添って流れる列状文様の大皿の美しさそのまま。

そして今度訪ねると新しい技法を取り入れた萩焼きでさらに連続入選されたとか・・・

田中講平先生の新しい「陶房葉月」

山口市吉敷



鳳翫山の山裾の竹林と森を背後に鳥たちが声をかける静かな林の中に立てられた新しい「陶房葉月」。素晴らしい場所と陶房を得て 益々新しい創作が生まれて行くことでしょう。

「裏の竹林と森に朝 鳥たちがきて 木々のにおいが素晴らしい。次はこの林の斜面に登り窯を・・・」との先生の話や既に新しい工房での陶芸教室がはじまり、多くの生徒さんが楽しく取り組んでおられる様子などを聞いたかつて陶芸教室の生徒の家内。「すぐにも参加したくて本当にうらやましい。」と・・・・・・・・・・。

「陶房葉月」の陶芸教室



田中講平先生 作品飾り棚より 2.002. 5. 5



「陶房葉月」の新しい窯を開くにあたって、作陶に賭ける思いもあって「左馬茶碗」を初窯で焼いた。ところが、「陶房葉月」の初窯で焼いた田中先生の「左馬の茶碗」をいただき、「左馬の茶碗」の由来やこの茶碗に賭ける作陶の思いなどをうかがいました。

「左馬の茶碗」の由来は色々あるようですが、縁起もので陶芸の世界では新しく窯を開いた時に馬の絵や漢字「馬」を右向きに茶碗に描き、その初窯で焼いて世話になった人やお客さん等関係者に配るならわしがあり、この茶碗を使うと脳梗塞や脳血栓などの病気にかかりにくいとの言い伝えがあり、縁起の良いものとされているとのこと。



『右向きの馬を書くと しっぽやたてがみを描く時 右から左へ逆方向に絵筆を走らせねばならず 描きにくい技法で絵付けの技量を競った。作陶家は自分の腕をこの「左馬の茶碗」で誇り、作陶の願いと心意気をこの初窯「左馬の茶碗」にこめる』のだそうです。技術屋のステイタスにも合い通じる話です。

最初の窯で焼く数も少ない貴重な『左馬茶碗』。 大変なものを貰ったと感じています。田中先生夫妻にはいつも新しい創作へ息吹きを感じ、また楽しい語らいに気分リフレッシュで帰ります。次 お会いする時がまた 楽しみです。

久しぶりの山口 田中講平先生の「陶房葉月」を訪問して
2002. 5.5. M. Nakanishi

14.2. 「萩焼について」

萩焼窯元「陶房葉月」 日本工芸会員 田中講平



伝統を誇る萩焼は 先人陶工のたゆまぬ精進にはぐくまれ、茶陶はもちろんのこと鑑賞陶器、日常雑器にも高雅でありながら素朴さもあります。はだ合いはやわらかく、使用しはじめますと次第に色や光沢が変化して、いわゆる「萩の七化」といわれる萩焼特有の持味となります。私は常に「優雅」を作品に表すことを念願しております。今後とも、末永くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

萩焼窯元 陶房葉月
日本工芸会 正会員 田中講平
山口市吉敷 1092 Tel : 083-932-8405



「陶房葉月」田中講平
四輪の陶器を中心とした陶器作品を生かし、独自のデザインと技術により、個性あふれる作品を生み出す。
《連絡先》
〒752-0811 山口県吉敷市
Tel : 0832-8405 (FAX) 0832-8406
〒752-0811 山口県吉敷市
Tel : 0832-8405 (FAX) 0832-8406

山口市街の中心から車で約 15 分ぐ
らいのところ
に「陶房葉月」があります。山口へ
行かれたら 一度 是非 お訪ねく
ださい。

14.3. 陶房 葉月の「左馬の茶碗」と「左馬」の由来



hidari0.htm 2002.5.5. by M. Nakanishi

「左馬の茶碗」

5月5日 昨年秋 山口市の東 鳳翩山麓の静かな山里 山口市吉敷に新しい窯を開かれた田中講平先生の新しい「陶房葉月」を訪ねご夫妻と久しぶりに歓談のひと時を持った。

其の折、先生からこの「陶房葉月」の初窯で焼いた「左馬」の茶碗をいただき、同時にこの「左馬の茶碗」の由来やこの左馬の茶碗に賭ける作陶の思いなどについてうかがった。

「左馬の茶碗」の由来は色々あるようですが、縁起もので陶芸の世界では新しく窯を開いた時に馬の絵や漢字「馬」を右向きに茶碗に描き、その初窯で焼いて世話になった人やお客さん等関係者に配るならわしが在るのだそうです。そして、この茶碗を使うと脳梗塞や脳血栓などの病気にかかりにくいとの言い伝えがあり、縁起の良いものとされています。



右向に描かれた馬の絵
(多治見・川地商店写真提供)



左馬の駒
(天童市パンフレットより)

インターネット 「左馬」検索より

萩焼ではこの「左馬茶碗」の慣わしはないようですが、田中先生の出身地 四国「砥部」では新しい窯を開く時に広く行われているとのこと。インターネット検索によれば、「備前」「瀬戸」など各地の焼物の街で広く残っているようです。田中先生はこの「陶房葉月」の新しい窯を開くにあたって、作陶に賭ける思いもあって「左馬茶碗」を初窯で焼いたと。田中先生の話では『右向きの馬を書くと しっぽやたてがみを描く時 右から左へ逆方向に絵筆を走らせねばならず 描きにくい技法で絵付けの技量を競った。

作陶家は自分の腕をこの「左馬の茶碗」で誇り、作陶の願いと心意気をこの初窯「左馬の茶碗」にこめ



る』のだそうです。技術屋のステイタスにも合い通じる話です。

最初の窯で焼く数も少ない貴重な『左馬茶碗』。 大変なものをいただいたと感じています。



表「左馬」の絵付け



裏「陶房葉月、初窯、平成十三年十月」の彫り
藍色の丸は円で、縁があります様にとの願い
がこめられている。

田中 講平先生 の 陶房葉月 「左馬の茶碗」 2001.10. 初窯

窯や作業場を建立する際、神事を行っていただいた宮司さんに御礼と願いをこめて絵馬のかわりに収めたるのが慣わしともいうそうです。また、山形県天童では将棋の駒を「左馬」に彫る慣わしもあるそうですし、三味線の胴に「左馬」を描くこともあったようです。

この「左馬」の慣わしの由来には諸説あるようですが、「うま」を反対にすると「まう」で舞いの縁起担ぎから来たとか また 馬は寝る時絶対に左には倒れず、「右に出るものがない」の意をこめて左馬に描くとかが由来だそうです。

参 考

左馬の茶碗とその由来【1】 インターネット ホームページ検索より



備前に限らず他の窯業地でも新しく作られた窯に火を入れる時、右向の馬の絵、又は漢字「馬」を逆字でかいた飯茶碗を焼いて関係者に配る習わしが有ります。左馬茶碗と 言い、これを使うと「中風」にならないと言われ縁起の良い物とされています。



右向に描かれた馬の絵
(多治見・川地商店写真提供)



左馬介湖上渡りの図
(天童市パンフレットより)



左馬の駒
(矢先稲荷神社天井絵より)

なぜこのような風習があるのか良くわかっていませんが、「左馬」に下記のような諸説があります。

古くから馬は神の乗り物として神格化され、神馬として生馬、又は扁額が神社に奉納されました。それが転じて祈願奉謝の印として絵馬を奉納した。

焼物どころでは、工人の手を離れた焼物が無事に焼けるようにと、初窯に火之神に祈って左馬を描いた物を焼く。

左馬は、右手が色々な物をつかむところから、不浄とされたので、特に左を選んで描かれたのであろう。

(元岐阜県陶磁器陳列館長、故 熊沢 輝雄氏の文から抜粋)

縁起物の初窯、左馬茶碗は、韓国・高麗時代鷄龍山の窯場で、沙器と言う鬼神の 乗る馬を焼き窯神に供えたのが起り。

瀬戸では、江戸期始め初窯には必ず手のひらに乗るような可愛い馬を焼き社に供え、文化、文政の頃になると、左馬絵茶碗を焼き、「病魔、中風除け」と言って、知り合いに配ったのが今に継承されている。

(岐阜県陶磁資料館所蔵資料より抜粋)

江戸の中期以降に酒席で酌をし、音曲や踊り、話し相手などで宴を取り持った女性、芸者が出てきますが、その人達が持っていた三味線の胴の裏には「馬」の字を裏返しにした左馬が書いてあったそうです。

馬は倒れるとき右倒れになり、絶対左倒れにならないので、左馬を書いた三味線を持つ芸者達も「寝やすい方には寝ない」つまり「芸は売っても身は売らぬ」と言う心意気を示したとの説があります。それが「格好いい」「粋だ」ぐらいから転じて「縁起がいい」の意味になったのだらうと思われま

「馬」の字が逆さに書かれている「左馬」は、天童で生まれた天童独自の将棋駒です。

このあたりでは、家を新築した方や商売を始めた方への贈り物として重宝されています。

というのは、「左馬」は福を招く商売繁盛の守り駒とされているからです。

左馬は「馬」の字が逆さに書いてあります。「うま」を逆から読むと「まう」と読めます。「まう」という音は、昔からめでたい席で踊られる「舞い」を思い起こさせるため、「左馬」は福を招く縁起のよい駒とされています。

また、「馬」の字の下の部分が財布のきんちゃくの形に似ています。きんちゃくは口がよく締まって入れたお金が逃げていかないため、古来から富のシンボルとされています。

(観光パンフレット「天童と将棋駒」から引用)

今から約400年前の天正10年6月2日、明智光秀がその主、織田信長を討ち、山崎の天王山に立てこもり天下を取ろうとしました。世に言う「本能寺の変」です。

中国遠征中の羽柴秀吉は、この変の知らせを聞くや直ちに反転して、山崎に光秀を囲みました。

光秀の従兄弟、明智左馬介(光春)は安土城を発し光秀の救援に向かうも、堀秀政にさえぎられて戦場に赴くことが出来ず、馬のまま琵琶湖を渡って坂本城に入りました。

この時、左馬介の愛馬が良く湖上を渡り目的を達しましたので、世に之を「左馬介の湖上渡り」と称しております。

これより巷間では「左馬の・・・」と称して縁起の良いことに用いるようになりました。

この様な「左馬が縁起が良い」説と、「家を新改築した際の初風呂に入れば中風にならない」とか「初物を食べれば75日長生きをする」などという素朴な初物信仰が一緒になって、初窯で左馬飯茶碗を焼いて配るという風習が出来たのであろうと推測されます。



右向に描かれた馬の絵
(多治見・川地商店写真提供)



左馬介湖上渡りの図
(天童市パンフレットより)



左馬の駒
(矢先稲荷神社天井絵より)

左馬の茶碗とその由来【2】 (株)備前陶苑HPより



縁起物の初窯、左馬茶碗は、韓国・高麗時代鷄龍山の窯場で、沙器と言う鬼神の乗る馬を焼き窯神に供えたのが起こり。

瀬戸では、江戸期始め初窯には必ず手のひらに乗るような可愛い馬を焼き社に供え、文化、文政の頃になると、左馬絵茶碗を焼き、「病魔、中風除け」と言って、知り合いに配ったのが今に継承されている。

(岐阜県陶磁資料館所蔵資料より抜粋)

「左馬の茶碗」とは(「馬」の絵(頭が右で、尻尾が左)、又は、「馬」の文字の鏡文字)が書いてある飯茶碗の事。

古来より、馬は神の乗り物として神格化されていました。生き馬、又は、馬の絵の扁額が神社に奉納され、それが転じて絵馬を奉納するようになりました。

焼物では、作者の手を離れた作品が無事に焼けるように、新しく築いた窯での初めての窯焚き(初窯)の成功祈願を願って、左馬を描いた物を焼くようになりました。

瀬戸では、江戸初期の頃、初窯で小さな可愛い馬の置物を焼き、社に供え、文化、文政の頃になると、左馬絵茶碗を焼き、「病魔、中風除け」と言って、配ったそうです。

特に、備前に限らず初窯で焼く飯茶碗は、【左馬の茶碗】といい、これで御飯を食べると、中風にならないと云われ、縁起の良い物とされています。

「左馬」の由来は諸説ありますが、

- * 「うま」を逆から読むと「まう（舞う）」であり、古来、舞はおめでたい席で催される事から、招福の駒として、
- * 「左馬」の姿が「右に出るものなし」とか「左団扇」に通じる大吉兆の形として、
- * 「馬」の字の下の部分が財布のきんちゃくの形をしており、口が良く締まって、入ったお金が散逸しない事から、富のシンボルとして、
- * 江戸の中期以降、芸者さんの三味線の胴の裏に左馬（「馬」の鏡文字）を書く。馬は倒れるときは、右に倒れ、左には倒れないところから、三味線を持つ芸者さんも「寝やすい方には寝ない」つまり「芸は売っても身は売らぬ」と言う心意気を示したところから、これが「格好いい」「粋」というところから転じて「縁起がいい」ということになり、これらから、福を招く、めでたい商売繁盛の守り駒として「左馬の・・・・」と称して縁起の良いものとして用いられるようになりました。

この様な「左馬は縁起が良い」説と、「家を新築した際の初風呂に入れば中風にならない」とか「初物を食べれば75日長生きをする」などという素朴な初物信仰とが一緒になって、初窯で【左馬の茶碗】を焼いて配るという習慣になったと推測されます。

現在では、飯茶碗の他、食器全般につけられる事が多くなっています。

参照：山内厚可氏のHP（株）備前陶苑

14. 萩焼窯元「陶房葉月」 田中講平先生の「左馬の茶碗」

14.1. 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて

14.2. 「萩焼について」

萩焼 窯元 陶房 葉月 日本工芸会員 田 中 講 平

14.3. 陶房 葉月の「左馬の茶碗」と「左馬」の由来

〔完〕



5.5. 雨の連休の中 やっと雨が上がり青空が見えている。久しぶりに秋吉台カルストロードに行きました。

久しぶりのカルストロード 山の空気がすがすがしい。雨上がりの光があたり、若葉色のカルストの草原に白い石灰石が映え何時もとは違った印象にビックリ。 多分 山焼きが終ってからまだ日が浅く、草原をおおう草が新たに芽吹いたところで、この露出した石灰石と淡い緑のカルスト台地sが非常に良くマッチしているからだろう。

長者ヶ森からカルスト台地の中に入り、このあたりでは一番高い冠山頂上まで1時間弱 足元に咲く草花を見ながらのwalk。

本当に山の空気が美味しい。小さな丘とカルストとが幾つも連なる秋吉台。緑の岡のあちこちにカルストの穴が開いているが遊歩道がきちり整備されているので、心配はなし。

周りの岡の向こうに見える山々や石灰石の連なりをながめ、丘登って行く。見てる間に草原を突っ走るカルストロードとその際の長者ヶ森が本当に小指ほどに小さくなる。幾つかの丘を越えると頂上部に沢山の露出した石灰石がみえる冠山の頂上に立つ。北には日本海沿いに連なる長門・三隅の山々をバックに露出した石灰石部がゴロゴロある地獄台の景観が見える。また 南側は秋芳洞がある秋吉台の南端へと緑の丘が連なっている。秋吉台 360度の展望。そして 空には青空に映える白雲足元には草花。久しぶりの開放感あふれたカルストに満足でした。

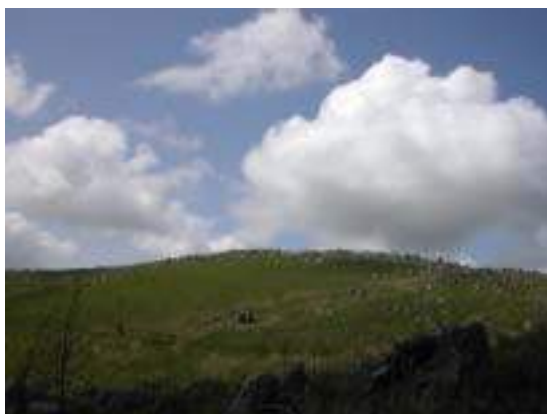
2002.5.5. 久しぶりに山口へ帰って

M. Nakanishi



アルバム 1 カルスト台地 長者ヶ森 から 冠山 へ
 アルバム 2 カルスト台地 の 草花

アルバム 1 カルスト台地 長者森から冠山へ 2002.5.5.



アルバム2 カルスト台地の草花 2002.5.5.



2002.5.5. 新緑の秋吉台にて

2002. 夏 「ねぶた」と「ねぶた」

-津軽から青森・十和田湖へ

nbta00.htm 2002.8.3-5. by M. Nakanishi



2002. 夏 「ねぶた」と「ねぶた」

16.1. 津軽 ねぶた祭 弘前・五所川原・青森

16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム

2002. 8.3. - 8.5. 思い立って 津軽から青森・十和田湖へ家内と二人でかけました。
青森市郊外から西へ 岩木山を背に広がる津軽平野。

8月 岩木山山麓の広大なりんご畑にはりんごが実り、「嶽キミ」という甘いトウモロコシ そして街々にはねぶたの囃子が響く。

津軽の中心 弘前・五所川原には盛大なねぶた祭がある。

関東にいる間に一度みせたかった青森の「ねぶた」

手作りで情緒あふれる

20m の高さを超える勇壮な

ハネコがはねるエネルギーな

弘 前 「ねぶた」

五所川原 「立佞武多」

青 森 「ねぶた」

同時期に三つの「ねぶた」を一緒に見るのは初めて。

学生時代に見た青森「ねぶた」のあのすごいエネルギー。

2年前 弘前で見た扇形ねぶたの美しさと情緒あふれるねぶた囃子の笛の音。そして 津軽の人が自慢する復活した五所川原の「立佞武多」のスケールの大きさ。

欲張った計画ですが、この三つの「ねぶた」を見て、りんご畑の広がる「津軽富士 岩木山」。

三内丸山遺跡にも行って あとは 八甲田山を越えて奥入瀬・十和田へ 昔を懐かしむ旅

旅館が取れず苦労しましたが、毎度の事 青森でレンタカー借りて 家内の運転でゆったり気の向くま

まの旅 津軽の夏を楽しみました。

16.1. 津軽ねぶた祭 弘前・五所川原・青森



2002. 8.3-4.夜 by M. Nakanishi

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 手作りで情緒あふれる | 弘 前 「ねぶた」 出陣 ねぶた |
| 2. 20m 高さを超える勇壮な | 五所川原 「立佞武多」 合戦 ねぶた |
| 3. ハネコがはねるエネルギッシュな | 青 森 「ねぶた」 凱旋 ねぶた |

青森は・五所川原「ねぶた」弘前では「ねぶた」といい、「ねぶた」運行に参加する事を青森では「凱旋」弘前・五所川原では「出陣」というらしい。

弘前のねぶたは扇型なのに対し、青森・五所川原では立体的な武者人形型。

また、笛・太鼓のお囃子もほとんど同じであるが、弘前の方が少し遅い。

青森では「ねぶた」の運行にあわせ、「ハネト」の集団がお囃子にあわせて「ラッセラ ラッセラ」と跳ねて踊るのに対し、弘前では「ハネト」はおらず、「ヤヤド」の掛け声にあわせて 2本の綱でみんな一団となって「ねぶた」を引く運行行列。

情緒があるのは弘前 ダイナミックなのは青森 ねぶたの大きさに圧倒される五所川原。

1. 弘前「ねぶた」出陣

8.3. 岩木山の山麓 岩木高原に宿を取って 夕方弘前の街へ

重文の旧青森銀行横の大通り・弘前城のお堀端など 辻々にねぶたの隊列が運行スタートを待っている。

弘前のねぶたは扇型。



表には中国の故事の武者絵が独特の筆遣いで描かれ、裏面には美人絵が描かれている。闇の中に浮かび上がるこのコントラストが何ともいえぬ情緒をただよわせる。

あまり広くない大通りの両側には多くの人々がスタートを待っている。

夕闇の中 一昨年と同様 大きなジョッパリ太鼓を先頭に「ねぶた」の行列が「ヤヤドー」の掛け声とともに次々とスタート。大人も子供も一体となったねぶたの行列が進んでゆく。

弘前では子供達の引く幾つかの小さなねぶたを前に中のねぶた 高さ 5m を超える大きなねぶた本体が続き、その後ろに太鼓・笛・鐘の囃子方が続く。

この「ねぶた」の順番は昔からで、何かにつけ 津軽では昔から「おおきいのはあとから・・・」とすぐ言われると。



ねぶた 前面 武者絵



後面 美人絵 鬼沢ねぶた 2002.8.3.夜

暗闇の中に浮き上がるねぶたとともに強烈な太鼓のリズムと哀調を帯びた笛の音がひびく。

暗闇に浮き上がる扇面の武者絵とそれがくると回転して裏面が出ると美人絵。そして、その行列が囃子の音とともに美人絵を見せながら暗闇に消えていく。そんな行列が100近く続く。

この美しさは企業集団ではなく地域の人達の手作り 子供から大人まで行列を組む伝統に支えられていると見た。



「ねぶた」とはそもそも暑い夏のねむけばらいに夕方 街の中心にでて ねぶたの行列を組んでねぶた運行の行列として歩いたのが始まりとの俗も・・・

この「ねぶた」の運行に加わることを「出陣」というが、参加する集落には「出陣」の幟がはためき、昔は1日かけて集落から

ねぶたを弘前の街まで引いて行きこの運行に参加したと・・・

夏の暑い中 街まで 田圃の中 遠い道程を歩いていった子供の頃の思い出が今も強烈に残っていると人はいう。今は トラクターや車がひっばってゆくと。

和鉄にまつわる鬼伝説の郷 鬼沢の「ねぶた」も健在でした。

また 子供達の「きんぎょねぶた」なども・・
 ねぶた運行が終わった後、ねぶた囃子をかなでながら
 真っ暗な岩木川の対岸の村に帰る一群にも出会い 川
 原に下りてそのねぶた祭りの余韻を楽しみました。
 なぜか 子供の頃の地車囃子が遠ざかってゆく祭りの
 終わりへと重ねていました。
 私のイメージでは 暗闇に消えてゆくねぶたが岩木山
 に住む鬼と重なって 哀調を帯びた笛の音にマッチ
 して余計に印象的でした。



集落へ帰り行くねぶた 2002.8.3. 夜

2. 五所川原の立佞武多 [nbta02.htm](#)



高さ 20m を超える 五所川原の立佞武多 2002.8.4. 昼 JR 五所川原駅前

青森 = 岩木山・弘前 = 津軽半島への玄関口五所川原 津軽平野がこの三角形の中にすっぽりと収まる。
 青森・弘前からそれぞれ車で約 30 分 鉄道は青森から弘前を経て五所川原につながる津軽半島への玄関
 口である。五所川原からは津軽半島の先へむかって太宰治の故郷 金木・中里まで津軽鉄道【津軽軽便
 鉄道】が走っている。

小さな駅前広場にひっそりこの津軽鉄道と JR の駅舎がある田舎の駅前。でも 津軽の中心として駅前から一歩外へ出ると市街地改造が進められているというのが、2 年前津軽・白神へ行った時の五所川原の印象。

「数年前から復活した立佞武多のスケールの大きさと祭りの熱気。五所川原の「ねぶた」はスバラシイ・・・」とその時にも津軽でよく聞きました。

五所川原の立佞武多 昼しかみれなかったのですが、すごいですね。

五所川原駅前に並んだ迫力の写真送ります。夜運行さたらもっとすごいでしょ。



鮮やかな色彩の中 奈良の四天王像や十二神将像の迫力以上。

残念ながら光のはいった運行の様子は見れず。でもその迫力はみんなが言うだけの事昼間でも感じました。今後 弘前とは違った形での祭りが年々盛んになると感じました。

夜 灯の入った五所川原

8.4. 車で五所川原駅前へ あの沈滞ムードの駅前からすり抜け森五所川原駅前 JR の駅に並んで、高さ 20m を超す巨大な箱が二箇所に建ち、その中に巨大な武者像が 4 基すっぽりとおさまり、見物の人たちで駅前是人でごった返している。数年前から五所川原では毎年 1 基づつ立佞武多を復活してきたという。

その前に立つと本当に人が小さい。圧倒的なスケール。真下に建って見あげるとその威圧感に圧倒されて、言葉なし。



「立佞武多」 インターネットより

3. 青森 ねぶた 凱旋 2002.8.4.



8.4. 夜 38年振りに「青森ねぶた」も見ました。

夕刻 まだ 薄明かりの中 6時30分 ねぶたの運行が開始されました。

ねぶた囃子に合わせ、ねぶたが舞い、ハネトが踊る。見る側との一体感

そんな熱気が延々と通り一杯にくりひろげられる。

実はそんな昔のハネトとねぶたとが一体となった迫力を期待したのですが、残念ながら夢と期待が大きくて消化不良気味。



祭が有名になって 多くの人が集まって 偶像的につくられて、自分達の祭から遠のいて見せる祭りになっている。特定の見せ場以外では ただ だらだらと・・・間延びして全く迫力がない。

ずっと 抱いてきた青森「ねぶた」の「ラッセラ ラッセラ」の響きとは随分違うものになって・・・

ハネトの集団もねぶた運行集団・囃子方 それぞれがバラバラ ハネトなど全くハネズにパレード。

最も一部の人々が跳ねて踊る時の迫力は昔のまま すごいエネルギーを感じましたが・・・



元気一杯 跳ねる ハネト



ねぶたを傾け 観客に演技するねぶた

短時間ですが、

ねぶたが観光客の方へ迫って来た時の迫力

夢中で踊るハネトの若者

立ち止まって観客へ向って ねぶた囃子を披露してくれる囃子方



観客に演技する囃子方

それぞれには強烈なパワーを感じるのですが、なにか はっきりとした筋無しの雑然とした行列。なにか街のパレード見るようになっていきます。また、バケツというのだそうですが、行列の横で 全く意味もなく 浮いた存在で仮想の人が愛嬌を振りまいている。

観光客が増え、ねぶたは大掛かりになり、行列も長くなりましたが、TV や写真が一瞬だけを捕らえて偶像的に演出し、生の魅力をおおる。

そんな存在になって、生の魅力・熱気が消えている。観光客のために水ぶくれ。

「ヤヤド」の掛け声にあわせ 行列が一つになり進んでゆく弘前 そして 見ている人の拍手に答えてストップするとくるっと扇面を回転させて見せてくれる。そして また、「ヤヤドー」の声とともに進みだす。みんな拍手でねぶたを見送る。

なんともえらい違いになったなあ……期待していたあのパワーと一体感は何処へいったのだろう。

ねぶたの運行か ハネトの踊りの行列か 行列の意図ははっきりしないとすたれと感じました。

でも やっぱり、「ラッセラ ラッセラ」の掛け声は魅力。

この場面を思い返すとすごい。

伝統のマンネリの中に魅力を感じる弘前ねぶた 新興の新しい魅力を持ち出した五所川原

青森のねぶたも

観光客・企業おんぶのねぶたから マンネリ化 打破の「ラッセラ ラッセラ」が

必要ではないか



2002.8.8.青森物産センタ三角ビルの上お茶をのみながら 凱旋を終え 帰り行く「ねぶた」を眺めつつ

16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム



- 【1】 - 岩木山山麓 -
- 【2】 - 弘前の街 散歩 -
- 【3】 - 八甲田山・奥入瀬溪流 -
- 【4】 - 十和田湖・重文「康楽館」小坂町 -



津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム 【1】
 ・ 岩 木 山 山 麓 ・

岩 木 山 八合目
 岩木山スカイライン



雲海の内と外に八甲田、白神山地の山々が透かみずいきました。残念ながら、津軽平野の集落は雲の中。



岩 木 高 原
 2002. 8. 31. 4.



りんご園



岩木山神社



嶽牛ミ直売所



白神山地



岩木山高原

津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム【2】 弘前の街 散歩 -

津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム【2】

弘前の街 散歩 -



弘前城公園から岩木山を望む 2002.8.4.



弘前 市街

弘前の街で
2002. 8. 4.

美しい洋館や教会を訪ねて



津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム 【3】

・ 八甲田・奥入瀬溪流 -



津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム【4】

- 十和田湖・重文「康楽館」小坂町 -



16. 2002. 夏 「ねぶた」と「ねぶた」

16.1. 津軽 ねぶた祭 弘前・五所川原・青森

16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム

【完】



青森市街 遠望 八甲田スカイライン 雲谷峠から 2002.9.22. 青森 三内丸山遺跡

17.1. 三内丸山遺跡 点景 2002. 秋

17.2. 仲秋の名月 三内丸山遺跡 お月見の会

9. 21. 「仲秋の名月」三内丸山縄文遺跡での「お月見会」を楽しんだ。

今年は 夏ねぷたの時にも訪問したので2回目。でも夏とは全く印象がちがう。多くの見学者でにぎわっていた夏からは落ち着いた雰囲気にかわっていました。

遺跡の中心 大型住居等が復元されている南側に広がる草原にはすすきやワタスゲが咲き、その後方には頭を雲で覆われた八甲田大岳がどっしりと控えている。もう秋真っ只中。



三内丸山遺跡 縄文の道のあたり



三内丸山縄文遺跡での仲秋の名月 2002.9.21.

17. 1. 三内丸山遺跡 点景 2002. 秋



南の端 墓の道が遺跡の中心へ続くあたりより 三内丸山遺跡集落の中心部 2002. 9. 21

草原に寝転んで、草越しに遺跡を眺める。

人家のない森に囲まれた広い空間で ついぞ ゆっくりとみあげぬ雲の流れ。

実におおらかでゆったりとした時の流れに身を置く楽しみ いつきても いいですね・・・

転免許試験所の大きなコンクリートの建物がみえている。これも森で隠れてしまえば もっといいのですが・・・

でも 野球場が建設が進められ、観覧席まで出来かかっていたのに 本当によく保存できたものだ。



2002 年度発掘調査の見学会 西側の墓の道

楽しみにしていた今年の発掘調査域の見学会。西の墓の道が
一帯何処まで伸びているのか？

またストントンサークルはさらに次々とみつかっているとい
うが・・・

約 30 名ほどの集団で、昨年から引き続き調査が続けられてい

る西側の「墓の道」を中心とした墓域や西端の丘の上の竪穴住居・墓域 そして こけから調査される
掘建て柱の発見された北の斜面を案内してもらった。

いつもながら 発掘のその現場にたってまじかに 説明が聞けるのはうれしい。

縄文をもうそのまま体験しているような気分になる。



発掘されたストーン サークル



発掘調査が続く 西側の墓の道の墓域



墓の道はまだまだのびており、墓の道の片側にしか見つかっていなかった墓が道の反対側でもみつかったとか・・・ ストーンサークルもさらに見つかっている。

三内丸山遺跡の中心へ向ってこの幅の広い墓の道が東からと同時にまた南からも続いている。

まだ この縄文の墓の道 そして集落の中心にある大きな広場で何が行われたのか・・・よくわからない。でも 自分達の先祖が見守るこの大きな墓の道を多くの人が列をなして祭りをやりながら通ったに違いない。

ふっと 6本柱が頭をかすめ、諏訪の「御柱」の祭りがうかんできた。きっとそんな祭りでなかったか・・・

すすきの咲く丘の上へと続く道を歩きながら そんなイメージを広げていました。11月には今年の調査説明会がおこなわれ、結果が報告されるという。楽しみにしている。



西の端 発掘の続く丘の上へ



西端の丘の上 竪穴住居発掘現場



北の端の斜面 掘建て柱が発掘された場所

30人ほどで始まった見学会 最後には遺跡を訪れていたほかの人達も加わって倍に膨らんでいる。本当に オープンな雰囲気今年も満足。一度 雪に埋まった三内丸山遺跡をもみてみたいが・・・

2002. 9. 21. 秋の三内丸山遺跡で
by M. Nakanishi

17. 2. 三内丸山縄文遺跡 お月見コンサート 2002.9.21.



今年から 青森三内丸山遺跡・岩手御所野遺跡・秋田大湯ストーンサークルの三つの縄文遺跡で、日替わりで縄文フォーラムとお月見コンサートが行われるオープンな会になり、今までとは打って変わって大きな会になりました。

いつもながら オープンな会で 旧知の人 新しい人に出会えるのが楽しみ。



青森 三内丸山遺跡 収穫祭 フォーラムとお月見コンサート 2002.9.21.

以前 新聞かTVで 津軽海峡を『いかだ』で渡る実践をしたと聞きましたが、そのグループで北海道 茅部町の縄文遺跡のボランティア グループ。パワーあふれる人達でした。この遺跡も三内丸山に匹敵する遺跡で 町長さんが頭の上に写真をかざして話された縄文の子供の足型や縄文人の脳。そして 木村県知事も加わって 津軽海峡も含め、北海道・北東北連係の話
久しぶりに『goo goo』の話でスカッとしました。
この三内丸山遺跡のオープンな運動が次々と広がるのは本当にうれしい事です。



縄文時代本当にお月見があったのだろうか……
暦の語源は「ヒ(日)ヨミ(読み)」
『日の出と日の入』 『月の出と月の入り』があるよ
うちに 新月と満月 どちらがスタートなか……
「縄文のこの巨大遺跡の真中に大きな広場と そこを
中心に 東西・南北に伸びる巨大な道 どう考えても
異常です。 何の為の道なのか……」

「死者を親しみの中に敬い 争いのない縄文の
心」を静かな口調で話される山形芸工大赤坂憲雄
教授。
縄文の静かな森の中で、今の世相とダブらせなが
ら 久しぶりに聞く「縄文の心」。

21 世紀は『心の時代』・『オープン化の時代』と持てはやされるのとは逆に空ろさが目に付く空しい中
にいるような気がしてならない。

民族紛争も『憎しみが憎しみを生み、戦争が戦争を生む』事

『形だけの open 化に名を借りた秘密主義の横行』口ではダメな事みんな知っていても 『それを乗り越
え 踏み出す勇気・智恵』がない。

それを生み出す若さがほしい。

理念・洞察力の貧困さが今ほど目に付く事はない。

そんなことを感じています。

月明かりの中 縄文の森にそびえる六本柱越しに月を眺めながら 現代と縄文をだぶらせていました。

17. 三内丸山遺跡 秋 点 描

17.1. 三内丸山遺跡 点 景 2002. 秋

17.2. 仲秋の名月 三内丸山遺跡 お月見の会

【完】



11.10. 久しぶりの日曜日。のんびりと朝柏の教会にでかけ、そのあと上野の美術館にでも出かけようと上野駅に着くと丁度午後1時発の上越線特急「水上・草津号」の発車のベルがなっており、思わず駆け込んで乗ってしまう。

まあ、汽車の中から山見ながら、紅葉の谷川岳・一の倉沢を見に行っても良いし、草津か万座へ言っても良いしと車掌には行き先猛ちちょっと後で決めると・・・。

熊谷駅を通過高崎に近づくが、お天気は快晴なのですが、左手に見えるはずの富士山は見えず。一方右手にはベトリと雪のついた赤城山から 足尾・奥日光の連山が見える。もう上越の山は雪化粧。高崎で降りて、今紅葉が真っ盛りとTVが伝えていた妙義山山麓を紅葉を見ながら歩く事にする。

妙義・赤城・榛名山を上毛三山という。妙義山はその一つ。妙義山だけまだ登ったことがなく、残っている。そのゴツゴツとした岩山の特異な形とその紅葉の美しさで知られた山で一度は是非登りたい山。頂上部は険しいゴツゴツの山ですが、多くの登山道・山裾のハイキングコースもあり、今回は時間も遅いし、紅葉の散策。

高崎から信越線に乗り換えて約15分碓氷峠へ差し掛かる手前の群馬県松井田から妙義山に入る。



妙義山 遠望 信越線車窓より 2002.11.10.

高崎駅を出て 汽車は上州と信州を分ける碓氷峠から流れ下ってくる碓氷川を渡って、大きくカーブして田園地帯を信州へ向う。

すすきが建ち並ぶ野原越しにゴツゴツとこぶを幾重にも連ねた特異な山が見え、その右には真っ白な雪に覆われた浅間山が見えてくる。妙義山である。

写真やガイドブックでは何度も見た

ことあるのですが、じっくりと意識して眺めるのは初めて。

汽車はどんどんこの妙義山に近づいて ほどなく松井田駅。もっと大きな駅かと思っていましたが、まったく何にもない普通の駅。

タクシーを捕まえて ドライブウェイを妙義山の岩峰が見える妙義神社へ 着いたのはもう3時半を越えて 紅葉の木々に埋まって見上げる妙義山の岩峰 には西日があたり、夕暮れが迫っている。妙義山の反対側には 広がる高崎の街越しに赤城山が堂々とした姿を見せている。



妙 義 山 山麓 妙義山神社より



赤城山 遠望

紅葉を見るのは やっぱり、山中の森の中にはいらねば・・・と妙義山の中腹岩峰の裾につけられた登山道に踏み入れる。ドライブウェイの喧騒から離れ、紅葉した木々の中につつまれる。

昨年 安達太良山くろがね小屋周辺で経験したあの体全体が紅葉で染まるあの経験 今年ダメかと思っておりましたが、妙義の山中の紅葉に身を置く事が出来ました。妙義山は里から近く山が浅い事もあってあの安達太良の幾重にも重なり合った濃厚さはなし。でも、紅葉と岩とのコントラスト 一本一本色形の変わる紅葉が美しい。

しばらく紅葉と岩山を眺めながら紅葉した林の中を歩き、妙義神社へ出てきたときにはもう 真っ暗。

妙義山の紅葉 妙義山山麓の登山道散策 2002.11.10.





関東で一二を争う紅葉の名勝 妙義山

岩と紅葉のコントラストが美しかったです、残念ながら昨年見たあの真っ赤な紅葉には出会えず。

今年はどうも夏から一挙に冬になったため、色づきが悪いのかもしれない。

でも おもいもかけず、日曜日の午後 妙義山の山麓で紅葉狩り。

上野から上州へ こんなにたん時間で行けるとは意外でした。

冬は岩場が恐ろしいので 次は来年の春 朝早く起きて妙義山か裏妙義へしっかり歩いてみたい。

また この裏妙義・万座の谷合いは古くからの砂鉄の産地。今はもう全くわからなくなっているが、たたら遺跡にも訪ねてみたい。



妙義山の夕暮れ 高崎 遠望

2002.11.10 高崎かの快速電車の窓にもたれながら

by M. Nakanishi



妙義山の夕ぐれ

2002.11.10.夕

・ 晩秋と初冬がいりまじる 福島県 奥会津【1】・

hetsuri00.htm by M. Nakanishi



へつり(湖)って知っていますか
こんな漢字があるとは知りませんでした

11月16日 福島県塩原溪谷から奥会津 岩館村から下郷へ

家内と二人 車で 晩秋の紅葉と初冬の雪の混じる奥会津の山裾を気ままに楽しみました。

尾瀬を訪ねる毎に通る尾瀬の福島側奥会津。福島県的那須と尾瀬の峰々にはさまれた奥会津は周りを雪深い山々に囲まれ、一昔前までは交通の便が悪く、しばしば秘境と呼ばれた地域である。

江戸から会津に出る最短コースとして街道が通り、賑わいをみせた所でもあり、岩手県の遠野と同様に奥会津の会津田島や館岩・桧枝岐・下郷などの村々には数多くの民俗芸能や伝承が残っています。



奥会津 下郷 名勝 「塔のへつり」



紅葉の塩原溪谷・塩原温泉



山は雪 林は紅葉 水引集落で



前沢集落の曲家



木賊温泉

晩秋と初冬がいりまじる曲家集落が残る 奥会津 館岩村 2002.11.16.

今では 日光から山間部の鬼怒川・藤原町から奥会津に抜ける五十里越えの道も幹線として整備され、平行して東武電車が走り、浅草から日光・鬼怒川を経てトンネルを抜けると3時間たらずで奥会津。また、東北自動車道で西那須野 IC から塩原温泉を経て山間を抜ければ、これも難なく奥会津に至る。

尾瀬への入口としてばかりでなく 東京から手軽に行ける観光地 スキーのメッカとして多くの人が訪れるようになり、もう秘境の地の面影はない。

そんな奥会津の谷間から流れ出る阿賀野川。 阿賀野川の源流が尾瀬や那須の山々から流れ出てこの奥会津で一本の川となり、谷間を流れ下り、美しい渓谷美を作っている。それが 名勝「塔のへつり」



へつり（巖）って知っていますが
こんな漢字があるとは知りませんでした

会津田島から会津若松へ会津線に乗ると下郷から湯野上温泉にでる途中で この「塔のへつり」の渓谷を渡るのですが、鉄橋に差し掛かると車掌は速度をゆるめ、車掌が「塔のへつり」の説明をアナウンスする。尾瀬からの帰りに昔何度か汽車の中から見た「塔のへつり」奥会津の名勝。今回は車で奥会津に行きましたので、その渓谷の谷にまで下り、塔のへつりの真っ只中に立つ事が出来ました。

会津田島を出て、山間を会津若松に向けて走る汽車は程無く阿賀野川の切立った

美しい渓谷沿いを走り、深い渓谷をはさんだ家並みが見え出すとひなびた山間の温泉湯野上温泉。この湯野上温泉の街を抜け、山間を深い渓谷が続くところが「塔のへつり」。紅葉した林が美しい。



紅葉した落葉が敷き詰められた深い林の中「塔のへつり」駅から

川の方へ歩くと突然切立った崖「塔のへつり」が広がる



河岸まで続く紅葉した深い林の中に「塔のへつり」駅がある。あたり一面紅葉した落ち葉の絨毯の上を踏みしめて河岸へ。

冬まじかの夕暮れ時、突然 切立った崖の上に出る。対岸も切立った断崖で 高さ数十メートルの岩肌を見せた崖が幾本も林立する幅の狭いI字の渓谷を川が流れ下る。深い川の緑と紅葉した木々 そして川の両側でまるで石灯笼のように林立した幾本もの崖が素晴らしい景観を呈し「塔のへつり」と呼ばれている。

凝灰岩のこの岩場地帯をかつては数十メートル上を川が流れくんだり、何万年もかかって、岩を削り、幾筋もの並行し

た筋を岩に刻みつつ、この渓谷作り、この「塔のへつり」の景観を作った。
夕闇の中 素晴らしい紅葉と川の緑に見とれていました。



名勝「塔のへつり」渓谷の上から

2002.11.16. 夕

渓谷の奥に通ると汽車が止まりアナウスがある鉄橋が見える(右端の写真)

「塔のへつり」とはなにか・・・「へつり」 「へつり」を漢字で書くと「崖」

「塔のへつり」の案内板に「崖(へつり)」と書いてありました

読めないですね。 もう 死語だと思うのですが・・・また、方言のような印象を持っていました。ましてや漢字があるなど思いも寄らぬ事

でも 山へ行く仲間や 川筋を歩く人 「へつり」は聞いた事のある言葉

「川筋を歩いて その崖を へつって・・・」などと言うのは知っていましたが・・・

また、「信州や会津」の方言と言う人もいて、信州人はよく使うという。

僕のイメージでは 「はぐとか こそぎ取る」といった意味で使っていた方言「へつる」と同意とと思っていましたが、漢字があるとなるとどうも違うらしい。

僕の使う「へつる」とは 剥ぎ取ること 「ご飯を ちよつと へつって・・・」

「ちよつと それ へつって・・・」等と私自身 ごく普通に使ってきたのですが・・・・・・・・



塔のへつり 崖の基部 崖にそった遊歩道

「崖」などと書かれると全く判らず

得体の知れない漢字としか思えず。

「へつり」とは「川に迫った崖の縁などを水平に移動すること」を言うと本には書かれています。
山屋やつり仲間が使う言葉もほぼこれ。

崖の縁から川底に降り、川に沿って そびえる崖の岩壁にあるほんの狭い幅の岩棚を歩いてきました。
何万年もかけて 凝灰岩の岩壁が流れ下る激流によって削り取られ 岩肌がえぐられ、その時期時期の
水の高さによってえぐり取られた幾筋もの水平のテラスを作っている。
今 垂直に切立った崖の底に激流が岩をえぐり 取りつけた人一人足が乗る程度の自然のテラス道を川
筋にそって歩いている。 これが 「へつり」の語源の実感か・・・



塔のへつり 崖の基部の遊歩道

水が崖をへつった後が自然の遊歩道になっている

見あげる幾筋もの林立する崖はまるで並立した「石灯籠」か「尖塔」のようで川筋を守っている。こ
れが 「塔のへつり」 崖の上からではわからぬ実感か・・・・・・。
何で この渓谷に「塔のへつり」という怪しげな名前をつけたのか 判りませんでした。川の流れの
際から垂直に林立する崖のさまを見て納得。
何事も やっぱり 自分で その場まで行かないとわからないですね・・・・

渓谷の両側に小さな温泉宿がたち並ぶ湯野上温泉の直ぐ近く「塔のへつり」は素晴らしい名勝でした。
ここから車で山を一つ越えれば 江戸時代にタイムスリップしたような下野街道「大内宿」。
ちょっと奥へ入れば祇園祭の残る奥会津の中心地 会津田島。そして古い家並や芸能の残る館岩村・
尾瀬の玄関口檜枝岐村へと続く自然いっぱい 日本の原風景の街道筋
春・夏・秋・冬 ふっと東武電車の特急に飛び乗って出かける僕の好きなコースです。
また 兵庫で育て 子供の頃から使っていた「へつる」と「へつり」。
感からするとやっぱり ルーツは同じ 思えてなりません。

のへつり」で

by M. Nakanishi

晩秋と初冬のいりまじる奥会津の山里【2】



tateiwa00.htm

2002.11.16.

by M. Nakanishi

晩秋と初冬の奥会津の山里を訪ねる旅

交通の便が悪く今年も行けなかった福島県帝釈山脈 田代山の頂上の湿原。

約40年前の夏 初めて仲間と夏合宿をやった湯西川温泉から田代山を越え、桧枝岐から尾瀬へ
その田代山山麓の山間にひっそり残る水引と木賊の集落。茅葺の会津曲家の家並が美しい集落だった
イメージの中では素晴らしい曲家の集落は今も残っているのだろうか・・・

また、水引から峠越えして、大きな古い庄屋の前の河原で沈殿して、川筋の露天風呂に何度もはいった
木賊の温泉。時間があれば茅葺の家並みがあるまま残る下郷大内宿にも・・・

もう一度昔の記憶をたどるとイメージにある日本の原風景。

一度家内に見せたかった奥会津山間の集落の景色。晩秋と初冬の混じる奥会津を車で家内と二人訪ねました。



奥会津 野岩鉄道会津高原駅付近 2002.11.16

11.16. 真っ赤に紅葉した塩原温泉 紅葉の
渓谷をくぐり抜けて 奥会津上三依にでると
景色が一変 山はもう雪の冬景色。

浅草・鬼怒川を抜けて奥会津に入ってきた東
武電車(野岩鉄道)沿い山間の街道を雪景色
と紅葉の交差する会津高原へ。

見慣れた三角屋
根の会津高原駅
と道の傍らにあ
る温泉「夢の

湯」の横を通り抜け、道は会津田島から若松へとつづいているが、道を左
に折れて、尾瀬への福島県側の玄関口桧枝岐への道を取るとまもなく高杖
スキー場のある舘岩村。



館岩村には今も曲家集落が残る。集落の林はまだ紅葉が残っているが、山はもう冬。あたりはもう一面雪の銀世界。

何処を見ても雪野原。 広い雪原と雪化粧の山 そしてその麓に広がる紅葉した林 このコントラストが実に美しい。



会津高原から館岩村・桧枝岐村への街道で 2002.11.16.

館岩村 水引集落



奥会津 館岩村 水引郷 2002.11.17.

奥会津 曲家集落 館岩村 水引郷の周辺で 2002.11.16

もう全く昔の記憶はないが、木賊への峠道の標識や「未除雪のため 水引集落で通行止め 田代山登山口 通行不能」の標識等に昔を重ねる。

湯の花温泉を抜け 10 分ほどで田代山の山麓 一番奥の集落「水引」に着く。

集落入口にある小さな谷川の橋を渡ると雪の中に、軒を連ねた茅葺の間家が幾つも見える。

水引集落の入口

地図で「水引集落」「木賊温泉」そして間家集落の保存地区「前沢集落」を見つけたが、まず目的の水引集落へ。 国道から湯の花温泉を抜け、田代山の麓 一番山奥の水引集落への道をとる。両側に除雪で積まれた雪がだんだん多くなる。



人影のない街道を両側の家を見ながらをきょろきょろ。 曲家集落の保存地区指定を受け保存されている地区でないのに、普通の民家が随分増えたが、家並みのあちこちに生活臭のある普段着の曲家が見られる。でも、生活しながらの保存の難しさが家の手入れなどに見える。



水引郷の曲家



水引郷 田代山峠道へ続く街道脇の墓場

奥会津の代表的民家 曲屋 が残る 館岩村 水引郷 の集落 2002.11.16.



街道に兜作りの正面を堂々とかまえる曲家

家並の中ほどに立派な兜作りの屋根を持った大きな曲家がある。街道に向け 堂々とした兜作りの大屋根の玄関が有り、その後ろでL字に建物になっている。正面の兜作りの大屋根の下にはめ込まれた格子戸が美しい。おそらく厳冬期には この2階部分の格子戸が入口になるのだろう。



水引郷の代表的「曲屋」民家

また、集落の田代山へと続く街道の道端に雪に埋まった墓場が見える。ここでも、桧枝岐の集落で見たメイン街道に接した家並の中に墓場が置かれている。

この集落にも奥会津の街中の墓が残っている。

茅葺の大きな曲家集落の中の道端の墓場

集落の人たちが祖先を大事にし、祖先とともに暮らす姿が垣間見える。

そんな伝統の中で曲家が作られたのだろう。そう 考えると曲家の必然性が見えてくる。



街道脇 雪の中に似ひっそりと埋まる墓場

祖先を敬う心がこの集落の中心にある墓ではないか・・・・・
古くは縄文人が心のよりどころとして集落の中心に作った墓 弥生の時代になると集落の外へと押し出された墓。現代の世界では忘れられてきたその伝統が今もこの奥会津に受け継がれているのか・・・・・。

三内丸山やストーンサークルに代表される東北の縄文の温かさが曲家集落に伝わってくる。曲家と街道沿いの墓とは切っても切れぬ関係ではないか・・・・・そんな風を感じました。

日本人伝統のやさしさが残る集落 そんな親しみをこの水引郷の集落に持ちました。フイに壮年の人が家からこの街道にでてこられたので話しかけ、来意の目的話する。よそ者の夫婦が家をきよろきよろ見回しているの、不信に思われたらう。

「寒いし 家には行って お茶でも一杯どうぞ・・・・」

「いい写真 撮って帰ってください・・・・」と。

古い記憶の中にあつた曲家集落水引郷に本当に日本の原風景 縄文の暖かさを感じた一瞬でした。水引郷そのものが残っているかどうか わからぬままに出かけましたが、田代山最奥の地に美しい曲家の残る集落が今も息づいていました。

曲家集落保存地区 館岩村

水引から山の尾根裾を越えて 田代山の反対側の山麓 木賊へ出る道があり、かつて通った道なのですが、雪に埋まっていました。再度湯の花温泉を通つてもとの街道筋に出て 反対側の木賊温泉へまわる。



途中に曲家の保存集落地区「前沢」があり、曲家の家並がしっかり保存されている。

前沢では今も人が生活しながら 伝統の曲家保存集落として周りの山々の自然の景色に溶け込んで曲家が軒を連ねる美しい景観を示していました。



前沢曲家集落 館岩村



前沢曲家集落保存地区前沢の家並

2002.11.16.

晩秋・初冬の雪景色バックにスックと建っている奥会津の曲家 凛々しくもあり、美しい建物期待通りでした。

奥会津に残る美しい曲家集落 館岩村 水引郷 と前沢郷 これからも ずっと残してほしい景観。街道筋の道端に残る墓と一体となって ますます親しみを感じました。木賊温泉は雪の中ということもあって全く記憶なし。昔入った川原の露天風呂は今も健在。でもまったく雪の中。 直ぐ隣りに新しく建てられた河原の湯で木賊温泉独り占め。

江戸時代にタイムスリップ 下郷 下野街道 大内宿の家並

夕方 下郷の溪谷「塔のへつり」を見て、下郷 下野街道 大内宿 へ着いたのは もう夕闇の中。もう観光客も帰り、静かな家並みの上に月が出て、これも印象的な風景。



月明かりの中の下野街道 下郷 大内宿 2002.11.16.

大内の宿を後にした時はもう 真っ暗。

泊まるもよし 帰るもよしで出かけた奥会津でしたが、 結局 会津若松から郡山から常磐へ 海岸沿いを水戸に出て 柏に帰りました。

一度 ゆっくり歩いてみたかった奥会津 山裾の村々 館岩村の曲家集落 そして 塔のへつり温泉にも ゆっくり入って・・・。

家内にも一度見せたかった奥会津 紅葉と冬景色の混じった素晴らしい景色でした。

雪の中に立つ茅葺の大屋根を持つ曲家集落とその集落の道端にある墓場

奥会津でしか見られなくなった日本の原風景 静かな時の流れに 気持ちもリフレッシュ

行程約 700km 家内と二人

奥会津の景色や温泉を思い出しつつ

深夜真っ暗闇の常磐路を走りながら

2002.11.16. 夜 by M. Nakanishi

21.

白雪をいただく富士山 2002.12.23.

・ 足柄 金時山 ハイク ・
03fuji.htm 2003.1.1. by M. Nakanishi



足柄 金時山 乙女峠からの富士山 2002.12.23.

連休 三日目 ふっと富士山見たくくなって 足柄山 金時山に登ってきました。
12.23. 朝 7 時 目覚めると前日の曇り うっとおしい空から開放された真っ青の空が広がっている。時間はちょっと遅いが、絶好の山日和。
前週 東北道沿い 白銀に輝く日光・那須・磐梯山の山々を見た後だけに山へ行きたいと飛び起きた。ふっと 富士山が見たくなり、前々から一度 walk したかった足柄 金時山から 富士山を眺めよう。また、金時山の頂上の小屋には有名な「金時娘」の婆さんがいる。もう 随分 年をとられたことだろう。
御殿場線で御殿場へ 途中 車窓に見えるゆきをかぶった丹沢山が美しい。
国府津で御殿場線に乗り換えて 御殿場へ。



JR 御殿場駅から見あげる富士山

御殿場駅では、正面に富士山が真っ白な裾野を広げてそびえたっていました。まさに 街から見あげる富士山。こんなに近くでみたのは初めて。

御殿場の街をはさんで この富士山に対峙して東には足柄・金時山の山塊がなだらかな山を連れ、この山塊の乙女峠を越えるとそのむこうに箱根。

この足柄・金時山は富士山を見る絶好のポイントとして名高い。

御殿場はもっと 山の街と思っていましたが、正面に富士山の裾野が広がる明るい街。



御殿場から 東に聳える足柄 金時山 2002.12.23.



御殿場駅から 東側にそびえる足柄 金時山の山塊を箱根仙石原へ抜ける足柄山越えの峠が乙女峠
今は バスはトンネルでこの山塊を抜けてしまうので、峠の下で降りて稜線まで登って そこから 雪の岩尾根を金時山へ向う。

乙女峠のバス停からは 眼下に広がる御殿場の街の向こうに大きく裾野を広げた白銀の富士山が堂々とした姿を見せている。



国道 乙女トンネル近傍・乙女峠下より

山塊と御殿場の街の間に 薄っすらとかすみがかかり、幻想的で 神々しい富士山が正面に座り 素晴らし景色でした。



この乙女峠のバス停から 山越えの登山道を稜線の乙女峠に登って行く。

稜線までは晩秋の木々の中を登ってくが、峠に近づくとつれ、昨日降った雪が現れ、峠はすっかり 雪に覆われ、周りの木々には霧氷の花が咲いていました。また この霧氷の結晶が登山道両側の道端に落ち、キラキラ輝き素晴らしい。

稜線の乙女峠では残念ながら富士山は雲の中。

ここからは 道を左にとり 稜線上を久しぶりに 雪を踏みしめての walk。

多くの人が新雪を踏んで 金時山目指して先に登ったのであろう。しっかりとした雪道を視界は開けないが、霧氷を眺めながらの稜線歩き



乙女峠・金時山 稜線で

幾つかのコブを乗り越え 金時山に近づく。霧氷に包まれた木々の向こうに金時山の頂上が見えるようになると、今までのなだらかな登りから、岩稜が連なる狭い急峻な上り下りとなり、時折 アイスバーン状になった岩を鎖を頼りに登って行く。



やっぱり 軽アイゼンを買っておかないと春山は無理と感しましたが、まあ 何とか進める。



急に視界が開け、岩肌が深い雪に覆われた山頂直下に出る。

狭い頂上部には金時小屋。

360度の展望が開けると言われるが、残念ながら 正面の富士山は雲の中にまさに 雲の中にすっぽり入ろうとしている。



金 時 山

頂 上

2002.12.23.

南側にはもう、雲・霧がきてているが、霧の中に 箱根 仙石原から 芦ノ湖が薄っすら見えている。

金時小屋に入って 登山簿に記帳。金時娘のばあさんが元気に迎えてくれる。もう 67 才だそうで、今も一人 元気に小屋を切り盛り。

元気な声が響く。 甘酒をよばれて 降りてきました。

そのまま、仙石原へ下ろうと思っていましたが、頂上から仙石原への道はヘトリ雪のついた 岩尾根の下り。

頂上で軽アイゼン買うのも癪。

つるつる滑ると言われ、もと来た道を景色をたのしみながら、乙女峠まで引き返す。



金時小屋で



乙女峠に下りると もう すっかり 夕闇 乙女峠下にある御殿場市の温泉につかってゆったり

一度 ゆっくり 富士山だけを見る walk をしようと思っていましたが、ついに実現。麓から見あげる白銀の富士山の大きさに圧倒され、乙女峠からは左右に大きく裾野を広げる白銀の姿に見とれました。 金時山の稜線の霧氷と雪道も久しぶりで goo。

やっぱり 軽アイゼン買っとかな アカンと思いました。

雪がなかったら おそらく 多くの人が連なるハイキング コースなのでしょうが、お陰で静かな雪見物も楽しめました。

金時娘の婆さんにも会えたし・・・

今回 乙女峠から素晴らしい富士山がみえましたが、この金時山で富士山がみえないと味気ないことでしょう。富士山が見えるなら、素晴らしい ハイキングが楽しめる事請け合い。good な walk でした。

ところで 御殿場 もっと山間と思っていましたが、もう 東京圏 開けた街にビックリ。

街の中に東名高速のインターがあり、新宿-御殿場の高速バスが約 90 分で結ぶ。

今 人気のアウトレット モールがあり、随分多くのアウトレット モール帰りの人が この新宿行き的高速バスに乗り込まれたのにもビックリでした。

新宿から 90 分 御殿場も甲府・長野も交通の便が良くなって、もう 東京圏。 昔の知識では考えられぬスピードでも 新宿に近づくにつれ、 交通渋滞でバス進まず。

さあ 東京と東京圏端の街とさらに奥の田舎と・・・・・・・・

さあ どこが もっとも住み易いのか判らなくなってきました。

美しかった富士山を思い出しながら 渋滞の東名バスの中でそんな事考えていました

2002.12.23.

金時山の帰りの東名バス 渋滞の車の群れを眺めながら

by M. Nakanishi

風来坊 山歩き



2003年 3月

By M. Nakanishi

風来坊 山歩き 1999 - 2002

1. 『上越国境 利根川の源頭 谷川岳』
2. 尾瀬の秋 紅葉の尾瀬ヶ原 縦走
上越側登山口 鳩待峠 会津側登山口 御池小屋
3. 夏の尾瀬 尾瀬ヶ原・尾瀬沼
鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴 尾瀬沼 大江湿原 沼山峠
4. 高山植物の宝庫 早池峰山
5. 津軽富士 『岩木山』
6. 春の霧島連山 韓国岳登山
7. 初夏水芭蕉の尾瀬探勝
8. 夏の那須連峰 茶臼岳・朝日岳・三本槍岳 縦走
9. 晩夏 吾妻連峰の主峰一切経山へ
10. 北上盆地の背にそびえる「栗駒山」
11. くろがね 鉄山 紅葉の福島県安達太良山
12. 以北の最高峰 奥白根山
13. 冬の陣馬山 ハイク 陣馬山 景信山 小仏峠
14. 福島県 裏磐梯 残雪の五色沼 アルバム
15. 残雪の草津白根山と草津白根殺生河原からの展望
16. 花の月山 walk 高山植物が咲き乱れる山上の縦走路
17. 八甲田連峰 Walk 八甲田連峰縦走 と 草紅葉の毛無岱
18. 群馬県上毛三山 紅葉の「妙義山」の森を歩く
19. 白雪をいただく富士山 ・ 足柄 金時山 ハイク ・

1999年8月 関東 千葉県柏に赴任。 単身赴任の気楽さから山歩きをはじめました。
北関東・東北に近い柏。上野駅から早朝の新幹線に飛び乗れば大抵のところへは出かけられる。

深田久弥の「日本百名山」のビデオ・写真を楽しみ 地図を広げて次行く山に期待を膨らまして

山歩きの虫が動き出して、せっせと出かけました。

早朝 5時16分柏駅発のJR そして 奥会津へは東武特急

早朝に出て 帰りはいつも深夜 スピード登山でしたが、週末いつも 気分爽快で帰ってきました

もう 三角点踏みや高さをきそわず、花を見て 山の展望 縦走を楽しんで 温泉にも入って気楽な一人旅。 そんな 風来坊 山ばかりを集めました。

2003.3月 Mutsu Nakanishi

1.

『上越国境 利根川の源頭 谷川岳』

天神平 - 谷川岳



tngwa.htm by M. Nakanishi 1999. 8.5.

関東柏で再度生活することになり、まず第一歩として 8月5日 平日の休日 朝早く起きて、利根川の源流・源頭部上越国境に位置する谷川岳に登った。

夏のギンギラギンの日を期待したが、新幹線に乗って上越国境に近づくにつれ、雨。谷川岳はたえず雲がかかっていると聞いていたが、上毛高原に降り立った朝は霧雨。

登るのをあきらめ、水上か湯の小屋温泉にでも考えたが、無理をせず、ロープウェイに乗って 霧の中の高山植物を見に行くのも良いと考えて出発することにした。



スタート 谷川岳 ロープウェイで



天神平から谷川岳 頂上 へ



【 天神平から谷川岳へ 霧の登山道で 】

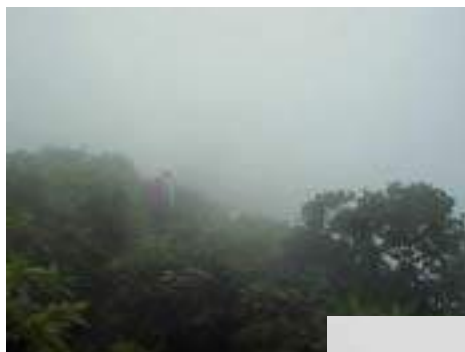


ロープウェイ天神平駅は霧の中。雨は上がっている。
『道はしっかりしているし、行ける所まで行こう』と木道を頂上に向かって歩き出した。
霧を被って見え隠れする木々の緑そして道脇の高山植物が本当に幻想的で美しい。
展望は開けないが霧の中に一筋続く木道と高山植物の美しさ。
名前は知らないが、『やっぱりきて良かった』と思うひとときだ。

【 幻想的な霧の林 】



【 登山道脇に咲く霧の中の高山植物 】



木道を過ぎて、尾根筋へ出て、頂上への登りに取りかかる。
周りの展望は利かないが、森の中を抜け、ガレの道を標識にそって登って行く。
風が非常に強い。ガレを登って幾つかのこぶを抜けると霧の中に赤い肩の小屋の横に出た。
ここから頂上トマの耳まで ひと登り。霧と風の中頂上へ



【 肩の小屋近く 】

頂上 トマの耳 と 肩の小屋

頂上トマの耳は霧の中。

全く展望きかず、風も強い。時たま非常に濃い霧がきて、全く数米先が見えない。

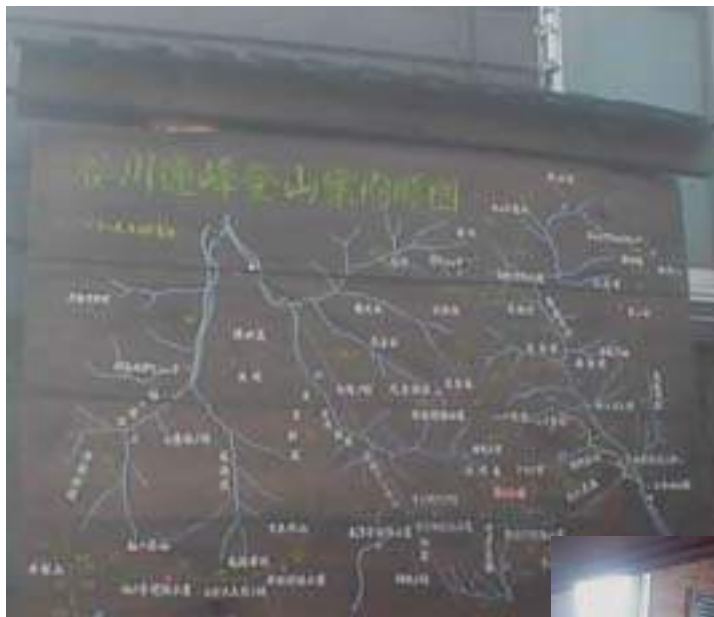
頂上にある標識で周りの確認をする。

霧の中、岩のひとつに座り、缶ビールを飲みながら、頭の中で利根川の流れをたどって見た。



利根川河口の銚子から 延々数百キロの長さの利根川の源頭にいる。

周りには以前に歩いた尾瀬・奥只見・越後駒そして日光の山々。そして南に山々を抜けると広大な関東平野が見える。



先日 柏の利根川の土手で 河口から100km の標識を見つけたが、波崎にいる時に『利根川河口から谷川岳まで利根川沿いをさかのぼろう』と決めてもう10年以上になる。

河口の銚子・波崎から潮来・霞ヶ浦 中流の柏・野田。そして 水の流れの綺麗な前橋と関東平野を抜け榛名山・白根の山々と赤城山の間を抜けて、渋川・横川へと上越国境へ入って行く。水上温泉そして 谷川岳とその山腹を貫く新清水トンネル。 やっと一本の線につながった。

「天気が良ければ・・・」とも思うが それは贅沢。

今度は筑波山に登って関東平野を一望したい。頂上で、少し待っては見たがダメ。

肩の小屋に逃げ込む。小屋の中は

平日と霧雨で人は少ないようだが、一杯。

中高年が非常に多い。中高年の登山ブーム。30分ほどして外にでるが、やっぱり風が強くダメ。縦走はあきらめ、もと来た道を引き返す。



肩の小屋からの下りで



頂上のこぶを降りると霧が晴れ、周りが見え出した。頂上の双子峰はやっぱり霧の中。

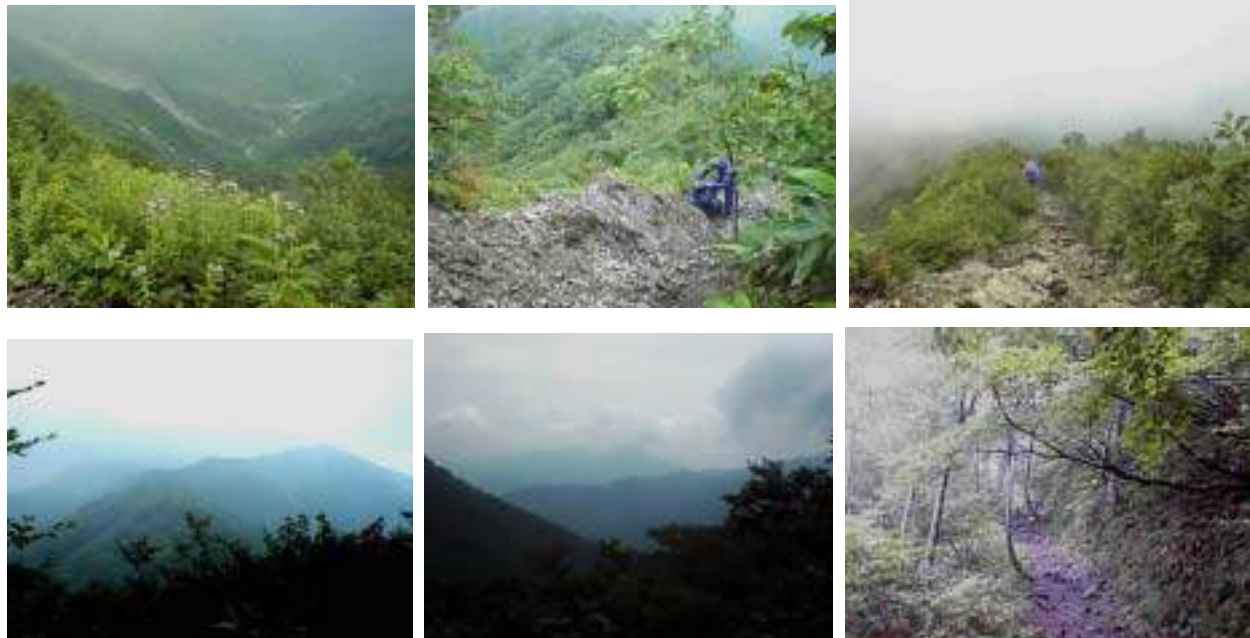
登る時は判らなかったが、足元のすぐ横で切れ落ちて谷底が見える。その横で綺麗な高山植物が咲いている。登りとは違った景色である。

相変わらず頂上は見えないが、谷川岳から一の倉岳へと続く荒々しい山腹が見え、また方向を南や西に向けると上越の山々が姿を現している。

今日は頂上からの展望が全く見えなかったが、関東平野を形作る上越国境利根川の源頭に有って上越国境の王者として周りの山々を従え、その荒々しい山容が知られているが、同時に多くの高山植物が咲く美しい山であった。

天神平までおりると晴れ渡り、周りの山々が見える。しかし谷川岳の頂上付近だけは雲。

人はこれが谷川岳の通常の姿と言うが、次回には天気の良い時に 360 度の展望を楽しみたい。



天神平から またロープウェイで下に降りて、アイスリートをほうばる。時間が早かったので、歩いてまた、土合駅へ。新清水トンネルの中の土合駅を見に行く。そして土合駅から上越線で清水トンネルのループを通過して水上へ。

雨と霧の中高山植物が本当に幻想的な霧の中に見え隠れする美しい谷川岳登山であった。

利根川の源流・源頭部の上越国境に位置する谷川岳・奥只見& 越後駒ヶ岳・尾瀬から中流部の前橋・野田・柏 河口の霞ヶ浦・東庄水門・銚子そして九十九里浜へ。

関東平野を形作った利根川の川筋がやっとつながり完成した。
今度は筑波山の上から 関東平野全体を眺めたい。
また、今度来るときには、天気の良い日に縦走と一の倉沢・マチガ沢を是非見たい。

1999.9.5. 水上温泉の湯につかりながら

谷川岳 登山道で見た高山植物 1999.8.5.



谷川岳の玄関口 上越線土合駅 1999. 8. 5.



上越線 上り土合駅



下り駅 新清水トンネル内 日本一の地下モグラ駅

利根川の源頭 谷川岳の玄関口 土合駅



一度は降り立ちたいと思っていた上越線駅にやってきた。最も今回は降りしきる雨の中、上越新幹線「上毛高原」駅から、上越線水上駅経由。



上越線『土合』駅舎とその周辺



【上り 土合地上駅】

水上を発って、上越国境へ向かった列車が長い長い新清水トンネルへ入る。

川端康成『雪国』の『トンネルをぬけるとそこは雪国……』の清水トンネルである。

トンネル内の豪音の中 列車はトンネルの中にある上越線『土合』地下駅に到着する。

上り線の土合駅は地上にある。



【下り『土合』地下駅】



改札口への462段の地下階段

真っ暗な駅におりると眼前に長い長いのぼり階段が見える。

一度は行って見たいところであったが、やっと土合駅に降り立った。駅の改札はこの地下階段を上りきった地上にある。谷川岳登山の第一歩である。462段の階段はかなり急勾配。息が切れる

階段を登りきり、地上に出て橋を渡ると登り土合駅ホームや改札口駅舎がある。

「ようこそ日本一のモグラえき 土合へ」の看板が目につく。

駅周辺には何もなく、唯一自動販売機が並び、水上・湯檜曾から谷川岳への道路が有るだけ。谷川岳の山々の緑と溪流の音が聞こえる。ほんとうにひっそりした山の中の駅で有る。

新幹線が開通し、上毛高原駅が観光・登山の玄関口となった今も、ここはやっぱり谷川岳登山の玄関口であることに変わりない。



下り線のループ式の新清水トンネル



新清水トンネルが開通する前の清水トンネルの時代には 地上に土合駅があったが、新清水トンネルの開通によって複線となり元の土合駅は上り線専用となった。

清水トンネルは清水トンネルに比べてトンネルが長く、土合駅(下り線)は新清水トンネル内となってしまった。

大学時代 Y君やO君が、技術実習を兼ねてこのトンネルの建設にたずさわっていたのを思い出した。

帰路 水上まで電車に乗ったが、トンネルとトンネルの合間に一旦下の方に見えた湯檜曾の川沿いの駅と鉄橋を電車が渡っている。巨大なループ式のトンネルである。

今は島根県の「おろちループ」など道路橋のループが観光地となっているが、日本の一時代を開いた大工事であった。

尾瀬・奥只見・奥会津や越後駒のことなど思い出しながら、水上で下車。

温泉にゆったり入って帰路についた。

1. 『上越国境 利根川の源頭 谷川岳』天神平ー谷川岳

〔完〕

2.

尾瀬の秋 紅葉の尾瀬ヶ原 縦走

上越側登山口 鳩待峠 会津側登山口 御池小屋



1999.10.16. oze.htm by M. Nakanishi

『夏の尾瀬を!!』が『秋の尾瀬を!!』に変わり、中々行けなかった紅葉の尾瀬ヶ原縦走を一日楽しんだ。

夏の緑と水芭蕉の尾瀬とは違った褐色にどこまでも広がる静かな尾瀬 もうひとつの尾瀬を楽しむことが出来た。

30年の時代の流れを感じた尾瀬周辺であるが、尾瀬ヶ原の木道から見る景色、コウゴウと流れ落ちる三条・平滑の滝。そして キャンプした桧枝岐の河原や桧枝岐の六地藏などもう道や周りは変化してよく覚えていないが、その地点だけは昔のまま。そこに立つと色々なことが次々と思い出され、時を飛び越えてしまう。

一人旅 きままに自然の良さを感じるひとときであった。

『赤田代』や温泉小屋周辺の湿原の泥が赤茶けているのが燧ヶ岳から流れ出る水に含まれる鉄分のためであること始めて知った。

会津では『たたら』の痕跡を聞いたことがなかったが、ここにも『鉄』の痕跡があった。

会津滝の原 今は会津高原駅。バスをおり、すぐそばの『会津高原温泉 夢の湯』浸かって今回の尾瀬縦走の場面場面を思い出し、長かった一日を振り返って帰路についた。

'99.10.16. 尾瀬からの帰途

真っ暗な中を走る野岩・東武電車の中で

スタート 上越側登山口 鳩待峠へ

尾瀬に行こうと幾度と無く準備したが、行こうと思う時はいつも雨。

もう今週が秋 気楽に行ける最後のチャンス。今回も秋雨前線が停滞している。前日も霧雨で夜行電車で行くのをあきらめ、早朝 行ける所まで沼田から行く事にした。

朝5時に起きたが、まだ 霧雨が残っている。6時48分上野発の新幹線に飛び乗る。上毛高原8時着。

ラッキーなことに曇っているが雨はやんで空が明るい。



尾瀬ヶ原 概略図



尾瀬ヶ原への車窓から

しかし、やっぱり尾瀬へ行くバスはなし。一時間待ち。

「8時15分沼田駅発大清水行のバスに間に合うか?」とにかく沼田駅へタクシーを飛ばす。これまた、ラッキーなことに駅前の信号で止まっているバスを見つけ、ドアを叩いて乗せてもらう。

どうやら、会津側まで一日で尾瀬ヶ原を縦断して、桧枝岐へ抜けられる目途がたった。

戸倉でバスを乗換えて鳩待峠に向かう。もうシーズン最後で天気もぐずっていることもあってバスに乗っている人も少ない。

登るほどに山の紅葉が鮮やかになって行く。

今日は至仏山も燧岳もガスで登っても何も見えないだろう。仕方なし。

尾瀬ヶ原をゆっくり歩いて、ヨッピー川・三条の滝へ出て、御池小屋へ行く事にした。

30年前テントを張ったあの幻想的な桧枝岐の村は残っているだろうか?

良ければ 桧枝岐村か木賊温泉で泊まってもよし。

「鳩待峠から御池小屋への尾瀬原縦走」そして桧枝岐村へ。一日の工程が出来あがった。

紅葉の中を約30分ほど走って 鳩待峠に到着した。

鳩待峠 山鼻へ



【 鳩 待 峠 で 】



鳩待峠の駐車場には車が一杯。

昨日から車で来て尾瀬へ入った人が多いのだろう。バスに乗った人は少なかったが、さすがに人が多い。

至仏山はガスの中。まっすぐ尾瀬ヶ原へ下って行くことにした。

尾瀬へ下る道の入り口から二条の木道が林の中を尾瀬ヶ原に向かってまっすぐ続いている。

今年の秋は暖かいので、真っ赤ではないが赤・黄色に色づいて美しい。

このあたりには松の木々が多く松の緑とのコントラストが美しい。





木道に落葉が落ちて急ぐとつるつる滑る。
 多くのグループが、中高年の一団で、カラフルな服装が決まっている。
 中に入りこんで歩くと何か違和感。周りの山の紅葉の写真を撮りながら山鼻へ。



【尾瀬ヶ原の西端 山鼻付近】

山鼻

尾瀬ヶ原

牛首



牛首

東電小屋

ヨッピー川

赤田代



赤田代



このあたりの湿原は燧ヶ岳の雪解け時に鉄分を豊富に含んだ土が水と一緒に流れ込み、湿原は赤い色をしており、赤田代と呼ばれる。このあたりで初めて知る鉄の痕跡である。



温泉小屋

ヨッピー川沿い

平滑の滝



裏燧ヶ岳

横田代

御池小屋登山口



御池小屋登山口

桧枝岐

会津高原駅 帰路へ

4時きっちりに霧の中の御池小屋登山口に着いた。



非常に冷たい霧雨。尾瀬ヶ原では曇天であったが、秋の尾瀬ヶ原が満喫できた。

この紅葉の時期に尾瀬へ行ったのは初めてであったが、人の多い尾瀬沼への道を避けたこともあって、水芭蕉と緑と水が至る所であふれている夏の尾瀬とは全く違った落ち着いた静かな秋の尾瀬が満喫できた。切符まで買って楽しみにしていた家内をやっぱり連れてきて

やれば良かった。来年は是非に。

あとは気ままな一人旅。沼山峠から降りてくるバスを待つが、霧の中、寒くて震えた。

尾瀬ヶ原から尾瀬沼 沼山峠に出る人が多く、バスは満員。

会津側桧枝岐川沿いをどんどんバスが下って行くが、ナナカマドの赤がスゴイ。

会津側の紅葉の方が上越側よりはるかに鮮やかである。寒い証拠で思いがけないおまけ。

紅葉の中をどんどん下って七入・大津岐 そして 桧枝岐の村へ。

桧 枝 岐 村



街道の両側に続く家並みがイメージしていたのと違う。頭に描いていた 30 年前の桧枝岐の村の様子と全く違う。

以前来た時には、道の両側にわらぶきの家並がつづき、家の前には防火用水とバケツが並び、何軒かごとに家の横街道に沿って墓が立っていた。砂利道の街道がひっそりと通っていいかにも『秘境落人伝説の村』の感があったが、今はもうわらぶきの家は一軒も見当たらぬ。

あの道の両側にあった防火用水もなし。綺麗に整備した墓が街道を見守っていた……。

福島県南会津」より

バスが民宿の家並みを通り過ぎて行く中に所々に墓が見えるが全くイメージが異なる。

街の中心部にはいり、あの良く雑誌に載っていた『赤い帽子を着た六地藏』が見える。

これだけは昔のままである。

満員の人が殆ど桧枝岐で下車。おそらく明日 桧枝岐から会津駒ヶ岳へ登るのだらう。

私は降りるのを止めた。昔のあの幻想的な家並みの印象が強く今回はバス。

考えてみれば無理もない。

通りぬけられなかった奥会津のドンツキが御池小屋を通過して銀山湖 沼田・上越へと道が開通。

また 奥会津の中心会津田島からは東京への鉄道が開通し、秘境であった湯西川・鬼怒川・日光を通り東京へ3時間弱で直結している。もう 秘境など存在しないことを実感した。

約1時間ちょっとで 会津滝の原 今は会津高原駅に到着。すっかり 日が落ちて真っ暗になってた。

バスをおり、すぐそばの『会津高原温泉 夢の湯』に浸かって今回の尾瀬縦走の場面場面を思い出し、長かった一日を振り返って 帰路についた。

確か 司馬遼太郎も『街道を行く』で、桧枝岐に入り、その街の強烈な印象を書いた文があったはず。帰って読み返してみたい。



'99. 10. 16. 尾瀬からの帰途

真っ暗な中を走る野岩・東武電車の中で

3.

夏の尾瀬 尾瀬ヶ原・尾瀬沼

鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴 尾瀬沼 大江湿原 沼山峠

2000. 7. 1. smmroze1.htm,smmroze2.htm by M. Nakanishi



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳尾瀬沼を背景に水芭蕉



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳

3.1. 尾瀬ヶ原 鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴

水芭蕉とタテヤマリンドウ・ワタスゲの群落



水芭蕉



タテヤマリンドウ



ワタスゲ



今年の梅雨は陽性 突如として雷と突風が吹き荒れる。柏ではピンポン玉大の雹が降りました。水芭蕉見に行こうと思いながら もう6月の末。最後のチャンス。

6.30.夜 23:50 分発の東武深夜特急〔尾瀬 EXPRESS〕申し込もうと電話するとこの電車すべて東武観光でその日の昼までに予約しないとダメ。いつも急なぼくではダメ。

また群馬側から…。しかし、昨年の秋はタクシーでバス追いかけました。上毛高原駅停まる一番の新幹線で行くと沼田駅 8:10 分発の鳩待峠連絡大清水行に乗りたいがまにわず。今回は水芭蕉見るのが主。なんとか尾瀬ヶ原から尾瀬沼へも行きたいし……。ほかに手はないか 時刻表とくびっきき。

朝 4:30 分に起きて 柏 5:15 分発 いつもの電車。上野上越新幹線一番 6:10 分発。高崎で降りて 7:19 分発水上行普通電車に乗換え、沼田駅 7:58 分着ぱっちりでした。

上越の山に近づくとつれ、やはり霧の中 山はみえず。また 霧の中の WALKING になりそう。鳩待峠でバスを降りると霧がはれ、青空・至仏山の残雪が緑の木々の間から見える。絶好の日和。雨・霧を予想して雨具色々いれたが どうも必要なさそう。



土曜日というのに意外と人が少ない。やはり水芭蕉はおそいのか ゆっくり山見ながら歩こう。
「尾瀬沼ひさしぶりに見えたらいいか 今日尾瀬ヶ原はさんで至仏と燧ヶ岳ばっちり見えそう」
昨年 紅葉の山の中を歩いたのとは随分違う若葉と濃い常緑の樹木の中を山ノ鼻に向かって歩きだした。



至仏山を背景に尾瀬ヶ原



ヒメシャクナゲ



イワカガミ

2週間前 早池峰のブナの樹海を歩いたが 同じ時期なのに随分緑の感じが違う。
やっとまわりを見ながら歩ける年になったのかなあ...と感じている。
山ノ鼻について パッと緑の尾瀬ヶ原が広がった。
うしろには どっしりとした至仏山 ずっと前方には薄く霞んで燧ヶ岳。印象の中にある夏の尾瀬ヶ原と随分ちがう。
「水がない。水がすくない.....」



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳

木道の両側は水びたしであちこちで水芭蕉の白い花が咲き、
ちよろちよろ流れる水の音を想像していたが.....

まっすぐに燧ヶ岳に向かって続く木道の両側には何処までも続く緑の絨毯。
緑の絨毯の中では高山植物が今をさかりと一斉に花をつけている。
花の終わった水芭蕉の葉の列が木道の際に見える。やはり 水芭蕉が少ない。
尾瀬ヶ原にももっと水芭蕉があったと思ったが季節が遅かった精もあるが.....
もっとも そのお陰かもしれないが、尾瀬ヶ原はいろいろな高山植物が花を咲かせ 夏のお花畑。
このお花畑を背景にした残雪の至仏山が美しい。この時期しか見られぬ光景かもしれない。

水芭蕉は尾瀬沼に行かないとどうもダメらしい。尾瀬ヶ原は高山植物の花の写真を撮りながら歩く。
早池峰の高山植物の写真と合わせると今年は随分多くの花を見たことになる。
名前を全くおぼえていない私。今度は帰ってきっちり照合して名前覚えようと思う。

青空の中、緑をいっぱい吸い込んだ静かな walking。木道のあちこちで「タテヤマ リンドウ」が青い小さな花をつけ群落を作っている。また その間には「イワカガミ」が、また水辺には名前を知らないが茎がクルッと丸くなった先に幾つか小さな鈴を付けたようなピンクの花がかわいらしい。

〔帰ってしらべると「ヒメシャクナゲ」〕

また 草花のバールに身を屈めてみるとこれら花の上に点々とワタスゲの群落がりっぱいに続いている。こっちは原には茜色の「ツツジ」が群落をつくっている。



ワタスゲの群落

水芭蕉の季節ではなく 夏の尾瀬の様相かもしれない。東電小屋の近くには「あやめ」の群落が花をつけ始めていた。また 1輪だけではあったが、「ニッコウキスゲ」もみつけた。もう目の前に燧が岳が迫っていた



ニッコウキスゲ



アヤメ

尾瀬ヶ原は時期がちょっと遅かったとはいえ「乾燥化が進んでいる」

昨年 水芭蕉を見に行った奥美濃のヒルガノ高原の湿原も乾燥化し、水芭蕉は観光用に栽培されていた。それを見ているだけに心配になる。

「人が多く入り、人の手で整備され出したことが、乾燥化をもたらしているのか?」

「地球の温暖化がこの乾燥化をまねいているのか?」

今後や白神山地のことが話題になり、
幾人かのジャーナリストの人達が言っていたのが、真実味を帯びて思い浮かんでくる。
「自然を残すには 人が入らない事が一番。
しかし 人が入らぬ 人が中身をしらぬ自然を残したって無意味」

「自然の心を深く知って 自然に入って行く この道をどう模索するか...」尾瀬でも随分議論
され、そのぎりぎりの方法として 今の方法が選択されたと思うが、
30 数年前の尾瀬の印象が強烈に頭の中にあり、それとの違いに本当に戸惑い心配になった。

尾瀬を歩いている時は知らなかったのですが、
「大昔 広く北半球に分布していた樹木や植物が地球の寒冷化によって生きてゆけなくなった時代に、日本に取り残された仲間の一つに「ブナ マンサク ヒバ コウヤマキ 杉 トガサワラ」など温帯針葉樹と呼ばれる樹木がある。 樹木ではないが、水芭蕉もそのような仲間」と歴史民俗博物館の辻誠一郎氏は言う。
「日本では見なれたブナや杉が地球上では日本近傍にしかない樹木だ」と。
(7月8日 佐倉歴史民俗博物館 セミナールで)

昔々はポピュラーだった種が、気候の変化に堪え、日本で延々と生き延びている。
水芭蕉もそんな仲間。
我々が惹かれるのもそんな中にあるのかもしれない。 2000.7.1. by M.Naanishi

3.2. 尾瀬ヶ原 から 尾瀬沼 へ

見晴・白砂田代・沼尻・尾瀬沼・大江湿原・沼山峠



見晴 十字路分岐



白砂田代の水芭蕉



白砂田代の水芭蕉

見晴から沼尻へは峠越えの山道。水が流れ出る沢の所々に水芭蕉が顔を出している。白砂乗越を過ぎくだりになり、白砂田代に出る。ここから沼尻まではもうすぐのはすだがまだ沼は見えず。この田代のふちの水場にも小さな水芭蕉。この田代の正面には堂々とした燧ヶ岳がみえる。尾瀬ヶ原とはまた違った光景。また 樹木の中へ入り、少し行くと平坦な沼尻平と尾瀬沼が現われた。



尾 瀬 沼

緑の絨毯。そして水辺には水芭蕉。やっと水芭蕉の群落に出会えた。でもやはり少ない。

尾瀬ヶ原からくらべるとこの沼尻平は人も少なく 本当に落ち着いてゆっくり歩ける。

湖面が周りの緑にはえて美しい。



沼尻尾瀬沼と水芭蕉

2時15分 三平峠の方へ行かず、反対側の湖岸を湖面と水芭蕉をながめながら尾瀬沼のふちを尾瀬沼ビジターセンターへ向かう。いよいよ時間との競争。4時10分 沼山峠発のバスに乗らないと檜枝岐から会津高原へは出られない。思った以上に登りがきつい。人に殆ど出会わないところを見ると反対側の湖岸を回った方が起伏小さく良いようだ。3時過ぎに大江湿原が広がるビジターセン

タ

のところにてきたが、人が非常に多い。

大江湿原にも点々と人の列。お花畑が美しい。

これで高山植物の咲く湿原ともお別れ。大江湿原越しに見える尾瀬沼、燧ヶ岳が美しい。



沼尻平から燧ヶ岳

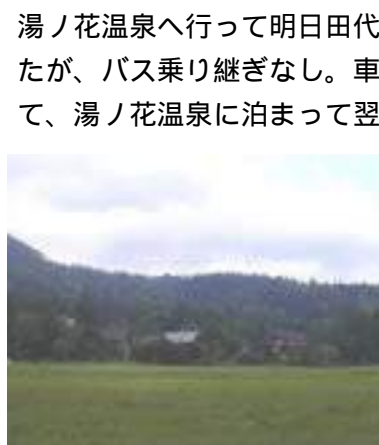
大江湿原からまた樹幹の中に入り、またひと登り。時計と競争ではきつい。みんな暢気そう。大半が御

池小屋の駐車場に車おいているので、遅れても良いようだ。

やっと沼山峠。峠は沼を見下ろせる山の中。バスの停留所まではまだ山を下らねばならぬ。ほいほい急いでやっとバス停。ちょうど 4時でした。



大江山湿原から 尾瀬沼



大江湿原 長蔵小屋周辺

湯ノ花温泉へ行って明日田代山へ登ることも聞いてみたが、バス乗り継ぎなし。車が無いとやっぱり前日出て、湯ノ花温泉に泊まって翌日登るしかなし。今回はあきらめ。そのまま会津高原駅までバス。例によって会津高原夢の湯の露天風呂に一人浸かって、それから東武電車で帰路。また、長い1日の尾瀬が原縦断コース。

ちょっとつかれましたが、沢山の花に出会え、ワタスゲの群落も素晴らしいかったです。尾瀬沼で水芭蕉にも会えたし。水芭蕉の減少と尾瀬ヶ原の乾燥化がちょっと心配。また 今回も昔世話になった会津田島の熊野神社訪問お預け。会津田島の祇園祭 勇壮で美しい山車がでる有名な祭という。



田代山行くときか 会津祇園祭に是非訪ねたい。夢の湯につかって 川音をききながら そんなこと考えていました。

また、「地球の上で 太古の時代の群生から 日本でやっと生き延びて来た水芭蕉」辻さんの話を聞いて一層尾瀬の環境保護・地球環境の保護が気になり出しました。

2000.7.1. M. Nakanishi



3. 夏の尾瀬

鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴 尾瀬沼 大江湿原 沼山峠
〔完〕



6月10日 西日本から関東にかけ、もう1週間ぐずついた天候が続いている。

東北の北の方へ行けば、雨は避けられるはず。「ひまわり」の雲の写真を眺めながら、念願の花の宝庫 早池峰山に出かけることにした。

梅雨の憂鬱さをさげ、思いきって朝4時30分に起きて 一番の新幹線に飛び乗り花巻へ。

予想どおり午前中は霧の中でしたが 念願の早池峰のお花畑 見てきました。午後には曇り空ながら風に霧が飛ばされ時々晴れ。素晴らしいお花畑でした。



1. お花畑 小田越登山道で

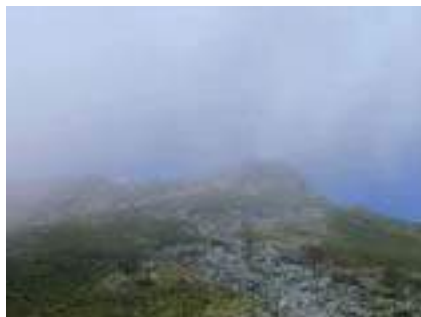


小田越の登山口から頂上へ霧の中の出発。

ゴツゴツの岩だらけの登山道稜線へ向かって直登ルート。

樹林帯をぬけると足元はお花畑。強い風に霧が時折吹き飛ばされ、頂上への山肌や周りが見えませんが、頂上へのゴロゴロした岩肌とそのまわりを取巻くお花畑の連続です。

ハヤチネウスユキソウはまだ少し時期が早くだめでしたが、黄色のミヤマキンパイ 白いチングルマコメコザクラが咲き乱れていました。岩場にはイワウメの群落があり登山道の両側は花の回廊といった感じでした。



2. 早池峰山 小田越登山道の高山植物群



2000. 6. 10.

3. 早池峰山 山頂



4. 早池峰山 ブナの原生林



やっぱり、期待をうらぎらぬ花の名山。今度は是非ウスユキソウを見たいと思っています。

また、下山後の小田越から河原の坊一岳部落まで、若葉に覆われた早池峰原生林もすばらしく、約1時間 原生林の中、樹海のwalkを楽しみました。

2000. 6. 10. by M. Nakanishi



早池峰山

2000. 6. 10.



5.

津軽富士『岩木山』



iwki.htm 1999.9.24.



【岩木山スカイライン】



【岩木山から 津軽半島を望む】

昨日の雨がうそのような快晴。台風と競争の今回の津軽。

9月24日早朝東京からの夜行バスで弘前着。すぐに岩木山の登山口嶽温泉行のバスに乗換え、嶽温泉に向かう。

今回の津軽 walk の目的 三内丸山縄文遺跡訪問の前に、是非とも津軽の象徴 岩木山に登り、司馬遼太郎の言う『北のまほろば』津軽平野を一望したい。

明日行く、津軽半島西海岸沿いの『縄文の道 十三湖一車カ一亀が岡一木造』をきっちり眼中に収める予定。岩木山は津軽半島の独立峰で、いつも頂上に一筋の雲を巻いているが、今日は展望が効きそうである。



● 津軽富士「岩木山」の登山口 嶽温泉よりスカイラインを通過して頂上へ

嶽温泉から岩木山スカイラインで八合目へ。八合目から頂上へ向かって山の南面を登る。距離は短い、直登に近い登りがつづき結構きつい。

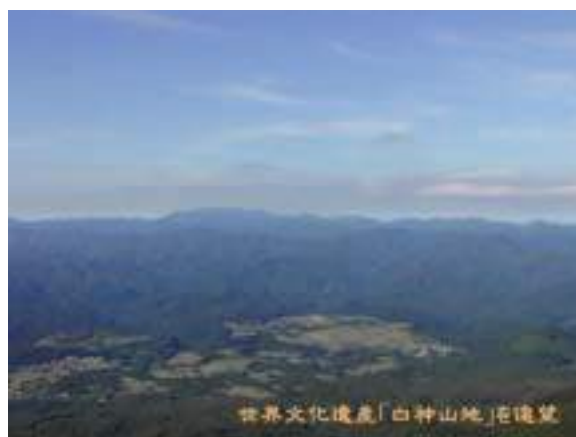
山を眺めつつどんどん高度を稼ぎ、展望が効く明るい山道で楽しい。

岩木山の西斜面越しに日本海に突き出た津軽半島の海岸線がくっきり見え、そのむこうには北海道の山も浮かんでいる。

後ろを振り返ると八甲田の連山・世界遺産に登録された白神山地の山々が見える。白神山地は特に緑が濃く、ブナの原生林がどこまでも続いている。すぐそこに見える。一度は是非、行って見たい。



津軽半島眺望



白神山地眺望

岩木山の尾根に出て、急なガレ場の急登をロープの目印を頼りに登ること約1時間登り始めて約3時間足らずでゴツゴツした岩が組み合わさった狭い頂上についた。

天候は晴れているものの雲が巻き、一瞬眺望が効いたと思うとすぐガス。めまぐるしく天候が変化している。



頂上へのガレバ

● 頂上 で

大きな岩の上に座って 展望の利くのを待つ。

ほんの一分少々であるが、ガスが切れると眼下に弘前市を中心とした津軽平野が広がる。

その向こうに日本海に突き出た津軽半島が直線的な海岸線のみせ、中央には陸奥湾から恐山が見える。

ぐっと北から右へ身を回すと八甲田の山々から十和田・八幡平の山々が見え、そして緑の非常に濃いブナ林の原生林 白神山地がみえる。ぐるっと 360度の展望だ。

岩木山山麓から津軽半島にいたる広い津軽平野には緑の森に混じって点々と池が見える。この岩木山北山麓は津軽 古代のたたら製鉄の故郷。今は 南側 嶽温泉からの道が岩木山への本道になっているが、昔はむしろ北側からの道が本道であり、鬼の住処 岩木山の鬼伝説が数多く残る。その向こう津軽半島にかけては縄文の遺跡が散らばる木造一亀が岡一十三湖へと続く『縄文の道』の道である。本当にすばらしい景観で、登って良かったと思う一瞬である。



頂上から 津軽平野 遠望

● 山麓の岩木高原で 岩木山神社とその街道



また、もときた道を嶽温泉に下り、嶽温泉から岩木山神社まで岩木山を眺めながら山麓の道を歩く。本当によく整備された美しい高原で歩いていて楽しい道である。ちょうど この時期 山麓に広がるりんご畑には真っ赤なリンゴが実り、またとうもろこし畑も収穫の時期。 街道のあちこちにこの地の名産『嶽キミ』を売る店が旗をなびかせている。

りんご畑岩木高原
嶽キミの直売
道端の店の親父が
蒸したのを食べろ
とくれる。実に甘
いとうもろこしで、
good。早速 宅急
便で家に送った。



後日談ですが、これはヒット。いつも送っても色々言う家族が今度は非常に喜んだ。お勧めです。

嶽キミをほうばりながら、美しい松林のつづく街道を移り変わる山の景色を楽しみながら約 1.5 時間山麓の高原を歩き、岩木山をご神体とする岩木山神社に至った。

岩木山はほんとうにのんびり山歩きが楽しめる山である。

今回は嶽温泉にはいれなかったが、次回は嶽温泉に泊まって白神山地と結んで歩きたい。



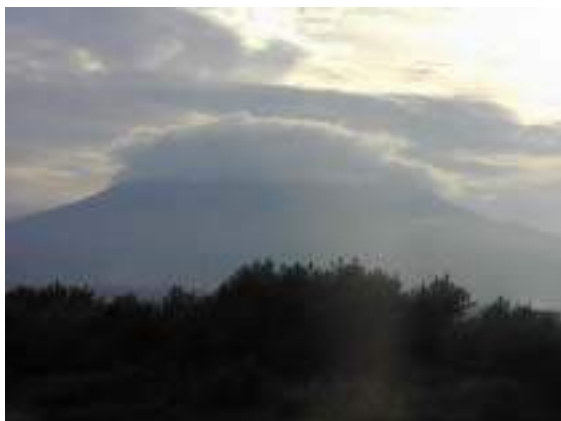
岩木山神社

岩木山神社に参拝して 門前の茶店のオバちゃんとしきり昔の話をして弘前へ戻った。

明日台風が来るが、十三湖へはどうしても行きたい。

五所川原から津軽軽便鉄道で太宰治の故郷「金木」まで行こう。

● 津軽軽便鉄道で金木へ



五能線から りんご畑越しに岩木山



津軽軽便鉄道より 津軽半島の山々

弘前から五所川原への五能線沿線には岩木山を背景にリンゴ林が延々とつづいている。

夕焼けを背景にレンズ状の厚い雲を頂上に巻いて、また岩木山がまた姿をかえていた。

津軽軽便鉄道に乗るのは約 30 年ぶり。かつての袴腰岳などの津軽半島の山々が夕暮れの中でシルエットとして浮かび上がっていた。

真っ暗になって 金木②駅に降り立ち、街の小さな温泉宿に泊まる。今日は私ひとりらしい。

台風がやってくる。夜半 台風の嵐が吹き荒れている。金木の小さな温泉旅館がぎしぎし揺れてる。

夜中中に台風は通過するだろう。

台風の音を聞きながら 一人せんべい布団の中 岩木山登山を振り返る。本当に来てよかった。

明日は十三湖から亀が森へ行って三内丸山遺跡へ



krsma.htm by M.Nakanish i2001. 5. 2, 3.

5月のゴールデン ウィーク いかがでしたか?

若葉が目にしみる絶好の季節到来.

私は家内と二人 新緑の九州霧島へ 念願の韓国岳へ登ってきました。

5月2日早朝に神戸を經って 霧島温泉にゆっくり浸かって翌日韓国岳に登って 美祢の家まで帰るスケジュール。

天候に恵まれ、韓国岳の360度の展望と両翼を広げ天空に峰を突き刺す印象的な高千穂の峰を楽しみました。

おまけに霧島にしかなく、5月初旬に咲き出し、ほんの1週間で散ってしまうという天然記念物「ノカイドウ」の花並びに黄色い葡萄の房のような花を沢山つけたこれも霧島にしかない満開の「キリシマミズキ」に出会い、本当にラッキーでした。



久しぶりに気持ちのいいゆっくりとした山歩きが楽め、リフレッシュ 壮快な気分でかえりました。

霧島といえば「ミヤマキリシマ」程度しか知らなかったのですが、弥陀ヶ原や韓国岳の登山道で沢山の人がカメラを構えていました。

4月に満開となる「キリシマミズキ」が今年の寒さで遅れ、「ノカイドウ」の開花時期と重なり、霧島にしかない珍しい二つの花が同時に見える本当に「まれな年」だったので、本当に幸運。



「ノカイドウ」えびの高原で 「キリシマ ミズキ」韓国岳登山道で 2001.5.3.

「霧島の宝物」「ノカイドウ」は薄桃色の蕾と白い花が混じり、満開になると真っ白となる。

韓国岳の登山口「えびの高原」の県道脇でちょうど咲き初めの薄桃色のまじった清純な花を咲かせて、見取れるような美しさでした。

また 韓国岳の登山道の灌木の林のあちこちで「キリシマミズキ」が黄色の房を木一杯につけ、空の青と樹木の緑を背景に秋銀杏の紅葉の風情。良く見ると上向いて咲かず、花が垂れ下がる珍しい光景です。韓国岳と大浪池とにはさまれた狭い野原には「ハルリンドウ」が一輪 また一輪 青い花を咲かしていました。まだちょっと時期的には早いようですが・・・・・・。花については全く予備知識なしでしたが実にきれいでした。

● 前日登った高千穂の峯 御鉢



高千穂峰 お鉢



高千穂河原登山口から 御鉢



御鉢中腹から 桜島眺望

韓国岳からの展望



頂上から 霧島の峰々



頂上付近から 九州脊梁の山々

念願の韓国岳。 快晴の頂上の直下には大きなお釜が切れ落ち、韓国岳から高千穂峰に続く霧島連山の峰々が見える。大きな火口が見える新燃岳 お鉢を抱え両翼を大きく広げたように見える神秘的神々しい高千穂峰。この 20 座を超える霧島の峰々をあっけにと取られて見取れていました。

眼下に広がる樹林の中には数々の火口池が眺められ、韓国岳のすぐ下には紺碧の水を貯めた大浪池がみえる。またはるか 南には桜島が見え、その横に小さな開聞岳が見える。

また目を北に転じるとはるか遠くに阿蘇や傾 九州脊梁山脈の山々が雲の上に浮いていた。

「今でないと歩けなくなる」とのちょっと脅迫観念にかられて、九州まででかけましたが、長年あこがれてきた山は期待にたがわず満足でした。



この若葉芽吹く樹海の中 露天風呂につかって鳥のさえずり 樹木の触合う音を聞く。

すっかり リフレッシュ。自然から活力をもらう。浮かれた気持ちではないが、すっきり気分が良い。これが自然の癒しの効果か・・・・・・？

ふっと 色々な事が樹海のやすらぎにさそわれて 頭にうかんでくる。

もう 60 近くになると最近はいつも仕事を終えた後の事と健康の事が頭にある。
高度成長を支え、日本反映を担った団塊の世代。今檜舞台から退場をよぎなくされている。。。。。
そんな中で、現役の第一線で先頭に立って道を切り開いてきた仲間が数人 今病氣と闘っている。

仕事にかけた情熱で病気を克服して欲しい。
なにも できないけれども ガンバレ ガンバレ と ただ祈るのみ !!
ぜひ 元気な顔をみたい。

まだ 退場しないぞ
明日もまた何くそで登るぞ
そんなことを考えながら
霧島温泉郷 丸尾温泉にて



2001. 5. 2 by M. Nakanishi

5. 1. 霧島 高千穂峰 御鉢



高千穂峰 韓国岳より高千穂峰



御鉢 高千穂河原より



錦江湾を望む 御鉢登山途中で

5. 2. 早朝まだ日の出前 霧雨の中 神戸を出発.

今日は雨。明日はれてくれれば
一度九州霧島へ行きたいと思いながら、中々行けず。
「もう 今行かないと動けなくなる。」との脅迫観念 にも似た気持ちで家内と二人出かけました。
山陽自動車道はずっと雨。 昼前に九州自動車道に入り、霧雨が降ったり止んだり。

10 数年前の同じ頃、鹿児島空港へ降り立った時、霧の中に浮かび上がった緑の高原と霧島連峰の峰々。

実に素晴らしい風景でした。

「新緑の中に 霧の中に浮かぶ山々。これが霧島の魅力。」と聞いていましたが、其の時から一度は登りたい山になりました。

熊本を過ぎる辺りから南の空に明るさ。雲の切れ間も見える。阿蘇は雲の中でまったく姿を見せないが、南へ行けば晴れてくるかも 熊本から人吉へ ハイウェイは山の中に入って行く。

トンネルを幾つか抜けて 鹿児島県・宮崎県の県境のあたり、南の空に青空も見える中、霧島のサービスステーションへ。ここからは緑の高原と霧島連峰の峰々が見えるはずだが、霧島高原から北西の宮崎県側へは相変わらず、真ッ黒の雲の中。今日はもう山は見えず、はやく温泉に入り、明日を期待





【九州自動車道から霧島えびの高原へ】

インターを下りてえびの高原の標識をたよりに霧島高原へ。

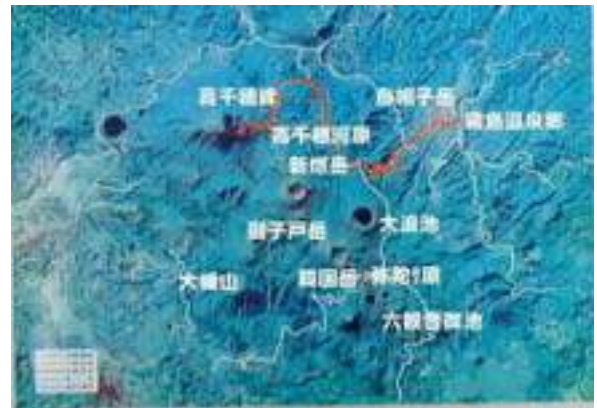
南の方、鹿児島方面には青空もみえるが、霧島は霧に包まれ、山々の山容も見えない。

霧島高原の中にはいり、「緑の回廊」となづけられた新緑の道が霧島高原の中をぐいぐい登って行く。

鹿児島県側南に道がまわると青空がみえるが、北に回ると霧の中。

新緑に目を奪われながら、宿のある霧島温泉郷をすぎ、

更に登る。霧島高原の北の端 韓国岳の登山口 えびの高原まで一度登ろうと考えたが、霧の中。あきらめて 青空の見える南側を高千穂河原へ。



高千穂峰の登山口高千穂河原は強い風に雲が飛ばされ快晴。

高千穂峰の御鉢が、青空を背景にくっきり見える。

もっとも背後の高千穂の峰は雲の中、全く見えないが……。

午後2時過ぎ、駐車場には高千穂へ登ってきた団体登山の中高校生など多くの登山客で一杯。

正面には霧島神宮の鳥居を前に、御鉢が

赤茶けた堂々たる山容を見せている。

時間的にはちょっと遅いが、登れる。急いで山靴に履き替え、鳥居脇の登山口から真っ直ぐお鉢の縁までの急登の登山道を歩き出した。



道は赤茶けた軽石だら

けの道。灌木帯を抜け、急騰の登りにかかる。

軽石がズルズルすべって非常に歩きにくい、ぐんぐん高度が稼げる。強い風に乗って 時折 霧が吹きぬけて行く。振返ると今

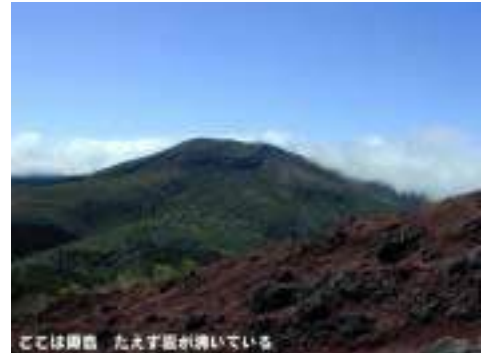
登り始めた高千穂河原が緑の林の中にぽつりと見え、幾筋かの湯煙をあげる温泉が樹林帯の中 ポツポツと見る。

その手前北の方へ目を向けると今取りついている御鉢の背後にある大きな山塊が雲の流れの中に見える。また 南には霞んではいるが、錦江湾・桜島がグリーン ベルトの遥か向こうに見え、桜



島のすぐ東に小さくポツンと開間岳の姿も見えている。

北は雲に包まれている事もあって 新燃岳・韓国岳へと続く霧島の稜線は見えないが、緑あふれるすがすがしい登山となった。



● 高千穂峰 御鉢山腹からの眺望 2001. 5. 2.



上へ登るほどさらに急登になると共に 軽石のザレ道は塊が大きくなりゴツゴツしてズルズル滑る。

風と霧が山の姿を一瞬隠しては、また見える。御鉢の縁に立てば高千穂峰は見えるだろうか

お鉢の縁に近づくとつれ、霧と風が強くなり、縁が見えない。霧と風の中を歩く。

御鉢の縁にやっと到達したが、猛烈な風と霧。吹き飛ばされぬようゆっくり歩く。

今まですれ違っていた人達も全くなり、霧の中を高千穂峰に向う。風を避けようにも岩陰なし。反対側の御鉢の中も全く見えぬ。時折 うっすらと前方にぼんやりと山の形が現われたと思うとまた霧にかき消される。15分ほど御鉢の縁を歩き、高千穂峰への下りのところへ来たが、山はやはり全く見えず。

おそらく 高千穂峰までいっても風と霧の中。時間も遅く、明日を期待してもと来た道を引き返す事にした。



高千穂の峰 御鉢の縁で 2001. 5. 2.

御鉢の反対側高千穂峰から新燃・韓国岳への宮崎県側だけが霧の海。残念ながら高千穂峰見る事できず。御鉢の縁を下にちょっと降りると先ほどの風と霧がうそのようなもう明るい晴れ渡った空。もう、下る人もちらほら登る人も殆どなく、錦江湾 霧島高原を見下ろし まわりの風景を楽しみながらゆっくりと下る。

途中 急いで登ってゆく人に出会い、「高校生が一人もう2時間以上下山して来ない」と聞く。御鉢の縁が猛烈な霧と風であった事 何処かで風と霧さけているのであれば良いが・・・と気遣いながらの下山。ヘリコプターが飛んで来て頭の上を舞い始める。高千穂河原の駐車場には救急車・警察ほか多くの人が詰めているのが見える。

駐車場についた時 見つかったとのトランシーバー交信聞く。やれやれである。

御鉢の直下にひとつたつポツンと山を下ってくる小さな人影が見える。どうもそれが行方不明だった人らしい。

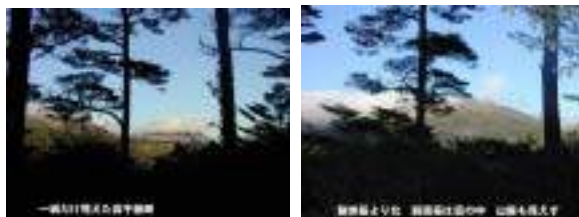
ヘリコプターが其の方へ向い、駐車場で見上げている人達もほっとした気分がみえる。

御鉢の上の猛烈な風と霧を思い出しながらほっとし、明日の山行きに気分も軽くなる。

再度 えびの高原の方へ車をはしらせるが、ヤッパリ、途中から見る高千穂峰は雲を巻き、えびの高原は霧の中。

明日 晴天になる事を期待しつつ、今日の宿泊地 丸尾温泉 旅行人山荘へ向う

2001. 5. 2. 霧島高原 高千穂河原にて



霧島温泉郷 丸尾温泉から霧島連峰 2001. 5. 3.

5. 2. 霧島温泉郷 丸尾温泉



霧島高原のいたる所で湯煙があがる中 大きな温泉街がある林田温泉を少しさがった丸尾温泉へ。



今日の宿は「旅行人山荘」。
インターネットで前日搜した宿でまったく予備知識なし。どうせ 温泉街の街中の小さい宿と想像していたが、まったく予想外。新緑の森の中、広い敷地内 自然林の中に建

つ静かな宿。眼下には鹿児島錦江湾・桜島が一望され、ほんとうに満足の宿。
夕間の中 桜島を一望できる湯舟につかってご機嫌。
ホテルの人に林の中の露天風呂を勧められ、明朝早くに予約し、明日の晴天を期待して早くに眠る。

5.3. 早朝まだ日の出前 快晴。飛び起きて

山の景色を見る。

朝もやの中 錦江湾が見える。残念ながら 山の方は部屋からは見えず。露天風呂に行く準備をしてまずは屋上へ上がる。

噴出する湯煙のその背後にまだ真っ黒の姿で新燃岳そして 両翼を広げた高千穂峰が見える。

晴天である。新燃から反対側は前の山に隠れて良く見えないが、韓国岳への稜線がはっきり見える。

雲一つない霧島連峰の稜線 そして その前には点 在する霧島温泉郷の湯煙が見える。

新燃岳の頂上の背後がすこし明るく幻想的な山の景色「山の温泉はこうでなければ・・・」

今日は1日素晴らしい朝である。



丸尾温泉からの霧島連峰の夜明け 2001.5.3



下の庭において 露天風呂へ。
これがまたビックリ。
広い庭の林の小道を森の中には
いってゆくと森の樹木につ
つまれた中に大きな露天風呂
があり、それも 一人占め。

風にそよぐ樹木の音 鳥のさえずりを聞きながら、本当にゆったりした気分。

ほんとうによい宿にあたった。こんな中になると 色んな事が頭を駆け巡る。

林のあちらこちらから鳥の鳴き声が聞こえている。今日は最高の登山日和。

朝靄の林の中 ゆったり気分を振りきって、韓国岳登山へ。

一番の朝食を早々にえびの高原の登山口へ向う。昨日の霧の中がうそのように晴れ渡り、新緑の緑が美しい。また、樹木のあいだから、霧島連峰が見え隠れしているが、晴れ渡った空を背景に稜線がくっきり見えている。

えびの高原の登山口からは 堂々とした大きさと韓国岳が朝焼けの中 眼前に見える。

素晴らしい登山日和。やっと見えた韓国岳。 念願の霧島 韓国岳登山をスタートした。



朝もやの韓国岳



夜明け早朝の高千穂峰えびの高原への林道

早朝 えびの高原 韓国岳登山口で 2001.5.3.

5. 3. 韓国岳登山 えびの高原登山口ー韓国岳ー大浪池ーえびの高原



霧島連峰 地図



韓国岳 えびの高原から



大浪池より 韓国岳



1. えびの高原 韓国岳登山口で

5.3. 早朝 快晴の空に幸運を喜びながら、丸尾温泉を出発し、韓国岳の登山口えびの高原へ。新緑の緑が本当に美しい。昨日とはうってかわって、樹木の間から霧島連峰の峰峯が垣間見える。絶好の登山日和。

早朝にも関わらず、えびの高原にはもうハイカーの車が並んでいる。正面樹林帯の向こうにはずっしりとしたボリューム感のある韓国岳が見え その右手には 硫黄岳 そして あちこちで噴煙があがり、硫黄くさい。 噴気のでる周辺は草木がなく白く土が露出している。

もっと俗化した場所と想像してきたが、良く整備された気持ちの良い高原である。



えびの高原全景

韓国岳登山道より 右中央賽の河原



えびの高原

念願の韓国岳。

灌木帯の中を周囲の山や火山帯特有の景観を眺めながら登山口である韓国岳と硫黄岳の鞍部までのスタートである。天気も良いし、何処まで行くか一応 韓国岳に登ってそのまま韓国岳の山腹を真っ直ぐ大浪池におりて、えびの高原へ戻る予定。本当は新燃岳・高千穂峰まで縦走路を歩きたいところであるが、えびの高原へ車を取りに戻れないので断念。(下山後、新燃温泉に行っただが新燃岳まで縦走 新燃温泉に下りタクシーを呼ぶか 新燃温泉からスタートして逆に縦走してえびの高原に下りればタクシー捕まえらまえられた)



韓国岳 登山口 賽の河原へ



賽の河原(硫黄岳と韓国岳の鞍部)で

噴気がもくもくと上がる地獄谷を見ながら、ほどなく硫黄岳への分岐賽の河原 韓国岳の尾根への取りつきに到着。ふりかえると噴気で草木が「えび色」になったえびの高原全景そして背後にかつての霧島噴火の跡に出来た丸い池がポツポツ点在して見える。えびの高原にいる時には見えなかったが、少し高度を移ぐと池が見えてくる。

韓国岳1合目の標識から登りの尾根にとっついた。高千穂峰 御鉢は取っ付きから赤茶けた軽石のザレ道で歩きにくかったが、こちらの方が少し歩きやすい。



韓国岳の登山口

2. 賽の河原登山口 - 韓国岳へ

灌木の中の登山道を登って行くと登山道脇で黄色く垂れ下がった葡萄状の花を幾つもつけている木にカメラを向けている人に出会った。「キシマ ミズキ」という。韓国岳に登るのが目的ではなく、この花の写真に取るのが目的という。

霧島にしかない独特の花を五月初旬につける霧島の春を象徴する 珍しい花と聞いた。そのように聞くとなるほどその花の姿といい、枝からの垂れ下がり方 そしてあざやかな黄色に色づいた花。今までに見た事もない木で青空に黄色が良く映える見事な花である。



「キシマ ミズキ」

ちょうど満開で一番きれいな時に見かけたわけであるが、急いでいれば ずっと季節を忘れ、秋の銀杏とでも思って見過ごしそう。 登山道のスタートからラッキー。

どんどん登り高度をかせぐ。灌木帯を抜ける辺りから、ゴツゴツの赤茶けた石コロが転がった道になる。振返るとまわりの緑から取り残されたように白いえびの高原 そして幾つかの火口にできた池が深いコバルトブルーに輝いているのが見える。



また北側遥か遠くには雲の合間に阿蘇・傾山など九州脊梁山脈の山々が浮かんでいる。

背後にぽっかり浮かんだ九州脊梁の山々



道は更にゴツゴツした岩肌の山腹の道となり、高度を更にかせきながら南側へ廻り込む。

今まで見ていなかった南側の景色が見え出す。

韓国岳の山腹のむこうに新燃岳・高千穂峰へと続く霧島の峰峯が見えだし、稜線が近いことが解る。また眼下には大きな火口湖大浪池が緑の森の中に満々とコバルトブルーの水を貯めて見える。さえぎる物のない素晴らしい景色である。

3. 韓国岳の南側へ廻り込んで お釜の縁へ



大浪池



お釜の縁で バック白鳥山



高千穂峰・新燃岳

まわりの景色をたのしみながらのゴツゴツした岩の道を登るうちに急に前方が切れ落ちたお釜の縁に出た。韓国岳のお釜がのぞきこめる。お釜の縁をみながら韓国岳の岩だらけの頂上へほどなく到着。

3. 韓国岳 頂上で



快晴の頂上の直下には大きなお釜が切れ落ち、一方では 韓国岳から高千穂峰に続く霧島連山の峰々が快晴の空をバツに連なって見える。

大きな火口が見える新燃岳 お鉢を抱えて両翼を大きく広げたように見える神秘的な高千穂峰。この 20 座を超える霧島の峰々をあっけにとられて見取れていました。

また、眼下に広がる樹林の中には数々の火口池が眺められ、韓国岳のすぐ下には紺碧の水を貯めた大浪池がみえる。はるか 南には桜島が見え、その横に小さな開聞岳が見える。また目を北に転じるとはるか遠く春霞の中に阿蘇や傾など九州脊梁山脈の山々が雲の上に浮いている。



韓国岳 頂上からの霧島連峰 2001. 5. 3.

えびの高原から約 2 時間の快適なハイキング。

「今 今年でないと歩けなくなる」とのちょっと脅迫観念にも似た気持ちにかられて、九州まででかけましたが、長年あこがれてきた山は期待にたがわず満足でした。

5. 頂上から大浪池へ 下山



幾つかのグループが縦走路を新燃岳めざして出発してゆく。

もう少し縦走路歩きたい気持ちをおさえつつ、頂上からダイレクト直線的に麓の大浪池へと続く道へ入っていった。本当に文字通りの直登ルートの下り。幾重にも重なった森の中へ一直線に飛び込んで行くきつい下りである。。一気に大浪池まで下り、其処から 森の中 韓国岳の麓をえびの高原までトラバース。鳥のさえずりをききながらの森林浴。



大浪池周辺で 2003. 5. 3.

2 時間弱でえびの高原の県道へ。早朝から更に車・人が増えている。県道脇の薄裳も色の花をつけた小さな木に沢山の人がカメラを向けている。



知らなかったのですが、霧島の宝物「ノカイドウ」桃色のつぼみをつけ、1 週間ほどで純白の花になり散る霧島の宝ここえびの高原にしかない花。この花に出会えるのはほんの1 週間。ほんと初々しい清純な美しい花で、これを目当てに多くの人々が来られるのも頷ける。本当にラッキー。

今年は春が遅れ 例年4月下旬に咲くのが5月初旬にずれ、春の霧島の象徴「キリシマ ミズキ」と重なり両方が同時に見れる珍しい年であったと 5.3. の地元の新聞が報じているのを後でました。

それにもあやかる事が出来ました。

下山後 噴気をもくもくとあげている新燃温泉へ戻り、乳白色の熱い温泉に入りました。まわりの緑に映えた乳白色のお湯に浸かって 韓国岳の頂上からの景色を思い返していました。

まだ昼過ぎ 鹿児島へゆくか 日南の城下町「飫肥」・宮崎へゆくか
まあ 足の向くままきままな旅 あとで走りながら 考えよう



2001. 5. 3. 新緑がはえる乳白の新燃温泉の湯に浸りながら

韓国岳のふもとに咲く

天然記念物「ノカイドウ」と「キリシマ ミズキ」そして「ハルリンドウ」

2001.5.3.

nkido.htm by M.Nakanishi



天然記念物 「ノカイドウ」

春を告げる 「キリシマハナミズキ」

春白に淡い桃色の混じった花をつけ、霧島を代表する天然記念物「ノカイドウ」と黄色い葡萄の房のような花を垂らし春を告げる花「キリシマ ミズキ」。
霧島でしか見られない珍しい花を同時に韓国岳やその麓で見ることが出来た。

あとで知ったのであるが、霧島を代表する春の花『「キリシマ ミズキ」と幻の花「ノカイドウ」の両方の花を同時に見られるのは非常に珍しい』という。滅多にないことで本当に運の良い事と聞きました。

2001.5.3. 霧島 えびの高原にて



大浪池で見た春リンドウ

smoze.htm by M.Nakanishi



(東武 Star Light Express 会津高原駅 夜明け 6.9. am 3:30)

1. 水芭蕉・花の尾瀬ヶ原・尾瀬沼 2001.6.9.
2. 初夏の尾瀬ヶ原 探索スナップ 2001.6.9.

1. 水芭蕉・花の尾瀬ヶ原・尾瀬沼 2001.6.9.



"STAR LIGHT EXPRESS 尾瀬" 東武 尾瀬夜行 23:50

6月8日 夜 霧雨の中 家内と二人で初夏の尾瀬・水芭蕉を目当てにでかけました。何拾年振りか 満員の夜行電車にのって 電車の走る音を聞きながら床に寝て行きました。まったくの学生時代に戻った華やいだ気分になっていました。

北千住を深夜に出て鬼怒川沿いを奥日光から奥会津へ。ふっと目が覚めると午前3時半 会津高原着。まだ日の出前の白みかけた夜空にお月様。梅雨空の雨を予想していましたが、快晴で絶好の日和。朝4時半 尾瀬散策の会津側の入山口沼山峠へバスで 冷たい澄んだ空気の中、夜明けの山々が若葉に映えて美しい。

今日は会津側から燧が岳の山裾を尾瀬沼から尾瀬ヶ原へ一気に尾瀬ヶ原を縦断して群馬側鳩町峠へ下りる強行軍の予定。人ごみを避け、一気に尾瀬沼と尾瀬ヶ原をハイクする欲張った計画。

去年は一人逆から行ったのですが、今年は家内と二人。去年ほぼ同じ頃 東武夜行のチケットも買ったのですが、台風接近の雨でやむなく中止。家内にとっては2年越しの尾瀬の水芭蕉です。

沼山峠から大江湿原・尾瀬沼へ



朝 6 時 冷たい山の空気を一杯吸い込みながら沼山峠を出発。峠を下って大江湿原へ。
朝靄の中 静まり返った森に時折うぐいすの鳴き声。一生懸命練習しているのか 色々な鳴き方が聞こえてくる。30 分も歩くと大江湿原が森の向こうに見えてきた。
昨年 ニッコウキツゲの夏の夕 長い人の行列だった大江湿原も今日はまだゆったり。
あちこちの湿地に水芭蕉が咲いてすがすがしい朝である。大江湿原の向こうに尾瀬沼とその辺に長蔵小屋が見えている。
家内は湿原の中をぬって尾瀬沼へ流れる小さな小川のほとりに咲く水芭蕉の群落や湿原の草花に歓声をあげている。
桧枝岐から沼山峠へのバスの途中 残雪をいただいた燧ヶ岳の頂上がみえていたが、今は雲の中。

先日友人から亡くなられた長蔵小屋の平野長英さんが京都で勉強された仲間の一人と聞きました。こうして尾瀬を歩いていると尾瀬の環境を守るのに精魂を傾けられた努力で美しい尾瀬が守られている事に感謝すると共に一種の後ろめたさも感じています。
年々尾瀬も乾燥化が進んでいるのか 大江湿原・尾瀬沼そして尾瀬ヶ原でも水芭蕉の群落が年々小さくなっているの感じがして気がかりです。
尾瀬沼の端に建つ長蔵小屋



尾瀬沼のほとりを水芭蕉を見ながら沼尻へ そして 尾瀬ヶ原 会津側の入口見晴へ

尾瀬沼のほとりに咲く水芭蕉と森の中にこだまするうぐいすの鳴き声を聞きながら長蔵小屋の反対側の湖岸の沼尻へ。午前 8 時 沼尻の休憩所着。思ったより早くここまで来れた。



家内は休憩所の人に尾瀬の花の図鑑を薦めてもらっている。
沼尻からはまっすぐ燧ヶ岳へ登るルートがあるのですが、ま



だ燧ヶ岳の上半分は雲の中全体は見えず。
 そのまま 尾瀬ヶ原の端 見晴へ向かってまた森の中へ
 入っていく。さすがに尾瀬ヶ原からこちらへ向かってく
 る人が多くなる。山道の沢のあちこちにも水芭蕉が咲い
 ている。森の中のアップ ダウンを幾度か繰り返している
 うちに山小屋とその間からぱっと広がる尾瀬の湿原そ
 してその向こうに至仏山が不意に見えた。尾瀬の北の入
 り口見晴である。やっぱり沢山の人が小屋の周りにいる。
 道の両側の小屋の間からずっと広がる尾瀬ヶ原とその向
 こうに見える至仏山が見える。何度来てももここはいい。



尾 瀬 ヶ 原 散 策



朝早い為か思ったより人は少ない。予定より随分早く尾瀬ヶ原に入れたので、コースを変更。
 尾瀬ヶ原のメインルートを見晴十字路から竜宮小屋ー山の鼻へ尾瀬ヶ原を縦断して群馬側鳩町峠に下り
 る予定であったが、山の鼻の手前三叉路まで行って逆戻りしてヨッピー川の方から温泉小屋へ行き静かな
 森の中を燧ヶ岳を巻
 を会津川御池口へ下
 メインルートは随分
 し外れると静かに花
 ながら尾瀬ヶ原を歩
 沼尻の小屋で買った
 っ引きで歩いている。



いて燧裏林道
 ることにした。
 人が多いが少
 や水芭蕉を見
 ける。家内は
 花の図鑑と首

水芭蕉・立山リンドウ・ヒメシャクナゲ・ゴゼンソウ・チングルマ・ショウジョウバカマ・ゴゼンタチ
 バナ・エンレイソウ・ミツガシワ・リュウキン
 カほか数多くの高山植物に出会えました。



どこまでも続く湿原の正面には至仏山また背
 後には燧ヶ岳が姿を現している。尾瀬ヶ原を
 はさんで両方の山の山頂が一度に見える幸運。

また尾瀬ヶ原の真中では「水をたたえた池澮
 に水芭蕉の群落 其の後には至仏山」まさに
 写真で見る風景そのままの水芭蕉の群落にも

【尾瀬の高山植物 2001.6.9.】



ヨッピー温泉小屋一段吉新道・燧裏林道一 上田代・横田代一会津御池口へ



幻の花「トガクシ ショウマ」

尾瀬ヶ原の北端を沿って流れるヨッピー川に沿って温泉小屋から樹林帯の中の段吉新道を会津側へ下る。尾瀬ヶ原の人影がうそのように人のいない静かな森の中を燧ヶ岳の裏側に点在する田代へ。ヨッピーから東電・温泉小屋の中に入ると静かな森の中。アップダウンの厳しい道を燧ヶ岳の山腹の巻き道にはいる。



はるか下の方には平滑・三条の滝から新潟県側奥只見へ流れるヨッピーの川音がかすかに聞こえる。1時間ほど森の中を歩いたところから新潟側へ川を下ってゆく道と燧ヶ岳の裏側へ回り込んで行く燧裏林道へと入る。新緑のブナがまぶしい。いくつかの沢筋を越えたところで一人熱心に写真を撮っている人にであった。沢の流れの崖にからまった細い木に桃色と紫の中間色の小さな花が5つほど咲いていた。「トガクシショウマ」と言い、尾瀬ではここにしかない花で非常に珍しい花という。先日霧島の山中で声をかけ 霧島の珍しい花を教えてもらったのに味をしめ、できるだけ声をかける事にしているが、ここでも珍しい花に出会えた。この森の中を走る燧裏林道には森と森の間をつないでいくつかの田代が点在している。森に囲まれた湿原には小さな池澮が点

在し、そのいくつかには水芭蕉や黄色いチングルマの群落がある。右側には燧ヶ岳の山腹が迫り、反対側遠くにはべったりと雪をつけた平ヶ岳そして其の隣さらに奥に見えるのは越後三山か？ 尾瀬ヶ原とは違った静かな山の湿原である。

このあたりは昨年もう前がまったく見えない霧と風の中を下っていったところ。

上田代・横田代の湿原を越えさらに北へ下ってゆくと群生した水芭蕉で埋まった御池の湿原。御池の湿原のすぐ傍が会津御池口 今回の尾瀬WALKの終着点。午後3時過ぎ。



沼山峠から下ってくるバスに飛び乗って、桧枝岐から館岩村を通過して会津高原駅へ。

すばらしい尾瀬探索の一日となりました。



尾瀬ヶ原メインルートをそのまま進み、行列の山の鼻から鳩町峠へ下ることと思うと燧裏林道へまわったのは天候に恵まれたとはいえ正解でした。

家内ははじめて見る尾瀬沼・尾瀬ヶ原のスケールに驚き、水芭蕉そして咲き誇る沢山の高山植物花にめぐまれ、次は秋と張り切っています。

本当によい時に天候に恵まれ、尾瀬を歩けたことラッキー。

もっとも いつも立ち寄る会津高原駅のすぐ上の温泉「夢の湯」に誘った時には「もう足が動かん」といっていましたが・・・・・・・・

朝6時に沼山峠を出発して約10時間。まあ、本当によく歩きました。最後は足がガクガク・・・・・・・・朝もやの中 水芭蕉と出会えた大江湿原。

そして 静かな尾瀬沼のほとりうぐいすの声を聞きつく湖岸の山道を水芭蕉を見ながら尾瀬ヶ原へ。至仏山と燧ヶ岳の山を両端に抱き山の人々が歩いているにもかかわらず、ごま粒ほどにしか見えず、自然の圧倒的な広がりを示す尾瀬ヶ原。其中で静かに咲く数多くの高山植物・水芭蕉。

尾瀬ヶ原の探索 本当に「これが水芭蕉の尾瀬だ」とゆっくりと尾瀬の初夏の草花を堪能できました。

山の鼻の手前 三叉路から群馬側へ道を反転しててヨッピー川沿いに新緑のブナ林の続く燧裏林道へ。雪を抱いた平ヶ岳など奥只見の山を遠景に神秘的な田代が続く静かなブナ林。

本当にこれ以上に欲張りもない欲張ったコース設定でしたが、すばらしい尾瀬を一日探索できました。次来る時は 木賊温泉か湯の花温泉に泊まって一日は田代山へも出かけたと思っています。

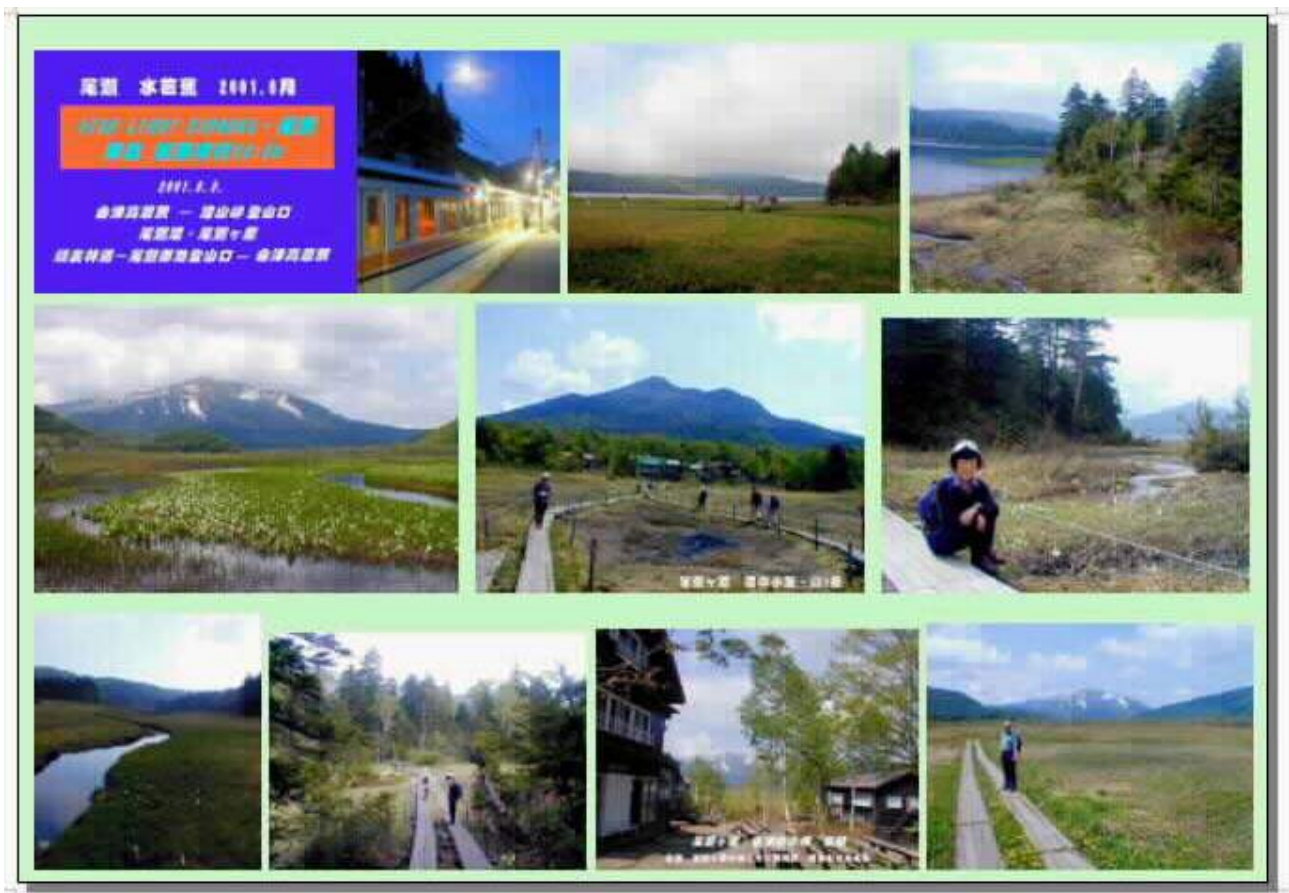


2001. 6.9. 夕

会津高原 温泉「夢の湯」につかりながら

M.NAKANISHI

7.2. 初夏の尾瀬ヶ原 探索スナップ 2001.6.9.





水芭蕉の尾瀬 2007.6.9. 初夏



尾瀬国立公園 尾瀬池 湯島山



尾瀬ヶ原 湯島山



尾瀬国立公園

8.

夏の那須連峰

茶臼岳・朝日岳・三本槍岳 縦走

夏の那須岳縦走 2001. 7. 15.

ロープウェイ那須岳登山口駅—茶臼岳—【那須岳後線縦走路 峠の茶屋・熊見曾根・清水平】—三本槍岳
 三本槍岳—【那須岳縦走路】—朝日岳—峠の茶屋—茶臼岳登山口—丸大温泉—那須湯本温泉・鷹の湯



茶臼岳 峠の茶屋より



茶臼岳・朝日岳・三本槍ヶ岳 縦走路で



熊見曾根 から 朝日岳 縦走路で



三本槍ヶ岳

2001. 7. 15. nasu.htm by M.Nakanishi

1. 茶臼岳から峠の茶屋へ

梅雨の明けのを待ち兼ねて那須岳へ出かけました。

7月15日 晴れ。朝5時の電車で飛び乗って上野へ。三本槍岳まで行って 帰りはどこか温泉には行って・・・と欲張ってはいませんが、出たところ勝負。「日帰りはちょっときついかも・・・」とちょっと心配になって新幹線を使って那須塩原・黒磯へ。晴れてはいるものの那須の連山は雲の中。



霧の中 茶臼岳への登り

霧の茶臼岳頂上

茶臼岳の外輪山で



茶臼岳への登りで ウラジロタデの群落

ロープウェイ茶臼岳山上駅は霧の中。やっぱり風が強い。雨にでもなれば茶臼岳の頂上から峠の茶屋に下ってそのまま下山して温泉にはいてもいいしと気楽に登りはじめる。風につめたさはなく、夏の暑い照り返しを考えるとかえって楽。火山特有のザレ道を霧の中直登。霧であまりよく見えないが、白い岩くずの山肌のあちこちで、緑の葉の大きい「ウラジロタデ」の株が薄緑の花をつけている。

霧の中人影や草花が見えては消え見えては消えの幻想的な登りが続く。茶臼岳の頂上も薄い霧に包まれ人が影が陽炎のように見える。沢山の人がいるようですが、霧でよく見えず。ながいは無用で霧の中を火口壁の上を伝いながらロープウェイとは反対側の峠の茶屋へと下ってゆく。河口壁を登っている人達が霧の中影人形のように見える。人は随分少なくなった。ガレの中を下って中腹の山腹を回りこむあたりから、周りが見え出した。



噴煙をあげる 茶 臼 岳 頂上から峠の茶屋の下りで

頂上には相変わらず霧がかかっているものの茶臼岳の大きな山容が見え その山腹の爆裂火口からは幾く筋もの噴煙をあげ、やっとならぬ須岳のである。左に行く筋も噴煙をあげる無限地獄 そして 行く手には朝日岳・三歩本槍岳へと続く那須の稜線が霧の中に見え隠れしている。
茶臼岳の頂上から下ること 1 時間弱。大きな茶臼岳とその向こうに連なる朝日岳との深い鞍部にぽつりと赤い屋根蛾見える。峠の茶屋である。





茶臼岳と朝日岳の鞍部 峠の茶屋とその向こうの三本槍岳(左端)への稜線

夏的那須連峰 茶臼岳・朝日岳・三本槍岳 縦走

2. 峠の茶屋から主稜線を朝日岳・三本槍岳へ 2001. 7. 15.



茶臼岳と朝日岳の鞍部 峠の茶屋跡にある避難小屋

風と霧の名所で、また茶臼岳から朝日岳への稜線と黒磯表那須から会津川への峠道とがクロスする位置「峠の茶屋跡」である。今は避難小屋が建っている。

ここでは茶臼岳と朝日岳の山体にはさまれ、深く切れ込んだ鞍部でこの稜線の両側が深く切れ落ちている。右からは黒磯から茶臼岳の山腹をこの峠に至る道がまっすぐに続き、左にはこの峠から深く切れ落ちた谷の中へ下って裏那須・会津側の三斗小屋温泉への道が続いている。

この峠は古くからの交通の要衝であったという。

ひっそりと深い山の中にある三斗小屋温泉は静かなランプの山小屋として有名であり、一度は下って見たい道である。



那須連峰の稜線と表那須・黒磯から裏那須・奥会津への峠道がクロスする峠の茶屋付近

霧はあるものの薄いし、心配した風も大したこともなく、時間的にも十分余裕があるのでそのまま稜線を三本槍岳まで行くことにする。

峠の小屋からはいよいよ本格的な山の稜線歩きが始まる。

霧の中に荒々しい朝日岳の岩稜がみえかくれしている。朝日岳へ取り付くやせ尾根の鎖場が続くが風がないのが幸いである。

茶臼岳の白い岩肌から峠を境にして朝日岳側の岩肌は赤に一変。霧に濡れた岩肌が美しい。

厳しいやせ尾根の登りが続く。

30分ばかりやせ尾根の岩の中をよじ登ると一辺になだらかな稜線の上に出た。緑の灌木の中に埋もれてアップダウンの道を三本槍岳へ向かう。



霧の中に見え隠れする朝日岳とやせ尾根の道

雨上がりの緑が美しい。少しづつではあるが霧がはれ、正面に大きな山容の三本槍岳が頂上部を霧につつまれて見えてくる。ガレ場だらけの活火山で今も噴煙をあげる茶臼岳　そして剥き出しの岩肌を剥き



出しにそびえる朝日岳とはまったくイメージの違う緑の樹木につつまれゆったりとした山容を示す三本槍岳が意外でした。



広い裾野には緑に埋もれて広い湿原が望める。この広い緑の湿原を横切って三本槍岳への登りとなる。振り返ると走り去る霧の中に噴煙をあげる茶臼岳が見える。峠の茶屋から約2時間で三本槍岳三本槍岳とその裾野に広がる清水平の頂上に立つことが出来た

3. 三本槍岳頂上と帰路の縦走路で



幸いにも霧が晴れうっすらと霞んでいるが周りの山々も見え、さわやかな風が吹きぬけ、そこにはトンボの大群が短い夏を楽しんでいる。

トンボは山越えをするとよく 言われるが、南の栃木県側から北の福島県側への山越えの 途中なのかもしれない。

もうはや山では秋への準備かも知れぬ。正面には今歩いて来た緑の稜線が連なり、その向こうに噴煙を

上げる茶臼岳そしてその右に沼原の貯水池が見える。

会社に入って初めての仕事がこの沼原揚水発電所向けペンストック用の HT80 の開発。日本の大型揚水発電所の第一号であった。

さらに右には谷をはさんで大峠・三倉山の大きな尾根筋が見える。そしてその背後に奥会津の山々が見えている。180 度回って北側にはこの那須連峰の北の端に位置する旭岳がその独特の尖塔を空に突き上げている。



トンボが群れ飛ぶ三本槍岳頂上から茶臼岳



那須連峰の北の端 朝日岳を望む

この三本槍周辺は太平洋と日本海の分水嶺になっており、北会津側は支流を集めて阿賀野川となって日本海へ注ぐ。また南側は太平洋へ注ぐ。

三本槍岳そのものはその名前ににず、ただ だだっ広い印象の薄い山ではあるが 三本槍岳を中心にどこまでも続く深い緑の森そしてその上に立つ変化にとんだ周りの山々。 その景観はやはり素晴らしい。



朝日岳のやせ尾根と茶臼岳

30 分ほどと頂上に居て霧の流れの中刻々と景色をかえる周りの眺望を楽しんで引き返す事にした。

幸い来る時は霧の中にあった清水平から朝日岳への稜線の道も晴れ渡り、変化にとんだ景色を楽しみながらの岐路である。



裏側からの朝日岳



那須連峰の稜線と雲の中の茶臼岳

晴れ渡った三本槍から朝日岳・茶臼岳への稜線

正面で噴煙をあげる茶臼岳へ向かって峰の茶屋跡まで下った。

そして 峰の茶屋跡から直角に折れて茶臼岳の山腹をまきながら丸大温泉へ。



朝日岳のやせ尾根・鎖場



三本槍岳の名前にあこがれて出かけた茶臼岳から朝日岳・三本槍岳への縦走であったが予想したほどの人の列もなく 静かな稜線の展望を楽しめました。

霧と強風の名所として名高い 稜線も静かで楽勝。

南に茶臼岳 北に朝日岳の大きな山体にはさまれて、時代 劇のシーンをみるかのような豆粒のような人の行列が続く山の峠道も印象的。

古くからある黒磯から峰越えに奥会津へ至る峠道 その中心部 那須の峰々を乗越す位置の峰の茶

屋跡。昔は多くの人や物資が行き交いこの峠にいたって ほとと一服したに違いない。

茶臼岳へのロープウェイが開通した今 多くの登山客・観光客が行き交う峠道として復活し今また賑わいを見せている。この峠道を約1時間下って茶臼岳登山口駅へ。

山行の終わりは湯湯治場の雰囲気を残す那須湯本温泉「鹿野湯」で汗を流す。湯温 45 度から二度毎に区切られた木の湯船がならぶ熱い熱い乳白色の温泉。

山の帰りにはもう少し暑いほうがベター。でも気分爽快で帰りました。

三本槍岳への日帰りは無理かと心配しましたが、朝早く出れば、秋でも楽勝のようです。

今度は秋もみじのシーズンにゆっくりと峠道を登ってランプの三斗温泉小屋に泊まって帰りは北温泉の自然の中の大きな露天風呂へと思っています。

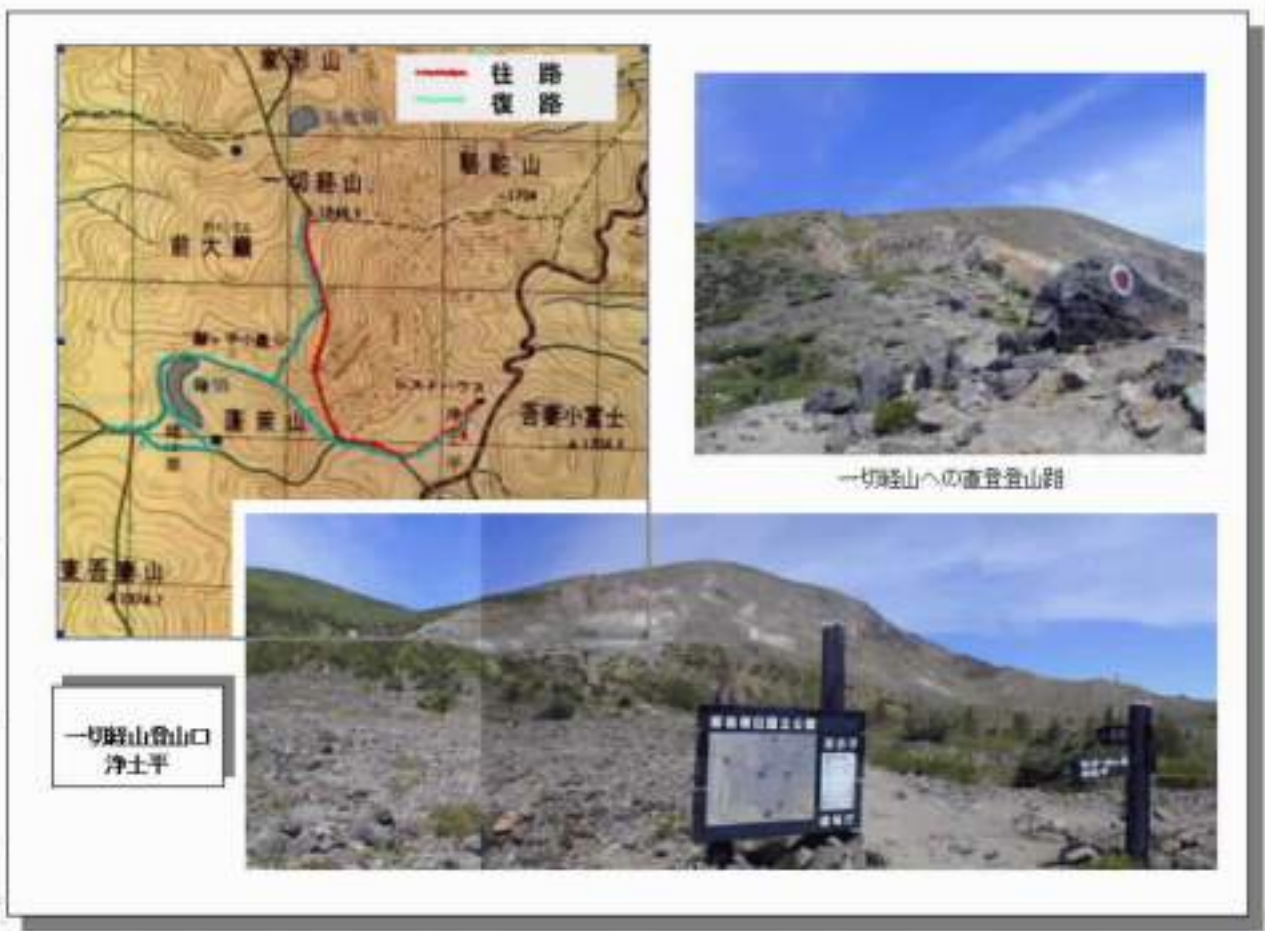
2001.7.15.

那須湯本温泉につかりながら

9.

晩夏 吾妻連峰の主峰一切経山へ

2001. 8. 20. azmas1.htm by M.Nakanishi



8月20日 月曜日お盆休みがあけの平日の休み 福島県の吾妻連峰一切経山へ行ってきました。

実は「栗駒山」へ行く予定で荷物パックしたのですが、台風の前駆で関東から東北「雨」との予報。

あきらめて、荷物を解いたが、朝眼を覚ますと雲は多いものの日が差している。

時間的には栗駒山へ出掛けるのは無理とあきらめ、雨がふってもまあ、逃げ道のある浄土平まで行ってみようと朝7時過ぎ

ぎ 上野から東北新幹線に飛び乗り、福島で下車。

ここまで来ると予想通り晴れてはいるものの吾妻連峰・安達太良山は雲の中。

台風の前と競争で、霧の中を歩く覚悟を決め、浄土平への定期観光バスに乗せてもらう。お客は浄土平から裏磐梯へ行く人達全部で5名ばかり。

もう30数年ぶりになる。新婚の二人して裏磐梯の紅葉を目当てに吾妻・磐梯スカイラインをバスで通って以来の浄土平行。その時も霧で浄土平は雪が舞い、寒さに震え上がり、吾妻小富士の横で震えながら写真を撮ってそのままバスに乗り込んだ記憶がかすかに残っている。もう一度是非行ってみたいと思いながらの浄土平である。

1. 浄土平から 一切経山へ

福島から約1時間 霧の中の吾妻スカイラインをバスはどんどん登ってゆく。まじかにガイドさんの説明を聞きながらのバスも久しぶり。まあ 霧の山行きはしょっちゅうと見えて バスガイドさんは画用紙に書いた山の絵を片手に一生懸命周りの見えない景色を説明している。
 なんせ 5人なので寝てる訳に行かない。

突然 薄日がもれだし、アッというまに予想だにできなかったどこまでも続く雲海とその上に乗かって吾妻連峰の山々が見える。雲海の上は快晴。素晴らしい雲海を見ながら浄土平に到着。



何とついている事か・・・浄土平を真中に円錐形の吾妻小富士もこれから登る一切経山も青空を背に立っている。ごつごつとした岩肌は一切経山がどっしりとそびえている。もう楽勝のハイキング。頂上でのどこまでも広がる雲海の期待にまっすぐ登山道に入っていった。



一切経山 登山道で【1】



一切経山 登山道で【2】

2. 一切経山の頂上で ・ 雲海に浮かぶ峰々 360度の展望 ・



一切経山 山頂 背後は会津磐梯山

一切経山の頂上からは予想だにできなかった雲海の上の360度の展望。だだっぴろくてつかみ所のない頂上ではあるが、その眺望は素晴らしい。

本当に今年については思いました。

毎度毎度雨の心配しながらの山行ながら登るといつも good な展望。その中でも今日は特別。北の山形県日本海側には飯豊・朝日連峰出羽三山・月山 そして遠く鳥海山までが雲の上に浮かび、頂上から切れ落ちた眼下には紺碧の水をたたえた神秘的な五色沼が見えている。東には どこまでも続く雲海の上に蔵王連峰がくっきりと浮かんでいる。



雲海 2001.8.20. 一切経山 山頂で

また今登ってきた南側には吾妻小富士のお釜がくっきりと見えその横から西へグルッと安達太良山から吾妻連峰の峰々を取り囲んでいる。その吾妻連峰の峰々の手前には前庭のごとく広い浄土平・酸ヶ平・姥が原の湿原が緑の絨毯を敷き詰めたように広がり、やっぱり紺碧の水をたたえた鎌沼が見え、その奥には会津磐梯山がその特徴的な山体を雲の中に浮かび上がらせている。

尾瀬やアルプス雲ノ平の湿原がピカイチと思っていたが、この一切経山の麓に広がる湿原もそれに負けない神秘的で素晴らしい。この湿原群を前にしてその奥に そびえる会津磐梯山の姿は実に神々しい。福島から約2時間でこの景色に出会えるとはビックリ。

紺碧の五色沼の向こうに浮かぶ山形県側の山々が気になるのか 頂上に登って来た人達がみんな北の斜面へ寄ってきて 磁石と地図片手にわいわい山の品定め。平日なので 実にゆっくり山上の景色を楽し

めました。また、今日のはじめてくっきりと雲海に浮かぶ出羽三山・月山を憧れを持って見ました。

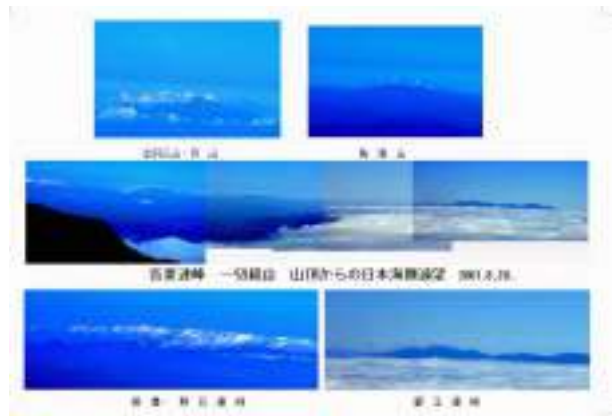


3. 360度 雲海の上の眺望

3.1. 北 山形県日本海側の眺望

眼下に紺碧の五色沼 遠くに飯豊・朝日 出羽三山 鳥海山が雲海の上に





3.2. 東 宮城県 雲海の上に浮かぶ蔵王連峰の峰々



3.3. 南から西へ 吾妻連峰の峰々とその背後に安達太良・磐梯の峰々



3.4. 西 吾妻連峰の背後に神々しくそびえる会津磐梯山



4. 頂上からお花畑が広がる酸ヶ平・鎌沼・姥ヶ原へ

頂上からは登って来た岩尾根の直登ルートからはずれ、西に酸ヶ平・鎌沼の山に囲まれた湿原へ下るルートをとって、湿原の中へ。

ゆっくりと湿原の高山植物を楽しみながらの雲上散歩。

残念ながら 東吾妻山へ登っているとバスの時間との競争になりそうなので今回はやめ。ゆったりと姥ヶ原の真中にひとり座り込んで周りの景色を楽しむ。本当に空気がうまいと実感できる。



鎌沼の向こうに登って来た一切経山がどっしりと構えている。決して高いやまではないが、実に存在感のある山である。



晩夏 吾妻連峰

一切経山周辺の高山植物



浄土平からはバスで土湯峠を通過して土湯温泉へ。 遠くに浮かんでいた安達太良の山塊が実に大き組みえる。次の機会には安達太良山へ。 霞みの中にぼっと光る湖に囲まれた磐梯山が一層高くそびえている。 麓まで一機に下って土湯温泉で下車。

透明なお湯であるが、ここの湯も熱い。あらためて磐梯・吾妻の山々が活火山である事を実感。 そういえば、少し前にこの磐梯・吾妻連峰で群発地震が増加し 噴火が心配された事があった。 山から降りて 温泉につかるとホント 極楽 極楽。



土 湯 温 泉



東北新幹線 福島駅から 吾妻連峰

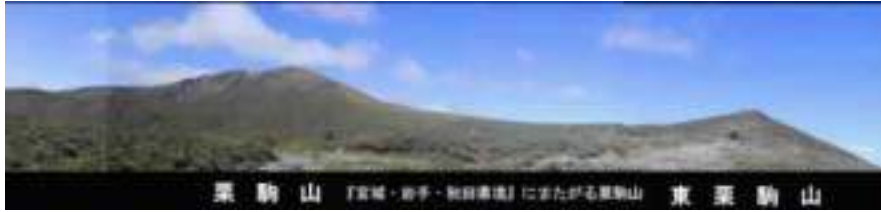
福島駅のプラットフォームからは夕日の中に やっぱりその山容の上半分を雲の中に隠している吾妻連峰が見られた。ここからは やっぱり あの雲上の素晴らしい景色は想像もつかない。 どうやら 台風は遅れているみたいである。

2001.8.20. 夕暮れの福島 東北新幹線の車窓から
by M. Nakanishi

晩夏 吾妻連峰の主峰一切経山へ
【完】

北上盆地の背にそびえる「栗駒山」

2001. 9. 22. krkma0.htm by M.Nakanishi



東北新幹線が仙台・古川を過ぎると眼前一杯に広がる緑の高原の中を北に向かって突っ走る。この高原を新幹線が抜けるといつも「いよいよ東北の真っ只中に踏み込んだ」の感じがしてくる。この右手車窓に広い高原に連なって一群の大きな山塊が見え、その背後には淡い青色の奥羽山脈の連なりが南北に長く伸びている。栗駒高原と宮城・岩手・秋田の県境にそびえる「栗駒山」である。



深田久弥は「日本百名山」には入れなかったが、その堂々とした山塊に「東北でもう一つ入れたかった山」と聞く。

南の宮城県側には広大な栗駒高原が広がる一方、岩手県側の背後には栗駒山から延々と続く奥羽山脈と北上山地に囲まれ、かつて中世には東北文化の中心であった一関・平泉・胆沢などの北上盆地が広がる。

昔家内と初めて一緒に行ったところが、この一関・平泉。

地図をにらみながら、「宮城県側から登って岩手県側須川温泉へ降りて一関・平泉にゆけたら・・・」と栗駒山行きを計画。

9.22.快晴。早朝 東北新幹線初発の「やまびこ」に飛び乗る。紅葉にはちょっと早い、夏の喧騒もとれ、ゆっくりと山に登れそう。9時過ぎに「栗駒高原駅」に降り、駅前からはバス。

人影は全くひっそりしている。駅前広場にも人影無く栗駒山行のバスが一台止まっているのみ。駅の正面からは広大に広がる田圃の向こうに栗駒山の山塊が見えるが、駅前広場をはさんで水車の大きなモニュメントやたて看板が立ち、雄大な栗駒山の姿を阻んでいる。台無しである。

美しい山であるのにやっぱり、「日本百名山」から外れたためか 今の登山ブームから少し取り残されたのか 地元でもそれほど人気が無いのか・・・



東栗駒山から栗駒山

バスは栗駒高原駅から栗駒町を通過して宮城県側の登山口「岩鏡平」まで約1.5hr。乗客は私だけ。貸切である。

夏と紅葉の季節にはハイカーで一杯とのことであるが、ほとんどがマイカーで車を使わないものにとっては益々交通の便が悪くなる。運転手さんのガイド役で栗駒の話など聞きながら古い栗駒町の町並みを通り過ぎ、山へ登ってゆく。



東栗駒山

栗駒牛と栗駒大根の産地 そして 栗駒町は古い城下町などと色々教えてもらったが、関西の僕には全くわからず。

栗駒の頂上付近が少し赤くなっている。

紅葉が始まっているが、全山真っ赤になるのはもっと先。眼下に栗駒町からはるか太平洋にむかって広がる平野を眺めながら次第に高度を上げ、くりこま高原駅からほぼ1.5hrで栗駒山の中腹、岩鏡平につく。風が冷たい。やっぱり秋の風である。

正面にはどっしりと左右均整のとれた栗駒山が青空に映えている。駐車場は車で一杯。やっぱり 多くのハイカーが栗駒山正面の道を登ってゆく。たった一人のバスで想像していたほどでなし。多くの人々が登ってゆく正面へ行かず、右の灌木帯の中の道をとって、東栗駒山から栗駒山への尾根道をたどり、頂上へ向かう。そして、頂上から天狗岩への稜線を歩いて、そこから昭和湖・名残が原・須川温泉へと下る計画。



栗駒山頂



栗駒山直下の草紅葉岩手県側



昭和湖

【1】宮城県側登山口・東栗駒山・栗駒山頂上へ 2001. 9. 22.



少し色づいた灌木の中の道を約 30 分ほど登ると一端を駒ヶ岳 もう一方の端を東駒ヶ岳とする長い弓状に反り返った稜線の一端 青空にピンと突き上げた東駒ヶ岳が見えてくる。



また、木々の間から、均整の取れた姿で裾をひく駒ヶ岳も垣間見得る。振り返ると南には蔵王連峰が霞んだ空に浮かび、北には北上の山々が浮かんでいる。眼前には栗駒町をちゅうしんとした田園地帯が広がり、太平洋へと続いている。

栗駒高原・太平洋を望む 右端蔵王連峰 東栗駒山登山道で

灌木帯の中から滝と見まがうゴロゴロした岩だらけの川筋に飛び出した。駒ヶ岳と東駒ヶ岳の鞍部からまっすぐ下へ流れ下っている。この川の端に青い大柄なリンドウが花をつけている。リンドウにはいくつも種類があるが、今年見たリンドウの中で一番大柄な花。リンドウとはるか太平洋へと広がる景色を眺めながら流れ下る川に顔を突っ込み水を飲み干す。ふっと一息いれる山一番の楽しみ之時である。



リンドウの花登山道で

川をトラバースして少し上ると灌木帯を抜け、這い松帯の東駒ヶ岳への尾根道にかかる。

風が直接顔に吹きつけ、夏姿で

は寒い。もう 秋を実感する。

眼前には一気に東栗駒山から栗駒山の広い稜線が壁のように立ちはだかっている。その一番右端の東栗駒山への尾根道を登る。高度が上がるにつれ、谷を隔てて対極にある栗駒山が小さな火口を従え、左右に均整の取れた裾野を広げ堂々とした姿として浮かび上がってくる。



東栗駒・栗駒山鞍部からの川



東栗駒山への登り



東栗駒山

登り初めて約 1.5hr で東栗駒山の頂上に立つ。風が強いが回りの山々と駒ヶ岳へのなだらかな這え松の稜線がよく見える。這え松と少し色づいた灌木とのコントラストが美しい。いよいよ栗駒山への登りである。栗駒山へ一直線に野へって行くガレ道が見える。周りが開け、心地よい風が吹いて、登りの疲れを感じない。反対の岩手県側の山々が見え出す。この栗駒山塊の北に位置する焼石岳の山塊も姿をあらわした。北側から南の方へ回り込むような形で一直線に頂上へ登ってゆく。頂上の直ぐ下で岩鏡平からまっすぐ頂上へ登ってくる道筋と合流。この尾根筋は草紅葉一色。淡い枯れ草色の絨毯を引くつめたように尾根筋全体が光輝いて風に揺れている。東栗駒山からの稜線伝いの道が背後に見えるが、全く違った景観。ここは風も吹いて もう 秋一色でした。



這え松の映える栗駒山

【東栗駒山から栗駒山の稜線で】



南 宮城側 栗駒町から太平洋



広がる這い松の間をいく稜線



北 岩手側 焼石岳の峰々



栗駒山 頂上へまっすぐ続く登山道



山筋を揺る秋の草紅葉 宮城側 岩鏡平コース全貌

東栗駒コース及び中央コース

宮城県側 岩鏡平コース全貌と頂上直下に広がる秋の草紅葉

【2】 栗駒山頂上で 2001. 9. 22.



東栗駒山から約 1hr 弱で栗駒山頂上に立つ。南から東には蔵王連邦を背景に大平洋へ続く宮城の田園地帯が見られ、西から北には山形・秋田の山々月山・鳥海山が浮かび、その前には大きな焼石岳の山塊がどっしりと座っている。この焼石岳から東 東北の方向には今歩いてきた東栗駒山の稜線越しに早池峰など北上の峰々も見える。晴天の中 360 度の展望が楽しめる。

栗駒山頂上からの 360 度の景観



【西 北側 東】



【西 南側 東】



北西の端には薄っすら鳥海山が浮かび 出羽三山 南西には 蔵王の山々 北には焼石岳 早池峰の峰々も素晴らしい 360 度の景観。

北の眼下には紅葉がはじまった樹林につつまれた須川温泉 その中に乳白色の昭和湖・地獄谷が見えます。また、南には教上ってきた宮城側からの尾根筋は銀色にかがやき、その向こうには田園の広がる栗駒町 そして太平洋が……。足元では風にゆれる草紅葉した栗駒の斜面。

快晴の good な頂上はもう秋でした。

【 3 】 頂上から岩手県側 須川温泉へ下山

頂上・天狗岩－昭和湖・地獄谷－名残が原・須川温泉登山口



東方 眼下には小さな乳白色の湖が色づいた木々の間から見え、その先には須川温泉の建物が米粒のように見える。

頂上に約30分か程いて、岩手・宮城県境の稜線の道を西へ天狗岩へ下ってゆく。この天狗岩を少し先まで進んだところが、岩手・秋田・宮城の三県境の合流点であるが、その手前で尾根筋から右の樹林帯の中に飛び込み、眼下の昭和湖・須川温泉向いて一機に下る。

蒸気を吹き上げる乳白色の昭和湖の周りは少し紅葉が浅いが、そこはもう秋一色。白い幹のダテカンバも加わり美しい。周りの景色を楽しみながら須川温泉へ。



宮城県側がおとなしい優美な栗駒山の姿を見せているのに対し、反対側の岩手県側はこの山が火山である荒々しい表情を示している。



昭和湖の下の地獄谷では幾筋もの蒸気があがり、硫黄のにおい。そして尾根の木々はこの硫黄の蒸気で葉を落とし、白くなつてつながっている。見上げるとその上に大きな栗駒山が覆いかぶさっている。





地獄谷から 栗駒山を眺む



地獄谷全景



名残ヶ原から栗駒山

この栗駒山から流れ出た川の一端が一関・巖美径を経て北上川へ合流する。中世の昔 栄華を誇った藤原氏を支えた金山・鉾物などの宝の山の一つがこの谷筋に違いない。

そんな事を思い出させた地獄谷。ふいに夕闇が立ち込める広い原っぱへ 名前の由来は知らないが、名残ヶ原へ。頂上から 周りの景色を楽しみながら約2時間で岩手県側の登山口須川温泉に到着。



家内と二人での旅のスタートの平泉・一関・巖美溪。巖美溪の急流を眺めながら 栗駒の山へ上って行く 須川温泉行のバスを見ながら、一度は行ってみたいと思っていた栗駒山・須川温泉。三十数年を経てやっと登れました。朝早く出たので今日は時間あり。巖美溪を経て一関へ出て、北上盆地の端 この地方の「たたら」の痕跡を探すも由 久しぶりに金色堂へ行くも由。



暮れ行く周りの景色を眺めながら

須川温泉から 一関へのバスの中で・・・・・・・・

2001. 9. 22. by M.Nakanishi

北上盆地の背にそびえる「栗駒山」【完】

11.

くろがね 鉄山
紅葉の安達太良山
福島県安達太良山・湯川溪谷

2001.10.13. BY M.Nakanishi



『あれが安達太良山 あのひかるのが 阿武隈川』

と高村光太郎「智恵子抄」で歌われた安達太良山。

山地図に『鉄山』『くろがね小屋』の名前をみつけ、ここにも『Iron Road』とでかけました



グリーンピア二本松付近からの安達太良連峰



安達太良山 勢至平の紅葉

頂上を雲にかくし紅葉した安達太良連峰 秋 2001.10.13.



くろがね小屋付近の紅葉 2001.10.13.

東北新幹線の車窓から左手に那須連邦の山々をながめ、郡山を過ぎて磐梯の山々を探しつつ、次に見えてくるのが、ゆったりとした稜線と森に包まれた優美な姿を見せる安達太良連峰。さらにその北には吾妻連峰が連なっている。

山群の中央稜線の上にぼつりと乳首のようにごま粒の岩山が乗っているのが、主峰安達太良山。別名乳首山。また、その右に鉄山の名前をもつ楕円の小さな岩山が見える。



地図を見ていて 安達太良の山の稜線に「鉄山」の名を見つけ、この鉄山から切れ落ちた谷の一角に「くろがね小屋」の名があり、是非行ってみようと思った次第。

いつものごとく朝一番の東北新幹線に飛び乗り、郡山で乗換え、二本松へ。空は晴れているのに安達太良連峰の頂上付近には厚い雲がかかっており、あの特徴的な稜線は全くみえず。快晴の吾妻連峰一切経山に登った時も吾妻小富士の向こうに見える安達太良山の頂上部だけは雲が巻いていた。やっぱり雲の発生しやすい山なのかもしれない。

「奥岳コンドラリフトに乗って 奥岳頂上駅から五葉松平ー安達太良山ーくろがね小屋ー湯川溪谷・塩沢温泉へのコースをゆっくり紅葉を楽しみながら・・・
まあ 天候は回復の方向 雲も午後にはとぶだろう」と二本松駅から奥岳駅行のバスに乗った。

岳温泉を經由して奥岳登山口へのバスから見安達太良連峰は堂々とした山塊。奥岳登山口 奥岳ゴンドラ山頂山頂部は雲の中下はすっかり紅



駅付近にあるが、その葉して青空に映えている。

【1】奥岳登山口から 五葉平を安達太良山頂上へ

ゴンドラから見る安達太良山の山腹は赤と緑のまだら模様が積み重なった素晴らしい景色。しかし、高度が上がるにつれ、ガスがまわりを包む。奥岳頂上駅では雨まじりの霧と強い風が吹いている。紅葉の一番きれいな時期とあって、多くの人が霧雨の中、紅葉した山腹の登山道を一列になって安達太良山へ向かって登ってゆく。周り一面はあざやかな紅葉。紅葉の間に松の緑が点々と散らばり、まるでデザインされた壁紙か布地模様のようにで素晴らしい。

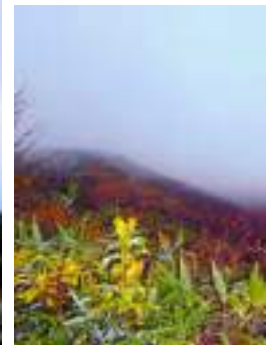
紅葉の林の中を、風と雨交じりの霧が景色をかき消しながら、泥んこの逃げ場のない山道を一列に登ってゆく。すべると逃げ場が無いので、時間がかかる。結局この泥んこ道が安達太良山稜線直下まで続いた。

まあ、周りの紅葉を楽しみながらなので、救われたが、足周りはもうどろどろ。



五葉松平の 紅葉

2001.10.13.



安達太良山の頂上は見えないが、灌木帯の木々が全面が赤や黄色に紅葉し、松の緑とあいまって素晴らしい紅葉である。

その紅葉が、霧の流れや日差しに呼応して 時々刻々その色が変化してゆく様は自然だけが持つ美しさ。

【2】 安達太良山 頂上 近傍 2001.10.13.



稜線は霧雨と強風の中 山はやっぱり「鉄の山」 -

安達太良山の頂上の岩山には、ベンガラ色やこげ茶の岩がゴロゴロしていました。 やっとどろどろの樹林帯を抜け、稜線へのガレ道にかかるが、もう風と霧雨。

時折風に吹き飛ばされた時に見える山腹の紅葉が美しいが、一瞬。頂上の方は完全に雲の中。上に登るにつれ、視界がきかなくなる。

視界の利かぬ霧の中、稜線に出るが、猛烈な風。うすぼんやりと霧の中に頂上の岩山が見える。多くの登山客が風をよけるかのように岩山の陰に身を寄せ合っている。



馬の背・鉄山の方も全く視界が利かない。残念ながら、安達太良山の内部に抱かれた巨大な爆裂火口も全く見えず。

乳首山の元となった頂上の岩山は鉄分の多い赤茶けた色をした岩と砂が混じり合っている。

鉄山は全く見えないが、やっぱり、ここは「鉄の山」と納得。



霧と強風の悪天候で馬の背から鉄山への稜線やあの巨大な爆裂火口「沼の平」は全く見えず 風が強く全く視界かきかず、風を避けて霧の中を稜線から右へ下り、峰の辻からくろがね小屋へ行く事にした。



安達太良山 頂上 猛烈な風と霧の中



安達太良山 山頂近傍の岩山 鉄分を多く含んでいるように見えた



【3】 頂上から峰の辻を経て 姿勢平へ

峰の辻はまだ霧の中であったが、直ぐ下は風も収まり、峰の辻はまだ霧の中であったが、下るにつれし
かがひらけ、色づいた木々の絵模様が幻想的に飛び込んできた。前の人に合わせ 峰の辻を約5分ほ
ど下ったところで、この道が勢至平から奥岳駐車場に行く尾根筋の道であることにきずいた。もう一度
峰の辻まで引き返そうかとも考えたが、時間も早だし、視界の開けている名残が原まで紅葉で美しい樹
林帯下り、そこからくろがね小屋の方へ回る事にしてそのまま下った。

峰 の 辻 付 近



峰 の 辻



後ろに安達太良山岩山



紅葉した山腹

広い灌木の生茂る勢至平は紅葉真っ盛り。紅葉した灌木の背景に針葉樹の緑が美しい。また ダテカン
バの幹の白と黄色く色づいた葉のコントラストも変幻自在で楽しい。

スライドのように、霧が次々と絵模様と色合いを切り換えてくれる。紅葉の中の緑が美しい。多くの
group がそのまま山を降りたのか、ほとんど人影もすくなくなり、静かに山の紅葉が楽しめた。

姿 勢 平 の 紅 葉 2001.10.13.



【4】 くらがね 小屋 周辺 の 紅葉



姿勢平を出た所で鉄山直下のくらがね小屋と奥岳とを結ぶ整備された登山道へ出た。
多くの人は奥岳の方へ。僕だけ反対方向・・・。

尾根筋から湯川溪谷の深い谷へ落ちる山腹につけられた平坦な道を 10 分も歩くとV字の深い谷いっぱい広がる紅葉が見えてきた。

真っ赤と緑と黄色のまだら模様がぎっしり谷の山腹いっぱい広がっている。これぞ山の紅葉。





安達太良の紅葉は「緑の入った濃度の濃いまだら模様
の美しさ」と聞いていたが、どこにもない美しさ。

谷筋の奥に茶色のくろがね小屋が紅葉の中に埋もれ
ている。まるで、その鮮やかな色あいにおとぎ話の
絵本の中の世界にいるかのような錯覚にとらわれて
いた。



湯川溪谷

くろがね小屋付近の紅葉 2001.10.13.



信州の山の紅葉は「頂上部の雪の白・中腹の紅葉・下の緑」の『三段紅葉』とよく言われるが、
安達太良の紅葉は全山『赤・黄・緑の絵模様絵本の世界』
やっぱり一度見る価値のある素晴らしい紅葉である。

この紅葉の美しさを知らなかったのは私だけか くろがね小屋の回りは人があふれている。
谷の上部 くろがね小屋の上にある鉄山はやっぱり雲の中。
どんな山か見たかったのですが、今日はダメ。

【5】くろがね小屋 から 湯川溪谷・八幡滝 を経て 塩沢温泉 へ



この谷の美しさをパスする手はない。予定通り霧雨まじりであるが、湯川溪谷の谷道にあり、川沿いに塩沢温泉へ降りる事にする。

ほとんど人が居なくなり、今度は静かに谷筋の紅葉が楽しめる。まさに紅葉の中を下ってゆく。

谷筋の細い道で 雨がふり、水量が多く多くの

瀬が滝のごとく流れ下り、水の流れと紅葉のコントラストが美しい。また 山の斜面から、行く筋かの滝がながれおちているのも美しい。

湯川溪谷 溪流沿いの紅葉



【6】 湯川溪谷 八幡滝をつめて



1時間弱で天狗岩の大きな岩の縁をくさりを伝って通り抜けると、向かいの沢から大きな滝が流れ落ちている。八幡滝である。

大きな一枚岩から本流へ垂直に流れ落ち、高さはさほどないが幅の広い滝で、周りの紅葉とよく調和して美しい。見上げると沢全体が滝で、奥へ滑滝状に滝が続いている。

その滝の上から鎖を伝いながら一人降りてきた。少しすべるが、奥まで行けると言う。

まだ 時間もあるし、少し滝道を行く事にする。登って判ったが約1KM弱が滝の連続。滝の流れの縁を鎖や熊笹を伝いながら岩の上を滑らぬよう注意しながら登る事になった。

滝と紅葉とすばらしい景色。奥へ奥へで結局一番奥の上の滝までのぼりつめた。雨上がりの水量の多さも手伝って本当に美しい景観である。

登りはルンルンであったが、一番上の滝つぼの所で地図にある道がなくなり、ふみ後も消え廃道。もう空が開けているのだが、引き返す事やむなし。行きは良かったが、くだりはすべるので慎重に滝の縁を下る。下の滝に降りた時には正直ほっとした。



【7】 塩 沢 温 泉 で

夕闇がせまる中 また、溪流沿いを下る。川にはまた、いくつか滝がかかっていたが、もうスピード。午後1時半過ぎにくろがね小屋を出発しての湯川渓谷沿いの下りであったが、紅葉を楽しみながら また、八幡滝をつめたこともあり、塩沢温泉に降りたのは午後5時前。塩沢温泉に降りると雨も上がり、天気は回復していた。

あいにくの霧雨で山の展望は全くゼロでしたが、山腹の紅葉は紅葉と緑のまだら模様が素晴らしく、久しぶりに「これぞ東北 山の紅葉」の感。満足。

塩沢温泉は真っ暗な空を見上げながらの森の中の露天風呂。変化にとんだ素晴らしい紅葉を見た1日でした。

塩沢温泉は鉄山の麓であり、まっ茶な鉄分の多いお湯を期待したのですが、無色透明。静かな森に包まれた渓谷の一軒屋。でも、やっぱり安達太良は「鉄分の多い岩峰」と言い、「鉄山」「くろがね小屋」の名があるとおり、『ここも鉄のふるさとかなあ・・・』なんて思いながら・・・

2001.10.13. 塩沢温泉にて 真っ暗な夜空をみあげながら

By M. Nakanishi



くろがね 鉄山 紅葉の福島県安達太良山 【完】

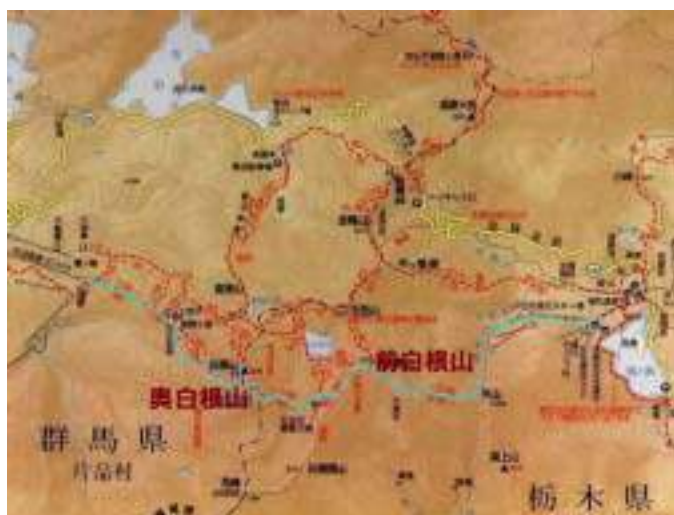
以北の最高峰 2578m

12.

奥白根山 (日光白根山)

丸沼ー奥白根山ー奥日光湯元温泉

2001.10.27. by M.Nakanishi



10月27日 快晴。一度行きたかった金精峠への道・以北の最高峰「奥白根山」にのぼりました。

休日 急に思い立って上越へ。朝5時半起き。「谷川岳の紅葉を見るのもよし、鳩町峠、吹割の滝に行ってもよしちょっと時間的には遅いが、うまく交通の便取れば、菅沼から念願の奥白根にのぼれるかも・・・」いつものごとく何とかなるやると・・・

バスとの連絡で行けそうなところへと朝7時51分上野発の新幹線に飛び乗る。

最初は谷川岳の紅葉へと思っていたが、先々週

「安達太良 くるがね小屋」の紅葉見たこともあり、新幹線乗っている間に「沼田から金精峠への道へ行って出来れば丸沼から奥白根山へ」。

学生時代 長野の友人がよく 草津白根から上越沼田を通り、丸沼・菅沼を越え、金精峠越えに日光への道を紅葉の素晴らしい街道として熱っぽく語っていた街道筋。

尾瀬へ行くたびにその道すがら、いつかはこの分岐する金精峠への道をたどって神秘的な丸沼・菅沼を抱く奥白根山へと頭にあった山である。

関東・東北で一番高い山でありながら、上越側 日光・中禅寺湖の平野部や麓の登山口からは見えず、アプローチの長い山として静かな山と言われてきた。

深田久弥「日本百名山」の一つとして、また丸沼から2000米の高さまで一機に登るゴンドラリフトが運転され、行きやすくなったと人気が出てきた山である。

とは言え、東京から日帰りとなるとちょっと厳しい山ではある。時間的には少し遅いが、沼田発10時の大清水行のバスに乗れたので、奥白根の頂上には立てそうである。

1. 丸沼ゴンドラリフト 登山口へ

左に武尊 右に赤城の山を見ながら1年ぶりに奥日光・尾瀬へとバスが登っていく。紅葉真っ盛りの候で、この街道も車で一杯と心配していたが、何とか時間通り走る。武尊山への登山口でもある「吹き割りの滝」には滝と今が盛りの紅葉を見るため、マイカーが列をなしている。

1時間ちょっとで鎌田の集落。ここで尾瀬への入口大清水への道と金精峠を越えて奥日光へ行く道とが分岐。下車して 尾瀬への道から分かれ、タクシーで奥日光 丸沼・菅沼から金精峠への道に入る。この道は上信越から奥日男体山・戦場ヶ原を抜けて中禅寺湖から日光へ抜ける古くからの街道筋。



丸沼ゴンドラリフト駅周辺 背後の山は武尊山

山々は紅葉真っ盛り。車を止めて写真を撮っている人も多い。鎌田から約15分突如 奥白根の荒々しい岩峰が堂々たる姿で眼に飛び込んできた。谷沿いの紅葉を見ながらジグザクの登りを繰り返して、約30分で丸沼のゴンドラリフトの前につく。

周りは丸沼のスキー場で、一面黄色に色づいた雑木林の中、正面の奥白根の山へゴンドラリフトがかかっている。

奥白根山へはここからゴンドラで2000米の高さまで一気に登り、頂上を目指すか または、丸沼より、もう少し先の先の菅沼まで行って尾根伝いに登るかである。

正面の奥白根の中腹までゴンドラが 一気に登って行く。幸いすぐ乗れたので時間の節約。

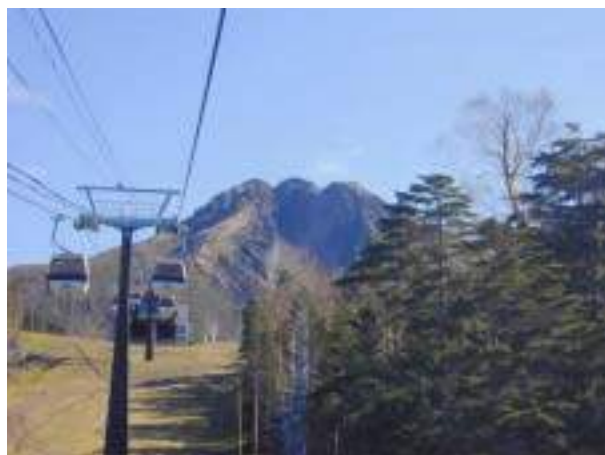
真っ黄色の林の中をゴンドラが高度を稼ぐにつれ、眼下に紅葉の樹林の中に丸沼・菅沼が見え、その背後には堂々とした山塊の武尊山が真っ青な空に浮き、遠く上信越の山々が霞の中に浮いている。

ゴンドラ終点は奥白根山中腹 2000米の地点。

駅前からは樹林の向こうに青空を背にした奥白根山が岩峰を頂上に左右均整の取れたどっしりとした姿でそびえている。



丸沼ゴンドラリフトから



岩峰の奥白根山と頂上駅

2 時前に奥白根山の頂上へ針葉樹の緑と幹の白のコントラストが美しい樹林の中へ入っていった。この分だとちょっと遅くなるが、奥白根山の頂上を経て、奥日光側の湯元温泉まで降りられそうである。高度が高いこともあり、樹海は針葉樹の緑の森。

【2】丸沼 ゴンドラリフト頂上駅から奥白根山へ



標高 2000 米。 風が冷たい。正面には青空をバックに左右均整の取れた山体の奥白根山が迫ってくる。正午前 ちょっと時間的には遅いが雲も無く快晴。

靴紐を締めなおし、頂上では 360 度の展望を期待して針葉樹の樹海の中に足を踏み入れた。

足元はもう昼を越えていると言うのに霜柱が随所に残っている。また、今回 奥白根を歩いてビックリしたが、どこも尾根筋の樹林の中の木々の根が剥き出して、土が剥ぎ取られている。尾根の勾配がきつい為か 大雨があった為か 特に前白根山から湯元温泉へ下る登山道などは急勾配の中、登山道が深く剥ぎ取られ、倒木と剥き出しの根が倒れこみ、常に厳しい状態だった。

頂上が見え隠れする中 緑深い樹林の中を奥白根の山腹を巻くように次第に高度を上げてゆく。



木々の間からは今通ってきた沼田からの谷筋の向こう側に、武尊山の大きな山塊が見え、その背後に越後三山 巻機山が見える。さらに右手に眼をやると尾瀬の山々至仏 そして 燧ヶ岳の特徴ある姿が前座の山並の向こうに見える。途中でガレ道を頂上へ登ってゆく道と別れ、ひたすら斜めに右へ右へと山肌を登る。

武尊山・谷川岳遠望



樹海の中から奥白根



1 時間とちょっとで樹林帯を抜け、頂上へと続く尾根筋にとびだした。

周りにさえぎるものが無く 風が冷たいが、白い岩肌とザレの間ところどころに這い松の緑があり、バックの青空に映えて美しい。



見上げると白いザレ道が頂上の岩峰に向かって続き、米粒のように人が登ってゆくのが見える。振り返ると上信越の山々が青空に浮いているのが見える。遠くに浅間の山並も・・・・。



上越側 の山腹を登っているの、日光側の山並や中禅寺湖は見えない。

剥き出しの大きな岩がところどころに転がるザレ道を約 30 分ほど登り、頂上直下の岩場に至る。ゴツゴツした大きな岩の割れ目をのぼり切ると大きな岩のきれ落ちた向こうの岩が頂上。

切り立った岩の上にたつと奥日光の山々 男体山・中禅寺湖が薄っすらかすんだ中に見える。幾つかの岩を上り下りして 狭い岩峰の先に立つ。奥白根山頂上である。登り初めて約 2 時間で頂上。



奥白根山 頂上から 奥日光の山々を遠望

【3】奥白根山 頂上で 360 度の展望



標高 2578m。信州から上越・会津・奥日光・秩父へとグルッと 360 度見渡せる東北・関東で一番の高所。30 年以上も昔 友達に金精峠・丸沼・菅沼の名前と共に教えてもらった奥白根。やっと頂上に立ちました。足元からは垂直に切れ落ち、眼下には五色沼が紺碧の水をたたえ、五色・前白根へと続く奥日光への尾根筋が続いている。



奥白根山 頂上



頂上直下の五色沼

周囲の山々を見渡すと南西から北に浅間・白根 武尊山塊 越後三山 巻機山など上越の山々が並び、さらにその北に尾瀬 至仏 燧ヶ岳 会津駒など奥会津の山々。そして北から東に 奥白根の尾根筋の向こうに戦場ヶ原・中禅寺湖を前に男体山・太郎山など奥日光の山々が見える。さらに南側には大きな皇海山。

奥白根からは富士山が見えると聞いたがこの日はダメでした。

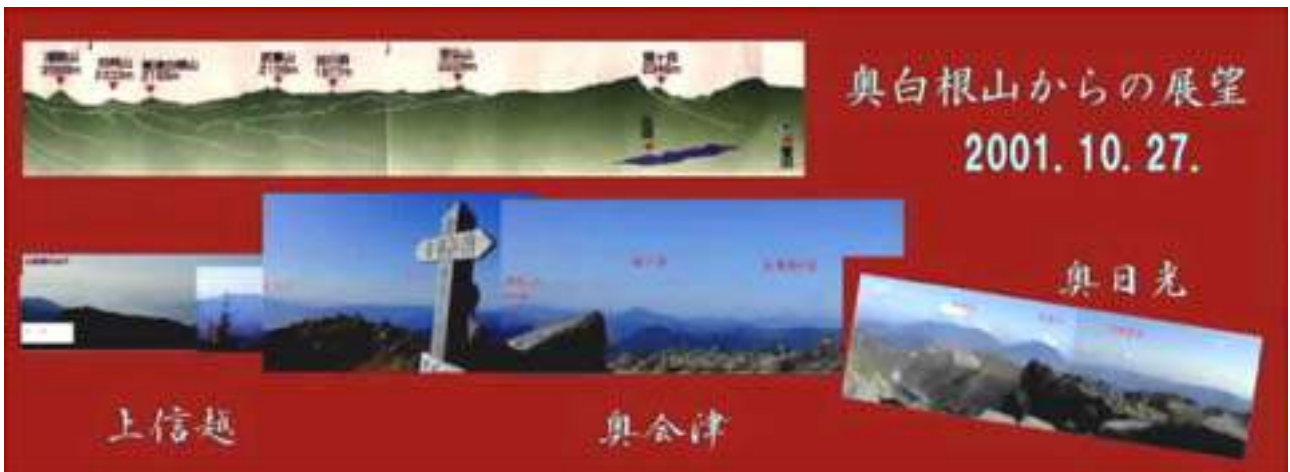
頂上は秋の風が冷たい。頂上に約 30 分ほどいて、ちょっと暗くなるかも知れないが、奥日光湯元温泉へ下る事にした。

【奥白根山からの 360 度の展望】

上信越から会津への山並



奥白根山の稜線と奥日光の山並



【4】奥白根から五色沼・前白根山を通過して奥日光湯元温泉へ



午後2時半過ぎ、秋の日差しが、もう弱く頂上に立つ人影や岩峰の陰が大きく岩肌に残っている。少し遅いが、予定通り、奥日光湯元温泉へ向かって下る事にする。

奥白根の頂上からは急なザレ道をもう落ちてゆくかのごとく下ってゆく。

灌木の中にはいってもこの傾斜は同じ、五色沼のほとりの避難小屋まで下る。

時間も遅いこともあり、上越側 丸沼からの登りの

人の行き来とは違い、もう誰も日光側へは歩いていない。山陰にはいるともう秋の日差しが、長く陰を引いている。

降りていく向こうには高さはさほどないが前白根の尾根筋が壁のように立っている。

いやと言うほど下ってまた、上りなおし。1時間程で前白根の頂上につく。

丁度逆光で奥白根の岩峰が黒く光っている。前白根からは平坦な灌木の尾根筋を湯元に向けて下ってゆく。

頂上から五色沼・避難小屋への下りで



五色沼非難小屋への急なくだり



五色沼避難小屋周辺



前白根山への尾根筋

前白根山の尾根で



前白根山の稜線で



前白根山頂上



前白根山頂上から奥白根山を望む

奥日光 湯元温泉へ

ここまでくれば 今日には湯元温泉にゆっくり入ってと思ったのが、運のつき。

すごいくだりになりました。今、思うとおそらく旧道に入ったのか、集中豪雨で道があれたのか……………

湯元への標識で尾根筋を離れ急な下りの山道を下りだした。倒木が多く、登山道が荒れているが、何の疑問も無く急な下りを下ってゆく。



そのうちいい道にトラバースするだろうと思っていましたが、ついに下まで山肌に掘れこんだ急勾配の山道を倒木と木々の根につかまりながら、一直線に下ってゆく事になりました。。

もうどうしようもない。テープもついているし、ふみ跡もしっかりしているが、道か水が出たあとの流れた跡かもはっきりせず。下るのみ。遙か下に湯元の街が見え隠れ。

30分ほど下って、やっぱり 悪戦苦闘している一人に追いつく。避難小屋から出会った唯一の人。

「すごい道ですね」でも この道 登る人の事思うとまだましですね」旧道にはいったのかなあ… 一度旧道・新道の標識あって新道へきたはずだけど……………」と言葉を交わしたがどうもわからず。ぼくの方が早くなったので、そのまま追いついてゆく。

結局湯元温泉のスキーリフトの横まで、この悪路が続いた。

ここだけで約1時間強 悪戦苦闘。

周りが薄暗くなった5時過ぎにスキー場の縁へ。スキー場の中を通過して、スキー場の入口に来ると「登山口・入山届」の標識。

道そのものは違ってはいなかったと思いますが、旧道かも？
今もって不思議。



明かりのついたホテル街に出て「湯元荘」で温泉へ少し
硫黄の匂いのする乳白色の湯が心地よし。

奥白根山。丸沼のゴンドラで途中まで行って「大した
こと無し」と思っていたが、やっぱり大きな山。日頃
の運動不足が骨身に堪えた山でした。

でも、念願の山に登れ、また「上越側から奥日光へ」一
度はやってみたいと思っていた道も歩けました。

腕や足のあちこちに擦り傷。 お湯がしみて痛い満足。

真っ暗な空をみあげ、今日たどってきた道筋を思い返しなが

奥日光湯元温泉にて

2001.10.27. by M.Nakanishi



追伸 この日 日光は紅葉を求め、今年一番の入出。「いろは」坂の登りに昼間約4時間かかったそうです。「もう クラッチ踏むのも嫌。」とバスの運転手氏。帰りもう6時を過ぎているのに日光駅まで2.5時間かかりました。

「関東の人の波は半端でなし。」つくづく関西との差実感しました。

以北の最高峰 奥白根山【完】

冬の陣馬山 ハイク

陣馬山 景信山 小仏峠 2002.2.2.

jinba0.htm 2002.2.2. by M.Nakanishi



富士山 眺望



陣馬山頂上



大菩薩嶺 眺望

2月2日朝 快晴

思い立って神奈川・東京・山梨の国境にある陣馬山から小仏峠まで残雪の中の尾根道をハイキングに出掛けた。

一人神戸から出てきて藤野町で小学校の先生している姪を訪ねがてらにWVのN氏が言っていた富士山見えればのハイキング。藤野町から和田峠へののどかな川沿いのみちを歩き、沢井の集落の陣馬山登山口から一の尾根を登る。先に二人登っていった後 人影は無し。展望の利かない杉林の尾根道 残雪をふみしめながらの約1.5時間で陣馬山頂上へ。

霞がかかっているが笠雲をかぶった富士山が正面に雄大な姿で迫り東から西へ 丹沢山・富士山・三つ峠・大菩薩・金峰山・御前山・大塔山と素晴らしい展望が楽しめました。



ここをホームグラウンドに山歩きをしているN氏の情報GOODでした。陣馬山頂上へは車かバスで和田峠へ来れば、階段の道を約20分で登れるとか
また、山頂の茶店で「ビール」といったら「ピンビールとつまみの皿」が出てきたのにはビックリ。缶ビールを飲んでる人達の中で一人ピンビールをはずかしげに飲みました。

1. 藤野町沢井 登山口から 一の尾尾根 登山道を頂上へ



藤野町 沢井 登山口



残雪が一杯の一の尾 尾根 登山道

2. 陣馬山 頂上で



陣馬山について

陣馬山は、東は東京都八王子市上恩方町、西は神奈川県藤野地区野川字和田峠、南は岡町沢井字陣場に接し、標高857メートルで山頂には三等三角点があります。陣馬山の名は、戦国時代に北条氏と武田氏が対陣したことから、陣馬山と言われたものが、後に陣馬山(陣場)と呼ばれるようになったと伝えられています。天正年間には、甲斐武田氏の観望台があったとのことです。360度、まさに十三州の眺望は、昔から展望の山として有名です。頂上附近はカヤを主とした草原で、子供や高齢者でも登れ、交通の便も良く、都心から手軽に日帰りできるハイキングコースとして、親しまれている山です。

陣馬山から良く晴れた日に見える主な山々

南から西へ360度順に標高千巻・三浦平野・江ノ島・仏堂山・大山・丹沢山・野ヶ岳・権御丸・大塚山・湯本山城・富士山・ミツ峠・南アルプスの赤石岳と熊沢岳・奥平山・小笠原山・大菩薩峠と大菩薩嶺・新井父の堂山・北原千文岳・御前岳・三嶺山・生駒山・奥ノ奥山・御前山・大塚山・陣馬の堂山・鎌倉・日光白根山・奥平山・女神山・赤穂山・筑波山・東京都内・横浜市内街が見えます。

平成13年 3月
神奈川県自然環境保全センター
藤野地区 編





3. 陣馬山 頂上から 残雪の尾根道を小仏峠へ



陣馬山頂上で地図を片手に 360 度の展望と山名チェックを周りの人と楽しんだ後陣馬山から小仏峠・高尾山の縦走路に行く。小仏峠迄人のいない林の中の尾根道を残雪を踏みしめながら、静かなハイキング。



陣馬山 - 明王峠・景信山・小仏峠の縦走路で

杉林の中の雪道の中幾つかの峯を上り下りして頂上に茶店がある景信山へ。
 こも茶店が開いている。景信山から森の中の急な下りを幾つか繰り返しながら小仏峠へ。林の中の下り道が急に切れ、林の中の小さな広場に出る。傍らにひっそりとお地蔵さんが祭られている。全く人影が無し。旧甲州街道 小仏峠である。

甲斐と江戸を結ぶ甲州街道の要衝の地で峠には関所が設けられていたと言う。今は静かな山の中。
 陣馬山・景信山から高尾山へと続く尾根道の鞍部と甲州街道とがこの小仏峠で交差し、木立ちのちょっとした広場の端にお地蔵さんが祭られている。
 左手下方には八王子の町並みがかすんで見え、右手には相模湖町と周辺の山々が木々の間から見えている。いつもは多くの人でにぎわうハイキングコースですが、残雪におおわれた峠の夕方、誰一人おらず。
 往時の峠の賑わいにイメージ膨らませながら、峠の静けさを満喫。



ここから旧甲州街道の山道を下って相模湖への沢への急な下り道が相模湖町底沢へと続く。良く整備された道。今通ってきた尾根筋がまたたくまに遙か上になり、小仏峠の山腹を貫く中央自動車道が木々

の間から見え出し、程無く谷の入口底沢の河原に飛び出し下山完。
 振り返ると遙か上方に小仏峠の尾根筋が見える。昔の旅人はこの見上げる峠への山道に難渋した事だろう。今甲州街道は 見あげる小仏峠の下の山腹を中央自動車道と中央線がトンネルで通過している。甲斐・武蔵国境の壁となって、陣馬山から小仏峠を通過して高尾山の尾根筋を直角に山越へするの小仏峠の大変さを今更ながら実感。



小仏峠から底沢への下り 旧甲州街道



底沢 小仏峠への登り口



底沢から小仏峠を望む 中央自動車道・中央線トンネル

下山後 藤野町の姪に聞くとこの高尾・小仏峠・陣場山の尾根筋を走る山岳マラソンがあるという。そういえば 一人雪の尾根道を走っている人に出会いましたが、その練習かも。こんな雪道走って・・・物好きなと思いましたが・・・

全く足を踏み入れた事のない山域。 人が多いのでは? と敬遠していましたが、久しぶりにゆったりした気分で雪の山道を歩け、相模湖を眼下に富士山から三つ峠・南アルプス・大菩薩嶺・秩父の山々の展望も楽しめました。

下山後、行く行くと言いながら訪ねられなかった藤野町の姪にも会え、ラッキーな1日でした。

2002.2.2. by M.Nakanishi



山梨・神奈川・東京都 県境 の 富士見台
冬の陣馬山 ハイク
陣馬山 景信山 小仏峠
【完】

14.

福島県 裏磐梯 2002.4.6.

残雪の五色沼 アルバム

bandai.htm by M.Nakanishi



4.6. 福島県三春町の『滝桜』を見物した午後 郡山から、そのまま磐越西線に乗って猪苗代へ。夕方 雪の裏磐梯 五色沼を探索。

車窓から眺める磐梯山には まだべったりと雪がついて美しい。猪苗代湖越しに磐梯山を見た風景が良く写真にあるが、見たこと 無し。今回やっと見れました。

猪苗代駅から裏磐梯・五色沼へのバスに乗る。午後三時を過ぎ案内所の人にも雪があり、物好きだと笑われたが、裏磐梯で泊まるもよし、帰るもよしで出掛けた。 バスは結局ひとりだけ。

裏磐梯への道路はすっかり除雪されているが、まだ回りは残雪が多く冬景色。明日の天気予報は雨。残雪の五色沼を歩いてまたそのまま郡山に帰ることにする。

三十数年前の晩秋 真っ赤な紅葉と小雨に煙る五色沼を家内とふたり震えながらめぐったのを思い出しながら夕闇せまる白銀の中五色沼を散策。雪道を踏みしめて林の中に分け入ると 次々現れる五色沼の神秘的な沼の色は健在。

人っ子一人いない静けさの中の沼めぐり。白銀の磐梯山が夕闇の中薄っすらと赤く染まってこれもまた印象的。

今度は是非 磐梯に登って帰ろうと思っている。

残雪の裏磐梯 五色沼 アルバム

2002.4.6.



会津磐梯山 猪苗代側から



磐越西線猪苗代駅



毘沙門沼



赤沼



弁天沼



弁天沼から磐梯山



15.

残雪の草津白根山と草津白根殺生河原からの展望

kusatsusirane0.htm

14日朝5時 快晴 ホテルの大浴場 朝風呂へ
風呂からは夜明け前の白根連峰が朝靄の中
草津の街の家並み越しに堂々とした姿で一大パノラマを見せている
温泉につかりながらのこの景色 朝早起きの得

また、ホテルの南側には草津白根に対峙して高原の林の上に
真っ白な裾野を広げた浅間山が堂々とした姿を見せている
雪の浅間山の景色をじっくり見るのも初めて
昨日とは打って変わった快晴である

草津高原からの展望



【草津高原より 北 草津温泉街越しに草津白根連峰】
【草津高原より 南 浅間山】



草津白根 殺生河原からの展望



草津白根ドライブウェイより 草津の街 & 草津白根連峰 2002.4.14. 早朝

快晴の早朝。

夜明けの薄明かりの中 白根が全貌を見せている。この草津白根連峰や周辺の山々を見ないで そのまま下る手はない。

家内をせきたてて 朝飯前 再度 白根のドライブウェイを殺生河原へ。

昨日の夕方とは打って変わって 快晴の天候にドライブウェイを登るにつれ、次々と周辺の山々が姿をあらわしてくる。

正面には別途雪をつけた草津白根連峰がどっしりと座り、東には 砂子山越しに苗場から谷川の上越の山々 そしてその南には武尊山から奥日光・赤城山 そして南には 榛名山・妙義山 奥秩父から上信国境の山々が、朝霞の空に浮いて素晴らしい景観である。

殺生河原からは 雄大な壁となって裾野を広げる草津白根に阻まれ 信州側の山は見えないが、それ以外はすべての方向の山々が見えている。



殺生河原からの展望 上越・奥日光・赤城 秩父・上信国境の山々

名前の特定は苦手だが、道路脇の崖の上に攀じ登って地図と合わせて周りの山の特定をはじめ。

苗場・谷川岳にもべっとりと雪がついている。また 遠くかすんだ奥日光の空の右手に見えるのは尾瀬至仏山一番奥に頭を突き出しているのが日光白根か 南に堂々とした山塊を見せるのが赤城山 秩父の山はよく知らぬ そして 南 草津の向こうには円錐の榛名富士。浅間は山と木々に阻まれてここからは見えない。



殺生河原で 草津白根山背景に

2002.4.14.

昨日は霧でわからなかったが、ドライブウェイの両側には殺生河原の名にふさわしく あちこちからガスがふきだし、木々のない岩のゴロゴロした原が広がっている。ドライブウェイを遮断したクロスバーを乗り越えて 少し上の方へ歩いてみる。

今日も誰一人いないご機嫌の殺生河原。 山へ登る為誰か登ってこないのか・・・

本当に白根に登りたかったのですが・・・今度はコマクサが咲く時に 是非にと未練を残しながら草津へ戻りました。

山形県 出羽三山

16.

花の月山 walk 2002.7.27.

高山植物が咲き乱れる山上の縦走路



mamoon.htm 2002.7.27. by M. Nakanishi

16.1. 高山植物の咲き誇る月山 walk

16.2. 月山の花 夏



8.27.〔土〕晴れ 今日を逃せばまた今年も行けぬ。
是非一度は行ってみたい山上のお花畑。ずっとあこがれていた出羽三山 花の月山に行ってきました。

晴天に恵まれ、姥が岳から月山山頂へ続く縦走路では雪渓を抱く月山の山容をバックに足元にはチングルマ・ミヤマリンドウがそしてニッコウキツゲの群落



ニッコウキツゲの群落



ミヤマウスユキソウ

ふっと岩陰を見るとウスユキソウが清楚な花をつけています。

月山のお花畑は素晴らしいと聞いてはいましたが、山上の縦走路は本当に素晴らしい花の縦走路。 goo でした。

早池峰では時期が早くて一つしか見れなかったウスユキソウが群れをなして岩陰で咲き誇っていました。もう この花がしっかり見られただけで満足・満足。早池峰から月山・鳥海山など東北の限られた山そして礼文島でしかない和製エーデルワイス。思わず エーデルワイスの歌口ずさむとともに もう一つのエーデルワイスの歌とあのサウンドオブミュージックの山越えの場面を思い出していました。また このニッコウキスゲの満開の群落も八幡平の縦走路以来。



西山町の月山口 姥沢リフト上駅から姥が岳へ登り、山上の縦走路を牛首の大雪溪の上端を通過して月山頂上へ。そして頂上から縦走路をさらに北へなだらかな尾根筋を仏生池を経て鶴岡・羽黒山側の弥陀ヶ原八合目登山口へ山並みと咲き誇るお花畑を眺めながらの素晴らしい山旅でした。

ゆっくり花を見ながらの気楽旅、八合目駐車場 4 時 10 分発のバスに 10 分の乗り遅れ。ドライブウェイを歩いて下る羽目に・・・。

途中で下ってきた地元の熟年のワゴン車の親切な 5 人グループに拾ってもらって鶴岡へ

「夜中になるよ」と散々車の中で冷やかされましたが、

車で 1 時間弱。途中ほとんど人家なしでしたから本当に助かりました。

こんな事もあって スピード登山でしたが 高山植物の宝庫「月山」は本当に印象的な walking でした。



「月山」やっぱり みんなが言うとおり素晴らしい花の名山

今 ブームの山なので歩くのも大変かと思いましたが、それほどじゅづつなぎでもなし。

人の多さなど気にならぬお花畑の縦走路でした。そして 東北の人情も・・・

唯一県庁の所在地にたった事のない未知の県「山形」だったのですが これで全国すべて完了。終止符。

鶴岡の中心部の川に沿って散策しながら鶴岡駅へ。 明治の古い洋館建の美しいカソリック教会の建物

を見て 鶴岡駅 6 時 20 分の特急に飛び乗り、日本海へ沈む夕日を見ながら新潟・東京へ。

様子も判ったし 次は出羽三山 ゆっくり時間かけて 秋にでももう一度と思っている。

16.1. 高山植物の咲き誇る月山 walk



月山頂上付近のお花畑と月山縦走路 2002.7.27.

1. 山形駅から高速バスで月山登山口 姥沢へ



月山 縦走路地図

月山口・姥沢登山口・姥が岳・牛首一月山頂上
・仏生池小屋・弥陀ヶ原・鶴岡側月山八合目登山口

まあ あかんかったら山小屋で泊まればよい
月山は修験道の山 今も信仰の登山が続いて
いるので、山上で泊まるのに困らぬはず・・・
ということで 6時35分山形新幹線に乗り、
山形へ。

朝4時半に飛び起きて いつもの朝 5時15分柏発の電車で
上野へ。「新潟廻りで鶴岡へ行くか 山形新幹線で山形へで、
そこから高速バスで月山口へ行くか」の踏切りつかず。

ポピュラーなのは鶴岡からバスで新八合目登山口・弥陀ヶ原
から歩きだすのが一番楽で帰るのも楽。しかし、朝早くしか
新八合目登山口行きのバスはなく、タクシー使わねばならぬ。
一方 山形廻りだと西山町月山口・姥沢登山口から歩き出す
と昼過ぎになり、鶴岡側のバスの時間と競争になる。頂上か
ら引き返すのもしゃく。

ガイドブックによると月山

の縦走路と同時に新八合目登山口の弥陀ヶ原湿原の素晴らし
さも月山の魅力の一つ。是非足を踏み入れたい。



お花畑が広がる姥が岳から月山頂上への縦走路
2002.7.27.

山形駅に降りるのは初めて・・・。

今日 山形駅に降りる事で都道府県庁の所在地全てに足跡を印す事になる。

9時10分山形着。山形駅では蔵王へ行く人は多いが、月山口を通過して鶴岡までの高速バスに乗る人影無し。ほかに何かあるかも・・・の思惑はずれで10時まで待つ。

山形の駅前ももっと小さいと思っていましたが、新幹線が開通して大きな街が出来、何処にでもある地方都市の駅前の感じ。もっと山を越え、谷あいをめって走る汽車。そして山間に広がる小さな盆地と

思っていたが、相反して最上川沿いに広がる広大な盆地。

描いていたイメージとは随分違っていました。

新幹線のみならず、高速道路が街を貫き、東京・仙台そして

日本海側の鶴岡・

酒田へとつながっ

ている。



山形-鶴岡 高速バスの車窓から

山形盆地と大河最上川 2002.7.27.

もはや僻地のイメージ無し。そういう意味では 半導体・

エレクトロニクス産業が山形はじめ、郡山・福島・仙台・米沢・山形と南東北を僻地から開放した功績は大きいのだろう。出かける機会のなかった僕の方が認識不足。

高速バスの中、広大な山形盆地の町並みや最上川の流れ眺めながら、そんな事を考えていました。



西山町 月山口

これで山形にもすっかり足を踏み入れ、都道府県庁の所在地全てに足跡を残すこと完成。

その中心にある出羽三山・月山への walk へ。

鶴岡行き的高速バスで約 30 分ほど過ぎると山形盆地を抜け、山中へ入ってゆく。雲に隠れ山並みは良く見えないが、

月山の麓へ分け入り、まもなく月山湖が見え隠れし、雪溪が見える月山が雲の中に見え隠れするようになり、月山口に到着。降りたのは私ともう一人やはり月山へ行く中年の

男性の二人だけ。姥ヶ岳登山口への道が直角につけた街道筋にドライブインはあるものの月山湖を見下ろす山の中

次々と車が月山へと登ってゆくが、迎えにきてくれる西山町のシャトルバスを待つしかなし。

小さなシャトルバスに乗って姥沢登山口に着いたのは12時前。駐車場には大型の観光バスと車そして観光客があふれ、

今が月山の花のシーズンである事を思い知る。そしてその向こうに頂上部を雲の中に入れた月山の山塊の一部が見える。



姥沢登山口

昼までに登山口まできたので、リフトに乗って姥ヶ岳登山口駅までリフトに乗って高度を

かせげば、月山頂上を経て 北の鶴岡側 弥陀が原新八合目登山口まで縦走できそう。雲

は多いものの青空が広がり、絶好の walking が望めそう。

ニッコウキスゲとウスユキソウが見れば それだけで goo。



リフト頂上駅 姥ヶ岳登山口

2. 姥ヶ岳登山口・姥ヶ岳

リフトを降りると正面には姥が岳が眼前に迫り、その右には頂上を雲に突っ込んだ月山の山体が見える。もう樹林帯を抜け出ているので、駅を一步外に踏み出すともうそこはお花畑が広がり、遊歩道は観光客と登山者でごった返している。

ここからは尾根筋に姥ヶ岳に登り尾根筋を縦走して月山頂上へ行くコースと姥ヶ岳を巻きながら大雪渓が下に広がる月山と姥が岳の鞍部で尾根筋か来た道と合流するコースがあり、いずれのコースもお花畑を楽しみながら歩いて約2時間で頂上に至る。

多くの人並みを避けて すぐに姥ヶ岳への縦走路に入り登り出す。



姥沢リフト上駅 姥が岳登山口からの登り



姥ヶ岳の縦走路で

道の両側にはお花畑が広がり、緩やかな姥ヶ岳山腹の登り道が頂上まで続いている。

その縦走路から右側には姥ヶ岳から月山への稜線からカール状に落ち込んだなだらかな広い谷が広がり、雪渓が下へ裾野を広げている。その谷の向こうに頂上を見え隠れさせながら月山がどっしりと座っている。また、この谷には先ほど分かれた姥ヶ岳を巻きながら月山へ向う道がつけられており、米粒のような人の列が見える。振り返ると眼下に登って来たリフト駅越しに月山湖・西山町の家並みが周囲の山々の中におさまって遠望できる。

楽しみにしてきたお花畑は周囲山腹全面。いたるところで数々の高山植物が花を咲かしている。岩陰の崖の下にはチングルマの群落広がっている。

緑の絨毯の中に点々と白い花が咲き乱れている。ふと道?上を見あげるとニッコウキツゲ。あちこちで黄色の花が見える。



姥が岳への登山路で



チングルマの群落があちこちで

2002.7.27.

頂上が見通せるようになって 足元がゴツゴツした岩くずが多くなってきた頃 ふっと足元を見るとウスユキソウ。

良く見ると道?両側の緑の中 あちこちにボツボツと数株の花が咲いている。早池峰では まだ時期が早く 花をつけているウスユキソウを数株しかみられず、残念でしたが、もう 今回はバッチリ。念願かないました。



日本のエーデルワイス 「ウスユキソウ」 登山路の足元で

飯豊・朝日 そしてこの月山 そして 早池峰より以北の山でしかみられぬ日本のエーデルワイス。思わず「エーデルワイス」の歌口ずさんでいました。また 映画「サウンドオブミュージック」で歌われたもう一つの「エーデルワイスの歌」とスイスの山越えのシーン。

ちょうど 月山の縦走路と全く同じ光景。座り込んで 映画のシーン思い出しながら、月山へと続く縦走路とウスユキソウを交互に見てました。

時間的にはもう遅いのですが、このウスユキソウに露がついていれば最高なんですけど・・・これも見つけました。

縦走路を歩いている人はみんなニッコウキツゲの群落に眼を奪われて ウスユキソウに見入っている人なし。ニッコウキツゲなど何処でも見られるが、ウスユキソウなど中々みれないのに・・・。

後日談なのですが、姉がお盆にやってきて 枚方で山野 草を育てている友達の本を持って来たのですが、その中にウスユキソウ バッチリ。もう街でウスユキソウも栽培される時代に・・・。

でも 山の尾根にひっそりと咲くウスユキソウ 自然の中で見るその姿とそこから広がるイメージは街の山野草では絶対に得れない。



姥ヶ岳の登山口から約 45 分弱で姥ヶ岳頂上。広い頂上近傍はもう見渡す限り ニッコウキツゲの大群落。昨年 八幡平で出会って以来の大群落。その向こうに雪渓を抱いた月山とうねうねと続く稜線の縦走路が素晴らしい。雲と霞のため、周辺の山々は良く見えないが、余計に月山を中心としたこの羽黒三山の山塊が堂々としていて、その山上に繰り広げられる花の縦走路とともに花の百名山のトップにランクされるにふさわしい。

姥が岳頂上周辺 ニッコウキツゲ` の群落



姥が岳頂上はニッコウキツゲの大群落

3. 姥が岳 頂上 ・ 牛首 ・ 月山 大雪渓 ・ 月山 頂上



姥が岳・月山への縦走路越しに月山を望む 点々とハイカー・白装束のお山参りの人の列

姥が岳頂上からは一旦鞍部まで下り、そこから月山に登りなおすことになるが、ニッコウキスゲが咲く緩やかな下りが続く山上の散歩道で、縦走路の向こうに雪渓を抱いた月山が雲の中に見える。
また、緑の中に一筋続く縦走路には点々と人の群れが見え、姥ヶ岳を下りきった鞍部には十数人の白装束に身を固めたお山参りの人々が見える。金姥と呼ばれる地点。ここで 湯殿山から登ってくる古くからの信仰登山の本道と合流し月山へ向う。カールの下谷にも点々と人の群れが続き、雪渓には集団登山の中学生の華やいだ奇声が風に乗って聞こえてくる。今が一番の登山シーズン。



姥が岳の山腹を巻く下の縦走路



姥が岳頂上からの稜線上の縦走路
コバイケイソウの群落

金姥を過ぎるとさすがに集団で登るお山参りの人たちが眼につくようになり、白装束に身を固めた人の群れやそこまでも行かないが、リーダーに連れられたお山参りの人達などとすれ違うよえになり、俄然信仰登山のメッカの雰囲気漂ってくる。

でも、みんなお花畑を楽しみながらのお山参り。陽気なおばちゃんの群れが挨拶の声を次々とかけてくれる。

周囲の山々を背景に山腹に白い棒状の花が林立。コバイケイソウの群落である。

コバイケイソウの花は良く山の写真でもみかるとし、実際何度となく見たことあるのですが、多数のコバイケイソウが山の斜面をバックに咲く様は見たことなく、非常に美しい。

コバイケイソウなど大型の花で美しい高山植物

などと思った事などなかったのですが、珍しい光景にビックリと感動。一人悦にっていました。

姥が岳頂上から約 45 分 カールの雪溪の上部に出る。ここで姥が岳を巻いて谷を横切ってきた道と下から雪溪を登ってきた道が合流する。牛首である。ここから 月山への本格的な登りとなる。月山の山頂の肩にあたる稜線・鍛冶小屋へと登ってゆく。後ろには今越えてきた姥ヶ岳からの縦走路が延々と続いて見え、はるか下に月山湖が霞んでいる。山又山の真っ只中にある事を実感する。ゆっくりとつづら折れの道をのぼりきったところで小屋の前に出る。右手に月山神社を頂上に戴いたこぶが見える広い台地にでる。もうひとのぼりで月山頂上である。そこへ向って登ってゆく。



牛首 姥が岳と月山の鞍部に広がる大雪溪



月山・姥が岳縦走路を振り返って



月山山上 月山神社

月山頂上がのっている広い台地の上も又、数々の高山植物が咲き誇っている。広い台地全体がお花畑で
きれいなので人が多くいても苦にはならない。

鳥海山が見えないかと探すが、残念ながら今日は遠望がきかず。

頂上は月山神社の神域。社殿が祭られ、頂上に立つにはお祓いを受けて体を清めてからでないとうがれ
ない。ここが信仰登山のメッカであること思い知らされる。さすが多くの登山者はこの社殿のあるこぶ
を巻いて広い頂上のあちこちで花を楽しんでいる。一方中年の人達を中心にお山参りで登って来たひ
とたちが、次々この社殿に入ってくる。

月山神社にお参りしたあと頂上の花の台地の一端に座って羽黒山側の山々を眺めながらの昼食。



広い月山頂上周辺



山頂は月山神社神域

2002.7.27

4. 頂上・仏生池小屋・弥陀ヶ原・新八合目登山口

【鶴岡・羽黒山側へ下山】



頂上の稜線を東側にガレ場を下りた広い台地状の斜面には大きな雪渓が広がり
稜線にはニッコウキツゲの群落がひろがっていました

頂上の直ぐ横にある頂上小屋に立ち寄ってよって仏生池・弥陀ヶ原・新八合目口までの時間を聞く。「2時間ではぎりぎり 登り2時間であがって来たのなら 何とかなるかも・・・」の声に励まされて そのまま縦走することにする。「登山口にはレストハウスもあるし、駐車場もあるし なんとかなるだろう。」

小屋の横から 稜線より少し東側に下って緩やかに右におちている広い台地状の中腹を稜線を左手にみながら北へ下っていく。

この東斜面には雪渓が広く残り、斜面のガレのあちこちにはニッコウキスゲ コバイケイソウやが咲き、足元にはイワカガミ チングルマ そして ウスユキソウが咲いて、右手一団下には広い台地状の月見ヶ原が緑の絨毯を敷いた様に見える。絶好の山上の楽園歩き。ついつい 立ち止まって雪渓や花の写真を撮りながらで時間をとってしまう。



縦走路から下の月見ヶ原を望む

もうルンルン気分です時間を忘れる。緑の縦走路に点々と歩いている人が見える。



頂上から北へ お花畑が続く仏生池への広い台地上の縦走路

歩き出して約1時間弱 緑の広い台地の縦走路のむこう広い雪渓が下に切れ落ちたところに小さなこぶを背に小屋が見える。頂上から弥陀ヶ原へ降る中間点 仏生池小屋である。

頂上から、約1時間でニッコウキスゲや高山植物とともに緑の中に埋もれた小屋につく。

小屋の前には写真でよく見た一群の地藏さんが立ちならび、その後ろに小さな池がある。ニッコウキスゲが美しい。

南側湯殿山から頂上への道では随分白装束のお山参りの人の群れに出会ったが、この弥陀ヶ原への道は少ない。でもこの小屋の前のお地藏さんには沢山のお賽銭があげれており、この道が信仰登山の道であることを思い出してくれる。





仏生池小屋 近傍で

4時のバスまで 1時間 急がないと間に合わない。
スピードあげる。緩やかな登り下りの平坦な道なのですが、ゴロゴロした石続く道で時間が稼げない。仏生池小屋の後ろのこぶを登りきると縦走路の前方遠く眼下に緑の絨毯の中に青い小さな池が点々と散らばった台地が見える。その広い広い台地の北のはしに小さな小屋が見える。弥陀ヶ原である。まだ遠い。ゴロゴロ石の道を急ぎ下ってゆくが時間が稼げない。ニッコウキツゲが咲く緑の中を突き進む。



縦走路から 弥陀ヶ原を望む

右の写真弥陀ヶ原奥にホツンとみえる建物が弥陀ヶ原の端に立つ月山御田原参籠所

弥陀ヶ原の月山参詣所が見えてくるところで4時10分前。登ってくる人にバス停のある新八合目までの時間聞くとまだもうちょっとある。ついに断念。ぶらぶら歩きに戻り、弥陀ヶ原の池塘や高山植物の咲く湿原を楽しみながら 月山信仰登山の入口月山御田原参籠所につく。

振り返ると弥陀ヶ原の向こうに堂々とした月山が見える。

参籠所には沢山の白装束姿の人たちが見え、ここがお山参りの宿泊基地になっているようだ。なだらかな草原の向こうに見える月山を見ながら新八合目登山口の駐車場まで降りる。もう足ガタガタの中 4 時 20 分。バスに乗り遅れた。



月山御田原参籠所と御田原参籠所近傍からの月山

ここは駐車場があるだけで もう十数台の車と観光バスが数台いるのみ。タクシーもなし タクシー呼ぶにも遠すぎるし、乗せてくれそうな車もなし。

当て外れであるが、まあ 2 時間も歩けば集落に入れるだろうと気楽な気分で歩き出す。

少し下ったところで帰る準備をしている 5 人の中年のグループに出会う。

鶴岡まで歩くというと笑い転げて「夜中になるぞ」という。

親切にも「ちょっと待って ワゴン車の中を整理して下まで乗せて行ってやる」と。

本当に助かりました。

道は山の中を羽黒山を約 30 分走り、山を抜けてから林と畑の中をさらに走り、約 1 時間で鶴岡の街。

その間 集落無し。歩いているとやっぱり真っ暗になっていただろう。

月山・羽黒山を抜け 田園地帯に出るとぼっかり北の空に鳥海山が浮いていました。

地元 朝日町の爺さんと中年の二組のカップルで月山参りの地元の人達でした。

関西人でそのまま鶴岡から新潟経由で東京まで帰るといったらまた笑われました。

本当に人の好い一家の人たちで思いもかけず話が弾みました。

この鶴岡を中心とした月山・羽黒山山麓の庄内平野が種無しの柿の大産地で走っている周りの林がすべて柿園であることなど教えてもらいました。

また、このあたりで取れる枝豆の王「ただじゃ豆」を私が知っているというのですっかり喜んで お盆あけには「だだじゃ豆」を関東の親戚や知人が収穫を待ちかねていることや 収穫のほとんどを農協に出したり、関東の知人に送る事などお国自慢に花が咲き、ほぼ 1 時間で鶴岡市の中心街の橋のたもとで降りてもらった。

そのまま歩いている事想像するとほんとただ感謝・感謝です。

「また他をあてにして」と叱れそうですが、最初から宛てにしている訳ではないのですが、いつも 地元の人助けてもらっています。



こんな事もあって スピード登山でしたが 高山植物の宝庫「月山」は本当に印象的な walking でした。

「月山」やっぱり みんなが言うとおりの素晴らしい花の名山

今 ブームの山なので 歩くのも大変かと思いましたが、それほどじゅづつなぎでもなし。

人の多さなど気にならないお花畑の縦走路でした。そして

東北の人情も・・・

唯一の未知の県「山形」だったのですが、これで未知?県も終止符 goo な旅でした。

2002.7.27. 夕

姥沢からの月山縦走 walk を終えて 鶴岡で

鶴岡の中心部の川に沿って散策しながら鶴岡駅へ。 明治の古い洋館建の美しいカソリック教会の建物を見て 鶴岡駅 6 時 20 分の特急に飛び乗り、日本海へ沈む夕日を見ながら新潟へ。

そして 10 時過ぎには柏へ帰り着いていました。

様子も判ったし 次は出羽三山 ゆっくり時間かけて 秋にでももう一度と思っています。



山形県鶴岡市 市街 と 国重要文化財の鶴岡カソリック教会 天主堂

高山植物の咲き誇る月山 walk 【完】

16.2. 月山の花 夏 2002.7.27.

月山の花 夏 アルバム 【1】



月山の花 夏 アルバム 【2】 2002.7.27.



月山の花 夏 アルバム 【3】 2002.7.27.



月山の花 夏 アルバム 【4】 2002.7.27.



山形県 出羽三山
16. 花の月山 walk 2002.7.27.
高山植物が咲き乱れる山上の縦走路
【完】

17.

八甲田連峰 Walk

2002.9.22.

八甲田連峰 縦走 と 草紅葉の毛無岱

hkda00.htm by M. Nakanishi



田茂ヤチ岳ロープウェイ駅 - 田茂ヤチ岳 - 赤倉岳
- 井戸岳 - 八甲田大岳 - 毛無岱 - 酸ヶ湯温泉

9.22. 早朝 雲は多いが晴れ
青森始発酸ヶ湯温泉行のバスに
乗って八甲田へ。

八甲田へ登って酸ヶ湯温泉 仙人
風呂に入って それから八甲
田・十和田を經由して、秋田県
鹿角へ下って 花輪・八幡平の
麓 大湯か米代川沿いの温泉で
一泊。 ゆっくり 山の湯には行って 23日は釜石へ。今日は長い強行軍の1日。



田茂ヤチ岳頂上駅から青森方面

昨日の夜 三内丸山遺跡の森の中から 八甲田連峰の横
に昇っ「中秋の名月」。八甲田山のシルエットにこだました
山上進さんの名曲「縄文」の笛の音が耳に残っている。

始発より、30分早く臨時に出たロープウェイに飛び乗り、
朝靄の中、田茂ヤチ岳から八甲田大岳への稜線の縦走路を
歩き出した。紅葉を期待したがちょっと早い。

全山真っ赤とは行かないが、山腹
のあちこちで黄色や赤に色づき、
眼下に見える毛無岱湿原は草紅葉。
池塘の点在する中 広い湿原一帯
が秋の枯れた色一色になっている。
また、山は実りの秋。 赤く色づ
いた実をつけている。



田茂ヤチ岳 五色沼

2002.9.22.

1. 田茂ヤチ岳から赤倉岳・井戸岳・八甲田大岳へ 稜線歩き

ロープウェイ駅周辺はひくい樹林の中に池澗の散らばる田茂ヤチ岳の湿原。湿原越しの八甲田の峰々が美しい。一旦樹林帯の中に入り、赤倉岳へと樹林の中を登って行く。



約1時間ほどで赤倉岳の断崖の上に出て、そこからは井戸岳の火口壁を上って大岳と井戸岳の鞍部に出る。もう さえぎるものない縦走路で正面には少し色好きはじめた山腹とぱっくりと口を開けた井戸岳 そして その向こうには大岳が大きな山体を見せ、豆粒ほどの大きさに火口壁の縦走路を行く人が見える。また、左手奥には大きな高田大岳が霞んでいる。

山上進さんの笛の曲「縄文」にぴったりの世界である。



井戸岳の火口壁の縁の縦走路をたどり、正面に八甲田大岳が見えるあたりから 避難小屋の見える井戸岳と大岳の鞍部に一機に 100m 下り、そこから又、一機に 150m 大岳の山腹を登りきって大岳の頂上へ登る。

鞍部の避難小屋の所からは毛無岱を経て酸ヶ湯温泉への登山道が伸び、多くの人が集まっている。頂上へ登りここまで戻ってから毛無岱を経て、酸ヶ湯温泉へ下る。

大岳のゆるい斜面の山体が正面にどっしりと座り、振り返ると池澗を前に紅葉しはじめた井戸岳の火口が美しい。

頂上直下のガレ道を登りきると広い頂上。 田茂ヤチ岳のロープウェイ駅から稜線の縦走路をめぐる約 2 時間ほどで八甲田連峰の最高峰大岳頂上。

本州北端の山ではあるが、やっぱり八甲田大岳は人気の山。人で一杯。360度の展望を楽しんでいる。残念ながらまだ、午前中ではあるが、もう雲が湧いてきて遠くまでは見えない。





八甲田大岳の頂上で 2002. 9. 22.



2. 八甲田大岳から毛無岱を通過して 酸ヶ湯温泉へ



大岳と井戸岳の鞍部 避難小屋から紅葉の毛無岱へ

大岳と井戸岳の鞍部から 毛無岱へ

一旦 井戸岳と大岳の鞍部に下りて、そこから西へ下りて原へ。約 30 分程青森椴松の樹林の中を抜けると草紅葉した上毛無岱。

樹林帯の中を八甲田山の中腹に広がる大湿

草紅葉した湿原の中を一筋の木道がまっすぐ伸び点々と散らばる樹木の青と湿原の草紅葉とのコントラスト



四茂十子岳 毛無岱の下り道が美しい。

湿原のバックにある八甲田大岳・井戸岳・赤倉岳の頂上部がもうすっかり雲の中に入って入る。

上毛無岱と下毛無岱の間は約 50m 程階段状に落ちており、下毛無岱の全景が見下ろせる。

草紅葉した湿原に緑の島と池塘が点々と見え、一筋の木道がそこを貫いている。
所々に赤くなった木々も見え、素晴らしい日本画の屏風を見ているような錯覚に陥る。
ゆっくりと廻りの景色を眺めながら 毛無岱の景色を楽しみながら午後 1 時前に酸ヶ湯温泉に降りる。

【 草紅葉した毛無岱 点描 】 2002.9.22.



酸ヶ湯温泉

酸ヶ湯温泉で山の汗を流して十和田湖から秋田県鹿角・花輪へ

酸ヶ湯へ入るのは学生時代に来て以来だから 30 数年ぶりか・・・

何度もこの横を通りながらである。最も そういうと八甲田山も今日までいつも眺める山で そのまま奥入瀬溪流・十和田湖へ・・・・・・・・

酸ヶ湯は乳白色の湯と広い広い仙人風呂での超人気スポットで人でごった返している。でも 入って帰ろうと。混んではいるが熱い乳白色の湯 板張りの落ち着いた山の湯に一気に疲れが取れる。



八甲田なんて・・・とっていましたが、やっぱり 深田久弥が選んだ八甲田山 素晴らしい山でした。特に 中秋の名月に浮かび上がる八甲田のシルエットを楽しんだ後の山だったので余計に印象的。

青森縄文の世界と重なって 本当に good

午後はバスでこの山並みを越えて南へ もう一つの秋田縄文の世界へ

TV でビックリした今年夏の花輪囃子のあの若い人達のエネルギー。触れてみたいお祭りでした。

その地 大湯の縄文の集まりには行き着けそうにないが、泊まった事のない花輪・鹿角。

米代川沿いのどこか温泉にとまって、秋田鹿角・花輪 縄文につながる夜を楽しむ予定。



11.10. 久しぶりの日曜日。のんびりと朝柏の教会にでかけ、そのあと上野の美術館にでも出かけようと上野駅に着くと丁度午後1時発の上越線特急「水上・草津号」の発車のベルがなっており、思わず駆け込んで乗ってしまう。

まあ、汽車の中から山見ながら、紅葉の谷川岳・一の倉沢を見に行っても良いし、草津か万座へ言っても良いしと車掌には行き先猛ちちょっと後で決めると・・・。

熊谷駅を通過高崎に近づくが、お天気は快晴なのですが、左手に見えるはずの富士山は見えず。一方右手にはベトリと雪のついた赤城山から 足尾・奥日光の連山が見える。もう上越の山は雪化粧。高崎で降りて、今紅葉が真っ盛りとTVが伝えていた妙義山山麓を紅葉を見ながら歩く事にする。

妙義・赤城・榛名山を上毛三山という。妙義山はその一つ。妙義山だけまだ登ったことがなく、残っている。そのゴツゴツとした岩山の特異な形とその紅葉の美しさで知られた山で一度は是非登りたい山。頂上部は険しいゴツゴツの山ですが、多くの登山道・山裾のハイキングコースもあり、今回は時間も遅いし、紅葉の散策。

高崎から信越線に乗り換えて約 15 分碓氷峠へ差し掛かる手前の群馬県松井田から妙義山に入る。



妙義山 遠望 信越線車窓より 2002.11.10.

高崎駅を出て 汽車は上州と信州を分ける碓氷峠から流れ下ってくる碓氷川を渡って、大きくカーブして田園地帯を信州へ向う。

すすきが建ち並ぶ野原越しにゴツゴツとこぶを幾重にも連ねた特異な山が見え、その右には真っ白な雪に覆われた浅間山が見えてくる。妙義山である。

写真やガイドブックでは何度も見た

ことあるのてですが、じっくりと意識して眺めるのは初めて。

汽車はどんどんこの妙義山に近づいて ほどなく松井田駅。もっと大きな駅かと思っていましたが、まったく何にもない普通の駅。

タクシーを捕まえて ドライブウェイを妙義山の岩峰が見える妙義神社へ 着いたのはもう3時半を越えて 紅葉の木々に埋まって見上げる妙義山の岩峰 には西日があたり、夕暮れが迫っている。妙義山の反対側には 広がる高崎の街越しに赤城山が堂々とした姿を見せている。



妙 義 山 山麓 妙義山神社より



赤城山 遠望

紅葉を見るのは やっぱり、山中の森の中にはいらねば・・・と妙義山の中腹岩峰の裾につけられた登山道に踏み入れる。ドライブウェイの喧騒から離れ、紅葉した木々の中につつまれる。

昨年 安達太良山くろがね小屋周辺で経験したあの体全体が紅葉で染まるあの経験 今年ダメかと思っ
ていましたが、妙義の山中の紅葉に身を置く事が出来ました。妙義山は里から近く山が浅い事もあっ
てあの安達太良の幾重にも重なり合った濃厚さはなし。でも、紅葉と岩とのコントラスト 一本一本色
形の変わる紅葉が美しい。

しばらく紅葉と岩山を眺めながら紅葉した林の中を歩き、妙義神社へ出てきたときにはもう 真っ暗。

妙義山の紅葉 妙義山山麓の登山道散策 2002.11.10.





関東で一二を争う紅葉の名勝 妙義山

岩と紅葉のコントラストが美しかったです、残念ながら昨年見たあの真っ赤な紅葉には出会えず。

今年はどうも夏から一挙に冬になったため、色づきが悪いのかもしれない。

でも おもいもかけず、日曜日の午後 妙義山の山麓で紅葉狩り。

上野から上州へ こんなにたん時間で行けるとは意外でした。

冬は岩場が恐ろしいので 次は来年の春 朝早く起きて妙義山か裏妙義へしっかり歩いてみたい。

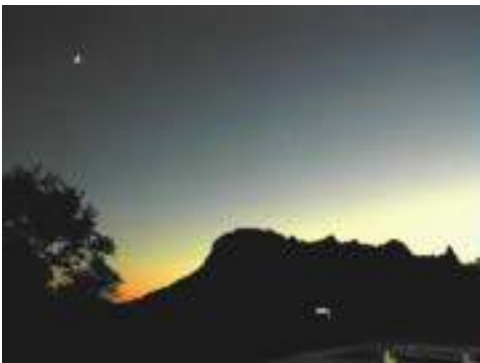
また この裏妙義・万座の谷合いは古くからの砂鉄の産地。今はもう全くわからなくなっているが、たたら遺跡にも訪ねてみたい。



妙義山の夕暮れ 高崎 遠望

2002.11.10 高崎かの快速電車の窓にもたれながら

by M. Nakanishi



妙義山の夕ぐれ

2002.11.10.夕

19.

白雪をいただく富士山 2002.12.23.

・ 足柄 金時山 ハイク ・
03fujii.htm 2003.1.1. by M. Nakanishi



足柄 金時山 乙女峠からの富士山 2002.12.23.

連休 三日目 ふっと富士山見たくくなって 足柄山 金時山に登ってきました。
12.23. 朝 7時 目覚めると前日の曇り うっとおしい空から開放された真っ青の空が広がっている。時間はちょっと遅いが、絶好の山日和。
前週 東北道沿い 白銀に輝く日光・那須・磐梯山の山々を見た後だけに山へ行きたいと飛び起きた。
ふっと 富士山が見たくなり、前々から一度walkしたかった足柄 金時山から 富士山を眺めよう。
また、 金時山の頂上の小屋には有名な「金時娘」の婆さんがいる。もう 随分 年をとられたことだろう。
御殿場線で御殿場へ 途中 車窓に見えるゆきをかぶった丹沢山が美しい。
国府津で御殿場線に乗り換えて 御殿場へ。



JR 御殿場駅から見あげる富士山

御殿場駅では、正面に富士山が真っ白な裾野を広げてそびえたっていました。まさに 街から見あげる富士山。こんなに近くでみたのは初めて。

御殿場の街をはさんで この富士山に対峙して東には足柄・金時山の山塊がなだらかな山を連れ、この山塊の乙女峠を越えるとそのむこうに箱根。

この足柄・金時山は富士山を見る絶好のポイントとして名高い。

御殿場はもっと 山の街と思っていましたが、正面に富士山の裾野が広がる明るい街。



御殿場から 東に聳える足柄 金時山 2002.12.23.

御殿場駅から 東側にそびえる足柄 金時山の山塊を箱根仙石原へ抜ける足柄山越えの峠が乙女峠
今は バスはトンネルでこの山塊を抜けてしまうので、峠の下で降りて稜線まで登って そこから 雪の岩尾根を金時山へ向う。

乙女峠のバス停からは 眼下に広がる御殿場の街の向こうに大きく裾野を広げた白銀の富士山が堂々とした姿を見せている。



国道 乙女トンネル近傍・乙女峠下より

山塊と御殿場の街の間に 薄っすらとかすみがかかり、幻想的で 神々しい富士山が正面に座り 素晴らし景色でした。



この乙女峠のバス停から 山越えの登山道を稜線の乙女峠に登って行く。

稜線までは晩秋の木々の中を登ってくが、峠に近づくとつれ、昨日降った雪が現れ、峠はすっかり 雪に覆われ、周りの木々には霧氷の花が咲いていました。また この霧氷の結晶が登山道両側の道端に落ち、キラキラ輝き素晴らしい。稜線の乙女峠では残念ながら富士山は雲の中。



足柄山塊 乙女峠

ここからは 道を左にとり 稜線を久しぶりに雪を踏みしめての walk。
多くの人が新雪を踏んで 金時山目指して先に登ったのであろう。



乙女峠・金時山 稜線で

しっかりとした雪道を視界は開けないが、霧氷を眺めながらの稜線歩き。
幾つかのコブを乗り越え 金時山に近づく。

霧氷に包まれた木々の向こうに金時山の頂上が見えるようになると、今までのなだらかな登りから、岩稜が連なる狭い急峻な上り下りとなり、時折 アイスバーン状になった岩を鎖を頼りに登って行く。



やっぱり 軽アイゼンは買っておかないと春山は無理と感じましたが、まあ 何とか進める。
急に視界が開け、岩肌が深い雪に覆われた山頂直下に出る。

狭い頂上部には金時小屋。
360 度の展望が開けると言われるが、残念ながら正面の富士山は雲の中にまさに 雲の中にすっぽり入ろうとしている。
南側にはもう、雲・霧がきていてるが、霧の中に箱根 仙石原から芦ノ湖が薄っすら見えている。



金 時 山



頂 上

2002.12.23.

金時小屋に入って 登山簿に記帳。金時娘のばあさんが元気に迎えてくれる。もう 67 才だそうで、今も一人 元気に小屋を切り盛り。

元気な声が響く。 甘酒をよばれて 降りてきました。

そのまま、仙石原へ下ろうと思っていましたが、頂上から仙石原への道はヘットリ雪のついた 岩尾根の下り。

頂上で軽アイゼン買うのも癪。

つるつる滑ると言われ、もと来た道を景色をたの凍みながら、乙女峠まで引き返す。



金時小屋で



乙女峠に下りると もう すっ
かり 夕闇 乙女峠下にある

御殿場市の温泉につかってゆったり 一度 ゆっくり 富士山だけを見る walk をしようと思っていましたが、ついに実現。麓から見あげる白銀の富士山の大きさに圧倒され、乙女峠からは左右に大きく裾野を広げる白銀の姿に見とれました。金時山の稜線の霧氷と雪道も久しぶりで goo。

やっぱり 軽アイゼン買ったかな アカンと思いました。

雪がなかったら おそらく 多くの人が連なるハイキング コースなのでしょうが、お陰で静かな雪見物も楽しめました。

金時娘の婆さんにも会えたし・・・

今回 乙女峠から素晴らしい富士山がみえましたが、この金時山で富士山がみえないと味気ないことでしょう。富士山が見えるなら、素晴らしい ハイキングが楽しめる事請け合い。good な walk でした。

ところで 御殿場 もっと山間と思っていましたが、もう 東京圏 開けた街にビックリ。

街の中に東名高速のインターがあり、新宿-御殿場の高速バスが約 90 分で結ぶ。

今 人気のアウトレット モールがあり、随分多くのアウトレット モール帰りの人が この新宿行き的高速バスに乗り込まれたのにもビックリでした。

新宿から 90 分 御殿場も甲府・長野も交通の便が良くなって、もう 東京圏。 昔の知識では考えられぬスピードでも 新宿に近づくにつれ、 交通渋滞でバス進まず。

さあ 東京と東京圏端の街とさらに奥の田舎と・・・・・・・・

さあ どこが もっとも住み易いのか判らなくなってきました。

美しかった富士山を思い出しながら 渋滞の東名バスの中でそんな事考えていました

2002.12.23.

金時山の帰りの東名バス 渋滞の車の群れを眺めながら

by M. Nakanishi



美祿・長門の四季



<http://www.ne.jp/asahi/kikuko/nakanishi/listmine.htm>

2002.12. by M. Nakanishi

美祢・長門の四季

美祢・長門の四季【1】

1993年1月から1998年12月まで山口県美祢市に仕事で赴任
仕事のかたわら、美祢・長門の country walk を楽しんだ。

1. 『オニックスと花の街 美祢市』
2. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム【土井が浜 弥生パーク】
3. 萩焼のふるさと 陶芸の里 『長門深川』
4. 日本名水百選 別府弁天池湧水 秋吉カルスト台地の湧水
5. 初夏の草花 黒田さん宅の素晴らしいガーデニング
6. 美祢線の夏 於福駅付近 たたら山 花尾山を背景に走るワンマンカー
7. 美祢夏便り 大理石シンポジウム フィナーレ
8. 美祢長門の秋の風物詩 1 -秋芳梨-
9. 美祢長門の秋の風物詩 2 - 田の畦の彼岸花 -
10. 山口県美祢市河原上 たたら製鉄遺跡
11. 第15回日本陶芸展 陶芸作家 田中講平先生 4回連続入選 【1996. 6.】
萩焼窯元「葉月」を開き、日本陶芸展・日本伝統工芸展に5回連続入選された
陶芸作家田中講平先生を山口吉敷の新しい陶房に訪ねて 【2002. 5. 5. 改訂】
12. 山口県美祢市に住んで5年 - インターネット雑感 -

美祢・長門の四季【2】 2001. 9. ~

1999年 神戸に戻り、7月よりまた、関東に単身赴任
美祢の自宅を別荘代わりに、また、山口を歩く余裕もできました

13. 西長門 角島の夕暮れ & 秋芳 白糸の滝
14. 山口市吉敷に 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて 2002. 5. 5.
15. 春 草色に輝く 秋吉台 カルスト台地 walk 2002. 5. 5.
16. 2002 秋 霧の中の美祢 と 小野田の銘菓 最中「せめんだる」 2002. 11. 5.

1. Mine / Yamaguchi Pref



アンモナイトやシダの貴重な化石が出る『オニックスと花の街 美祿市』
日本一の生産量をほこる美祿の白大理石は国会議事堂等の建物にも数多く使われています。



山口県美祿市はほぼ山口県の中央に位置し、鍾乳洞で有名な秋吉台・秋吉洞に近い盆地です。
また、本州で最も幅の狭い部分のセンターの位置でもあります。
瀬戸内海側 宇部・小野田から日本海側の景勝地の長門・青海島まで、美祿を通過して約80KM 車で 約1時間で本州横断が出来ます。
徒歩でも一日????。どなたかやってみませんか???



今、日本一の生産量とその美しさで知られる美祿白大理石を中心としたオニックス/大理石加工 工業や石灰/セメントに加え、マルチメディア時代に必須の電子部品工業が大きく花開きつつあります。

昔 五万を超えた人口も、約二万人。 市制をひく街の中では本当に小さな町ですが、『厚保くり・秋芳なし』『長門の蒲鉾・鮮魚』『野菜・椎茸・自然蓆』など自然からの産物と『オニックス工芸』『セメント・セラミックス』『エレクトロニクス』などの新しい産業との共生の中から新しい『自然と人の共生する街』が生まれつつあります。

美祿来福台ニュータウンが建設され、新しいハイテク 工業団地・中国縦貫道美祿西インターチェンジが開通し新幹線厚狭駅の建設が始まるなど新しい息吹が始まっています

1. 美祿市化石館・歴史民俗博物館:



「化石館通り」と名づけられた中心街にあり、道の両側には化石のモニュメントが立ち並ぶ。世界にほこるアンモナイト等めずらしい化石が数々。



2. 宇部興産の石灰岩採取場：美祿市伊佐



日本一の石灰岩採掘露天掘り場。宇宙へいったような壮観です。

3. 長門風景【西長門海岸 夕日・青海島】：



岩礁に荒波寄せる海岸美と夕日・漁り火の美しい所

4. 秋吉台カルストと秋吉洞・大正洞・景清洞の鍾乳洞群



秋吉台は日本最大のカルスト高原です。

また、秋芳洞はこの秋吉台南山麓に開口する東洋一の鍾乳洞です。

秋吉台の地下100mに千変万化の鍾乳石や石筍が地下の大瀑布とともに華麗をみせています

5. 豊浦町 土井が浜遺跡：

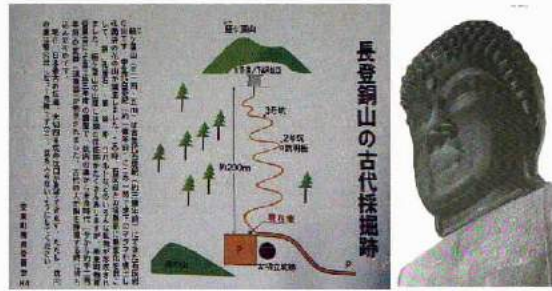
博物館と夕日の美しい国立の史跡公園

海を見下ろす丘の上に、100体を越える弥生人達が整然と並べて埋葬されているのが発見された。

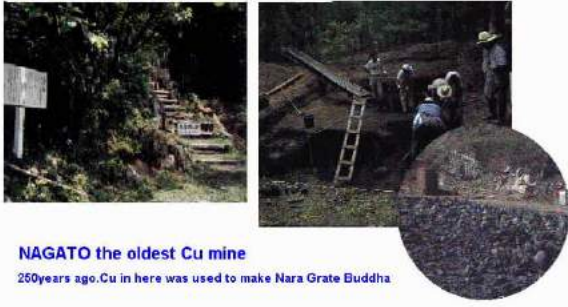
弥生人の日本海側渡来地として、日本人のルーツを考える貴重な遺跡で、博物館と整備された国立の史跡公園となっている。



6. 美東町長登 古代銅山遺跡 :



長登銅山遺跡は日本最古の銅山で、古く奈良時代から掘られ続けられ、奈良 東大寺の大仏の銅もこの地の銅が用いられました。



NAGATO the oldest Cu mine
250years ago.Cu in here was used to make Nara Grate Buddha

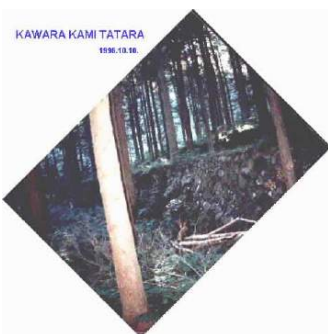
7. 長門・湯本温泉 & 俵山温泉 荒木・一俣温泉ほか:



美祢のまわりには多くの温泉場があります。静かな山間の川の流りに湧き出るお湯は独特の透明で滑々したお湯。朝日・夕日にきらきらひかるお湯。『本当に温泉だなあ』と実感するゆったりとしたひとときです。



8. 美祢 花尾山南麓 河原上『たたら製鉄』遺跡



美祢の北、花尾山のさらに山奥で『たたら製鉄』の『建物跡石組み』と『かなな流し』などの遺跡が残る大きなたたら遺跡を見つけた。

『たたら製鉄』の遺跡は、多くの場合、人の入らぬ山奥に人里はなれ存在している。まわりの山中には、鉱山跡や「炉・たたら」の地名が残っており、この地域でもかつては、多くの人が働き、活気に満ちていたに違いないが…

2. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム

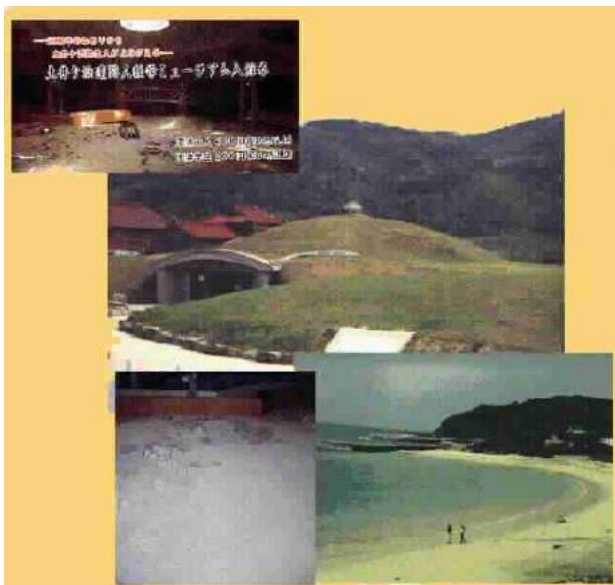
【 土井が浜 弥生パーク 】 山口県豊浦郡と豊北町

dhm.htm by M. Nakanishi 1999.5.3.



土井ヶ浜遺跡は、遠い2000年の昔 日本の歴史を考える国立の史跡公園です。

この日本海を臨む浜辺の丘の上には、300体を超える弥生人骨が整然と並んで埋葬・出土した非常に貴重な集団墓地遺跡です。



この多くの弥生人骨は、日本人の起源を考えるうえで、また、埋葬の在り方は弥生人の生活を知るうえで大変重要な資料を提供しています。

この土井が浜人類学ミュージアムでは 中国の研究者達と共同研究が行われる一方毎年人類学シンポジウムが開催され、この渡来系弥生人のルーツ調査が行われています。

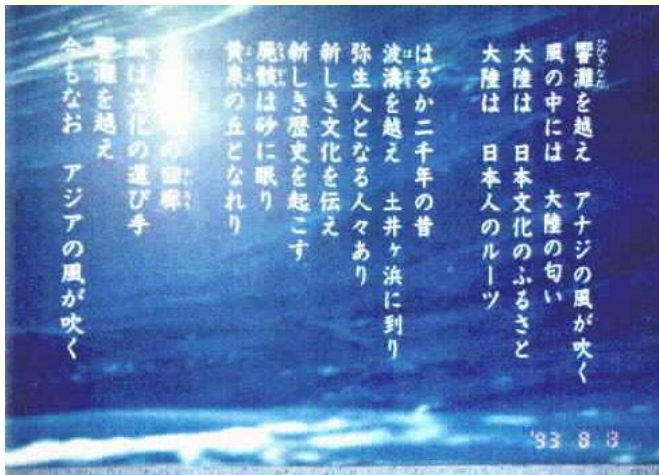
その結果、ここから出土した弥生人の人骨は、中国内陸部の黄河・長江に挟まれた地帯から出土する人骨とよく似ている事が、発見され、弥生人のルーツの一つがこの地方にあることが判りつつあります。

縄文・弥生の時代を超えて、大陸から多くの方が渡来し、数々の文化を伝え、この日本を形作ってきました。2000年前の昔、中国春秋戦国の動乱の中、大陸から渡来し、日本人として生涯をとじた渡来人達が、望郷の念を抱きつつ海をへだててはるか遠い故郷の方向をじっと眺めつつ、この丘で今も眠りについる。

北九州・山口地方の渡来系弥生人のルーツが土井が浜弥生遺跡です。



土井が浜渡来系 弥生人と縄文人の顔骨格の相違



【土井が浜 人類学博物館ドームの内部】

発掘された状態のままで ドームがかけられ 内部が見学できます



1999. 5. 3. by M. Nakanishi

第6回 土井ヶ浜シンポジウム 講演資料より
『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨（予報）』

松下孝幸 ・ 韓康信

1998. 6. 30. 土井ヶ浜人類学博物館にて

dhm2.htm 1999. 54. 24. by M. Nakanishi 資料収録

私たち学際的共同研究チームは、土井ヶ浜弥生人など、縄文人的特徴をもたない弥生すなわち渡来系と呼ばれている弥生人のルーツを探るために、中国の研究者と共同研究をおこなってきた。

94年から96年までの山東省との共同研究で、山東省臨?から出土した周代末と漢代人骨が、北部九州や山口の弥生人骨によく似ていることが、明らかになり、北部九州・山口タイプの弥生人のおおもとは中国大陸にあると考えても差し支えない状況になりました。

しかし、私たちはこの事実から北部九州・山口タイプの人々は山東省から来た、といっているわけではない。どこから来たかはまだわからないが、おおもとは大陵にあるといってもいいだろうと思っている。これから先は「直接どこから、どのようなルートで、どこへ入ってきたか」という課題と「本当のルーツはどこか」という2つの課題で調査研究を進めていく計画である。

本当のルーツはどこか、というのは土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人など日本では渡来系弥生人とよばれている人々の形質はどこまでさかのぼれるのか、中国大陸ではいつごろからこのような特徴をもった人々がどこに現れたのか、という意味である。

山東省臨?では周代末からは確実にこのような特徴を示していましたので、おそらく周代までは確実にさかのぼれると私たちは考えている。

日本列島への渡来を考える場合は、日本人はよく北からとか南からとかいうが、中国でヒトの移動を考える場合は、西から東への流れを無視するわけにはいかない。

私は、黄河と揚子江の二大河川に沿ってヒトと文化が西から東へ移動したのではないかと考え、まず黄河と揚子江の源流がある青海省の古人骨の特徴を調べてみることにした。

幸いなことに青海省からは保存状態のよい青銅器時代の人骨が多数発掘され、韓先生のご努力でそれらが保管・管理・整理されていた。

現在、私たちはこの人骨の研究をおこなっているが、人骨が多量なためにまだ彫塑途中なので、今年は研究の一部をご紹介します。

第6回 土井ヶ浜シンポジウムにて

1. 弥生人の地域差

| 1. 北部九州・山口タイプ | 3. 南九州・南西諸島タイプ |
|--|---|
| 1. 顔が長い(顔の高さが高い) 2. 鼻の付け根が扁平 3. 高身長(男性 162~164cm 女性 150cm 程度) | 1. 著しい「低・広顔」(西北九州弥生人の特徴がさらに顕著) 2. 強い「短頭性」(頭を上からみた形が円に近い) 3. 著しい低身長 [男性 153~155cm 女性 141~145cm 程度] 4. 風習的抜歯を行なっている。 |
| 2. 西北九州タイプ | |
| 1. 顔が短い 2. 眉上弓の隆起が強く、鼻骨が隆起し鼻根部が陥凹しており、ホリが深い容貌 3. 低身長(男性 158cm 程度 女性 148cm 程度) 4. 風習的抜歯を行っている。 | |

弥生人と縄文人の頭骨の特徴と差

〈山口県土井が浜人類学ミュージアム〉



2. 地域差が生じた理由

| | |
|--|--|
| 西北九州タイプ ・ 縄文人の特徴と同じ ・ 彼らは縄文人の子孫？ | 北部九州・山口タイプ ・ 縄文人の特徴は見られない ・ 彼は大陸からの渡来人か？ |
|--|--|

3. 中国大陸の2, 〇〇〇年前の古人骨

山東省の臨?の漢代と周代の人骨は北部九州・山口タイプに酷似。

4. 青海省青銅器時代人骨 資料 {頭蓋}

各人骨の所属時代は、? 約文化および辛店文化期の青銅器時代で、日本の縄文時代後期に相当する。

| 上孫家 | アハトラ山 | 李家山 | 合計 |
|-----|-------|-----|-----|
| 232 | 37 | 24 | 293 |

5. 李家山頭蓋の特徴

- ・ 頭型は中頭型。
- ・ 顔の特徴は高さが高く、幅が狭い（高顔・狭顔）。
- ・ 鼻根部は属平。

土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人などの渡来系弥生人に酷似。

土井ヶ浜弥生人の形質的特徴の原形は青銅器時代までさかのぼる可能性が強くなってきた。

土井ヶ浜の海岸丘で、遠く大陸へ続く日本海を眺めつつ眠る土井ヶ浜人。

弥生人しいては日本人のルーツの集団の一つが、黄河・揚子江に挟まれた流域からやって来たらしい。

中国・朝鮮半島の多くの国の興亡の中 朝鮮海峡を渡り、日本にやって来た。

この弥生中期の土井ヶ浜人が鉄を持って来たかどうか?はまだ判っていない。

しかし この道は日本へ数々の文化を伝えた本街道。

日本へ鉄を伝えた『 Iron Loard 』も間違いなくこの道であつたに違いない。

3. 萩焼のふるさと

陶芸の「長門深川」 1998. 1. 19.



fukawalprint.htm



長門深川 萩焼の里 1998. 1. 15.

美祢から316号線美祢ハイウェイを大峠・美祢トンネルを抜け、湯本温泉の街の手前の谷を 西にはいると萩焼発祥の地である『長門深川』の郷に入る。

伊万里焼の里『大内山』がそうであるように川を挟んだ山に突き上げる細い谷の両側に登り窯 など陶芸の家並みが緑の木々の中にひっそりと広がっている。実に伊万里の郷 大内山の谷あいとよく似ている。



長門深川 萩焼の里 1998. 1. 15.



長門深川 萩焼の里 1998. 1. 15.

萩焼は『一に楽、二に萩、三唐津』と呼ばれる茶器の名陶である。

李三平一族が韓国から伊万里へ連れてこられ、その流れが萩へ伝わり『長門深川』の地と『萩の地』でほぼ同時に萩焼が始まったといわれる。萩の街が観光客で喧騒な街になっているのに対し、深川の郷は緑につつまれた静かで落ち着いた美しい家々を並べている。常々出掛けてみたいと思いながら訪れることが出来なかったのですが、テレビで紹介されたのを機会に家内と二人で出掛けた。

緑の中に日本の古い故郷を思わせるすばらしい作陶の家並みが狭い谷をバックにひろがっていた。本当にお勧めの萩焼の里である。

1998. 1. 19. 美祢にて by M. Nakanishi

長門深川 萩焼の郷 -2-

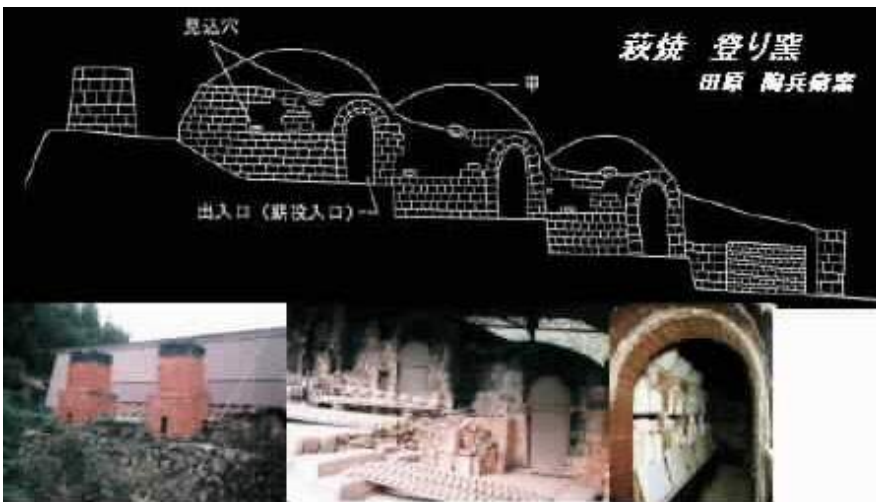
田原陶兵衛さんの工房

長門商工会議所青年部ホームページより

www.joho-yamaguchi.or.jp/ncci-yeg



田原家は、李勺光の高弟として共に広島から萩に移住し、松本の御用窯を始めた松本ノ介左衛門を始祖とし、三之瀬（長門市）焼物所開窯者の一人、赤川助左衛門として代々、赤川助左衛門を称して藩の御用を勤めてきた。幕末、八代目、喜代蔵の時、縁あって嫡男謙治が田原姓を名乗り、陶兵衛を称することとなった。



萩焼 登り窯
田原 陶兵衛窯

一楽、二萩、三唐津」と賞される茶陶、中でも萩焼は使う人によってその味わいが深みを増し、美しく変化するといわれる。最初に貌を作るのは陶工であるが、その物を完成させるのは使い手である
陶兵衛は「窯変文」シリーズで独自性を発揮しているが、目指すのは伝統の茶陶。

代々研究を重ねて受け継がれてきた灰被りの茶陶や、唐津で学んだ「皮くじら」の技法を萩焼に融合させ独自性を表現している。だからといって先達の心技を否定するのではなく、伝統の姿と代々の精神を受け継ぎながら自らの十三代陶兵衛の萩焼を築こうとしている。

現在は個人で窯を所有しているので3～4袋位だが、昔は共同窯であった。10袋を有する古窯が深川三之瀬の谷には残されている。



窯の中を焚口から覗いてみる。余りに強く眩い光のため思わず目をほそめてしまう。陶工が意図した、或いは全く意図していない現象がこの中で起こっている。これが窯変（ようへん）なのである。

窯の中の焼き具合を、予め入れておいた色見（ぐいのみ状の物に穴をあけたもの）を見込穴から取り出し確認する。

焼き具合が良ければ、窯焚きを止める。

窯出しは、火を止めて通常2～3日置いて自然冷却させたのち行う。

陶工たちは期待と不安の中で窯出しの時を迎える。

長門商工会議所青年部ホームページ より

www.joho-yamaguchi.or.jp/ncci-yeg

萩焼のふるさと陶芸の里 「長門深川」

〔完〕

1998. 2. 1. 美祢にて by M. Nakanishi

4. 日本名水百選 別府弁天池湧水

秋吉カルスト台地の湧水 1997.1.15.

美祿市の北 花尾山の南麓に日本名水100選に選ばれた非常にうまい水がある。
秋吉台につながるカルストの水を集め、



花尾山のふもとから湧き出した水が透き通った池を作っている

山口県秋芳町別府 弁天池
『阿蘇白川の名水』『六甲の水』『須磨の霊泉』などおいしい湧水に劣らぬ『山口の名水』である。
近郷の人ばかりでなく、九州からも多くの人が水を汲みに来ている。

美祿の水道水はあまりおいしくないが、この天然水は本当にうまい。
我が家の水も毎週この湧水を汲みに通っている。



1997.1.15. 美祿にて 中西 睦夫

5. 「初夏の草花」

黒田さん宅の素晴らしいガーデニング



krd1.htm

1999 . 5. 23. by Mutsuo Nakanishi

初夏の蛍が飛び交う季節になりました、
5月28日 久しぶりに美祢 来福台に行きました。
家の周りの草抜きをし、お向かいのチビちゃん達にも出会いました。
『声が教頭先生に似チョルヨ!!』久しぶりに聞く美祢弁でした。



少し見ない間に黒田さんのお庭がガーデニングの本で見るような素晴らしい庭になっていました。
淡い色合いを基調によく調和された30数種類もの花が見事に咲いていました。

「本当にお見事。家内の花の先生。さすがです」

熱っぽく教えてもらったバラのアーチも菜園も。

奥様の手入れのたまもの 主人様の水やりも…

種から育てた草花が本当に見事です。家内なんて感激しています。



向かい同志の木で交配させようと話したリンゴの木も実をつけていました。『雌・雄』議論しましたね。そしてバラの苗は家内と何度も首つききで購入の相談に乗って貰いましたね。沢山の草花。

みんな種から育てるなんて家内なんかはじめての経験。教えて貰って、眼を輝かせて育てました。下関の植木屋へ何度も走って。

沢山の苗を神戸に持って帰りましたが、今、神戸の庭も花でいっぱいです。

家内も色々工夫していますが帰りしなに二人同時に出た言葉は『うらやましい庭やなあ…!!』
『みんな ガンバッチョルヨ がんばらなあ!!』

◆ 神戸 我が家の庭



6. 美祿線の夏 於福駅付近

たたら山 花尾山を背景に走るワンマンカー

1998. 8. 29. jrmine.htm



1998. 8. 29 by M. Nakanishi

美 祢 夏 便 り

7. 美祢 大理石シンポジウムフィナーレ

日本一の美祢白大理石を使い
5人の芸術家によつて公開製作された彫像のライトアップ

1998. 8. 23. stnsmp. htm

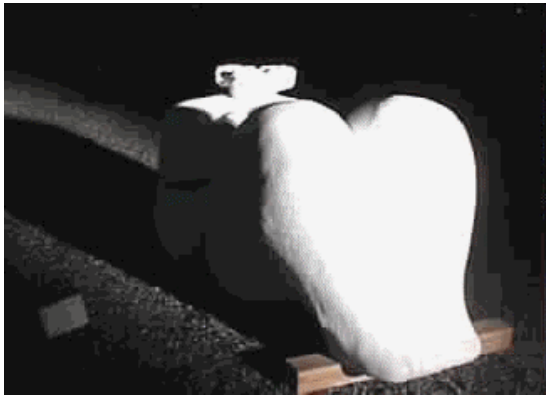


1998. 8. 23. 美祢 来福台にて

8月の初めから、来福台の一番上の丘で行われていた5人の芸術家による大理石の石像彫刻が完成し、フィナーレを迎えた。

週末ごとに見にいったが、日本一を誇る美祢の白大理石が見事な石像に変わって行く。
ライトアップされて浮かび上がる石像は本当に素晴らしい。





家内が通っている萩焼き陶芸教室の田中先生や牛尾市長 松原議員さんにもお会いしました。
田中先生はライトアップされた石像をバックに来日した5人の芸術家と陽気に写真を撮る。
先生の萩焼作品と共に本当に人柄の良さが滲み出ている良い先生。



斎藤さんの奥さんたちも草月流の竹のオブジェの大作を製作。
みなさん スゴイエネルギーです。



我が家の庭にもこの石像彫刻で出た大理石の破片を貰い受け、
きれいな石の庭ができました。
白大理石の白い肌と草花の緑・土の茶色が良く調和し、その出来映えに気に入っている。

1998.8.23.夜 美祢 来福台にて
mutsuo nakanishi

8. 美祢秋便り

美祢長門の秋の風物詩 1 -秋芳梨-

nashiprint.htm 1998. 9. 13.

長門・美祢の秋の風物詩 さわやかな風とともに今年も街のあちこちに「秋芳梨」地方送りの旗がはためいている。

去年は秋芳梨は不作で良質のものがとれなかったようだが、本年は生育もよく大変甘く豊作のようだ。

秋吉台カルスト台地で作られる梨は甘く、この季節になるとスーパー・小売店・JA などがすべて秋芳梨地方送りの直売場となり、あちこちに送られる。

梨といえば鳥取の梨をイメージするがこちらの梨も大変おいしい。

産地である秋芳町嘉万の梨の選果場にはこの梨の直売を求めて多くのひとが集まってくる。

毎年秋の訪れを告げる光景である。



秋吉カルスト台地山麓で作られる秋の味覚 秋芳梨



秋芳町嘉万 秋芳梨 選果場 1998. 9. 13.

1998. 9. 13. 美祢にて M. Nakanishi

9. 美祢長門の秋の風物詩 2

- 田の畦の彼岸花 -

1998. 9. 26. higanprint. htm

台風一過 秋晴れの空 みのりの季節を迎えています。

我が家の庭で育てていた稲も立派に実をつけ収穫の時です。

この季節 長門へ北へ向かう国道沿や瀬戸内へ南に向かう国道沿の田畑では立派な稲穂が風に波打ってゆれ、その畦には真っ赤なマンジュシャゲの帯びが田を分ける形で咲いています。



長門・美祢 秋の風物詩
田の畦に咲く彼岸花

国道 316 号線 美祢-長門 重安付近 1998. 9. 20

瀬戸内や日本海側の海沿いに出るとこのような光景は見られず、美祢・長門を中心とした独特の秋なかばの光景です。

当初こちらへ来たときには異様に感じましたが、稲穂を一杯につけた田の黄色と刈取られてくすんだ色の田とそして真っ赤な帯びが緑の山々をバックに独特の美しいコントラストを見せています。

今の季節なくてはならない秋の景色と感じています。



我が家の稲も刈り取って、収穫せねばなりません。息子が持ち込んだバケツでの栽培ですが、結構うまく行きました

1998. 9. 26. 美祢にて M. Nakanishi

。

10. 山口県美祢市 河原上 たたら製鉄遺跡

kwrkmiprint.htm 1996. 10. 10



河原上製鉄遺跡 美祢市と秋芳町の境

秋の日差しの強い午後。兼ねてより聞いていた美祢市の北 花尾山へ登る。

この近辺は大理石・石炭だけでなく、銅などの金属鉱山が古くからあり、すぐ近所的美東・秋芳町との境には古い時代に「銭」を鑄造した場所も残っている。

また、この山の南の山の本当に山奥のどん付には「たたら」の地名が500万分の1の地図に載っている。ひょっとしてこの地にも「たたら製鉄」の痕跡があるに違いない。

名水百選にも選ばれた花尾山の湧き水「別府池」のすぐ西隣の谷を川沿いに入ってゆく。さらに、人家も途絶え、道も砂利道 ダムと池を過ぎ、杉林の中をどンドン林道をあがってゆく。

山道になって約30分。うっそうとした杉林の中、思いもかけず、山を背に幾段にも組まれた石垣の跡が見える。近くに谷川も見える。各地の沢筋でみた見た「たたら」の跡に近い。

近づくと「河原上製鉄遺跡」の白い標識の杭が建っていました。

美祢市と秋芳町の境の花尾山の南の山の中で、もう誰も住んでいない奥である。思いもかけずの 美祢でのたたら遺跡の出会いであつた。「かなな流し」の谷川もすぐ横にある。

おそらく そんな古い遺跡ではないが、しっかり、山の中に「たたら」場の遺構が残っている。明治・大正・昭和の初期まで、多くの人が行き来をした賑わいがこの山奥まであつたに違いない。恐らく何年前に発掘調査がきっちり行なわれたのであろうが、美祢の街で聞いた事がない。今は全く山の中に打ち捨てられ、完全に賑わいの在った事も製鉄遺跡があることも完全に忘れられている。

「たたら製鉄遺跡」は、どこもそうだが、本当に山奥の奥 かつての賑わいが信じられない場所に大きなたたら集落が形成されていた。それが、置き去りにされ、忘れ去られるか、または 開発の波に根底から掘り返され、跡形もなくなってしまいかしているのが、現状。

鉄の生産には多くの人に関わり、出来たものが遠くに運ばれたに違いない。

それは弥生時代から連綿と続く「人の流れ・文化の流れ」であり、華やかな往来と賑わいがあつたに違いない。

今 ここに立ってもまったくそれはわからないが……………「たたら」は間違いなくその証人といえる。

11. 日本陶芸展・日本伝統工芸展に 5回連続入選された山口の陶芸作家

田中講平先生を新しい陶房を訪ねて

2002. 5. 5. by M. Nakanishi



昨年秋 美祢市を離れ、山口市の西にそびえる鳳翔山の麓
山口市吉敷に新しい陶房 葉月 を開かれ、
新しい作陶活動に益々ご活躍の萩焼窯元 田中講平先生
私たちが美祢を離れ、すっかりご無沙汰していましたが、
新しい山口の陶房「葉月」を訪ね
いつも変わらぬ田中先生ご夫妻の歓待に感激

陶芸の最高峰 「日本伝統工芸展」や「日本陶芸展」に昨年までもう入選も連続五回を重ねられ、新しい作陶を次々発表され、もう大陶芸作家の風格。でも いつもおおらかでわけへだてのない先生ご夫妻。先生の代表作 澄んだ青白磁の中央でそっとお互いに寄り添って流れる列状文様の大皿の美しさ そのままに。

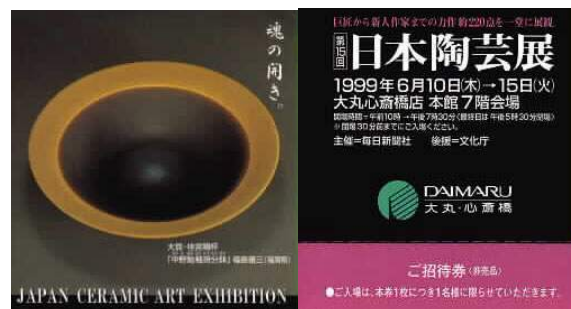
そして今度訪ねると新しい技法を取り入れた萩焼きでさらに連続入選されたとか・・・
田中先生夫妻にはいつも新しい創作へ息吹きを感じ、また楽しい語らいに気分リフレッシュで帰ります。次 お会いする時がまた 楽しみです。

久しぶりの山口 田中講平先生の工房「葉月」を訪問して
2002. 5. 5. M. Nakanishi

萩焼窯元 陶房 葉月 田中講平先生の作品から
<http://www.ne.jp/asahi/kikuko/nakanishi/tnk.htm>

第15回 日本陶芸展 入選

主催 毎日新聞社 場所 大阪 心斎橋 大丸
1999. 6. 10 tnk.htm



田中講平先生入選作 青白磁流紋鉢



美祿で親しくさせていただいた田中講平先生が4回連続で日本陶芸展に入選され、その第15回日本陶芸展が大阪心齋橋の大丸で6月10日—15日まで開催されています。

早速仕事が終わった後 大丸へでかけました。

沢山の力作の中、あの素晴らしい色合いの青磁大鉢が堂々と中央に展示されていました。

家内は京都の友人と15日に行く予定です。 田中先生 本当におめでとうございます

1999. 6. 10. 神戸 中西睦夫

白熱の中の創造 第15回日本陶芸展

日本陶芸展は、1971年に第1回を開催して以来、2年に一度のビエンナーレ方式で開かれている国内最大の『陶芸の祭典』です。

回を重ねることに作風と技法は向上し国内はもとより海外からも熱い注目を集めています。

本展は、日本陶芸界を代表する巨匠20名による〈招待作家部門〉、中堅実力作家50名による意欲作を集めた〈推薦作家部門〉さらに新人作家の登竜門として、優れた才能を発掘することを目的とした〈一般公募部門〉の3部門で構成されています。公募部門では841点の中から、147点の作品が選ばれ展示されています。

『土と炎との新たなる挑戦から生まれた芸術』

伝統の技法の中にさらなる技を育み、そこに独目の創意と美意識を展開する作家たちの力作約220点が一堂に展示されています。田中先生の作品もそんな中で落ち着いた味わいの中で燦然と輝いています。



【田中講平先生の作品の周辺で】

夕方6時過ぎに出かけたため、会場の中でフラッシュ使えず、画像が鮮明でなくすみません。
会場の雰囲気を感じてください。



1999. 6. 10. 大阪にて by Mutsuo Nakanishi

12. 山口県美祢市に住んで5年 - インターネット雑感 -

(株)住友金属エレクトロデバイス 中西 睦夫

mn1print.htm 1998. 春



材料技術屋として材料の研究開発に従事して約25年。その後山口県美祢市に住んで約5年です。

電子部品開発の仕事に挑戦しつつ、好きな「Country Walking」を楽しんでいます。

コンピューターの心臓部である機能商品の開発を通じて、先端技術開発のそのスピードの速さに驚きつつ、厳しさ・苦しみを味わいつつも『金属からセラミックス プラスチックへ』と材料開発の一番面白い時代を感じています。

本年、世界のパソコン生産量は8000万台。2000年には1億台を超えようとしています。

その一台一台に我々の電子機能商品が入ろうとしています、その競争は激烈。

休む事も出来ない厳しい競争ですが、世界を意識できる先端分野です。

「たかがパソコン されどパソコン」

今仕事と趣味をかねて インターネットを実験的に楽しんでいます、**「コンピュータ 革命 インターネット/イントラネットが世界を変える」**この可能性を実感しています。

情報革命・流通革命を促し、社会を会社を変革する。

日本の組織からグローバル組織へ。そして電子マネーの時代へと。

「インターネットなんて空っぽの洞窟。インターネットはもう終わり」と言う人もいます。

どちらが正しいか答は先でしょうが、商品の価格破壊を含む流通革命や金融ビッグバン等を通じて社会変革・情報変革に大きな影響を与え、ほんの一人であっても、全体を動かせる可能性を秘め日本の社会を大きく変えてゆくと感じます。

ほんの遊び心で始めたインターネットですが、今実感していることを書いてみます。

3年前インターネットで「美祢」を検索するとその情報は1~3件とほとんど情報なし。

今、同じことすると一次の情報でなんと1432件。リンクのチェーンをたどれば、軽く10000件を超える情報が瞬時に得られます。この情報を個別「データ」から「知識」「知恵」へと変えられます。

しかも、まったく知らぬ人たち・専門家をブレンとして。カラッポなんてとてもとても思えない。

やってみると病みつきの世界ですが、何か新しいビジネスがうまれると感じます。

電子メールは一瞬にして特定多数の人にいつでも情報を送れます。また、**一対一 多数対一 一対多数**の意見交換も。写真もファイルも音もメールに添付して送れます。

使い始めるとその情報の伝達速度・情報共有の速さに驚くばかり。便利さとそのネットワークの強かさそして24時間いつでもどこでもOK。

私は今、ホームページを持っていますが、知らぬ人から思いがけぬメッセージ。

いたるところに仲間・ブレンがいる事を感じます。

ふっとこの原稿を書いている立花隆氏「インターネットはグローバル・ブレイン」に書いてあった言葉にぶち当たりました。

「コンピュータリゼーション/インターネットの中身が本当は非常に高度な人間のつながりを作って行く事にきずかねばならぬ。 know who index 能力がkey」と。

パソコンと言うと本当に無味乾燥の感情のない世界と思いがちですが、逆。是非 インターネットに挑戦してみてください。私の戯言かもしれませんが、時代を感じる事請け合いです。

今 半導体・電子／通信業界は世界的不況の中、競争はますます厳しくなっていますが、新しい時代を信じ、美祿からのメッセージとします。

美祿市はほぼ山口県の中央に位置し、アンモナイトやシダなど貴重な化石がでる「大理石 ・オニックスと花の街」。かつては石炭とセメントで日本一活気のある産業都市と聞いていますが、今は人口約2万人の静かな山間の街です。

長門温泉郷・秋吉洞・青海島の観光地やゴルフ場も多く、また、明治維新をつくった騎兵隊の長府・大内氏の山口・毛利氏の萩・防府と歴史の町並みもあり、一日アウトドアに興じ、ゆったりと温泉につかるなど頭のリフレッシュには最適です。

その人情の良さに触れてください。

是非「おいでませ 山口へ そして美祿にも」

1998. 春 山口県美祿にて by M. Nakanishi

「美祿・長門の四季」【1】 【完】

美祢・長門の四季【2】 2001.9.～

1999年 神戸に戻り、7月よりまた、関東に単身赴任
美祢の自宅を別荘代わりに、また、山口を歩く余裕もできました

2001.9. by M. Nakanishi

13. 西長門 角島の夕暮れ & 秋芳 白糸の滝
14. 山口市吉敷に 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて 2002.5.5.
 - 14.1. 萩焼窯元 田中講平先生の新しい陶房「葉月」を訪ねて
 - 14.2. 「萩焼について」萩焼 窯元 陶房 葉月 日本工芸会員 田中 講平
 - 14.3. 陶房 葉月の「左馬の茶碗」と「左馬」の由来
15. 春 草色に輝く 秋吉台 カルスト台地 walk 2002.5.5.
16. 2002 秋 霧の中の美祢 と 小野田の銘菓 最中「せめんだる」 2002.11.5.
 - 16.1 美祢の庄巻 「宇部興産 伊佐セメント」桜山からの景観 山を崩す露天掘り
 - 16.2 美祢の秋 「霧の中の来福台」 美祢名物 朝霧と街を覆う雲海
 - 16.3. セメントの街 小野田 小野田銘菓 最中「せめんだる」って知っていますか・・・

13. 西長門角島の夕暮れ & 秋芳 白糸の滝

— 久しぶりに 美祢へ 帰って —

tsuno.htm 2001. 1. 1. by M. Nakanishi



2001. 9. 1. 山口県西長門 土井が浜からの夕日



西長門 新設された角島大橋

めっきり涼しくなり秋の風がふいています。

早く更新しようと思いついて今日まで延びてしまいました。やっと9月のメールお送りします。写真は9.1. 山口県西が、長門海岸 土井が浜の夕日と直ぐ隣 昨年橋がかかった角島の夕暮れです。お盆に帰る予定だったのですが帰れず、9月1日から3日まで山口県美祢の家の草抜きを兼ねて山口に行ってきました。

一俣温泉のあの独特のつるつるのお湯につかり、その後夕日を見て、長門で魚を食べて美祢へ。

また、秋吉台北山麓は梨の産地。いたるところに「秋芳梨」の旗がはためいています。「秋芳梨」を楽しみにしている人達に今年も送れました。

私の一番好きな山口のコースなのですが、温泉に浸かって山を見ていると本当にほっとします。



角島灯台の夕暮れと灯台下海岸に咲くハマユウの群落 2001. 9. 1.

関東にいと 時々山口のニュースを見ることあり、今度も家内がニュースステーションで「秋芳の白糸の滝」の中継があったと言うので久しぶりそこへも行ってきましたが、新しい発見。



手な推論なのかも知れませんが)

ちょうど秋吉カルスト台地の北側。別府の弁天池から長門・三隅へ行くの山の中へ少し入ったところ。以前出かけた時この山中からなべ鶴が飛び出してビックリしたところ。地元山口の人余り知らない所です。

前とはうって変わってきれいな公園になっており、そこにきれいな滝がかかっています。

TVに出た滝としてみるからかも知れませんが、一層きれいでした。

その上流さらに遡ると桂木山。

桂の木は古代製鉄に関係した「金屋子神」が千種を飛び立ち止まった木。

やまの地形的にも「たたら」製鉄に適した地形であり、花尾山南面にある河原上たたら遺跡もすぐ近く。この秋吉カルスト台地の北山麓は古くからの鉱山・たたら製鉄が行なわれた土地であり、この桂木山一帯は修験道の山という。きっと「たたら」と関係のある谷間と思う。

我々、どこで暮らしていても、本当は知らないだけでごく身近に製鉄遺跡があり、鉄とは切っても切れない関係が続いてきたものと今更ながら思う。

久しぶりの山口 まあ 第二の故郷。美祢盆地の山の中 温泉以外 取り立ててなにもない山の中ですが、緑の山と空をながめるとほっとします。

本当に久しぶりのリフレッシュでした。

2001.9.2. 山口県美祢の自宅にて 満月の空を眺めながら

14. 萩焼窯元 田中講平先生の 新しい「陶房葉月」を訪ねて

hazuki0.htm 2002. 5. 5. by M. Nakanishi



萩焼窯元 田中講平先生 新しい「陶房葉月」 正面で
2002. 5. 5.

田中講平先生の作品から

昨年秋 美祢市を離れ、この山口市吉敷に新しい「陶房葉月」を開き、
益々ご活躍の萩焼窯元 田中講平先生
私たちも美祢を離れ、すっかりご無沙汰していましたが、
新しい山口の「陶房葉月」を訪ね
いつも変わらぬ田中先生ご夫妻の歓待に感激



田中講平先生の新しい「陶房葉月」とその背後の竹林 2002. 5. 5.

秋吉台のカルスト台地から南東の山口へ山口の山並を走る国道 435 号線。その山口に入る手前に山口市のシンボル鳳翽山がある。



この鳳翽山を抜けて山口へ下った山裾が吉敷。瀬戸内からは小郡から国道 9 号線を北へ山口に向い湯田温泉で道を西に山へ向う国道 435 号線に入り、山にかかる所。東に広い山口市の市街地が広がる静かな山裾の集落が吉敷である。

昨年秋 美祢市を離れ、この山口市吉敷に新しい「陶房葉月」を開き益々ご活躍の陶芸作家 萩焼窯元の田中講平先生。

私たちも美祢を離れ、すっかりご無沙汰していましたが、新しい山口の「陶房葉月」を訪ねまだ、陶房の立ち上げにお忙しい中 いつも変わらぬ田中先生ご夫妻

の歓待に感激。

陶芸の最高峰 「日本伝統工芸展」や「日本陶芸展」に昨年までもう入選も連続五回を重ねられ、新しい作陶を次々発表され、もう大陶芸作家の風格。でも いつもおらかでわけへだてのない先生ご夫妻。先生の代表作 澄んだ青白磁の中央でそっとお互いに寄り添って流れる列状文様の大皿の美しさそのまま。そして今度訪ねると新しい技法を取り入れた萩焼きでさらに連続入選されたとか・・・

14.1. 田中講平先生の新しい「陶房葉月」を訪ねて 山口市吉敷



鳳翫山の山裾の竹林と森を背後に鳥たちか声をかける静かな林の中に立てられた新しい「陶房葉月」。素晴らしい場所と陶房を得て 益々新しい創作が生まれて行くことでしょう。

「裏の竹林と森に朝 鳥たちがきて 木々のにおいが素晴らしい。次はこの林の斜面に登り窯を・・・」との先生の話や既に新しい工房での陶芸教室がはじまり、多くの生徒さんが楽しく取り組んでおられる様子などを聞いたかつて陶芸教室の生徒の家内。「すぐにも参加したくて本当にうらやましい。」と・・・・・・・・・・。

「陶房葉月」の 陶芸教室



田中講平先生 作品 飾棚 より 2.002. 5. 5



「陶房葉月」の新しい窯を開くにあたって、作陶に賭ける思いもあって「左馬茶碗』を初窯で焼いた」
 とうかがい、「陶房葉月」の初窯で焼いた田中先生の「左馬の茶碗」をいただき、「左馬の茶碗」の由来
 やこの茶碗に賭ける作陶の思いなどをうかがいました。



「左馬の茶碗」の由来は色々あるよ
 うですが、縁起もので陶芸の世界で
 は新しく窯を開いた時に馬の絵や漢
 字「馬」を右向きに茶碗に描き、そ
 の初窯で焼いて世話になった人やお
 客さん等関係者に配るならわしがあ
 り、この茶碗を使うと脳梗塞や脳血
 栓などの病気にかかりにくいとの言
 い伝えがあり、縁起の良いものとさ

れているとのこと。

『右向きの馬を書くと しっぽやたてがみを描く時 右から左へ逆方向に絵筆を走らせねばならず 描
 きにくい技法で絵付けの技量を競った。作陶家は自分の腕をこの「左馬の茶碗」で誇り、作陶の願いと
 心意気をこの初窯「左馬の茶碗」にこめる』のだそうです。

技術屋のステイタスにも合い通じる話です。

最初の窯で焼く数も少ない貴重な『左馬茶碗』。 大変なものを貰ったと感じています。

田中先生夫妻にはいつも新しい創作へ息吹きを感じ、また楽しい語らいに気分リフレッシュで帰ります。
 次 お会いする時がまた 楽しみです。

久しぶりの山口 田中講平先生の「陶房葉月」を訪問して
 2002. 5. 5. M. Nakanishi

14.2 「萩焼について」

萩焼窯元 陶房葉月 日本工芸会員 田中講平
hazuki01.htm



伝統を誇る萩焼は 先人陶工のたゆまぬ精進にはぐくまれ、茶陶は
 もちろんのこと鑑賞陶器、日常雑器にも高雅でありながら素朴さも
 あります。

はだ合いはやわらかく、使用しはじめますと次第に色や光沢が変化
 して、いわゆる「萩の七化」といわれる萩焼特有の持味となります。

私は常に「優雅」を作品に表すことを念願しております。

今後とも、末永くご愛用下さいますようお願い申し上げます。



<陶房葉月> 田中 講平
 萩焼の陶器及び薪部焼の陶器作品を作る。秘文技法を秘伝に取り入
 れ、独自の文法による制作を得意とする。
 (連絡先)
 〒783-0811 山口市吉敷1092
 TEL:083-932-8405 (0837-93-1001)
 真字は 葉子前
 (車・二階・説明・お茶・予約)

萩焼窯元 陶房葉月
 日本工芸会 正会員
 田中 講平
 山口市吉敷 1092 Tel : 083-932-8405

山口市街の中心から車で約15分ぐらいのところに「陶房葉月」があります。

山口へ行かれたら 一度 是非 お訪ねください。

2002.5.12. by M. Nakanishi

14.3. 「左馬の茶碗」



hidari0.htm 2002.5.5. by M. Nakanishi

5月5日 昨年秋 山口市の東 鳳翮山山麓の静かな山里 山口市吉敷に新しい窯を開かれた萩焼窯元 日本工芸会正会員田中講平先生の新しい「陶房葉月」を訪ねご夫妻と久しぶりに歓談のひと時を持った。其の折、先生からこの「陶房葉月」の初窯で焼いた「左馬」の茶碗をいただき、同時にこの「左馬の茶碗」の由来やこの左馬の茶碗に賭ける作陶の思いなどについてうかがった。

「左馬の茶碗」の由来は色々あるようですが、縁起もので陶芸の世界では新しく窯を開いた時に馬の絵や漢字「馬」を右向きに茶碗に描き、その初窯で焼いて世話になった人やお客さん等関係者に配るならわしが在るのだそうです。そして、この茶碗を使うと脳梗塞や脳血栓などの病気にかかりにくいとの言い伝えがあり、縁起の良いものとされています。



- 右向きに描かれた馬の絵
(多治見・川地商店写真提供)



- 左馬の駒
(天童市パンフレットより)
- インターネット 「左馬」検索より -

萩焼ではこの「左馬茶碗」の慣わしはないようですが、田中先生の出身地 四国「砥部」では新しい窯を開く時に広く行われているとのこと。インターネット検索によれば、「備前」「瀬戸」など各地の焼物の街で広く残っているようです。



田中先生はこの「陶房葉月」の新しい窯を開くにあたって、作陶に賭ける思いもあって「左馬茶碗』を初窯で焼いたと。

田中先生の話では『右向きの馬を書くと しっぽやたてがみを描く時 右から左へ逆方向に絵筆を走らせねばならず 描きにくい技法で絵付けの技量を競った。

作陶家は自分の腕をこの「左馬の茶碗」で誇り、作陶の願いと心意気をこの初窯「左馬の茶碗」にこめる』のだそうです。技術屋のステイタスにも合い通じる話です。

最初の窯で焼く数も少ない貴重な『左馬茶碗』。 大変なものをお願いしたいと思います。



表「左馬」の絵付け



裏「陶房葉月、初窯、平成十三年十月」の彫り藍色の丸は円で、縁があります様にとの願いがこめられている。

田中 講平先生 の 陶房葉月 「左馬の茶碗」 2001.10. 初窯

窯や作業場を建立する際、神事を行っていただいた宮司さんに御礼と願いをこめて絵馬のかわりに収めたるのが慣わしともいうそうです。また、山形県天童では将棋の駒を「左馬」に彫る慣わしもあるそうですし、三味線の胴に「左馬」を描くこともあったようです。

この「左馬」の慣わしの由来には諸説あるようですが、「うま」を反対にすると「まう」で舞いの縁起担ぎから来たとか また 馬は寝る時絶対に左には倒れず、「右に出るものがない」の意をこめて左馬に描くとかが由来だそうです。

参 考 左馬の茶碗とその由来【1】

インターネット ホームページ検索より



hidari01.htm 2002.5.6. by M. Nakanishi

備前に限らず他の窯業地でも新しく作られた窯に火を入れる時、右向の馬の絵、又は漢字「馬」を逆字でかいた飯茶碗を焼いて関係者に配る習わしが有ります。左馬茶碗と 言い、これを使うと「中風」にならないと言われ縁起の良い物とされています。



○ 右向に描かれた馬の絵

(多治見・川地商店写真提供)



○ 左馬の駒

(天童市パンフレットより)



○ 左馬介湖上渡りの図

(矢先稲荷神社天井絵より)

なぜこのような風習があるのか良くわかっていませんが、「左馬」に下記のような諸説があります。

- 古くから馬は神の乗り物として神格化され、神馬として生馬、又は扁額が神社に奉納されました。それが転じて祈願奉謝の印として絵馬を奉納した。

焼物どころでは、工人の手を離れた焼物が無事に焼けるようにと、初窯に火之神に祈って左馬描いた物を焼く。

左馬は、右手が色々な物をつかむところから、不浄とされたので、特に左を選んで描かれたのであろう。

元岐阜県陶磁器陳列館長、故 熊沢 輝雄氏の文から抜粋)

- 縁起物の初窯、左馬茶碗は、韓国・高麗時代鷄龍山の窯場で、沙器と言う鬼神の乗る馬を焼き窯神に供えたのが起こり。

瀬戸では、江戸期始め初窯には必ず手のひらに乗るような可愛い馬を焼き社に供え、文化、文政の頃になると、左馬絵茶碗を焼き、「病魔、中風除け」と言って、知り合いに配ったのが今に継承されている。

(岐阜県陶磁資料館所蔵資料より抜粋)

- 江戸の中期以降に酒席で酌をし、音曲や踊り、話し相手などで宴を取り持った女性、芸者が出てきますが、その人達が持っていた三味線の胴の裏には「馬」の字を裏返しにした左馬が書いてあったそうです。

馬は倒れるとき右倒れになり、絶対左倒れにならないので、左馬を書いた三味線を持つ芸者達も「寝やすい方には寝ない」つまり「芸は売っても身は売らぬ」と言う心意気を示したとの説があります。

それが「格好いい」「粋だ」ぐらいから転じて「縁起がいい」の意味になったのだらうと思われれます。

- 「馬」の字が逆さに書かれている「左馬」は、天童で生まれた天童独自の将棋駒です。

このあたりでは、家を新築した方や商売を始めた方への贈り物として重宝されています。というのは、「左馬」は福を招く商売繁盛の守り駒とされているからです。

左馬は「馬」の字が逆さに書いてあります。「うま」を逆から読むと「まう」と読めます。「まう」という音は、昔からめでたい席で踊られる「舞い」を思い起こさせるため、「左馬」は福を招く縁起のよい駒とされています。

また、「馬」の字の下の部分が財布のきんちゃくの形に似ています。

きんちゃくは口がよく締まって入れたお金が逃げていかないため、古来から富のシンボルとされています。

(観光パンフレット「天童と将棋駒」から引用)

- 今から約400年前の天正10年6月2日、明智光秀がその主、織田信長を討ち、山崎の天王山に立てこもり天下を取ろうとしました。世に言う「本能寺の変」です。

中国遠征中の羽柴秀吉は、この変の知らせを聞くや直ちに反転して、山崎に光秀を囲みました。光秀の従兄弟、明智左馬介(光春)は安土城を発し光秀の救援に向かうも、堀秀政にさえぎられて戦場に赴くことが出来ず、馬のまま琵琶湖を渡って坂本城に入りました。

この時、左馬介の愛馬が良く湖上を渡り目的を達しましたので、世に之を「左馬介の湖上渡り」と称しております。

これより巷間では「左馬の・・・」と称して縁起の良いことに用いるようになりました。

この様な「左馬が縁起が良い」説と、「家を新築した際の初風呂に入れば中風にならない」とか「初物を食べれば75日長生きをする」などという素朴な初物信仰が一緒になって、初窯で左馬飯茶碗を焼いて配るという風習が出来たのであろうと推測されます。



- 縁起物の初窯、左馬茶碗は、韓国・高麗時代鷄龍山の窯場で、沙器と言う鬼神の乗る馬を焼き窯神に供えたのが起こり。

瀬戸では、江戸期始め初窯には必ず手のひらに乗るような可愛い馬を焼き社に供え、文化、文政の頃になると、左馬絵茶碗を焼き、「病魔、中風除け」と言って、知り合いに配ったのが今に継承されている。

(岐阜県陶磁資料館所蔵資料より抜粋)

「左馬の茶碗」とは(「馬」の絵(頭が右で、尻尾が左)、又は、「馬」の文字の鏡文字)が書いてある飯茶碗の事。

古来より、馬は神の乗り物として神格化されていました。生き馬、又は、馬の絵の扁額が神社に奉納され、それが転じて絵馬を奉納するようになりました。焼物では、作者の手を離れた作品が無事に焼けるように、新しく築いた窯での初めての窯焚き(初窯)の成功祈願を願って、左馬を描いた物を焼くようになりました。

瀬戸では、江戸初期の頃、初窯で小さな可愛い馬の置物を焼き、社に供え、文化、文政の頃になると、左馬絵茶碗を焼き、「病魔、中風除け」と言って、配ったそうです。

特に、備前に限らず初窯で焼く飯茶碗は、【左馬の茶碗】といい、これで御飯を食べると、中風にならないと云われ、縁起の良い物とされています。

「左馬」の由来は諸説ありますが、

- * 「うま」を逆から読むと「まう(舞う)」であり、古来、舞はおめでたい席で催される事から、招福の駒として、
- * 「左馬」の姿が「右に出るものなし」とか「左団扇」に通じる大吉兆の形として、
- * 「馬」の字の下の部分が財布のきんちゃくの形をしており、口が良く締まって、入ったお金が散逸しない事から、富のシンボルとして、

- * 江戸の中期以降、芸者さんの三味線の胴の裏に左馬（「馬」の鏡文字）を書く。
馬は倒れるときは、右に倒れ、左には倒れないところから、三味線を持つ芸者さんも「寝やすい方には寝ない」つまり「芸は売っても身は売らぬ」と言う心意気を示したところから、これが「格好いい」「粋」というところから転じて「縁起がいい」ということになり、これらから、福を招く、めでたい商売繁盛の守り駒として「左馬の・・・・」と称して縁起の良いものとして用いるようになりました。

この様な「左馬は縁起が良い」説と、「家を新改築した際の初風呂に入れば中風にならない」とか「初物を食べれば75日長生きをする」などという素朴な初物信仰とが一緒になって、初窯で【左馬の茶碗】を焼いて配るという習慣になったと推測されます。

現在では、飯茶碗の他、食器全般につけられる事が多くなっています。

参照：山内厚可氏のHP — (株) 備前陶苑 —

萩焼窯元「陶房葉月」 田中講平先生の「左馬の茶碗」
〔完〕

15. 春 草色に輝く秋吉台カルスト台地 walk

krstroad.htm 2002. 5. 5. by M. Nakanishi



5. 5. 雨の連休の中 やっと雨が上がり青空が見えている。久しぶりに秋吉台カルストロードに行きました。



久しぶりのカルストロード 山の空気がすがすがしい。雨上がりの光があたり、若葉色のカルストの草原に白い石灰石が映え何時もとは違った印象にビックリ。 多分 山焼きが終ってからまだ日が浅く、草原をおおう草が新たに芽吹いたところで、この露出した石灰石と淡い緑のカルスト台地が非常に良くマッチしているからだろう。

長者ヶ森からカルスト台地の中に入り、このあたりでは一番高い冠山頂上まで1 時間弱 足元に咲く草花を見ながらの walk。

本当に山の空気が美味しい。小さな丘とカルストとが幾つも連なる秋吉台。緑の岡のあちこちにカルストの穴が開いているが遊歩道がきっちり整備されているので、心配はなし。

周りの岡の向こうに見える山々や石灰石の連なりをながめ、丘登って行く。見てる間に草原を突っ走るカルストロードとその際の長者ヶ森が本当に小指ほどに小さくなる。幾つかの丘を越えると頂上部に沢山の露出した石灰石が

見える冠山の頂上に立つ。北には日本海沿いに連なる長門・三隅の山々をバックに露出した石灰石部がゴロゴロある地獄台の景観が見える。また 南側は秋芳洞がある秋吉台の南端へと緑の丘が連なっている。秋吉台 360 度の展望。そして 空には青空に映える白雲足元には草花。

久しぶりの開放感あふれたカルストに満足でした。

2002. 5. 5. 久しぶりに山口へ帰って M. Nakanishi

● アルバム 1

カルスト台地 長者森から冠山へ



長者の森



カルスト地形



地窓台



● アルバム 2

秋吉台カルスト台地の草花

2002. 5. 5.



16. 2002 秋霧の中の美祢 と 小野田の銘菓 最中「せめんだる」

02mine00.htm

2002.10.12-14. by M. Nakanishi



霧の美祢



小野田の銘菓「せめんだる」

- 美祢の圧巻 「宇部興産 伊佐セメント 山を崩す露天掘り」 桜山からの景観
- 美祢の秋 「霧の中の来福台」 美祢名物 朝霧と街を覆う雲海
- セメントの街 小野田 小野田銘菓 最中「せめんだる」って知っていますか・・・

久しぶりに美祢に行こうという と「一度 セメントの街 美祢をみたい」とセメント会社勤めの娘家族も行くという。

美祢自慢の景色 国会議事堂を作ったあの美祢大理石 そして宇部興産伊佐の露天掘りを見せたいし、自然の中の来福台も見せたいし、孫も自然の中で め一杯 走らせたいし・・・黒田さんのみんな そして犬の「チャ」にも引き合わせたい。

10.12. 早朝 神戸を飛び出し、美祢 来福台の家へ 10時過ぎに到着して草取り。 昼過ぎに娘一家も到着。

今回は 娘一家が初めての美祢。一緒に 桜山へ登って また 秋芳洞 川棚温泉と瓦そば に案内したりでした。また、孫は黒田さんのみんなや犬の「チャ」に遊んでもらって大満足。

犬とみんなで散歩に行った来福台の上の公園の近くに 大阪のたこ焼きの店が出来ていたのにはビックリ。

孫にまで「お店一杯だった。今度はたこ焼き食べようね」と約束させられました。

美祢にいったら、色々な人に会いたいと思いつつ、行き当たりばったりで・・・

でも まちで何人かの懐かしい顔に会えて goo. また、久しぶりに小野田で先輩や仲間と酒が飲めました。いつ行っても 誰かに会える街 私には 尼崎・京都とそして美祢と

美祢もついに故郷になったなあ・・・と感じた3日間のスピード旅でした。

2002.10.14. 美祢から 柏に帰って

16.1. 美祢の圧巻「宇部興産 伊佐セメント」桜山からの景観

山を崩す露天掘り

02mine01.htm



SMI-ED

来福台

伊佐セメント

奥秋芳の住友セメント

セメント会社に勤める娘一家。「美祢の 宇部興産のセメント工場」そして「太平洋セメントの」重安事業所を見たいという。

そして、 海岸沿いに出たセメントの街 小野田にはセメントにちなんだ「せめんたる」というお菓子があるという。 プロ意識というか・・・やっぱり セメントにたずさわると気になるのか・・・娘までがいう。

それならば 伊佐セメントの露天掘りしているその現場に行って それから 桜山に登って 露天掘りしている伊佐セメントの全景をみせよう。



宇部興産 伊佐セメント工場 桜山より

美祢の伊佐セメント工場は美祢市の中央にどっしりと座る美祢のシンボル。

宇部興産のセメント工場でこの美祢の地で石灰石を掘り、ここから40km 南の瀬戸内海側宇部まで専用の弾丸道路が延び大型のタンク搭載車が粉碎焙焼されたセメント原料を宇部

まで運び出すスケールの大きい工場。その露天掘りのスケールの大きさを含め 桜山から見る景色はすごい。 まだ ゆうに 100 年は掘れるという。 また、この伊佐の露天掘りの山の直ぐ北には住友セメントの石灰石露天掘りの山が有り（秋芳町）、こちらは日本海側の長門の港まで約 30km ベルトコンベヤがつながっている。

美祢周辺は隣接して秋芳洞・秋芳カルスト台地など大石灰岩台地が続き、今も日本のセメントの一大生

産地。また この石灰岩台地は同時に純白の美祢大理石等を産出し、大理石・オニックスの名産地であり、化石の宝庫でもある。知ってる人が少なくなったと聞きましたが、国会議事堂の大理石は美祢産と聞いています。

自宅のある来福台から 河原へ抜ける狭い道を通って、石灰石を掘削している現場へ。幾段もの荒涼とした岩肌を見せた露天掘りの現場が眼前にひろがり、粒度分別の機械が石灰石の大きな山を築いている。ぼくらには みんな同じような砂利に見えるが、石灰石の含有量やなんやかやで等級が分かれるという。河原の集落を抜けて 今はもうさびしくなったが、伊佐の町並みを通って 美祢インターの横から南の桜山への道をとる。ひっきりなしに石灰石を積んだ専用車が南へまっすぐに山の中に延びた専用道路を登って行くのが見える。

桜山に登って、展望台から 眼下に広がる美祢市街 そして伊佐セメントの露天掘りの全景を眺めました。いつ見てもすごい光景ですが、娘一家もあっけにとられて眺めていました。

自然破壊といえば 強烈な自然破壊であるが、ここの石灰岩が日本の産業基盤を作り出していったといっても過言でない。

伊吹山西側の近江長岡・東側の大垣 そして関東奥秩父の武甲山 いずれも山がけづられて石灰石採取が行われ、山が本当に不恰好な姿になっている。

しかし、この美祢では 山にかこまれた盆地の中で すり鉢状にけづられた露天掘りと工場全域が見渡せ、それはそれで 調和のとれた産業景観をなしている。

「美祢に行けばなにがある・・・」とよく聞かれるが、この景観と美祢大理石の純白は本当に素晴らしい。

私の家のある森に囲まれた住宅地来福台には この純白の大理石で作られた彫像があちこちに置かれている。家内にいわせると「歩道の車止めまで 純白の大理石 やりすぎ」というが・・・・・・・・・・ 石炭が斜陽化して 今セメントも成熟産業 この純白の大理石を見るたびにこれを生かせる道は ほかにはないのか・・・と思う。

参考 7. 美祢夏便り 大理石シンポジウム フィナーレ

2002.11.4. by M. Nakanishi

16.2 美祢の秋 朝霧の来福台

02mine02.htm



美祢の秋は霧・雲海季節。日曜日の朝 楽しみにしていた美祢の霧に出会えました。

日曜日の朝 自宅のある来福台は霧の中。飛び起きて外にでて 約1時間 霧の中に身をおきました この季節になるといつも霧が広がる中を出勤した朝を思い出します。

ダム湖の横の原っぱではいつも霧が地を這い、見てるまに霧が流れ、 朝の光が照り輝く素晴らしい光景を思い出す。 幾度となく写真にとりたいと思いましたがダメでした。

今回も風がなく 街一杯に霧が広がっていて、霧が流れない。薄ぼんやりと太陽が見えているが、霧が

ながれない。

でも 久しぶりに霧を胸いっぱい吸い込んで 霧の街の散歩。

美祢の街が一番美しい時です。



朝霧の中の来福台

2002. 10. 13. 早朝

16. 3. 「せめんだる」というお菓子知っていますか・・・

02mine03. htm

「セメン樽」とは 昔 輸送の為 セメントを詰めて運んだ樽
セメントというとあの紙袋をイメージするのですが、「昔セメントは樽に入っていた。
そして 小野田にはそのセメントの形をした和菓子
最中「せめんだる」が名物としてあると息子が言う。



小野田はよく通った街 今回も昔の仲間と小野田で出会うことになっている。でも そんな「最中」聞いたことがない。 小野田駅前の菓子屋に「せめんだる」確かにありました。

セメントにちなんだ銘菓「せめんだる」があるなら 鉄にだってそれに由来する銘菓が合ってもよさそうであるが、鉄の街 釜石にも八幡・室蘭 そして 我が故郷 鉄の街尼崎でも思い浮かばない。

いつもの通り フルスPEED 二日間の美祢でしたが、 小野田で旧交を温めることも出来ました。

また、娘一家と一緒に初めての美祢。

ほかにも 秋芳洞・川棚温泉で瓦そばを食べて

黒田さんちのみんなにもそして犬の「チャ」にも世話になって孫も大喜びでした。

また 一つ 美祢に行く楽しみが増えました。